

プロジェクト番号

S1311041

**平成 25 年度～平成 29 年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
研究成果報告書概要**

1 学校法人名 学校法人 関西大学 2 大学名 関西大学3 研究組織名 国際文化財・文化研究センター4 プロジェクト所在地 大阪府吹田市山手町 3-3-355 研究プロジェクト名 国際的な文化財活用方法の総合的研究6 研究観点 研究拠点を形成する研究

7 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
吹田 浩	国際文化財・文化研究センター 文学研究科	センター長 教授

8 プロジェクト参加研究者数 23 名9 該当審査区分 理工・情報 生物・医歯 人文・社会

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
吹田 浩	文学研究科・教授	古代エジプト文化の研究	文化財修復のための復元、エジプト学の国際化
森 貴史	文学研究科・教授	欧米・日本における文化財認識の研究	文化財復元への視点、異文化理解
中澤 務	文学研究科・教授	古典古代社会の文化財の欧米における認識の研究	文化財復元への視点、異文化理解
浜本 隆志	関西大学・名誉教授	欧米・日本における文化財認識の研究	近代文化財のあり方・展示方法
柏木 治	文学研究科・教授	欧米・日本における文化財認識の研究	近代文化財のあり方・展示方法
伊藤 淳志	理工学研究科・教授	石造文化財の建築的研究	遺跡の長期的安全確保
西形 達明	関西大学・名誉教授	石造文化財の地盤工学的研究	遺跡の長期的安全確保
土戸 哲明	関西大学・名誉教授	文化財汚染微生物の制御技術の開発	文化財の長期保全
荒川 隆一	関西大学・名誉教授 (前 関西大学 理工学研究科・教授)	文化財構成素材の化学的分析	古代技術の解明
川崎 英也	理工学研究科・教授	文化財構成素材の化学的分析	古代技術の解明

プロジェクト番号

S1311041

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
岡 絵理子	理工学研究科・教授	遺跡と地域コミュニティの 関係の研究	遺跡の活用、異文化との共存
安室 喜弘	理工学研究科・教授	遺跡の3次元資料の活用の 研究	文化財データの活用
鶴田 浩章	理工学研究科・教授	劣化文化財における物性の 研究	文化財構造物の劣化対策
西浦 忠輝	関西大学国際文化財・文化 研究センター・研究員(前 国士舘大学・イラク古代文 化研究所・共同研究員)	遺跡の環境の研究	遺跡の長期保存、専門家育 成
アフメド・サイエド・アフ メド・シュエイブ	(共同研究機関等) エジプト・カイロ大学・ 考古学部・教授	エジプト文化財(壁画)の 修復技術の研究	修復技法の解明、古代技術 の解明
アーデル・イブラヒム・モ ハメド・アカリシュ	エジプト・国立研究セン ター・地球科学部門・ 教授	エジプト文化財の技術の 研究	古代文化資源と技術の解明
サラールハ・エル・ホーリ	エジプト・カイロ大学・ 考古学部・教授	エジプト文化の研究	エジプト文化の解明と文化財 修復への応用、エジプト学の 国際化
マイサ・マンスール	エジプト・カイロ大学・ 考古学部・助教授	遺跡のカビ分析方法の研究	文化財の長期保全
ラファオ・ロマン・クーン	ポーランド・ニコラウス・ コペルニクス大学・美術学 部・科学技術職	壁画修復の研究	最新修復技術の導入と応用
沢田 正昭	東北芸術工科大学・文化財 保存修復研究センター・研 究員(前 国士舘大学・アジ ア日本文化研究センター・ 客員研究員)	文化財の修復技法、材料の 研究	科学的修復技術の確立、専 門家育成
高鳥 浩介	東京農業大学・ 客員教授	文化財におけるカビ制御の 研究	文化財の長期保全
中村 吉伸	大阪工業大学・ 工学部・教授	文化財保全の高分子材料の 研究	文化財の長期保全
仲 政明	嵯峨美術大学・芸術学 部・教授	文化財復元方法の研究	文化財の修復技術、展示活 用

プロジェクト番号

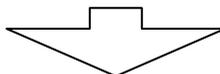
S1311041

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
壁画修復の研究	ポーランド・ニコラウス・コペルニクス大学・美術学部・准教授	エヴァ・ロズネルスカ	最新修復技術の導入と応用

(変更の時期:平成 26 年 12 月 19 日)



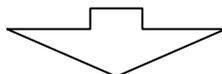
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 27 年 11 月 18 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
—	ポーランド・ニコラウス・コペルニクス大学・美術学部・科学技術職	ラファオ・ロマン・クーン	最新修復技術の導入と応用

11 研究の概要(※ 項目全体を10枚以内で作成)

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

文化財が世界各国で危機的な状態にあるなか、関西大学に「国際文化財・文化研究センター」を設立し、文化財修復技術者の育成と技術の高度化と、多分野横断型の複合的な技術開発、国際的な人材育成、社会人教育とを組み合わせ「総合文化財学」を確立する。このため、(1)文化財の修復の施工を実施する技術者の育成と技術向上、(2)日本の理工系科学の技術を応用する文化財修復技術の向上、(3)文化的な予見に基づく修復を避けるための異文化の研究(エジプト研究、ヨーロッパの異文化研究)の推進と文化財修復への応用、(4)文化財保全技術と知見の普及活動を展開する。

初年度には、総合文化財学の基礎構築のため、修復専門技術者養成やエジプト学の基礎講座を開講し、エジプトで文化財を調査する。2年度には、技術者養成やエジプト学講座を進化させ、エジプトでの調査を継続する。3年度には、総合文化財学の成立のため、文化財科学、理工系科学、異文化研究、エジプト学を統合し、国際的に活躍し、文化財を総合的に扱う人材育成体制を構築する。また、修復技術者養成とエジプト学講座を高度化し、エジプトなどで調査を実施する。4～5年度には、文化財修復技術者を養成し、技術を高度化させ、同時に社会に普及させるとともに、成果を国際シンポジウムなどで発信し、国際的なネットワークを構築して、研究拠点形成する。

(2) 研究組織

本プロジェクトの推進拠点である関西大学国際文化財・文化研究センター(Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture:略称 CHC)は、「国際文化財・文化研究センター運営内規」【別紙資料 P1-2】に基づいて運営されている。

研究代表者の役割

研究プロジェクトの統括・管理を行う。研究メンバーの専門分野、所属組織、国籍が多様であることから、PD や特別任用研究員に指示しながら、メール、電話、スカイプなどによって研究プロジェクトの各種事業の調整を行っている。その他、研究の進捗状況、研究員の交代、各年度の研究費の配分と執行、シンポジウム、研究会の開催など、プロジェクト遂行に必要な事項についてセンターの運営委員会での合議を経て決定する。

各研究者の役割分担や責任体制の明確さ

各研究者は、「エジプト学・エジプト社会グループ」「文化財修復グループ」「科学技術グループ」「国際文化グループ」において個々の研究課題に取り組むとともに、「エジプト学・エジプト社会グループ」は吹田、「文化財修復グループ」はアフメド・シュエイブ、「科学技術グループ」は伊藤、「国際文化グループ」は森によってグループ内の調整が行われている。また、プロジェクトの性格から、研究は常時各グループを越えて行われており、各グループ長、最終的にセンター長によって統括されている。運営委員会が随時に開催され、意志の統一や研究の方向性が決められ、責任分担の明確化が行われている。

研究プロジェクトに参加する研究者・大学院生・PD の状況

センターは23名の研究員からなっている。関西大学から14名、国内の他機関から4名、エジプトから4名、ポーランドから1名である。各研究員はそれぞれの研究室にて研究を遂行するとともに、本センター共同研究室を打ち合わせや実験などに使用している。関西大学から事務上のサポートも受けており、それぞれの研究員を結び付けている。プロジェクト開始より、センターでは非常勤研究員2名、PD2名、RA1名、特別任用研究員3名(延べ8名)を任用している。センターの研究補助を行うとともに、自己の研究を進めている。2013-14年度の特別任用研究員は東京外国語大学に、2015年7月までの特別任用研究員は在日本サウジアラビア大使館付アラビア語学校(短期大学相当)に職を得ている。2017年3月までのPDは、現在、東北芸術工芸大学の「文化財保存修復研究センター」において客員研究員として研究を進展させている。2016年度に着任したRAは、エジプトとバーレーンの両方の現地調査に参加し、現地業務全般を管理するとともに、研究室での業務全般を管理できるようになっており、現在、海外の大学院に合格し、エジプト学を学ぶ準備を整えている。非常勤研究員の1名は、壁画復元を担当し、エジプトでの調査を統括・運営できるようになっている。また、エジプト学の研究ではカイロ大学考古学部のエジプト学者との共同研究を行い、成果を発表している。もう1名の非常勤研究員は、日本国内のエジプト文化財の調査を進めて発表を行い、海外に発信のできる日本人エジプト学者となっている。大学院生は、「エジプト学・エジプト社会グループ」と「科学技術グループ」から複数の者がエジプトのサッカラ遺跡、サッカラ村、バーレーンの2つの遺跡の現地調査に参加して、国内外の学会で発表し、複数の論文を公刊している。他にも「科学技術グループ」の院生は、国内で実験補助を行い、大学院の研究テーマに選び、学会で発表を行っている。これらの院生は、センターの研究会、シンポジウムに参加することによって、多くの情報を得ている。

研究チーム間の連携状況

プロジェクトにおける専門分野が多様であり、所属機関も複数あり、国籍も3カ国、海外の現地調査先も2か国にまたがるため、センター長を軸に積極的に調整が行われている。このプロジェクトは各班の専門分野をこえた連携を前提としており、常に意見交換と議論が行われている。このような交流は、たとえば、文化財修復グループのシュエイブと故ロズネルスカが科学技術グループの中村研究室で文化財への高分子の応用するために共同研究していることや、エジプト人研究員のマイサが土戸と高鳥の研究室で研修を受けて、多くの論文を公刊していることにも表れている。また、荒川と川崎がシュエイブとアカリシュとの連携によって、エジプトの資料を分析している。また、カイロ大学考古学部博物館での調査がデモの頻発などで実施できなくなったため、バーレーンに代わりの調査先を見つけることになったのも、日本人研究者とエジプト人研究者の連携によるものである。中国敦煌でのシンポジウムでの発表(2014年)、インカのマチュピチュ遺跡のシンポジウムの開催(2015年)、国際シンポジウム「2015 東アジア文化遺産保存国際シンポジウム in 奈良」(2015年)、国際シンポジウム「世界の文化財保護—地域に根ざした活動と課題—」(2016年)なども、センターのグループを越えた連携とセンター外の研究機関との連携の成果である。「文化財保存修復専門家養成実践セミナー」は、国内の代表的な研究者と当センターの研究者が講師を務め、センター内の高度な連携を必要とするものである。その他、関西大学での各講演会、ワークショップなど、各グループの連携による成果があがっている。

研究支援体制

研究費および施設管理は、本学の研究推進部の職員による支援を受けている。プロジェクト支援室にグループ長を含む専任事務職員が2名おり、特に共同研究室1には、職員2名が常駐し、経費の管理、納品確認などを厳格に行っている。PD、RAと特別任用研究員を延べ6名任用しており、ワークショップ、講演会、シンポジウムの開催、紀要やニュースレターの編集などに携わっている。

共同研究機関等との連携状況

カイロ大学と関西大学の学術交換協定によって、カイロ大学考古学部の研究者とは密接な協力関係にある。これによって、体系的で総合的なエジプト学と文化財の連続講演「エジプト学・文化財研究セミナー」を2回にわたって開催した【別紙資料 P18】。ポーランドのニコラウス・コペルニクス大学の故ロズネルスカは、カイロ大学のシュエイブ、国立研究センターのアカリシュとともに大阪工業大学の中村の研究室で、文化財に応用する高分子の劣化実験を行った。同時に、故ロズネルスカを経てポーランドの研究機関とも接点を維持している。このような連携は、後任のクーンに引き継がれている。カビ相談センターと大阪府立大学とは、カビ・微生物の分析(分類)において協力関係にあり、カイロ大学のマイサの技術向上の研修を行っている。サッカラでは、調査先の文化財保存部門と共同で壁画の修復のためのワークショップを日本、ポーランド、エジプトの専門家によって開催した【別紙資料 P19】。

(3) 研究施設・設備等

- ・研究施設の面積及び使用者数

- 総合研究室棟 2階(2013年度～2017年)

- 共同研究室 1 40㎡ 6名 [研究の統括と学外・外国人研究員の研究室及び経費管理、納品確認等] 24時間 365日

- 共同研究室 2 40㎡ 9名 [研究の推進およびPD・特別任用研究員の研究室・作業室] 24時間 365日

- 実験・講習室 80㎡ 50名 [モデル壁画の作成等の各種実験およびセミナー開催等]

- ・主な研究装置、設備の名称及びその利用時間

- デジタルマイクロスコープ(電子顕微鏡)は、日本国内において壁画の劣化実験をはじめとして各種文化財の修復実験や実験用顔料の観察を行い、2013年～2017年の各年度に約300時間程度使用した。

(4) 研究成果の概要 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び*を付すこと。**2013年度**

7月に軍部がモルシ政権を打倒し、その後、数百名の死者が出る事態となった。これを受けて、エジプトでの調査は、外務省の渡航情報に従い、取りやめた。代わりにサッカラの遺跡監督官[*1156]、考古省本部の遺跡監督官[*1157]、修復技術者3名[*1164,1165,1174]を招聘し、ワークショップと講演によって現地の最新情報を入手し、協力関係を強化した。加えて、サッカラ村の住民(行政官、観光省職員を含む)を招聘し、京都の観光地の活用方法、明日香村の遺跡の活用法を踏まえて、エジプト遺跡の活用法を検討した[*216]。さらに、考古大臣を招聘し、講演に加えて当センターと考古省の研究協力強化を話し合った[*1175]。カイロ大の考古学部から、社会・外交・宗教・言語学・歴史のエジプト学者、壁画・石造建築物・パ

ピルス・ガラス・絵画の修復研究者を招聘し、セミナーを開催した。体系的かつ総合的なセミナーとして、日本では初めてであり、日本での研究基盤を強化することができた。このセミナーの内容は、英語に加えて、院生によって日本語に訳されて公刊された【別紙資料 P78-P81】。これらの研究は、4つのグループすべてが関与している。これらによって、現地調査に相応する研究が日本国内においてもできるようになった。

日本国内の研究も順調に進んでいる。サッカーの3次元データの処理方法について情報工学とエジプト学を組み合わせ、院生を含めて研究を進めた【*26,87,230】。科学技術グループは、エジプトの石灰岩におけるカビの文化財への影響研究【*117,343】と抑制実験【*24,116,276,342,970】、およびミイラの布の有機物分析【*25,149,189,277,289】を進めている。日本では石灰岩上のカビ抑制実験は前例がないものである。ミイラの布の分析をエジプト国外で行うことは、アメリカをはじめ海外の機関でも難しく、当センターの強みである。また、エジプト人研究員が日本の研究者のもとで研究した成果は、古代の石棺のカビの抑制研究【*312】、イチジクの木への影響【*314】や鉄剣への影響【*313】へと発展している。日本の文化財でのカビ対策の研究は、その対処法がまとめられている【*453】。国際シンポジウムでの発表も院生も含めて行い、情報を発信している【*490,549,696,753,1013】。高分子研究は、壁画修復の前提となるエジプトの脆弱な岩盤強化の実験を続けており、ギザ・サッカー地域の多くの地下遺跡の保全に日本の技術を試みている【*404】。エジプト学では、エジプト人研究者が発表する【*711】とともに、日本人研究者を指導し【*969】、国際的な基準で成果を公開している【*968】。サッカー村の調査は、論考を英語にして発信している【*217】。当センターで開発した技術は、マチュピチュ遺跡プロジェクトにも活かされた【*71,86,261,323】ほか、国内の多くの遺跡に活かされており【*88,89,90】、石垣補強の工法は安藤ハザマとの共同研究にも寄与している。国内では壁画の復元実験も行っている【*1152,1154】。個別の文化財にとどまらず、文化財の保存と活用を正面からとらえた論考も出している【*324】。国際文化グループは、古代に始まるバイアスの研究【*44】、古代と近世にまたがるバイアスの研究【*50】、近世における研究【*59】を公刊し、今日、世界に根深い異文化への根源をたどろうとしている。

エジプト人研究者は、エジプト大博物館で顔料分析の発表【*708】に加えて、アレクサンドリア灯台の修復過程の報告【*275,288】や文化財に使われる石材の研究【*290】を行った。また、ポーランドを日本人研究者と訪問し、研究機関で意見交換を行い、ニコラウス・コペルニクス大学総長と関係構築について話し合った。

社会教育にも成功している。エジプト語講座初級には熱心な受講生を集めた【別紙資料 P19】、「文化財保存修復専門家養成実践セミナー」も関西のみならず、関東からも熱心な受講生を集めた【別紙資料 P14】。センターの活動の紹介のために、文部科学省情報ひろば企画展示として12月から3月まで、当センターの活動とモデル壁画を紹介した【別紙資料 P87】。関西大学の東京センターにて、センター長が「関西大学のエジプト調査 10年の歩み」を講演した【別紙資料 P10】。

2014年度

9月に、サッカーのドゥワートで岩盤強化と劣化の記録のための調査を行った。翌年3月に、再度サッカーで岩盤強化の実験を行った。1月に日本人2名がシリアで殺害されると、エジプトへの渡航を禁じる研究機関(国土舘大学・大阪工業大学)もあり、調査は極めて短期のものになった。現地調査での研究成果は、帰国後に研究室での作業によって出されることになった。そのため、翌年度以降もエジプト情勢に影響を受けずに現地調査の成果を上げることができる体制に変更するように検討した。

サッカー村の調査ができなかったため、今までの成果を英語やアラビア語にして発信した【*208,209,210】。国内の研究では、有機物の分析としてミイラ布の分析を進めている【*23,137,179,274】。奈良女子大学と協力し、壁画のバインダーを特定し、国際的に成果を公開した【*489,563,579,694,707】。抗菌抗黴技術では、文化財における抗カビ研究や文化財のカビの特性研究を行っている【*114,339,115,340】。エジプト学では、カイロ博物館の遺物を分析している【*294】。高分子の研究は、岩盤強化の薬剤の配合に研究を進めている【*388】。3次元データを活用する研究は、エジプト学者とともに学会で公開し【*484,609】、海外の学会で発表している【*610,611】。異文化研究では、古典における異文化理解の研究【*41】、ヨーロッパ伝承と古代エジプトのかかわりの研究【*48】を発表している。文化財修復では、アユタヤ遺跡の保存の研究を発表する【*257,258】など、当センターのネットワークの広がりを示している。その他、中国の敦煌での国際シンポジウム【*487,613,672,695,705,717,725,510,522】、アメリカの分析学会【*489,563,579,694,707】など、国際シンポジウムや学会での発表も多く行っている。

当センターの技術は、マチュピチュ遺跡プロジェクトにも活かされており【*84,259】、国際シンポジウムを当センターで開催し、現地の保存の専門家を招聘した【別紙資料 P5】。当センターの技術は、日本国内の遺跡の地盤強化にも活かされている【*83,85】。サッカーの修復技術者とは技術交流を深めており、当センター

の技術がすでに現地で応用されている[*1163,1173]。ギザ地域の修復責任者とサッカラ遺跡の修復責任者の修復研究を、当センターの紀要に掲載した。その際、論文の書き方を指導し、現地の実務者が研究者として立ち立てできるように支援した[*1163,1173]。また、バーレーンの文化財修復責任者の論考[*273,1181]も紀要に掲載し、当センターのネットワークは広がっている。エジプト学を専攻する日本人の院生の論考も掲載し、若手研究者の育成も進めている[*983]。「文化財保存修復専門家養成実践セミナー」【別紙資料 P14-15】と「中期エジプト語講座初級」【別紙資料 P19】も開催して、多くの熱心な受講生を、当初の予想をこえて関東圏や沖縄などからも集めた。文化財保存修復学会でもセンターの活動を公開している[*485]。

2015 年度

8月と3月にサッカラで地下埋葬室の岩盤強化の実験と劣化記録の調査を行った。警察力の低下のためにサッカラ村での現地調査を行うかわり、アンケートをサッカラ村住民(150名)に実施した。カイロ大学考古学部博物館での調査がセキュリティ上の理由でできなくなったため、9月にバーレーンで現地文化財管理当局と遺跡のサーベイを実施し、2月に協定を締結し、エジプトとバーレーンの両国で文化財の研究を行う体制とした。2月には国際シンポジウム「世界の文化財保護－地域に根ざした活動と課題－」を中国、ポーランド、バーレーン、シリア、エジプト、日本の専門家と開催し、各国の先端研究を結び付けた【別紙資料 P7-8】。1月にはカイロ大学考古学部の研究者によるエジプト学と文化財修復の第2回セミナーを開催し【別紙資料 P11】、「中期エジプト語講座」は初級に加えて中級を開設し、エジプト学の専門的知識を広めた。「文化財保存修復専門家養成実践セミナー」は内容を高度化して実施した。文化財科学の研究、理系の研究、文系の研究が概論と実例、そして実技の授業で組み合わせられた文理融合型のセミナーとしてスタイルを完成させた【別紙資料 P15-16】。

その他、「2015 東アジア文化遺産保存国際シンポジウム in 奈良」を東アジア文化遺産学会と共催し【別紙資料 P6-7】[*482,666,691,704,724,1012]、センターの研究成果を東アジアの文化財保全活動と結び付けた。関西大学法学部の国際シンポジウム「イスラムと国際社会」でも共催し【別紙資料 P7】、また日本物理学会 2015 秋季大会市民科学講演会でも講演を行った【別紙資料 P19】。

エジプト遺跡のデータ管理は、3次元化されて、記録管理をこえて活用する段階に移りつつある[*21,226,981]。カビや微生物の研究[*107,332,108,333]は、エジプト人研究員による写本のカビの分析[*302]、抗菌剤の研究[*306]、ファラオ時代石棺の微生物劣化の研究[*307]につながっている。高分子化学[*372]と分析化学[*131,173]は、エジプト遺跡の資料を用いたセンターならではの成果を出しつつある。エジプト学研究は、学会での発表に加え[*478,481]、カイロ大学で学位取得を進めて、国際的なエジプト学を確立しつつある【別紙資料 P87】。また、アンケートから村の実態解明を進めている[*205]。異文化研究は、ヨーロッパの文化財や文化の観点から文化財の保全の背景を明らかにしつつある[*30,38,47,56]。

当センターのサッカラでのネットワークは強化されており、サッカラの若手修復技術者とサッカラ村の実務者を日本に招聘して、彼らの研究発表を支援する研修と情報収集を行った【別紙資料 P20】。このような信頼関係からサッカラの修復技術者が論考を投稿している[*1162,1172]。センターの若手研究者、院生はエジプトやバーレーンで調査に参加し、センターの紀要に投稿し[*20,225,980,21,226,981,108,333,958,959]、学会やシンポジウムで発表を行っている[*534,734,539,644,541,738,1001,1002,1003,1004,1005,1006,1007,1026,1027]。

2016 年度

エジプトのサッカラでの現地調査を、8月と11月に行った。イドゥートのマスタバの地下埋葬室における岩盤強化のための継続的な実験とその検証を、保存科学、エジプト学、高分子化学、土木力学など多角的な見地から行いつつある[*14,253,17,68,236,363,978,270,320,235,362]。その際、ポーランド人研究者も加わり、岩盤強化に新しい技術開発に取り組む計画となった[*315]。これらに加えて劣化記録を高精細で行う作業も昨年に引き続き行われている[*18,224,979,223]。また、サッカラ村での調査も通時的な観点から行われ、現在のサッカラの村の近代の成り立ちから観光資源の活用の可能性を論じている[*202]。

サッカラ遺跡では、2017年3月8日から15日にかけて「壁画修復ワークショップ」“Workshop for the Conservation of Mural Painting”をサッカラの文化財管理当局と共同で開催し、12名のサッカラの若手修復技術者に研修を行いながら、技術交流を図った【別紙資料 P19】。これには、センターのポーランド人研究者とサッカラの文化財管理部門が中心となり、センターの日本人とエジプト人研究者も指導者として加わっている。このワークショップの開催に合わせて、地下埋葬室で岩盤強化実験の結果を確認し、修復計画を検討している。

昨年度末に締結したバーレーン文化省と関西大学との協定により、11月と3月に現地調査を行った。11月は、紀元前3千年紀にさかのぼるバルバル神にて、第1回目の調査として、遺跡の保存状態の確認、以

前の発掘報告書と現状の比較、遺跡の石材の強度の測定、ドローンによる遺跡全体の精密測量を中心に行った[*16,17,68,236,363,978,235,362]。3月には、同様の調査を継続して行った。センターの調査は、バーレーン側からも評価されたことから、協定にはなかったハミース・モスクにて同様の調査を依頼され、実施した。同モスクは、バーレーン国で最古のものであり、その記録化を要請された。

「中期エジプト語講座」は、昨年度に引き続き、(初級)に加えて(中級)を開催し、エジプト学の専門的知識を広め、関西地区でのエジプト学研究の中心地となりつつある。また、新たに「エジプト学研究セミナー」を開催し、日本のエジプト学者が結集して本格的なセミナーを開催し、多くの参加者を得た。日本の従来のエジプト学に欠けていた専門家を養成するレベルを持つことから、現在の日本のエジプト学研究に満足できない多くの社会人、学生などを集めることになった【別紙資料 P20】。

「文化財保存修復専門家養成実践セミナー」も開催し、カリキュラムおよび運営体制を確立させている【別紙資料 P16-17】。

公開シンポジウムとして、関西大学の東京センターにて「エジプトの文化財の保全に向けて」というタイトルの下で開催し、関東地区においても成果を広く公開した。その際、関西大学のサッカー調査に加えて、カイロ地域と中エジプト地域の文化財の保存修復部門の総責任者であるサブリ・アブデル・ガッファール氏とシハーブ・ファッデル氏を招聘し、エジプトの文化財保存について広範に扱い、エジプト文化財の保全の現状を全体的に検討した【別紙資料 P6】。このシンポジウムには、エジプト駐日大使館から特命全権大使も参列の上、開催の挨拶をいただくなど、エジプト側からの評価も高かった。

日本国内においても、地盤工学の観点からのロックボルトの実験[*77]をはじめ、文化財における微生物を統制する実験[*103,104,299,301,302,303,101,329,102,330]、文化財の資料を分析する新しい技術を行う分析化学[*120,162]などエジプトのイデオロギイに応用の可能な研究が活発に行われている。イデオロギイの壁画保存のための日本人の文化財科学研究者からの総括も行われており、翌年度に他分野の研究成果をまとめあげる準備を整えている[*14,253]。異文化研究においても、ドイツの博物館におけるエジプト文化財の収集をめぐる経緯を研究するなど、エジプトの今後の活用への展望を示すようになってきている[*28,37,428]。

センターでのエジプト学研究の蓄積を受けて、研究員がカイロ大学考古学部から博士号(エジプト学)が授与された。同学部における初めての日本人となる。これによってエジプト学科がない日本で国際的に通じる体系的なエジプト学研究ができる体制を構築した。また、エジプト学研究において国際的な交流を促進し、日本でのエジプト学研究者の育成を進めている。カイロ大学のエジプト学者による院生への教育も行われており、センターの院生・学生のエジプト学研究のレベルは国際的に通じるレベルに至っている。RA は海外での学会に参加するなど国際的研究を行っている。

昨年度に引き続き、当センターはサッカーでのネットワークを強化しており、昨年度に実施した研修を受けてサッカーの修復技術者が論考を投稿している。

【*1161,1170,1171,1182,1183,1184,1185,1186,1187,1188,1189,1190,1191,1192】

センターの若手研究者、院生はエジプトやバーレーンで調査に参加し、センターの紀要に投稿している【*17,68,236,363,978,18,224,979,101,329,202,977】。

2017年度

エジプトのサッカーでの現地調査を9月、11月および1月に行った。9月は、セキュリティに係る許可が下りなかったため、イデオロギイの地下埋葬室での調査は実施出来なかったが、周辺の遺跡群の現状調査およびサッカー村の調査を行った。11月は、地下埋葬室の調査として、シャフトの三次元計測による追加調査、壁画および岩盤の状態確認、岩盤亀裂の変位計測データおよび温湿度データの収録を行った。さらに、現在壁面に仮設置している壁画の固定方法を検討するため、埋葬室と類似する石材試験体を用いて、各種の強化剤による実験を行った。1月は、11月に行った実験結果の状況を確認するとともに、ポーランド研究者を中心に、壁画の接着および固定方法について、各種の材料による試験を行った。また、サッカー遺跡の若手保存修復者を対象として、「フノリを用いた壁画の表打ち技法」をテーマとするワークショップを実施した【別紙資料 P19】。フノリは古くから日本の文化財の保存修復に用いられてきた保存修復材料であり、関西大学のミッションではイデオロギイの地下埋葬室の壁画の保存に同技法を用いた。日本の保存修復の考え方や技術をエジプト側と共有する良い機会となった。調査の最後には、関係者による総括の場を設け、エジプトにおけるこれまでの調査・研究の結果が、エジプトにおける今後の遺跡および文化財の保存・活用の検討に当たって大いに役立つものとなることを確認した。

バーレーンのバルバル神殿の調査を12月に行った。現場での調査に先立ち、バーレーン国立博物館にて成果報告会を開催し【別紙資料 P12】、これまでの調査・研究の成果をバーレーンの専門家と共有するとともに、今後のバルバル神殿の保存・活用に向けた課題について討議した。バルバル神殿での現地調査

は、前回の調査結果を踏まえ、重点的に調査を行う区域を選定して、シュミットハンマーやエコチップによる石材の劣化診断、3Dレーザースキャナーおよびドローンを用いた空撮によるデータの取得、発掘時に撮影された写真との照合に用いる現状の画像データの取得などを行った。

11月には、2日間にかけてサッカラにおいて国際専門家会議「サッカラの文化遺産保護に向けて—関西大学調査ミッション 10年間の軌跡」を開催した【別紙資料 P8-9】

【*467,500,985,468,1011,1016,501,514,625,759,526,729,590,686,700,714,710,718,1203,1158,1167,1177】。この会議では、日本、エジプト、ポーランド、バーレーンの研究者の他、サッカラの遺跡管理事務所、カイロ大学、サッカラ村関係者など80名以上の参加者を得て、文化財保存修復拠点(2008-2013年)の活動も含めた関西大学の活動および研究の成果を報告し、活発な討論が行われた。これに合わせた会議前後の4日間にわたり、建設中の大エジプト博物館、保存修復センター、カイロ考古学博物館、イスラム博物館、サッカラ遺跡群、ギザ遺跡群などを視察した。12月には、「総合文化財学の構築を目指した5年間の軌跡」と題した最終成果報告会を開催した【別紙資料 P13】

【*465,498,984,466,1015,491,499,513,586,589,624,755,684,698,685,699,709,715,653,720,1176】。この報告会では、100名近くの参加があり、研究員による口頭での報告の他、ポスター掲示、「文化財保存のこれから」をテーマとしたディスカッションを行った。1月には、「エジプト学と文化遺産保護の現在」と題して、エジプト文化遺産研究会を開催した【別紙資料 P13】【*1032,1036,1092,1166】。この研究会では約25名の参加があり、エジプト学を専門とする日本およびエジプトの研究者により、エジプトの文化・文化財に関する講演を行った。

3月にセンターにおける研究成果のまとめとして、「関西大学国際文化財・文化研究センター最終報告書」を刊行した【別紙資料 P85-P87】。同じく3月に発行した紀要は、研究員およびRAでもある院生の成果発表【*11,222,950,976,197,263,264,278,296,279,265,280,251,963,1017】に加えて、サッカラの修復技術者をはじめとするエジプト人の投稿【*279,1160,1169】も含め、エジプトの若手研究者の育成のために情報発信として強化した【*1193,1194,1195,1196,1197,1198,1199,1200,1201,1202】。また、1月にはニュースレターで活動を公表した【別紙資料 P77】。

中期エジプト語講座の(初級)コースを6月に、また(中級)を11月に開催した。その際、RAが講師を務めることができるようになっていく【別紙資料 P20】。RAは、海外の学会での発表を行い【*1017】、海外の専門機関での研究ができるようになっていく。昨年度に続き7月に、エジプト学研究セミナーを開催した【別紙資料 P19】。センター外から2名の専門家、センターから研究員1名、非常勤研究員1名の計4名の講師で、参加者は100名以上で遠方からの者も多く、関西大学の当センターは日本のエジプト学の研究の中心になりつつある。2月に、サラハ・エル・ホーリ研究員による中期エジプト語フォローアップ講座を開催した【別紙資料 P20】【*1091】。同じく2月に例年通り、文化財保存修復セミナー実施した【別紙資料 P17】。今年度はより多くの実地研修や実習を盛り込み、文化財を取り巻く現状をさまざまな角度から経験・体験するよう工夫した。

<優れた成果が上がった点>

現地の遺跡管理機関・修復機関と極めて良好な関係を維持し、現地調査を行っている。サッカラに関しては調査に問題はないとはいえ、日本側の機関や研究者が渡航を危惧し、短期の活動にならざるを得ないなか、エジプト側との信頼関係の中で、必要な調査を支障なく行うことができている。その信頼関係によって、サッカラの多くの修復技術者が本センターの紀要(The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture)のVol. 3とVol. 4に彼らの研究成果を投稿している。本センターは現地実務者から研究の発表の場として評価されている。このような信頼関係は、2016年3月に現地の調査に加え、エジプト人若手修復技術者たちに日本で研修を行い、2017年3月にサッカラで共同のワークショップを行うなど、サッカラの文化財専門家のニーズに対応してきたことに根拠がある。

また、日本人研究者の渡航が短期になりやすいため、現地ではできない岩盤強化などの実験はエジプトで行い、その他の研究は現地の研究員などの協力を得て、日本での準備をしたのち、最終の作業を現地で行う体制にすることができた。サッカラ村でも現地との信頼関係があり、アンケートの実施をはじめ、多様な人脈を形成している。

岩盤の強化実験も、現地遺跡管理当局、また、カイロ大学考古学部博物館に代えて、バーレーンで調査を行うなど、当センターのネットワークは広くかつ強固である。このような国際的で、文理融合的なネットワークを構築することができたことが、当センターの優れた成果であると考えている。

センターの5年間の蓄積は、「文化財保存修復専門家養成実践セミナー」「中期エジプト語講座(初級)

(中級)「エジプト学研究セミナー」という形で結実している。これらのセミナーの大きな特色は、大阪・京都・神戸という範囲をこえた遠方からの受講生を集めていることにある。

「文化財保存修復専門家養成実践セミナー」は、日本国内の文化財の専門家を理系と文化系にまたがって日本を代表する専門家のネットワークを構築しており、各地の大学の文化財学科の学生・院生がやってくる。いずれの大学においても、センターで行うセミナーほどの多様性と深みのプログラムを用意することができないのが現状であり、博物館に働いている専門職にある者も受講に来ている。この「文化財保存修復専門家養成実践セミナー」は、本センターの多様な研究分野の専門家を結びつける仕組みとなっている。

「中期エジプト語講座」は、(初級)と(中級)のいずれのコースも、従来の日本のエジプト学に深みを求める社会人に加えて、他大学でヘブライ語や言語学を研究する院生・学生を集めている。日本においてはレベルが高いため、この講座を受講ののち、翻訳などの仕事に活かす者や外国のエジプト学科で研究を深める者も出ている。センターのRAは、2017年度の(初級)コースにおいて、講師を務めることができるようになっている。この「中期エジプト語講座(初級)(中級)」は、関西大学における学内外に有意な人材を生み出すエジプト学の基礎となるものである。

「エジプト学研究セミナー」は、体系的なエジプト学を本格的に学ぶ体制がない日本において、海外で学位をとった日本人の研究者を中心に本格的な高度な内容のセミナーを行い、関西大学を日本における国際的なエジプト学を成立させる契機とするものである。エジプト学に関連する「中期エジプト語講座(初級)(中級)」と「エジプト学研究セミナー」は、本センターが行っているエジプトの文化財を中心とした文化財修復の科学研究を推進する核であり、「文化財保存修復専門家養成実践セミナー」のネットワークと合わさって文理融合の研究を実施する最も重要な位置付けとなっている。

<課題となった点>

2011年1月に勃発したエジプト革命に続く混乱によって、2013年度は現地調査ができなかった。その後も日本人の活動は短期間に制限された。特にカイロ大学考古学部博物館の遺物の調査は、大学前の広場が衝突の中心地になったことや、博物館で遺物の盗難があったことから全く調査ができないことになった。そのため、現地からの招聘を増やすことによって国内での共同研究を強化した。エジプトでも、現地研究者、現地技術者、企業とのネットワークを強化し、現地情勢に影響されにくい研究体制を構築した。また、新たに、バーレーンにおいて文化財の調査の協定を締結し、エジプトの成果を活かす体制を作った。ポーランド人研究員が2014年12月に逝去し、一時的に修復技術の開発研究が停滞したが、2015年7月にポーランドを訪問し、研究の引継ぎを行い、後任の研究者候補が活動を始めたことで解決した。

当センターの研究は、文理にまたがり、国籍も多様である上に、とりわけ、研究者が既存の学部や学科・専修に依拠していないため、研究が個別に独立してしまう可能性がある。そのため、センターは4つのグループに分かれているとはいえ、ワークショップ、講演会、現地調査などの活動はグループの枠組みを越えて行うことによって、「総合文化財学」に向けての一体性を維持することに成功している。今後は、それぞれの専門分野に戻って活動が分裂しないように、一体性を担保する恒久的な体制を確立することが課題となっている。このような一体性は、エジプトやバーレーンでの現地調査に加えて、「文化財保存修復専門家養成実践セミナー」「中期エジプト語講座(初級)(中級)」「エジプト学研究セミナー」のカリキュラムの実施という恒久的な活動を基盤にして維持される。

<自己評価の実施結果と対応状況>

本プロジェクトは、文理統合型の複合的研究、多国籍研究者の共同研究、海外での長期の研究という特性をもっており、従来の学会や同じ専門分野の専門家で行われる研究とは大きく異なる。自己評価は、エジプトの文化財を中心に従来接点のなかった研究者がいかに効果のある技術を開発し、結び付けるかによってなされる。自己評価は、本センターの運営委員会において行われるとともに、4つあるグループにおいて適宜調整され、同時にグループを越えた打ち合わせにおいて常時自己評価を実施している。

エジプト学・エジプト社会グループは、プロジェクト推進の核の一つとしてエジプトでの現地調査の準備をはじめプロジェクトの取りまとめも担っている。そのため、研究の推進のみならず、シンポジウム、ワークショップなどでの作業が多くなる傾向があるが、PDやRAとの連携によって負担を軽減させている。文化財修復グループは、本センターの日本・エジプト・ポーランドの研究者が共同研究を行っており、最も緊密な連携が取られるように配慮されている。国際文化グループは、主にヨーロッパから見たエジプト文化を研究するため、他のグループとの共同研究から疎遠となる傾向がある。そのため、シンポジウムなどに加えて、「文化財

保存修復専門家養成実践セミナー」での文理融合のプログラムに参加して、研究の融合を具現化させている。科学技術グループは、各メンバーの専門性が高く、他のグループの研究者や同じグループの研究員のあいだにおいても独立性が高い一方で、研究の目的設定が明確であれば十分な成果が得られる。そのため、現地及び日本国内で必要に応じてしばしば打ち合わせが行われる。

さらに、本学の全学的な研究プロジェクト評価組織である外部資金審査・評価部会（研究推進委員会の下に組織される専門委員会）による評価の結果、プロジェクト全体として「成果がみられた」との評価を得ながらも、研究体制面について、欧米の研究機関との連携や若手研究者の育成について強化する必要性等が指摘された。本プロジェクトにおいては、欧米機関より、現地機関とのネットワーク構築を重視し、欧米機関が成し得なかった現地の遺跡管理当局、カイロ大学、建設会社との強固な連携を構築できた。また、若手研究者の育成についても、例えば、RAの肥後は、自らも「中期エジプト語講座」の講師を務めるなど、文化財科学やエジプト学等に深い知見や経験が必要な職務を遂行しており、次代のプロジェクトを担う若手研究者として育成している。

＜外部(第三者)評価の実施結果と対応状況＞

外部評価委員を専門性と国際性のある専門家5名に委嘱している【別紙資料P3-4】。他に例を見ない研究分野の融合とその成果が評価されている一方で、研究員の出身母体が多様なため、プロジェクト終了後も研究成果を活用する道筋については、今後のセンターの課題となっている。また、エジプト国内でのカイロ大学、考古省、サッカー遺跡管理官事務所、サッカー保存修復部門などとのネットが強いため、さらに他の研究機関とのネットワークの拡大が望まれる。

「エジプト学・エジプト社会グループ」は、エジプト学国内でのネットワークの強化がさらに大きな研究成果をもたらすと指摘があった。すでにカイロ大学とは強い結びつきがあるが、エジプト国内にはまだ有力な大学がある。本センターの研究成果は、欧米の研究者にとって有益であるばかりではなく、エジプトの研究者・院生・学生こそが望んでいるものである。紀要の論文も、英語では最低限行い、アラビア語での発信があるほうが望ましい。これは、文化財や理系研究ばかりではなく、「国際文化グループ」の成果に当てはまる。また、「エジプト学・エジプト社会グループ」が行うサッカー村の調査も、エジプトでは類似の研究がなく、エジプト人の若手研究者へのインパクトは大きい。「文化財修復グループ」は、十分な成果をあげているため、このような成果を海外の現地調査で分離融合として総合的にあげていくことができていることが評価されている。これからの研究を維持できる体制を関西大学において確立すべきとの意見があった。また、関西大学を越えた国内の広域的なネットワークの活用も望ましい。「科学技術グループ」は、各研究者の専門的に細分化されているなかでエジプトとバーレーンの文化財を軸にまとめられていることが評価された。研究者にとっても、異分野の研究者との接触は、研究を応用する、実用化するためのニーズを知ることができる好機であり、本センターは他の研究機関ではできないエジプトの古代文化財でこれを行っており、極めて貴重なプロジェクトである。今後も、活動できる体制を確保する必要がある。「国際文化グループ」は、文化や文化財をその根源から考えるプロジェクトとして評価されている。このような研究を行う専門家を広く集めるべきであろう。

外部評価においては、いずれも今後も研究を継続できる体制の確立の必要性が述べられた。また、いずれの分野も専門の細分化が進んでおり、特に若手研究者は自らの分野で業績を上げることに追われている。このような異分野を融合する研究は貴重であり、学問に新たな価値を生み出す可能性があるため、今後もプロジェクトの研究者は熱意のある者を幅広く求めるべきとの指摘があった。

その他、ニュースレターや紀要『The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture』として公開し、国内外の主要な研究機関、研究者に送付し、評価を受けている。送付後にメールで意見が寄せられており、評価として参考にしており、ホームページ、フェイスブック、ツイッターによっても情報を発信し、その反応を評価している。またシンポジウム、研究会を開催し、評価を受けている。センター研究員は、学会発表や論文投稿を行っている。新聞報道によっても評価を受けている【別紙資料P76-77】。いずれも概ね良好な評価を得ており、これらを受けて、さらに研究を進展させる予定である。

＜研究期間終了後の展望＞

構想調書には以下のようにある。「総合文化財学の恒常的な活動体制を確立する。各グループの交差連携した成果をまとめ、国内外で活躍できる高度な専門家を育成するために、関西大学に蓄積した日本とエジプトの文化財の修復研修技術、エジプト学研究、異文化の文化財理解の国際的研究を行う総合文化財学のコースの設置構想を企画する。」

本センターの成果の核心は、すでに＜優れた成果が上がった点＞であげたように、サッカーの多くの修復

技術者から論考を集める紀要(The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture)と、遠方からの受講生を集める3種のセミナー「文化財保存修復専門家養成実践セミナー」「中期エジプト語講座(初級)(中級)」「エジプト学研究セミナー」である。これらは、センター内外の研究者を結びつける役割も果たしており、これらがなければ、学内においてさえ学部や学科をまたいだセンターの研究員の組織を維持することは難しい。これらの紀要の発行とセミナーの継続的な開催には、若手研究者と事務職のサポートが欠かすことができない。また、外部資金を得て海外の調査の継続的活動を行うことができる体制を設置する。

<研究成果の副次的効果>

本センターが文理を統合した複数の分野でエジプトの遺跡で調査しているため、他の遺跡の調査を行おうとしている研究者へ便宜供与や、調査のノウハウを提供している。エジプトの若手修復者には、2年度以降に国際的な論文の書き方指導を行い、実際に出版できるようになっている。4年度には、サッカーで壁画修復のためのワークショップを通じて現地の若手修復技術者に研修を行った。これらによって、エジプトの実務者のレベルアップと国際化に貢献した。また、エジプトやポーランドやバーレーンの研究者とのネットワークの形成、あるいは、日本国内の文化財研究者や科学者とのネットワークの形成も進み、共同研究が進展している。

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- | | | |
|------------------|-----------------|-----------------|
| (1) <u>エジプト</u> | (2) <u>文化財</u> | (3) <u>壁画</u> |
| (4) <u>サッカー</u> | (5) <u>文理融合</u> | (6) <u>世界遺産</u> |
| (7) <u>文化財科学</u> | (8) <u>古代史</u> | |

プロジェクト番号

S1311041

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)
上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付すこと

<雑誌論文>

吹田 浩

	著者名	論文名	掲載誌名(巻・号)	頁	発表年月	査読
1	吹田浩、末森薫	関西大学国際文化財・文化研究センターの活動	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	
2	吹田浩、肥後時尚、 末森薫、 サルマン・アルマハリ	バーレーン王国における文化遺産保護プロジェクト	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	
3	安室喜弘、森直紀、 廣瀬詢、藤里和樹、 高橋里緒、肥後時尚、 末森薫、吹田浩	写真測量とレーザスキャナにもとづいた文化財の過去と現在の視覚的照合—バルバル神殿を事例として—	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	
4	鶴田浩章、中村吉伸、 伊藤淳志、肥後時尚、 吹田浩	イドゥートのマスタバ墓における岩盤等の補強対策と品質評価	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	
5	安室喜弘、吹田浩	イドゥートのマスタバにおける修復・保全のための3次元計測に基づいた情報共有	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	
6	吹田浩、肥後時尚	イドゥートのマスタバ墓における壁画の復元	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	
7	吹田浩、 アーデル・アカリシュ、 アフメド・シュエイブ	イドゥート・マスタバ墓プロジェクトの評価	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	
8	アーデル・アカリシュ、 アフメド・シュエイブ、 吹田浩	バルバル神殿に使用された石材の鉱物学・岩石学的特徴	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	
9	川崎英也、河原一樹、 中沢隆、 アフメド・シュエイブ、 アーデル・アカリシュ、 吹田浩、荒川隆一	エジプト壁画中に含まれる有機化合物の質量分析	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	
10	中村吉伸、鶴田浩章、 伊藤淳志、吹田浩、 堤亮太、岡田駿、中村 充、藤井秀司	エジプト、バーレーンの文化遺産の保存に用いる接着剤の凝固強度	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	
*11	森直紀、廣瀬詢、 藤里和樹、高橋里緒、 肥後時尚、末森薫、 吹田浩、安室喜弘	写真測量とレーザスキャナにもとづいた文化財の過去と現在の視覚的照合	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(5)	未定	2018年3月(予定)	

プロジェクト番号

S1311041

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
12	吹田 浩	ピラミッド・テキストの研究	関西大学 国際文化財・文化研究センター エジプト学研究セミナー	未定	2017年3月	
13	堤亮太、瀧田健太、 山下大輝、藤井秀司、 鶴田浩章、伊藤淳志、 吹田浩、中村吉伸	石造文化財修復用アルコキシランの凝結力の比較	日本接着学会誌(54-3)	未定	2018年3月(予定)	※
*14	西浦忠輝、吹田浩	エジプト・サッカラ地域のイドゥート古代壁画の保存	文化遺産学研究(10)	51-59	2017年3月	
15	吹田 浩	古王国第5王朝最後の王、ウニスの時代	関西大学 国際文化財・文化研究センター エジプト学研究セミナー	23-40	2017年3月	
*16	吹田 浩	バーレーン王国、バルバル神殿における文化財保全の研究プロジェクト	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(4)	1-11	2017年3月	
*17	鶴田浩章、中村吉伸、 伊藤淳志、肥後時尚、 吹田浩	エジプト国イドゥート及びバーレーン国バルバル神殿における岩盤等の補強対策と品質評価	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(4)	29-38	2017年3月	
*18	安室喜弘、頼光拓真、 藤里和樹、肥後時尚、 吹田浩	写真測量にもとづく文化財の経時的変化の可視化手法 —Barbar Templeにおける変容検証への試み—	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(4)	39-47	2017年3月	
19	Maisa M. MANSOUR, Adel I. M. AKARISH, Hiroshi SUIA and Ahmed S. A. SHOEIB	Utilization of TiO2 Nanoparticles to Protect Limestone Artifacts against Microorganisms Attack	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	111-122	2016年3月	
*20	肥後時尚、青木彩香、 松下亮、安室喜弘、 吹田浩	イドゥートのマスタバ「第3室西壁」における3次元計測データを用いた復元と再解釈	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	9-22	2016年3月	
*21	安室喜弘、松下亮介、 肥後時尚、吹田浩	イドゥートのマスタバ調査プロジェクトにおけるモバイルARシステムの提案	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	1-8	2016年3月	
22	松下亮介、肥後時尚、 吹田浩、安室喜弘	考古学プロジェクトにおける3DデジタルアーカイブのためのARインタフェース	第20回日本バーチャル リアリティ学会大会論文集	259-262	2015年9月	
*23	五百埜太輔、山下和子、 アフメド・シュエイブ、 川崎英也、吹田浩、 荒川隆二	ミイラの布に含まれる有機低分子化合物の熱分解GC-MS 分析	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	179-184	2015年3月	
*24	廣池晋治、坂元仁、 アフメド・シュエイブ、 吹田真里子、吹田浩、 高島浩介、土戸哲明	気相系シャーレおよび彩色石片上でのn-アルカノールの抗カ ビ活性	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	135-145	2014年3月	

プロジェクト番号

S1311041

著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
*25 五百崎太輔、山下和子、 アフメド・シュエイブ、 アーデル・アカリシュ、 川崎英也、吹田浩、 荒川隆二	GC-MS及びATR-IR分析によるミイラの布の有機付着物分析	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	147-152	2014年3月	
*26 安室喜弘、松下亮介、 西形達明、吹田浩	イドウトのマスバ調査プロジェクトにおけるアーカイブシステム の提案	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	153-165	2014年3月	

森 貴史

著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
27 森 貴史	ドイツでエジプト古美術品を展示する —ベルリン、ミュンヘン、ヒルデスハイムのエジプト博物館—	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	
*28 森 貴史	ヒルデスハイムのレーマー・ベリツェウス博物館 —ふたりの市民が創設した博物館—	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(4)	121-142	2017年3月	
29 森 貴史	容認できないもうひとりの自分を受容する物語 —『ペルソナ4 ザ・ゴールデン』の物語とゲームシステムをめぐって—	関西大学文学論集(66-1)	1-23	2016年7月	
*30 森 貴史	州立エジプト美術博物館(ミュンヘン)のリニューアル —ヴィッテルスバッハ家のエジプトコレクション—	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	203-221	2016年3月	
31 森 貴史	00年代における物語の主人公の死を体験すること —『ペルソナ3』の物語とゲームシステムをめぐって—	関西大学文学論集(65-1)	1-24	2015年7月	
32 森 貴史	近代エジプト学の成立と所蔵品の帰趨 —ベルリン・エジプト博物館をめぐって—	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	163-177	2015年3月	
33 森 貴史	00年代以降の虚構をつむぐということ —小路啓之『犯罪王ボボネボ』原論—	関西大学文学論集(64-1)	1-28	2014年7月	

中澤 務

著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
34 中澤 務	古代ギリシアにおける異文化理解の諸相	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	
35 中澤 務	ソフィスト・プロディコス の宗教思想	関西大学文学論集(67-3)	95-123	2017年12月	
36 中澤 務	プロタゴラスの人間尺度説—その歴史 的実像をめぐって—	関西大学文学論集	87-113	2017年3月	

プロジェクト番号

S1311041

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
*37	中澤 務	古代ギリシアにおける異文化理解の諸相(3) —ヘロドトスとエジプト—	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(4)	143-158	2017年3月	
*38	中澤 務	古代ギリシアにおける異文化理解の諸相(2) —ヘロドトスとスキュティア—	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	223-236	2016年3月	
39	中澤 務	ソフィスト文書『ディッソイ・ロゴイ』研究(二)	関西大学文学論集(65-2)	73-90	2015年9月	
40	中澤 務	ソフィスト文書『ディッソイ・ロゴイ』研究(一)	関西大学文学論集(65-1)	83-104	2015年8月	
*41	中澤 務	古代ギリシアにおける異文化理解の諸相(1) —ノモスとピュシス—	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	127-139	2015年3月	
42	中澤 務	ソフィスト・プロタゴラスにおける共同体と倫理	関西大学文学論集(64-1)	55-78	2014年7月	
43	中澤 務	プロタゴラスの相対主義再考	アルケー(22)	40-52	2014年7月	
*44	中澤 務	エジプト・ギリシア・近代ヨーロッパ —『黒いアテナ』論争のこれから—	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	125-133	2014年3月	
45	中澤 務	ゴルギアスにおけるロゴスと弁論術 —『ヘレネへの賛辞』研究—	関西大学文学論集(63-3)	23-51	2013年11月	

浜本 隆志

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
46	浜本 隆志	エジプト文明の源流とユーラシア—研究の総括—	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	
*47	浜本 隆志	古代エジプトにおける「シンデレラ物語」の世界伝播(2) —アジア伝播を中心に—	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	149-188	2016年3月	
*48	浜本 隆志	古代エジプトにおける「シンデレラ物語」の世界伝播(1) —ヨーロッパ伝播を中心に—	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	141-161	2015年3月	

プロジェクト番号

S1311041

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
49	浜本 隆志	ドイツ事情紹介:3編	東西学術研究所 「研究報告書」	17-24	2014年3月	
*50	浜本 隆志	ナポレオンの地中海域遠征と「アンピール様式」 —パリにおける古代エジプト・ローマ文明—	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	81-112	2014年3月	

柏木 治

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
51	柏木 治	フランス19世紀初期における「文明観」とエジプト	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	
52	柏木 治	一九世紀前半における「銀行家」の社会的地位と文学空間(一)	関西大学文学論集(67-3)	1-30	2017年12月	
53	柏木 治	1820年代の「個人主義」論とスタンダール	関西大学文学論集(67-1)	91-113	2017年7月	
54	柏木 治	銀行家と小説—スタンダールにおける銀行家の位置	関西大学文学論集(66-3)	293-312	2016年12月	
55	柏木 治	理工科学校の残照—スタンダールの小説世界におけるポリテクニシアン	関西大学文学論集(66-2)	101-128	2016年9月	
*56	柏木 治	エジプト古代遺産収集と文明史的な位置づけ —ベルナルディーノ・ドロヴェッティと文化遺産(2)—	Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	189-201	2016年3月	
57	柏木 治	産業主義のメタファー —再考—スタンダールと経済思想(Ⅱ)—	関西大学文学論集(65-2)	191-209	2015年10月	
58	柏木 治	再考—スタンダールと経済思想	関西大学文学論集(65-1)	159-176	2015年9月	
*59	柏木 治	革命期の文化イデオロギー —ベルナルディーノ・ドロヴェッティと文化遺産(1)—	Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	113-124	2014年3月	
60	柏木 治	« le réel » と « l'idéal » のあいだ —スタンダールにおける金銭の問題から—	関西大学文学論集(63-3)	77-96	2013年12月	

プロジェクト番号

S1311041

伊藤 淳志

	著者名	論文名	掲載誌名(巻・号)	頁	発表年月	査読
61	伊藤淳志、西形達明	イドゥート地下埋葬室母岩の劣化調査および補強対策	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	
62	鶴田浩章、中村吉伸、 伊藤淳志、肥後時尚、 吹田浩	イドゥートのマスタバ墓における岩盤等の補強対策と品質評価	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	
63	鶴田浩章、中村吉伸、 伊藤淳志	バルバル神殿における岩盤等の補強対策と品質評価	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	
64	中村吉伸、鶴田浩章、 伊藤淳志、吹田浩、 堤亮太、岡田駿、中村 充、藤井秀司	エジプト、バーレーンの文化遺産の保存に用いる接着剤の 凝固強度	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	
65	西浦忠輝、伊藤淳志、 西形達明、藤田晴啓、 小野勇、森井順之、 沢田正昭、 フェルナンド・アステレーテ、 ピエダット・チャンピ	ペルー共和国・マチュピチュ遺跡の石造遺構の保存に関する 調査研究 —「太陽の神殿」の劣化と保存修復に関する調査と現地実験—	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	
66	堤亮太、瀧田健太、 山下大輝、藤井秀司、 鶴田浩章、伊藤淳志、 吹田浩、中村吉伸	石造文化財修復用アルコキシシランの凝結力の比較	日本接着学会誌(54-3)	未定	2018年3月(予定)	※
67	黒柳信之、伊藤淳志、 松原茂雄、内藤康夫、 富永晃司	砂質土地盤における拡張型鋼管杭の周面摩擦抵抗	日本建築学会構造系論文集 (82-741)	1737-1745	2017年11月	※
*68	鶴田浩章、中村吉伸、 伊藤淳志、肥後時尚、 吹田浩	エジプト国イドゥート及びバーレーン国バルバル神殿における 岩盤等の補強対策と品質評価	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(4)	29-38	2017年3月	
69	廣瀬竜也、伊藤淳志、 下平祐司	小規模建築物に用いる既製コンクリート杭の支持力特性に関 する統計的検討	日本建築学会構造系論文集 (80-709)	419-425	2015年3月	※
70	廣瀬竜也、伊藤淳志、 下平祐司	小規模建築物に用いる回転貫入杭の支持力特性に関する統 計的検討	日本建築学会構造系論文集 (79-701)	933-939	2014年7月	※
*71	西浦忠輝、岡田保良、 柴田英明、小野勇、 沢田正昭、伊藤淳志、 西形達明、藤田晴啓、 森井順之、 フェルナンド・アステレーテ、 チャンピ・モンテローソ、 カルロス・カノー	Conservation of the Machu-picchu Archaeological Site: Investigation and Experimental Reatoration Works of the "Temple of the Sun"	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	67-79	2014年3月	
72	伊藤淳志、井元悠気	打込みによる先端閉塞単管杭の引抜き抵抗	日本建築学会技術報告集 (20-44)	85-88	2014年2月	※

プロジェクト番号

S1311041

	著者名	論文名	掲載誌名(巻・号)	頁	発表年月	査読
73	石川一真、伊藤淳志、小椋仁志	根固め部の強度と直径が節杭の支持力特性に与える影響—埋込み杭の拡大根固め部に関する模型実験 その3—	日本建築学会構造系論文集(78-689)	1253-1261	2013年7月	※

西形 達明

	著者名	論文名	掲載誌名(巻・号)	頁	発表年月	査読
74	伊藤淳志、西形達明	イドゥート地下埋葬室母岩の劣化調査および補強対策	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	
75	西浦忠輝、伊藤淳志、西形達明、藤田晴啓、小野勇、森井順之、沢田正昭、フェルナンド・アステレーテ、ピエダット・チャンピ	ペルー共和国・マチュピチュ遺跡の石造遺構の保存に関する調査研究—「太陽の神殿」の劣化と保存修復に関する調査と現地実験—	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	
76	野間康隆、西村毅、山本浩之、笠博義、西形達明、西田一彦	ロックボルトを使用した城郭石垣の補強に関する現場計測	基礎工, Vol.45, No.10	51-53	2017年10月	※
*77	野間康隆、西村毅、山本浩之、笠博義、西形達明、西田一彦	ロックボルトを使用した城郭石垣の補強に関する現場計測	第2回擁壁の耐震診断及び補強に関するシンポジウム論文集 地震工学会	60-65	2017年2月	
78	西形 達明	石垣の安定と変形のメカニズムを探る	第14回全国城跡等石垣整備 調査研究会	15	2017年1月	
79	山田哲司、西形達明、仲矢順子	未利用の細径間伐材を用いた地盤補強工法の開発	第12回地盤改良シンポジウム 日本材料学会	421-428	2016年11月	
80	西形 達明	歴史的な地盤構造物の地震時挙動への数値解析手法の適用	遺跡学研究、日本遺跡学会、第 13号	74-81	2016年6月	※
81	髙野温也、西形達明、山本浩之、笠博義、野間康隆	3次元個別要素法による城郭石垣における鉄筋挿入工法の補強メカニズムの解明	土木学会年次学術講演会	—	2015年9月	
82	北田祐平、安室喜弘、檀寛成、西形達明、石垣泰輔、井村誠孝	SfMに基づいた屋外レーザスキャンの最適計画	土木学会論文集F3(土木情報学) (70-2)	257-264	2015年4月	※
*83	T.Nishigata, H.Kasa, Y.Noma, T.Nishimura, H.Yamamoto, K.Nishida	Field Measurement about the Reinforcement of Castle Masonry Wall by Using Rock Bolts	8th Asian Rock Mechanics Symposium	125-131	2014年10月	※
*84	小野勇、西浦忠輝、柴田英明、西形達明	マチュピチュ遺跡「太陽の神殿」の修復保存	第49回地盤工学研究発表会	45-46	2014年7月	

プロジェクト番号

S1311041

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
*85	森本浩行、西田一彦、北垣聡一郎、西形達明	名古屋城天守台の修復と形態、構造の変遷	土木史研究(34)	95-100	2014年6月	
*86	西浦忠輝、岡田保良、柴田英明、小野勇、沢田正昭、伊藤淳志、西形達明、藤田晴啓、森井順之、フェルナンド・アステレーテ、チャンピ・モンテローソ、カルロス・カノー	Conservation of the Machu-picchu Archaeological Site: Investigation and Experimental Reatoration Works of the "Temple of the Sun"	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	67-79	2014年3月	
*87	安室喜弘、松下亮介、西形達明、吹田浩	イドゥートのマスタバ調査プロジェクトにおけるアーカイブシステムの提案	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	153-165	2014年3月	
*88	Y. Noma, T. Nishimura, H. Yamamoto, H. Kasa, T. Nishigata and K. Nishida	Investigation of Dynamic Stability on Effect of Restoration for Aged Castle Masonry Wall	10 th International Conference on Urban Earthquake Engineering	1211-1216	2013年9月	※
*89	西村毅、笠博義、山本浩之、西形達明	鉄筋挿入工法による伝統的の石垣の補強における施工性の検討	第68回土木学会年次学術講演会	VI-493	2013年9月	
*90	高野温也、西形達明、山本浩之、笠博義、西村毅	鉄筋挿入による城郭石垣の修復とその補強効果に関する遠心実験	第68回土木学会年次学術講演会	VI-494	2013年9月	
91	西田一彦、白石建、渡辺誠、鈴木邦男、西形達明	屋島城修復における地盤補強技術の適用について	第48回地盤工学研究発表会	1413-1414	2013年7月	
92	井上貴玄、西形達明、山本浩之、笠博義	城郭石垣の補修に対する補強土工法の適用	第48回地盤工学研究発表会	1661-1662	2013年7月	

土戸 哲明

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
93	高島浩介、高橋淳子、高島美奈子、久米田裕子、土戸哲明	文化財環境および器物にかかわるカビの様相	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告	未定	2018年3月(予定)	
94	土戸哲明、坂元 仁、古田雅一、高島浩介	文化財のカビ汚染防止策としてのアルコールと放射線利用のためのモデル実験研究.	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告	未定	2018年3月(予定)	
95	土戸哲明、坂元 仁	損傷菌の特性、発生機構と検出・計数	日本食品科学工学会誌	未定	2018年1月	※
96	土戸 哲明	損傷菌研究の意義とこれまでとこれから—特集にあたって	日本食品科学工学会誌	未定	2018年1月	※

プロジェクト番号

S1311041

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
97	土戸哲明、中村一郎	微生物熱死滅データベース —「ThermoKill Database R8110」から見た真菌の熱耐性—	かびと生活 10 (2)	43-48	2017年10月	
98	Tsuchido, T.	A novel double subculture method and its theory for the enumeration of injured cells in stressed microbial population	Biocontrol Science, 22(2)	in press	2017年6月	※
99	土戸 哲明	損傷菌とその食品微生物制御における意義	ILSI JAPAN(イルシー) 130	11-17	2017年4月	
100	土戸 哲明	損傷菌: その定義・原因・特性について	食品加工技術, 36(4)	151-155	2017年4月	
*101	原田真美、坂元仁、 古田雅一、高島浩介、 土戸哲明	液体培地と固体培地表面におけるカビ胞子の発育に対する電離放射線の抑制効果の評価	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(4)	85-99	2017年3月	
*102	高橋淳子、太田利子、 久米田裕子、高島美奈子、 土戸哲明、高島浩介	真菌とバイオフィルム —文化財器物のバイオフィルム—	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(4)	61-73	2017年3月	
*103	土戸 哲明	食品殺菌技術・システムの新しい基盤形成に向けて	FFIジャーナル, 221(4)	275-277	2016年11月	
*104	土戸哲明、坂元仁	食品とその製造環境の殺菌における損傷菌とその定義・特性・検出をめぐる問題	FFIジャーナル, 221(4)	278-283	2016年11月	
105	Shimazaki, A., Sakamoto, J. J., Furuta, M. and Tsuchido, T	Antifungal activity of diglycerin ester of fatty acids against yeasts and its comparison with those of sucrose monopalmitate and sodium benzoate	Biocontrol Sci 21 (2)	123-130	2016年6月	※
106	土戸 哲明	「ものまもり」バイオへの期待	日本生物工学会誌 94 (4)	175	2016年4月	
*107	高橋淳子、村松芳多子、 太田利子、土戸哲明、 高島浩介	器物におけるカビの発育に関する研究	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	83-98	2016年3月	
*108	原田真美、坂元仁、 古田雅一、高島浩介、 土戸哲明	文化財汚染にみられる好乾性および耐乾性カビ胞子に対するガンマ線照射の発育抑制効果の解析	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	73-81	2016年3月	
109	土戸 哲明	安全なカビ・微生物の検査・管理のための人材育成のしくみづくり(その2)	かびと生活 8(2)	37-40	2015年12月	

プロジェクト番号

S1311041

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
110	土戸 哲明	安全なカビ・微生物の検査・管理のための人材育成のしくみづくり(その1)	かびと生活 8(1)	37-40	2015年6月	
111	土戸 哲明	地上最強の生物	「菌・カビを知る・防ぐ60の知恵 —プロ直伝！防菌防カビの新常識」 (日本防菌防黴学会編)化学同人	50-51	2015年6月	
112	土戸 哲明	熱で菌が死ぬのはなぜ？	「菌・カビを知る・防ぐ60の知恵 —プロ直伝！防菌防カビの新常識」 (日本防菌防黴学会編)化学同人	122-123	2015年6月	
113	Ihara, N., Sakamoto, J., Yoshida, M., and <u>Tsuchido, T</u>	Killing effect of peppermint vapor against pink slime-forming microorganisms.	Biocontrol Sci. 20,(2)	91-97	2015年6月	※
*114	村松芳多子、太田利子、 高橋淳子、久米田裕子、 <u>土戸哲明、高島浩介</u>	文化財環境真菌細胞のタンパク質含量	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	193-199	2015年3月	
*115	廣池晋治、原田真美、 坂元仁、古田雅一、 <u>高島浩介、土戸哲明</u>	寒天ゲル相系でのアルコール異性体の抗カビ活性とその 阻害作用における疎水性相互作用の役割	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	201-214	2015年3月	
*116	廣池晋治、坂元仁、 <u>アフメド・シュエイブ、</u> 吹田真里子、吹田浩、 <u>高島浩介、土戸哲明</u>	気相系シャーレおよび彩色石片上でのn-アルコールの抗カ ビ活性	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture (1)	135-145	2014年3月	
*117	高島浩介、村松芳多子、 太田利子、久米田裕子、 高橋淳子、 <u>土戸哲明</u>	文化財施設環境中の空中浮遊微粒子と浮遊カビの相関性	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture (1)	177-184	2014年3月	

荒川 隆一

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
118	川崎英也、河原一樹、 中沢隆、 <u>アフメド・シュエイブ、</u> <u>アーデル・アカリシュ、</u> 吹田浩、 <u>荒川隆一</u>	エジプト壁画中に含まれる有機化合物の質量分析	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	
119	C. Chokradjaroena, R. Rujiravanita, A. Watthanaphanit, S. Theeramunkong, N. Saito, K. Yamashita, <u>R. Arakawa</u>	Enhanced degradation of chitosan by applying plasma treatment in combination with oxidizing agents for potential use as an anticancer agent	Carbohydrate Polymers(167)	1-11	2017年7月	※
*120	栗田匡拓、 <u>川崎英也、</u> <u>荒川隆一</u>	文化財試料の表面化学分析に向けた表面増強ラマン分光と 質量分析との連携分析	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(4)	75-84	2017年3月	
121	H. Kawasaki, M. Moriyama, and <u>R. Arakawa</u>	Aluminium foil suitable for Laser desorption/ionization mass spectrometry of fullerene	Science and Technology Reports of Kansai University(59)	33-38	2017年3月	

プロジェクト番号

S1311041

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
122	M. Yamamoto, I.Osaka, K. Yamashita, H. Hasegawa, R. Arakawa, and H. Kawasaki	Effects of ligand species and cluster size of biomolecule-protected Au nanoclusters on efficiency of singlet-oxygen generation	Journal of Luminescence(180)	315-320	2016年12月	※
123	T. Kohigashi, Y.Otsuka, R. Shimazu, T.Matsumoto, F. Iwata, H. Kawasaki, and R. Arakawa	Reduced Sampling Size with Nanopipette for Tapping-Mode Scanning Probe Electro spray Ionization Mass Spectrometry Imaging	Mass Spectrometry(5)	S0054 (6pp)	2016年12月	※
124	Y. Kawaguchi, R. Arakawa and H. Kawasaki	Formate-Free Metal-Organic Decomposition Inks of Copper Particles and Self-Reductive Copper Complex for the Fabrication of Conductive Copper Films	Journal of Coating Science and Technology(3)	56-61	2016年10月	※
125	F.K. Duan, K.B. He, Y.L. Ma, T. Ihozaki, H. Kawasaki, R. Arakawa, S. Kitayama, K.Tujimoto, T. Huang, T. Kimoto, H. Furutani, M. Toyoda	High molecular weight organic compounds (HMW-OCs) in severe winter haze: Direct observation and insights on the formation mechanism	Environmental Pollution(218)	289-296	2016年9月	※
126	M. Kurita, R. Arakawa and H. Kawasaki	Silver Nanoparticle Functionalized Glass Fibers for Combined Surface-Enhanced Raman Scattering Spectroscopy (SERS)/Surface-Assisted Laser Desorption/Ionization (SALDI) Mass Spectrometry via Plasmonic/Thermal Hot Spots	Analyst(141)	5835-5841	2016年8月	※
127	C. Tominaga, H. Hasegawa, K. Yamashita, R. Arakawa and H. Kawasaki	UV Photo-Mediated Size-Focusing Synthesis of Silver Nanoclusters	RSC Adv.(6)	73600-73604	2016年7月	※
128	T. Sugiyama, M. Kanzaki, R. Arakawa, H. Kawasaki	Low-temperature sintering of metallacyclic stabilized copper nanoparticles and adhesion enhancement of conductive copper film to a polyimide substrate	Journal of Materials Science: Materials in Electronics Vol. 27(7)	7540-7547	2016年7月	※
129	A. Yamamoto, N. Matsumoto, H. Kawasaki and R. Arakawa	Identification of Anthropogenic Compounds in Urban Environments and Evaluation of Automated Methods for Reading Fragmentation—A Case of River Water	Mass Spectrometry(5)	A0045 (8pp)	2016年6月	※
130	T. Ozawa, I. Osaka, S. Harada, T. Murakami, A. Miyazato, H. Kawasaki, and R. Arakawa	Direct Imaging Mass Spectrometry of Plant Leaves Using Surface-assisted Laser Desorption/Ionization with Sputter-deposited Platinum Film	Analytical Sciences Vol. 32 (5)	587-591	2016年5月	※
*131	嶋津亮、川崎英也、荒川隆一	タッピング型走査プローブエレクトロスプレーイオン化法による高分子フィルム中の添加物の質量分析イメージング	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	123-128	2016年3月	
132	山下和子、中田龍夫、川崎英也、荒川隆一	ESI-MSIによるLa(III)-アリザリンコンプレキソン(ALC) —フッ化物溶液中の化学種の分析—	分析化学 Vol. 65	39-43	2016年2月	※
133	Y. Shigeri, T. Kamimura, M. Ando, K. Uegaki, H. Sato, F. Tani, R. Arakawa and T. Kinumi	2-Hydrazinoquinoline: a reactive matrix for matrix-assisted laser desorption/ionization mass spectrometry to detect gaseous carbonyl compounds.	Eur J Mass Spectrom (Chichester). 22(2)	83-90	2016年	※

プロジェクト番号

S1311041

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
134	T.Ozawa, I.Osaka, T.Ihozaki, S.Hamada, Y.Kuroda, T.Murakami, A.Miyazato, <u>H.Kawasaki</u> and <u>R.Arakawa</u>	Simultaneous detection of phosphatidylcholines and glycerolipids using matrix-enhanced surface assisted laser desorption/ionization-mass spectrometry with sputter-deposited platinum film	J. Mass Spectrom.,50,	1264–1269	2015年3月	※
135	Yuki Hokita, Mai Kanzaki, Tomonori Sugiyama, <u>Ryuichi</u> <u>Arakawa</u> , and <u>Hideya</u> <u>Kawasaki</u>	High-Concentration Synthesis of Sub-10-nm Copper Nanoparticles for Application to Conductive Nanoinks	ACS Appl. Mater. Interfaces, 7	19382– 19389	2015年3月	※
136	J.Yoshimoto, A.Sangsuwan, I.Osaka, K.Yamashita, Y.Iwasaki, M.Inada, <u>R.Arakawa</u> , and <u>H.Kawasaki</u>	Optical Properties of 2-Methacryloyloxyethyl Phosphorylcholine-protected Au4 Nanoclusters and Their Fluorescence Sensing of C-reactive Protein	J. Phys. Chem., C, 119	14319– 14325	2015年3月	※
*137	五百埜太輔、山下和子、 アブメド・シュエイブ、 川崎英也、吹田浩、 荒川 隆一	ミイラの布に含まれる有機低分子化合物の熱分解GC-MS分析	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	179-184	2015年3月	
138	R.Shimazu, Y.Yamato, T.Kosaka, <u>H.Kawasaki</u> and <u>R.Arakawa</u>	Application of Tapping-mode Scanning Probe Electro-spray Ionization to Mass Spectrometry Imaging of Additives in Polymer Films	Mass Spectrometry(3)	7 pages	2014年12月	
139	E.Takai, T.Kitamura, J.Kuwabara, S.Ikawa, S.Yoshizawa, K.Shiraki, <u>H.Kawasaki</u> , <u>R.Arakawa</u> , K.Kitano	Chemical Modification of Amino Acids by Atmospheric-Pressure Cold Plasma in Aqueous Solution	J. Phys. D: Appl. Phys.	285403	2014年7月	※
140	A.Yamamoto, H.Hisatomi, T.Ando, S.Takemine, T.Terao, T.Tojo, M.Yagi,D.Ono, <u>H.Kawasaki</u> and <u>R.Arakawa</u>	Use of High-resolution Mass Spectrometry to Identify Precursors and Biodegradation Products of Perfluorinated and Polyfluorinated Compounds in End-user Products	Analytical and Bioanalytical Chemistry (406-19)	4745-4755	2014年7月	※
141	S.Nitta, A.Yamamoto, M.Kurita, <u>R.Arakawa</u> , <u>H.Kawasaki</u>	Gold-Decorated Titania Nanotube Arrays as Dual-Functional Platform for Surface-Enhanced Raman Spectroscopy and Surface-Assisted Laser Desorption/Ionization Mass Spectrometry. doi: 10.1021/am501291d.	ACS Appl Mater Interfaces. (11)	8387-8395	2014年6月	
142	K.Nakai, <u>H.Kawasaki</u> , A.Yamamoto, <u>R.Arakawa</u> , R.N.Grass and W.J. Stark	Hydrophobic Compounds in Water and Perfluorooctane Sulfonate in Human Serum by Surface-assisted Laser Desorption/Ionization Mass Spectrometry (SALDI-MS) with Amine Functionalized Graphene-coated Cobalt Nanoparticles	Mass Spectrometry (3)	A0028, (5pp)	2014年6月	※
143	J.Yoshimoto, N.Tanaka, M.Inada, <u>R.Arakawa</u> , <u>H.Kawasaki</u>	Microwave-Assisted Synthesis of Near-Infrared-Luminescent Ovalbumin-Protected Gold Nanoparticles as a Luminescent Glucose Sensor	Chem. Lett.(43)	793–795	2014年6月	※
144	M.Kusano, S.Kawabata, Y.Tamura, D.Mizoguchi, M.Murouchi, <u>H.Kawasaki</u> , <u>R.Arakawa</u>	Laser Desorption/Ionization Mass Spectrometry (LDI-MS) of Lipids with Iron Oxide Nanoparticle-Coated Targets	Mass Spectrometry(3)	A0026	2014年5月	※
145	Y.Otsuka, J.Naitoa, S.Satoha, M.Kyogakua, H.Hashimotoa, <u>R.Arakawa</u>	Imaging Mass Spectrometry of Mouse Brain by Tapping-mode Scanning Probe Electro-spray Ionization	Analyst(139)	2336-2341	2014年4月	※

プロジェクト番号

S1311041

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
146	Y.Hotta, S.Suiko, J.Motoyanagi, H.Onishi, D.Iozaki, <u>R.Arakawa</u> , A.Tsuda	Physical Operation of Hydrodynamic Orientation of an Azobenzene Supramolecular Assembly with Light and Sound	Chem. Comm(50)	5615-5618	2014年4月	※
147	A.Kawase, S.Shirai, A.Yamamoto, <u>R.Arakawa</u> , T.Takata	Electrochemical Reactions of Lithium-sulfur Batteries: an Analytical Study Using the Organic Conversion Technique	Phys. Chem. Chem. Phys(16)	5615-5618	2014年4月	※
148	T.Yonezawa, H.Tsukamoto, S.Hayashi, Y.Myojin, <u>H.Kawasaki</u> , <u>R.Arakawa</u>	Suitability of GaP Nanoparticles as a Surface-assisted Laser Desorption/ionization Mass Spectroscopy	Analyst(138)	995-999	2014年4月	※
*149	五百埜太輔、山下和子、 <u>アフメド・シュエイブ</u> 、 <u>アーデル・アカリシュ</u> 、 <u>川崎英也</u> 、 <u>吹田浩</u> 、 <u>荒川 隆一</u>	GC-MS及びATR-IR分析によるミイラの布の有機付着物分析	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	147-152	2014年3月	※
150	J.Yoshimoto, N.Tanaka, M.Inada, <u>R.Arakawa</u> , <u>H.Kawasaki</u>	Microwave-Assisted Synthesis of Near-Infrared-Luminescent Ovalbumin-Protected Gold Nanoparticles as a Luminescent Glucose Sensor	Chem. Lett.(46)	793-795	2014年2月	※
151	M.Kusano, S.Kawabata, Y.Tamura, D.Mizoguchi, M.Murouchi, <u>H.Kawasaki</u> , <u>R.Arakawa</u> , K.Tanaka	Laser Desorption/Ionization Mass Spectrometry (LDI-MS) of Lipids with Iron Oxide Nanoparticle-coated Targets	Mass Spectrometry(3)	A0026	2014年1月	※
152	Y.Sugii, M.Inada, H.Yano, Y.Obora, Y.Iwasaki, <u>H.Kawasaki</u> , <u>R.Arakawa</u>	Single Nano-sized FeO Nanocrystals with Photoluminescence Properties	J. Nanopart. Res(15)	1379-1386	2013年8月	※
153	A.Yasuda, T.Ishimaru, S.Nishihara, M.Sakai, <u>H.Kawasaki</u> , <u>R.Arakawa</u>	A Thiophene-containing Compound as a Matrix for Matrix-assisted Laser Desorption/Ionization Mass Spectrometry and the Electrical Conductivity of Matrix Crystals	Eur. J. Mass Spectrom(19)	29-37	2013年4月	※
154	I.Osaka, H.Hisatomi, Y.Ueno, S.Taira, Y.Sahashi, <u>H.Kawasaki</u> , <u>R.Arakawa</u>	Two-dimensional Mapping Using Different Chromatographic Separations Coupled with Mass Spectrometry for the Analysis of Ginsenosides in Panax Ginseng Root and Callus	Anal. Sci(29)	429-434	2013年5月	※
155	M.Inuta, <u>R.Arakawa</u> , <u>H.Kawasaki</u>	Protein-modified Silver Nanoplates for the Complementary Analytical Method of Localised Surface Plasmon Resonance and Matrix Assisted Laser Desorption/Ionisation Mass Spectrometry	Analytical Methods(5)	5031-5036	2013年4月	※

川崎 英也

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
156	<u>川崎英也</u> 、河原一樹、中沢隆、 <u>アフメド・シュエイブ</u> 、 <u>アーデル・アカリシュ</u> 、 <u>吹田浩</u> 、 <u>荒川隆一</u>	エジプト壁画中に含まれる有機化合物の質量分析	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	
157	Yamamoto, K. Shitomi, S. Miyata, H. Miyaji, H. Aota, and <u>H. Kawasaki</u>	Bovine Serum Albumin-capped Gold Nanoclusters Conjugating with Methylene Blue for Efficient 1O2 Generation via Energy Transfer	Journal of Colloid and Interface Science Volume 510	221-227	2018年1月	

プロジェクト番号

S1311041

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
158	Tominaga, D. Hikosou, I. Osaka, <u>H. Kawasaki</u>	Ag7(MBISA)6 Nanoclusters Conjugated with Quinacrine for FRET-enhanced Photodynamic Activity under Visible Light Irradiation	Acta Physica Sinica -Chinese Edition-	—	2017年10月	
159	Y. Kawaguchi, Y. Hotta and <u>H. Kawasaki</u>	Cu-based composite inks of a self-reductive Cu complex with Cu flakes for the production of conductive Cu films on cellulose paper	Materials Chemistry and Physics Volume 197	87-89	2017年8月	
160	Kanzaki, Y. Kawaguchi and <u>H. Kawasaki</u>	Fabrication of Conductive Copper Films on Flexible Polymer Substrates by Low-temperature Sintering of Composite Cu Ink in Air	ACS Applied Materials & Interfaces Volume 9, Issue 24	20852-20858	2017年6月	
161	Miyata, H. Miyaji, <u>H. Kawasaki</u> , E. Nishida, K. Shitomi, T. Akasaka, S. Tanaka, T. Iizuka, T. Sugaya,	Antibacterial and cytotoxic effects of photoexcited Au clusters via blue high-power or white low-power light-emitting diode irradiation	Biology, Engineering and Medicine Volume 2 (4)	—	2017年	
*162	栗田匡拓、 <u>川崎英也</u> 、 <u>荒川隆一</u>	文化財試料の表面化学分析に向けた表面増強ラマン分光と質量分析との連携分析	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(4)	75-84	2017年3月	
163	<u>H. Kawasaki</u> , M. Moriyama, and <u>R. Arakawa</u>	Aluminium foil suitable for Laser desorption/ionization mass spectrometry of fullerene	Science and Technology Reports of Kansai University, 59	33-38	2017年3月	
164	M. Yamamoto, I. Osaka, K. Yamashita, H. Hasegawa, <u>R. Arakawa</u> , and <u>H. Kawasaki</u>	Effects of ligand species and cluster size of biomolecule-protected Au nanoclusters on efficiency of singlet-oxygen generation	Journal of Luminescence, 180	315-320	2016年12月	※
165	T. Kohigashi, Y. Otsuka, R. Shimazu, T. Matsumoto, F. Iwata, <u>H. Kawasaki</u> and <u>R. Arakawa</u>	Reduced Sampling Size with Nanopipette for Tapping-Mode Scanning Probe Electro Spray Ionization Mass Spectrometry Imaging	Mass Spectrometry(5)	S0054 (6pp)	2016年12月	※
166	Y. Kawaguchi, <u>R. Arakawa</u> and <u>H. Kawasaki</u>	Formate-Free Metal-Organic Decomposition Inks of Copper Particles and Self-Reductive Copper Complex for the Fabrication of Conductive Copper Films	Journal of Coating Science and Technology, 3	56-61	2016年10月	※
167	F. K. Duan, K. B. He, Y. L. Ma, T. Ihozaki, <u>H. Kawasaki</u> , <u>R. Arakawa</u> , S. Kitayama, K. Ujimoto, T. Huang, T. Kimoto, H. Furutani, M. Toyoda	High molecular weight organic compounds (HMW-OCs) in severe winter haze: Direct observation and insights on the formation mechanism	Environmental Pollution, 218	289-296	2016年9月	※
168	M. Kurita, <u>R. Arakawa</u> and <u>H. Kawasaki</u>	Silver Nanoparticle Functionalized Glass Fibers for Combined Surface-Enhanced Raman Scattering Spectroscopy (SERS)/Surface-Assisted Laser Desorption/Ionization (SALDI) Mass Spectrometry via Plasmonic/Thermal Hot Spots	Analyst, 2016, 141,	5835-5841	2016年8月	※
169	C. Tominaga, H. Hasegawa, K. Yamashita, <u>R. Arakawa</u> and <u>H. Kawasaki</u>	UV Photo-Mediated Size-Focusing Synthesis of Silver Nanoclusters	RSC Adv., 2016, 6	73600-73604	2016年7月	※
170	T. Sugiyama, M. Kanzaki, <u>R. Arakawa</u> , <u>H. Kawasaki</u>	Low-temperature sintering of metallacyclic stabilized copper nanoparticles and adhesion enhancement of conductive copper film to a polyimide substrate	journal of Materials Science: Materials in Electronics Vol. 27(7)	7540-7547	2016年7月	※

プロジェクト番号

S1311041

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
171	A.Yamamoto, N.Matsumoto, <u>H.Kawasaki</u> and <u>R.Arakawa</u>	Identification of Anthropogenic Compounds in Urban Environments and Evaluation of Automated Methods for Reading Fragmentation—A Case of River Water	Mass Spectrometry(5)	A0045 (8pp)	2016年6月	※
172	T.Ozawa, I.Osaka, S.Harada, T.Murakami, A.Miyazato, <u>H.Kawasaki</u> and <u>R.Arakawa</u>	Direct Imaging Mass Spectrometry of Plant Leaves Using Surface-assisted Laser Desorption/Ionization with Sputter-deposited Platinum Film	Analytical Sciences Vol. 32 (2016) No. 5	587-591	2016年5月	※
*173	嶋津亮、川崎英也、 <u>荒川隆一</u>	タッピング型走査プローブエレクトロスプレーイオン化法による高分子フィルム中の添加物の質量分析イメージング	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	123-128	2016年3月	
174	山下和子、中田龍夫、 <u>川崎英也</u> 、 <u>荒川隆一</u>	ESI-MSIによるLa(III)-アリザリンコンプレキソン(ALC)-フッ化物溶液中の化学種の分析	分析化学 Vol. 65(2016)	39-43	2016年2月	※
175	M.Chiba, M.Nguyen Thanh, Y.Hasegawa, Y.Obora, <u>H.Kawasaki</u> , T.Yonezawa,	Synthesis of Binary Solid Solution Cu-Pd Nanoparticles by DMF Reduction for Enhanced Photoluminescent	Properties, J. Mater. Chem. C, 3	514-520	2015年3月	※
176	T.Ozawa, I.Osaka, T.Ihozaki, S.Hamada, Y.Kuroda, T.Murakami, A.Miyazato, <u>H.Kawasaki</u> and <u>R.Arakawa</u>	Simultaneous detection of phosphatidylcholines and glycerolipids using matrix-enhanced surface assisted laser desorption/ionization-mass spectrometry with sputter-deposited platinum film	J. Mass Spectrom.,50,	1264–1269	2015年3月	※
177	Y.Hokita, M.Kanzaki, T.Sugiyama, <u>R.Arakawa</u> and <u>H.Kawasaki</u>	High-Concentration Synthesis of Sub-10-nm Copper Nanoparticles for Application to Conductive Nanoinks	ACS Appl. Mater. Interfaces, 7	19382–19389	2015年3月	※
178	J.Yoshimoto, A.Sangsuwan, I.Osaka, K.Yamashita, Y.Iwasaki, M.Inada, <u>R.Arakawa</u> and <u>H.Kawasaki</u>	Optical Properties of 2-Methacryloyloxyethyl Phosphorylcholine-protected Au4 Nanoclusters and Their Fluorescence Sensing of C-reactive Protein	J. Phys. Chem., C, 119	14319–14325	2015年3月	※
*179	五百埜太輔、山下和子、 <u>アブメド・シュエイブ</u> 、 <u>川崎英也</u> 、 <u>吹田浩</u> 、 <u>荒川隆一</u>	ミイラの布に含まれる有機低分子化合物の熱分解GC-MS分析	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	179-184	2015年3月	
180	R.Shimazu, Y.Yamamoto, T.Kosaka, <u>H.Kawasaki</u> and <u>R.Arakawa</u>	Application of Tapping-mode Scanning Probe Electro-spray Ionization to Mass Spectrometry Imaging of Additives in Polymer Films	Mass Spectrometry(3)	7 pages	2014年12月	
181	M.Chiba, M.Nguyen Thanh, Y.Hasegawa, Y.Obora, <u>H.Kawasaki</u> , T.Yonezawa	Synthesis of Binary Solid Solution Cu-Pd Nanoparticles by DMF Reduction for Enhanced Photoluminescent Properties	J. Mater. Chem. C(3)	514-520	2014年11月	※
182	E.Takai, T.Kitamura, J.Kuwabara, S.Ikawa, S.Yoshizawa, K.Shiraki, <u>H.Kawasaki</u> , <u>R.Arakawa</u> , K.Kitano	Chemical Modification of Amino Acids by Atmospheric-Pressure Cold Plasma in Aqueous Solution	J. Phys. D: Appl. Phys.	285403	2014年7月	※
183	K.Nakai, <u>H.Kawasaki</u> , A.Yamamoto, <u>R.Arakawa</u> , R.N.Grass and W.J.Stark	Hydrophobic Compounds in Water and Perfluorooctane Sulfonate in Human Serum by Surface-assisted Laser Desorption/Ionization Mass Spectrometry (SALDI-MS) with Amine Functionalized Graphene-coated Cobalt Nanoparticles	Mass Spectrometry (3)	A0028, (5pp)	2014年6月	※

プロジェクト番号

S1311041

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
184	A.Yamamoto, H.Hisatomi, T.Ando, S.Takemine, T.Terao, T.Tojo, M.Yagi, D.Ono, H.Kawasaki, R.Arakawa	Use of High-resolution Mass Spectrometry to Identify Precursors and Biodegradation Products of Perfluorinated and Polyfluorinated Compounds in End-user Products	Anal. Bioanal. Chem(406)	4745-4755	2014年5月	※
185	S.Nitta, A.Yamamoto, M.Kurita, R.Arakawa, H.Kawasaki	Gold-Decorated Titania Nanotube Arrays as Dual - Functional Platform for Surface-Enhanced Raman Spectroscopy and Surface-Assisted Laser Desorption/Ionization Mass Spectrometry	ACS Appl. Mater. Interfaces(6)	8387-8395	2014年4月	※
186	Y.Iwasaki, T.Kimura, M.Orisaka, H.Kawasaki, T.Goda, S.Yusa	Label-free Detection of C-reactive Protein Using Highly Dispersible Gold Nanoparticles Synthesized by Reducible Biomimetic Block Copolymers	Chem. Commun (50)	5656-5658	2014年4月	※
187	H.Kawasaki, S.Kumar, G.Li, C.Zeng, D.Kauffman, J.Yoshimoto, Y.Iwasaki, R.Jin	Generation of Singlet Oxygen by Photoexcited Au ₂₅ (SR) ₁₈ Clusters	Chem. Mater(26)	2777-2788	2014年4月	※
188	T.Yonezawa, H.Tsukamoto, S.Hayashi, Y.Myojin, H.Kawasaki, R.Arakawa	Suitability of GaP Nanoparticles as a Surface-assisted Laser Desorption/ionization Mass Spectrometry	Analyst(138)	995-999	2014年4月	※
*189	五百埜太輔、山下和子、アフメド・シュエイブ、アーデル・アカリシュ、川崎英也、吹田浩、荒川隆一	GC-MS及びATR-IR分析によるミイラの布の有機付着物分析	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	147-152	2014年3月	※
190	J.Yoshimoto, N.Tanaka, M.Inada, R.Arakawa, H.Kawasaki	Microwave-Assisted Synthesis of Near-Infrared-Luminescent Ovalbumin-Protected Gold Nanoparticles as a Luminescent Glucose Sensor	Chem. Lett.(46)	793-795	2014年2月	※
191	M.Kusano, S.Kawabata, Y.Tamura, D.Mizoguchi, M.Murouchi, H.Kawasaki, R.Arakawa, K.Tanaka	Laser Desorption/Ionization Mass Spectrometry (LDI-MS) of Lipids with Iron Oxide Nanoparticle-coated Targets	Mass Spectrometry(3)	A0026	2014年1月	※
192	Y.Sugii, M.Inada, H.Yano, Y.Obora, Y.Iwasaki, H.Kawasaki, R.Arakawa	Single Nano-sized FeO Nanocrystals with Photoluminescence Properties	J. Nanopart. Res(15)	1379-1386	2013年8月	※
193	Y.Changlin, L.Gao, S.Kumar, H.Kawasaki, J.Rongchao	Stable Au ₂₅ (SR) ₁₈ /TiO ₂ Composite Nanostructure with Enhanced Visible Light Photocatalytic Activity	J. Phys. Chem. Lett.(4)	2847-2852	2013年8月	※
194	I.Osaka, H.Hisatomi, Y.Ueno, S.Taira, Y.Sahashi, H.Kawasaki, R.Arakawa	Two-dimensional Mapping Using Different Chromatographic Separations Coupled with Mass Spectrometry for the Analysis of Ginsenosides in Panax Ginseng Root and Callus	Anal. Sci(29)	429-434	2013年5月	※
195	M.Inuta, R.Arakawa, H.Kawasaki	Protein-modified Silver Nanoplates for the Complementary Analytical Method of Localised Surface Plasmon Resonance and Matrix Assisted Laser Desorption/Ionisation Mass Spectrometry	Analytical Methods(5)	5031-5036	2013年4月	※

プロジェクト番号

S1311041

著者名	論文名	掲載誌名(巻・号)	頁	発表年月	査読
196 A.Yasuda, T.Ishimaru, S.Nishihara, M.Sakai, H.Kawasaki, R.Arakawa, Y.Shigeri	A Thiophene-containing Compound as a Matrix for Matrix-assisted Laser Desorption/Ionization Mass Spectrometry and the Electrical Conductivity of Matrix Crystals	Eur. J. Mass Spectrom(19)	29-37	2013年4月	※

岡 絵理子

著者名	論文名	掲載誌名(巻・号)	頁	発表年月	査読
197 岡 絵理子	臨遺跡集落・サッカラ村の空間構造と暮らし	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	
*198 岡絵理子、中村穂希	臨遺跡集落・サッカラ村の生活と空間構造(その7) —フィナー概念による公共空間の私的利用について—	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(5)	未定	2018年3月(予定)	
199 福本優、岡絵理子	ベトナムの社会主義団地のオープンスペースの商業利用実態 と住民意識に関する研究 —ハノイ Nguyen Cong Tru KTTを事例に—	都市計画 別冊 都市計画論文集52(3)	323-328	2017年10月	
200 岡 絵理子	夢の戸建て住宅地 —現在とこれから：能勢電鉄沿線まちづくり—	都市住宅学(97)	32-35	2017年	
201 岡 絵理子	三原台アレイハウスにおける設計方針の継承に関する研究	日本建築学会 住宅系研究報告 会論文集11	171-176	2017年12月	※
*202 岡絵理子、中村穂希、 村上真央	臨遺跡集落・サッカラ村の生活と空間構造(その6) —1932年地図との比較による村の変容—	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(4)	13-27	2017年3月	
203 小野明日香、岡絵理子	大阪ベイエリアにおける住環境と防災意識に関する研究 —此花区、港区、大正区を事例に—	日本都市計画学会 関西支部第14回研究発表会 公演概要集	CD公開 30	2016年7月	
204 岡本侑香里、岡絵理子	街路における景観要素としてのガス灯の影響と活用に関する 研究—大阪市船場の三休橋筋を事例に—	日本都市計画学会 関西支部第13回研究発表会 公演概要集	13-16	2016年7月	
*205 岡 絵理子	臨遺跡集落・サッカラ村の生活と空間構造(その5) —サッカラ村居住者の遺跡や村への認識の実態—	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	23-30	2016年3月	
206 岡 絵理子	まちに居場所をつくる人々 —新しいまちとの関わり方—	第216回産業セミナー セミナー年報	39-49	2016年	
207 岡 絵理子	大阪市の谷町地区市街地改造事業の事業過程と45年目にお ける検証	都市計画 別冊 都市計画論文集50(3)	1232-1237	2015年10月	

プロジェクト番号

S1311041

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
*208	徳勢貴彦、岡絵理子	臨遺跡集落モデルとしての奈良県明日香村の遺跡と集落の暮らし—サッカラ村の今後を考えるための方向性の提示— [英語版]	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	5-21	2015年3月	
*209	徳勢貴彦、岡絵理子	臨遺跡集落モデルとしての奈良県明日香村の遺跡と集落の暮らし—サッカラ村の今後を考えるための方向性の提示— [アラビア語版]	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	21-37	2015年3月	
*210	岡 絵理子	臨遺跡集落・サッカラ村の生活と空間構造(その4)—「古い村」(カルヤ型集落)としてのサッカラ村の現状—[アラビア語版]	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	39-48	2015年3月	
211	岡 絵理子	機嫌よく暮らす、生き方としてのまちづくり	第211回産業セミナー セミナー年報	51-62	2015年	
212	岡 絵理子	大阪市都心6区における超高層集合住宅の立地動向とその実態に関する研究	学術講演会研究発表論文集 都市住宅学87号	86-91	2014年11月	
213	岡 絵理子	祭りの舞台となる町並み・住まいに関する研究—橿原市八木地区の愛宕祭を事例に—	日本建築学会計画系論文集 (79-703)	1955-1961	2014年9月	※
214	高橋佳那、岡絵理子	居住からみた千里ニュータウン近隣センターの再生・再編に関する基礎的研究：長屋型店舗付住宅の居住実態調査を通して	日本建築学会近畿支部研究報告集・計画系(54)	353-356	2014年6月	
215	牧角雄、岡絵理子	戸建住宅地居住者の地区計画制度の認知・認識に関する研究—猪名川パークタウンを事例として—	日本建築学会近畿支部研究報告集・計画系(54)	457-460	2014年5月	
*216	徳勢貴彦、岡絵理子	臨遺跡集落モデルとしての奈良県明日香村の遺跡と集落の暮らし—サッカラ村の今後を考えるための方向性の提示—	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	1-12	2014年3月	
*217	Eriko Oka	Life and Spatial Structure in Saqqara Village, a Settlement Adjacent to an Archaeological Site (Vol.4):The Existing State of Saqqara as an"Old Village"(Karya-Type Village)	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	13-21	2014年3月	
218	福本優・岡絵理子	地域環境としての市街地立地集合住宅団地の更新手法に関する研究—大阪市内のUR都市機構団地の更新事例—	都市計画 別冊 都市計画論文集48(3)	957-962	2013年10月	
219	Eriko Oka	The Alterations of Sites and the Houses in the KOHAMA Village	International Seminar on Architecture in Urbanized Maritime Culture	1-8	2013年9月	※

プロジェクト番号

S1311041

安室 喜弘

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
220	安室喜弘、吹田浩	イドウトのmastabaにおける修復・保全のための3次元計測に基づいた情報共有	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	
221	安室喜弘、森直紀、 廣瀬詢、藤里和樹、 高橋里緒、肥後時尚、 末森薫、吹田浩	写真測量とレーザスキャナにもとづいた文化財の過去と現在の視覚的照合—バルバル神殿を事例として—	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	
*222	森直紀、廣瀬詢、 藤里和樹、高橋里緒、 肥後時尚、末森薫、 吹田浩、安室喜弘	写真測量とレーザスキャナにもとづいた文化財の過去と現在の視覚的照合	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(5)	未定	2018年3月(予定)	
*223	藤里和樹、檀寛成、 安室喜弘	レーザスキャナとSfMの統合のための対応点の選択手法	土木学会論文集F3 (土木情報学)(72-2)	96-102	2017年3月	
*224	安室喜弘、頼光拓真、 藤里和樹、肥後時尚、 吹田浩	写真測量にもとづく文化財の経時的変化の可視化手法—Barbar Templeにおける変容検証への試み—	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(4)	39-47	2017年3月	
*225	肥後時尚、青木彩香、 松下亮介、安室喜弘、 吹田浩	イドウトのmastaba「第3室西壁」における3次元計測データを用いた復元と再解釈	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	9-22	2016年3月	
*226	安室喜弘、松下亮介、 肥後時尚、吹田浩	イドウトのmastaba調査プロジェクトにおけるモバイルARシステムの提案	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	1-8	2016年3月	
227	松下亮介、肥後時尚、 吹田浩、安室喜弘	考古学プロジェクトにおける3DデジタルアーカイブのためのARインタフェース	第20回日本バーチャル リアリティ学会大会論文集	259-262	2015年9月	
228	北田祐平、安室喜弘、 檀寛成、西形達明、 石垣泰輔、井村誠孝	SfMに基づいた屋外レーザスキャンの最適計画	土木学会論文集F3 (土木情報学)(70-2)	257-264	2015年4月	※
229	Yusuke Inui, Yoshihiro Yasumuro, Hiroshige Dan	A Server-Client Ssystem for Optimized Planning of Outdoor 3D Laser Scanning	Journal of Society for Social Management Systems(3)	13-2727	2014年5月	※
*230	安室喜弘、松下亮介、 西形達明、吹田浩	イドウトのmastaba調査プロジェクトにおけるアーカイブシステムの提案	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	153-165	2014年3月	

鶴田 浩章

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
231	中村吉伸、鶴田浩章、 伊藤淳志、吹田浩、 堤亮太、岡田駿、 中村充、藤井秀司	エジプト、バーレーンの文化遺産の保存に用いる接着剤の凝固強度	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	

プロジェクト番号

S1311041

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
232	鶴田浩章、中村吉伸、伊藤淳志	バルバル神殿における岩盤等の補強対策と品質評価	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	
233	鶴田浩章、中村吉伸、伊藤淳志、肥後時尚、吹田浩	イドゥートのマスタバ墓における岩盤等の補強対策と品質評価	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	
234	堤亮太、瀧田健太、山下大輝、藤井秀司、鶴田浩章、伊藤淳志、吹田浩、中村吉伸	石造文化財修復用アルコキシランの凝結力の比較	日本接着学会誌(54-3)	未定	2018年3月(予定)	※
*235	中村吉伸、鶴田浩章、堤亮太、瀧田健太、高倉和希、野田昌代、藤井秀司	石材強化用アルコキシランの構造分析	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(4)	49-59	2017年3月	
*236	鶴田浩章、中村吉伸、伊藤淳志、肥後時尚、吹田浩	エジプト国イドゥート及びバーレーン国バルバル神殿における岩盤等の補強対策と品質評価	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(4)	29-38	2017年3月	
237	鶴田浩章、竹本裕樹、上田尚史	下水汚泥焼却灰を用いたコンクリートの凝結性状の改善に関する一検討	公益社団法人 日本材料学会・材料 第65巻第11号	773-778	2016年11月	※
238	鶴田浩章、島川和之、上田尚史	表面含浸材の併用法における施工性とその影響に関する一検討	第25回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム論文集	353-358	2016年10月	※
239	三好孝英、鶴田浩章、上田尚史	表面含浸材の併用法における塗布量と劣化抑制効果の関係	公益社団法人 日本材料学会・コンクリート構造物の補修、補強、アップグレードシンポジウム論文報告集、第16巻	415-420	2016年10月	※
240	野村晃平、平井孝明、鶴田浩章、上田尚史	護岸に適用する中流動コンクリートの基本的性質と劣化対策	公益社団法人 日本材料学会・コンクリート構造物の補修、補強、アップグレードシンポジウム論文報告集、第16巻	85-90	2016年10月	※
241	H.Tsuruta, T.Hirai and N.Ueda	THE FUNDAMENTAL PROPERTIES AND RESISTANCE TO ABRASION IN SEMI-SELF COMPACTING CONCRETE FOR A SEAWALL	Proceedings of CONMAT15	215	2015年8月	※
242	鶴田浩章、島川和之、中嶋亮介、上田尚史	シラン系塗布後にけい酸塩系を塗布した表面含浸材の併用による劣化抑制効果への影響	コンクリート構造物の補修、補強、アップグレード論文報告集(14)	533-560	2014年10月	※
243	上田尚史、谷口拓峰、鶴田浩章	マトリクスと繊維の違いがFRCCはりのせん断破壊挙動に及ぼす影響に関する実験的研究	コンクリート工学年次論文集 (36-2)	1147-1152	2014年7月	※
244	K.SHIMAKAWA, H.TSURUTA	A Study on the Effects of the Combination of Surface Penetrants in Combining Silicate-and-silane-type Surface Penetrants on Inhibition Deterioration in Concrete	Science and Technology Reports of Kansai University(56)	39-48	2014年3月	

プロジェクト番号

S1311041

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
245	鶴田浩章、島川和之、 中嶋亮介	表面含浸材の併用における含浸材の組合せによる劣化抑制効果への影響	コンクリート構造物の補修、補強、 アップグレード論文報告集(13)	113-118	2013年10月	※
246	中嶋亮介、鶴田浩章	劣化を生じたコンクリートにおける表面含浸材の併用による劣化抑制効果に関する検討	コンクリート工学年次論文集 (35-1)	1681-1686	2013年8月	※

西浦 忠輝

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
247	西浦忠輝、伊藤淳志、 西形達明、藤田晴啓、 小野勇、森井順之、 沢田正昭、 フェルナンド・アステテ、 ピエダット・チャンピ	ペルー共和国・マチュピチュ遺跡の石造遺構の保存に関する調査研究 —「太陽の神殿」の劣化と保存修復に関する調査と現地実験—	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	
248	西浦 忠輝	サッカー地区の環境と遺跡の保存	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	
249	西浦 忠輝	タイ国、世界遺産「古都アユタヤ」の総合的保存活用施策	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	
250	西浦忠輝、沢田正昭	文化遺産における国際協カプロジェクト	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	
*251	西浦忠輝、村上裕道、 福田正巳	豪雪寒冷地域で凍結劣化を受けていた歴史的石造建造物保存のための撥水性シリコーン樹脂含浸処理	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(5)	未定	2018年3月(予定)	
252	Tadateru NISHIURA	Conservation of Roof Tiles for Reuse in Japan	文化遺産学研究(11)	未定	2018年3月(予定)	
*253	西浦忠輝、吹田浩	エジプト・サッカー地域のイドゥート古代壁画の保存	文化遺産研究(10)	51-59	2017年3月	
254	西浦 忠輝	タイ国・世界遺産アユタヤ遺跡の保存と活用 —国際シンポジウム報告—	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(4)	159-175	2017年3月	
255	西浦 忠輝	2015 東アジア文化遺産保存国際シンポジウム in 奈良	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	237-277	2016年3月	
256	西浦 忠輝	ペルー共和国マチュピチュ遺跡建造物の保存修復に関する調査研究	文化遺産研究(9)	1-11	2016年3月	

プロジェクト番号

S1311041

著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読	
*257	Tadateru NISHIURA	Conservation of Ayutthaya Historical Site as a Result of Major Floods	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	81-87	2015年3月	
*258	西浦 忠輝	大洪水後のアユタヤ遺跡の保存について	文化遺産研究(8)	81-85	2015年3月	
*259	小野勇、西浦忠輝、柴田英明、西形達明	マチュピチュ遺跡「太陽の神殿」の修復保存	第49回地盤工学研究発表会	45-46	2014年7月	
260	西浦 忠輝	マチュピチュ遺跡保存修復プロジェクト[中間報告]	文化遺産研究(7)	143-153	2014年3月	
*261	西浦忠輝、岡田保良、柴田英明、小野勇、沢田正昭、伊藤淳志、西形達明、藤田晴啓、森井順之、フェルナンド・アステレーテ、チャンピ・モンテローソ、カルロス・カノー	Conservation of the Machu-picchu Archaeological Site:Investigation and Experimental Reatoration Works of the"Temple of the Sun"	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	67-79	2014年3月	
262	西浦 忠輝	沖縄県、世界遺産・園比屋武御嶽石門の保存修復	東亜文化遺産保存学会第二次学術検討会論文集	232-238	2013年8月	

アフド・サイエド・アフド・シュエイブ

著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読	
*263	Ahmed SHOEIB, Abd El zaher A . ABDOELALA and Ahmed I. MANCY	Technical Characterization of the Mural Paintings in the Burial Chamber of Mereruka Tomb, Saqqara, Egypt	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(5)	未定	2018年3月(予定)	
*264	Maisa MANSOUR, Adel AKARISH, Rushdya HASSAN and Ahmed SHOEIB,	Analytical Study of Deteriorated Pharaonic Textile from Mummified Burials – Saqqara	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(5)	未定	2018年3月(予定)	
*265	Adel AKARISH, Ahmed SHOEIB	Mineralogical and Petrographic Characteristic of the Building Material Used in Barbar Temples, Bahrain Preliminary investigation	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(5)	未定	2018年3月(予定)	
266	アーデル・アカリシュ、アフド・シュエイブ	イドゥートのマスタバ墓地下埋葬室の壁画—技法・材料および保存修復—	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	
267	吹田浩、アーデル・アカリシュ、アフド・シュエイブ	イドゥート・マスタバ墓プロジェクトの評価	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	

プロジェクト番号

S1311041

著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
268 アーデル・アカリシュ、 アフメド・シュエイブ、 吹田浩	バルバル神殿に使用された石材の鉱物学・岩石学的特徴	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	
269 川崎英也、河原一樹、 中沢隆、 アフメド・シュエイブ、 アーデル・アカリシュ、 吹田浩、荒川隆一	エジプト壁画中に含まれる有機化合物の質量分析	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	
*270 Ahmed SHOEIB, A.A.SHAKAL and M.L.Abd EL-LATIF	Comparison between Nanolime and Plexisol P550 as Two Consolidants for the Preservation of Humidity Saturated Monumental Limestone	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(4)	255-267	2017年3月	
271 Ahmed SHOEIB, A.A.SHAKAL and M.L.Abd EL-LATIF	Comparison between Nanolime and Plexisol P550 as Two Consolidants for the Preservation of Humidity Saturated Monumental Limestone	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(4)	255-267	2017年3月	
272 Maisa M.MANSOUR, Adel I.M.AKARISH, Hiroshi SUITA and Ahmed S.A.SHOEIB	Utilization of TiO2 Nanoparticles to Protect Limestone Artifacts against Microorganisms Attack	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	111-122	2016年3月	
*273 Ahmed Shoeib and Salman Almahari	Characterization of Old Mortars from Historic Buildings in Muharraq, Bahrain	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	89-96	2015年3月	
*274 五百崎太輔、山下和子、 アフメド・シュエイブ、 川崎英也、吹田浩、 荒川隆一	ミイラの布に含まれる有機低分子化合物の熱分解GC-MS分析	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	179-184	2015年3月	
*275 Adel M.Akarish, Ahmed S.A.Shoeib and A.Nageh	Removal of the White Marine Deposits Disfiguring the Granitic Monumental Objects of Alexandria Lighthouse,Alexandria,Egypt	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	55-66	2014年3月	
*276 廣池晋治、坂元仁、 アフメド・シュエイブ、 吹田真里子、吹田浩、 高鳥浩介、土戸哲明	気相系シャーレおよび彩色石片上でのn-アルカノールの抗カビ活性	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	135-145	2014年3月	
*277 五百崎太輔、山下和子、 アフメド・シュエイブ、 アーデル・アカリシュ、 川崎英也、吹田浩、 荒川隆一	GC-MS及びATR-IR分析によるミイラの布の有機付着物分析	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	147-152	2014年3月	

アーデル・イブラヒム・モハメド・アカリシュ

著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
*278 Maisa MANSOUR, Adel AKARISH, Rushdya HASSAN and Ahmed SHOEIB,	Analytical Study of Deteriorated Pharaonic Textile from Mummified Burials – Saqqara	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(5)	未定	2018年3月(予定)	
*279 Ashraf EWAIS, Mohamed KAMAL, Gamal MAHGOUB and Adel AKARISH	Artistic Study of the Wildlife Scene at the Burial Chamber of Rashepses in Saqqara, Egypt	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(5)	未定	2018年3月(予定)	

プロジェクト番号

S1311041

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
*280	<u>Adel AKARISH</u> , <u>Ahmed SHOEIB</u>	Mineralogical and Petrographic Characteristic of the Building Material Used in Barbar Temples, Bahrain Preliminary investigation	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(5)	未定	2018年3月(予定)	
281	Adel I.M.AKARISH,	サッカーラ地区の地質学的特徴	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	
282	<u>アーデル・アカリシュ</u> 、 <u>アフメド・シュエイブ</u>	イドゥートのマスタバ墓地下埋葬室の壁画—技法・材料および保存修復—	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	
283	<u>吹田浩</u> 、 <u>アーデル・アカリシュ</u> 、 <u>アフメド・シュエイブ</u>	イドゥート・マスタバ墓プロジェクトの評価	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	
284	<u>アーデル・アカリシュ</u> 、 <u>アフメド・シュエイブ</u> 、 <u>吹田浩</u>	バルバル神殿に使用された石材の鉱物学・岩石学的特徴	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	
285	<u>川崎英也</u> 、 <u>河原一樹</u> 、 <u>中沢隆</u> 、 <u>アフメド・シュエイブ</u> 、 <u>アーデル・アカリシュ</u> 、 <u>吹田浩</u> 、 <u>荒川隆一</u>	エジプト壁画中に含まれる有機化合物の質量分析	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	
286	<u>Maisa M.MANSOUR</u> , <u>Adel I.M.AKARISH</u> , <u>Hiroshi SUITA</u> and <u>Ahmed S.A.SHOEIB</u>	Utilization of TiO ₂ Nanoparticles to Protect Limestone Artifacts against Microorganisms Attack	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	111-122	2016年3月	
287	Khaled S.Abou-El-Sherbini, Nady.Fathy, Sayed A.Drweesh, Mohammad Wahba, Adli A.Hanna, <u>Adel I.M.Akarish</u> , Eman A.M.Elzahany, Iman Y.El-Sherif	Equilibrium, Kinetic and Thermodynamic Studies of Adsorption of Pb(II) from Aqueous Solutions on HCl-Treated Kaolin	Separation Science and Technology	1674-1684	2016年2月	
*288	<u>Adel I.M.Akarish</u> , <u>Ahmed S.A.Shoeib</u> and A.Nageh	Removal of the White Marine Deposits Disfiguring the Granitic Monumental Objects of Alexandria Lighthouse,Alexandria,Egypt	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	55-66	2014年3月	
*289	<u>五百崎太輔</u> 、 <u>山下和子</u> 、 <u>アフメド・シュエイブ</u> 、 <u>アーデル・アカリシュ</u> 、 <u>川崎英也</u> 、 <u>吹田浩</u> 、 <u>荒川隆二</u>	GC-MS及びATR-IR分析によるミイラの布の有機付着物分析	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	147-152	2014年3月	
*290	Hassan, M.M, El-Gohary, A.M and <u>Adel I.M.Akarish</u>	Preliminary Record of Proterozoic Paleo-placer Gold in Gebel Ghazalani Area: Chemo-stratigraphic Evidence Closing Debate about Sedimentation Sequence, East Sinai, Egypt.	Egyptian Journal of Geology (57)	355-363	2013年12月	

サラハ・エル・ホーリ

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
291	Salah el-Kholy	サッカーラ遺跡とイドゥートのマスタバ墓	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	

プロジェクト番号

S1311041

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
292	Salah el-Kholy	Ostraka Gardiner 32	Göttingr Miscellen (GM)	—	will be published in a coming vol. At the beginning of 2015	
293	Salah el-Kholy	An Inscribed Stone Weight from the Collection of the Egyptian Museum in Cairo	will be published in the Journal of the Faculty of Archaeology	—	The Journal Volume of 2015	
*294	Salah el-Kholy	An Ancient Egyptian Piece of Weight in the Cairo Museum	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	1-4	2015年3月	
295	Salah el-Kholy	Die Sammlungen in den Museen der Universität Kairo aus Tuna el Gebel	Book of the conference: Die ferne Welt in Munich Januar 2013	—	will be published in the conference Book at the end of 2014	

マイサ・マンズール

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
*296	<u>Maisa MANSOUR,</u> <u>Adel AKARISH,</u> <u>Rushdya HASSAN and</u> <u>Ahmed SHOEIB,</u>	Analytical Study of Deteriorated Pharaonic Textile from Mummified Burials – Saqqara	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(5)	未定	2018年3月(予定)	
297	Maisa M.A. Mansour	パーレーン王国・バルバル神殿における生物劣化とその対策の提案	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	
298	Ramadan A. Nasser, <u>Maisa M. A. Mansour,</u> Mohamed Z. M. Salem, Hayssam M. Aliand Ibrahim M. Aref	Mold Invasion on the Surface of Wood/Polypropylene Composites Produced from Aqueous Pretreated Wood Particles, Part 1: Date Palm Midrib	bioresources.com vol 12.NO 2	4078-4092	2017年5月	
*299	Maisa M.A. Mansour	Effects of the Halophilic fungi Cladosporium sphaerospermum, Wallemia sebi, Aureobasidium pullulans and Aspergillus nidulans on halite formed on sandstone surface	International Biodeterioration & Biodegradation(Vol117)	289-298	2017年2月	
300	<u>Maisa M. A. Mansour,</u> Ramadan A. Nasser, Mohamed Zidan Mohamed Salem, Hayssam M. Ali, Ashraf Hatamleh	Study of Mold Invasion on the Surface of Wood/Polypropylene Composites Produced from Aqueous Pretreated Wood Particles, Part 2: Juniperus procera Wood-Branch	bioresources.com (Vol12, No 2)	4187-4201	2017	
*301	<u>Maisa M.A. Mansour,</u> Nagwa S. Abdel-Rahim and Mohamed Z.M.Salem	Study of the Biodeterioration of some Stained Glasses by the Fungus Stemphylium botryosum	Current Science International(Vol5, Issue2)	119-129	2016年4月	
*302	Wafika NOSHYUTTA, Eman OSMAN, <u>Maisa MANSOUR</u>	AN INVESTIGATION OF THE BIOLOGICAL FUNGICIDAL ACTIVITY OF SOME ESSENTIAL OILS USED AS PRESERVATIVES FOR A 19TH CENTURY EGYPTIAN COPTIC CELLULOSIC MANUSCRIPT	INTERNATIONAL JOURNAL OF CONSERVATION SCIENCE (Vol7, Issue1)	41-56	2016年3月	
*303	Mohamed Z.M. Salema, Yassin E. Zidanb, Nesrin M.N. El Hadidib, <u>Maisa M.A. Mansour,</u> Wael A.A. Abo Elgatc	Evaluation of usage three natural extracts applied to three commercial wood species against five common molds	International Biodeterioration & Biodegradation(Vol110)	206–226	2016年5月	

プロジェクト番号

S1311041

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
304	<u>Maisa M.MANSOUR</u> , <u>Adel I.M.AKARISH</u> , <u>Hiroshi SUITA</u> and <u>Ahmed S.A.SHOEIB</u>	Utilization of TiO2 Nanoparticles to Protect Limestone Artifacts against Microorganisms Attack	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	111-122	2016年3月	
305	Maisa M. Mansour	Study of Cellulosic Fiber Degradation by Four Common Fungi: Chromatic Alterations and SEM Examination	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	99-110	2016年3月	
*306	Mohamed Z.M.Salem , Yassin E.Zidan, <u>Maisa M.A.Mansour</u> , Nesrin M.N.El Hadidi, Wael A.A.Abo Elgat	Antifungal activities of two essential oils used in the treatment of three commercial woods deteriorated by five common mold fungi	International Biodeterioration & Biodegradation 106	88-96	2016年	
*307	Abdou A.O.D.El-Derby, <u>Maisa M.A.Mansour</u> and Mohamed Z.M.Salem	Investigation the Microbial Deterioration of Sandstone from the Osirion's Sarcophagus Chamber as Affected by Rising Ground Water Level	Mediterranean Archaeology and ArchaeometryVol.16	273-281	2016年	
308	<u>Maisa M. A.Mansour</u> Mohamed Z.M. Salem Mohamed H. Khamis and Hayssam M. Ali	Evaluation of Wood Treated with Some Natural Extracts and Paraloid B-72 against the Fungus Trichoderma Harzianum: Wood Elemental Composition, In-vitro and Application Evidence	International Biodeterioration & Biodegradation	62-69	2015年	※
309	<u>Maisa M.A.Mansour</u> , Mohamed Z.M.Salem	Natural Durability of Citharexylum Spinosum and Morus Alba Woods against Three Mold Fungi	bioresources.com(10-3)	5330-5344	2015年	※
310	<u>Maisa M.A.Mansour</u> , Ahmed Abdel-Megeed, Ramadan A.Nasser, Mohamed Zidan Mohamed Salem	Comparative Evaluation of Some Woody Tree Methanolic Extracts and Paraloid B-72 against Phytopathogenic Mold Fungi Alternaria Tenuissima and Fusarium Culmorum	bioresources.com(10-2)	2570-2584	2015年	※
311	Mohamed Z.M.Salem,a Hayssam M.Ali,b and <u>Maisa Mansour</u>	Fatty Acid Methyl Esters from Air-Dried Wood, Bark, and 2 Leaves of Brachychiton Diversifolius R. Br: 3 Antibacterial, Antifungal, and Antioxidant Activities	Bioresources (9-3)	3835- 3845	2014年7月	※
*312	Maisa M. Mansour	Proactive Investigation Using Bioagents and Fungicide for Preservation of Egyptian Stone Sarcophagus	Journal of Applied Sciences Research,	1917-1930	2013年7月	
*313	Zidan, Yassin, El Hadidi, Nesrin, <u>Mansour, Maisa</u> , Abo Elgat, Wael	Treatment and Restoration of Antique Sword from Ottoman Period (13th AH /19th AD century) at the National Military Museum - Saladin Citadel in Egypt	6 International Congress th"Science and Technology for the Safeguard of Cultural Heritage in the Mediterranean Basin"	the volume is not print	2013年7月	
*314	Sawsan.S.DARWISH, Nesrin M.N.EL HADIDI, <u>Maisa Mansour</u>	The Effect of Fungal Decay on Ficus Sycomorus Wood	International Journal of Conservation Science	271-282	2013年7月	

ラファオ・ロマン・クーン

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
*315	Rafal R.KUHN	Wall Paintings in Poland and Their Conservation Problems	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(4)	101-105	2017年3月	

プロジェクト番号

S1311041

沢田 正昭

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
316	西浦忠輝、伊藤淳志、西形達明、藤田晴啓、小野勇、森井順之、沢田正昭、フェルナンド・アステテ、ピエダット・チャンピ	ペルー共和国・マチュピチュ遺跡の石造遺構の保存に関する調査研究 —「太陽の神殿」の劣化と保存修復に関する調査と現地実験—	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	
317	西浦忠輝、沢田正昭	文化遺産における国際協カプロジェクト	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	
318	河崎衣美、原光二郎、松井敏也、沢田正昭、井上才八、海老沢孝雄	アンコール遺跡バイヨン寺院浮き彫りの保存材料に関する研究(5)—太陽熱を利用した地衣類のクリーニング—	日本文化剤科学界大34回大会 研究発表要旨集	20-21	2017年6月	
319	石崎武志、沢田正昭	積雪寒冷地の遺跡内の融雪水の浸透に関する観測と解析	日本文化財科学会 34回大会発表要旨集	28-29	2017年6月	
*320	沢田 正昭	世界の遺跡の保存と活用	『狭山池を未来に伝える』 記録集、国史跡指定記念 狭山池シンポジウム2015	47-63	2017年3月	
321	沢田 正昭	東アジアの中の韓日技術交流	Proceedings of the 44th International Conference of the Korean Society of Conservation Science for Cultural Heritage	83-85	2016年	
322	石崎武志、沢田正昭	寒冷地の史跡における土壁の劣化に関する研究	Proceedings of the 44th International Conference of the Korean Society of Conservation Science for Cultural Heritage	41-44	2016年	
*323	西浦忠輝、岡田保良、柴田英明、小野勇、沢田正昭、伊藤淳志、西形達明、藤田晴啓、森井順之、フェルナンド・アステテ、チャンピ・モンテローソ、カルロス・カノー	Conservation of the Machu-picchu Archaeological Site: Investigation and Experimental Reatoration Works of the "Temple of the Sun"	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	67-79	2014年3月	
*324	沢田 正昭	保存科学からみた遺跡の保存・活用	遺跡学研究(10)	150-157	2013年9月	

高島 浩介

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
325	高島浩介、高橋淳子、高島美奈子、久米田裕子、土戸哲明	文化財環境および器物にかかわるカビの様相	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	
326	土戸哲明、坂元仁、古田雅一、高島浩介	文化財のカビ汚染防止策としてのアルコールと放射線利用のためのモデル実験研究	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	

プロジェクト番号

S1311041

著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
327 高島浩介、高島美奈子、 富坂恭子、村松芳多子 大田利子、高橋淳子	食品施設におけるカビ対策の基礎知識	月間HACCP24巻2号	48-53	2018年2月	
328 高島浩介、高島美奈子、 太田利子、村松芳多子、 高橋淳子、浅賀良雄、	化粧品防腐技術者のための講座 化粧品とカビ・酵母	防菌防黴誌45巻12号	601-610	2017年12月	
*329 原田真美、坂元仁、 古田雅一、高島浩介、 土戸哲明	液体培地と固体培地表面におけるカビ胞子の発育に対する電離放射線の抑制効果の評価	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(4)	85-99	2017年3月	
*330 高橋淳子、太田利子、 久米田裕子、高島美奈子、 土戸哲明、高島浩介	真菌とバイオフィルム —文化財器物のバイオフィルム—	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(4)	61-73	2017年3月	
331 高島浩介、高島美奈子、 大田利子、高橋淳子	食品施設においてカビ検査を実施する際の注意点	月間HACCP23巻2号	20-25	2017年2月	
*332 高橋淳子、村松芳多子、 太田利子、土戸哲明、 高島浩介	器物におけるカビの発育に関する研究	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	83-98	2016年3月	
*333 原田真美、坂元仁、 古田雅一、高島浩介、 土戸哲明	文化財汚染にみられる好乾性および耐乾性カビ胞子に対するガンマ線照射の発育抑制効果の解析	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	73-81	2016年3月	
334 高島 浩介分担	コラム「カビ」	Newton	84-87	2016年1月	
335 谷口正実、福富友馬、 斉藤美美、高島浩介	環境真菌と気道アレルギー —喘息、アレルギー性気管支肺真菌症—	空気清浄 53巻 第4号	4-11	2015年11月	
336 高島 浩介	数値の読み方 —工学と生物学からみた数値—	空気清浄 第53巻 第2号 コンタミネーションコントロール	59-60	2015年7月	
337 高島浩介、吉川翠	梅雨のじめじめ対策カビ・ダニを撃退してクリーン&健康に	へるすあっぷ21 No368	44-51	2015年6月	
338 高島浩介、柳田連太郎、 久米田裕子、高橋淳子、 早川典子、加藤雅人、 佐藤嘉則、木川りか	紙本絹本の温湿度差によるカビ発生	保存科学(54)	133-144	2015年4月	※
*339 村松芳多子、太田利子、 高橋淳子、久米田裕子、 土戸哲明、高島浩介	文化財環境真菌細胞のタンパク質含量	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	193-199	2015年3月	

プロジェクト番号

S1311041

著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
*340 廣池晋治、原田真美、 坂元仁、古田雅一、 高島浩介、土戸哲明	寒天ゲル相系でのアルコール異性体の抗カビ活性とその 阻害作用における疎水性相互作用の役割	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	201-214	2015年3月	
341 高島 浩介	環境真菌と生態	日本医真菌学会(55-3)	97-106	2014年9月	※
*342 廣池晋治、坂元仁、 アブド・シュエイブ、 吹田真里子、吹田浩、 高島浩介、土戸哲明	気相系シャーレおよび彩色石片上でのn-アルコールの抗カ ビ活性	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	135-145	2014年3月	
*343 高島浩介、村松芳多子、 太田利子、久米田裕子、 高橋淳子、土戸哲明	文化財施設環境中の空中浮遊微粒子と浮遊カビの相関性	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	177-184	2014年3月	
344 高島浩介、高橋淳子、 太田利子	真菌に対する保存料の有効性評価	FOODS & FOOD INGREDIENTS JOURNAL OF JAPAN,(218-2)	149-157	2013年6月	※
345 高島浩介、太田利子、 高橋淳子、村松芳多子	環境中の真菌分布と生活	日本職業・環境アレルギー学会誌 (20-2)	21-29	2013年6月	※

中村 吉伸

著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
346 中村吉伸、鶴田浩章、 伊藤淳志、吹田浩、 堤亮太、岡田駿、 中村充、藤井秀司	エジプト、バーレーンの文化遺産の保存に用いる接着剤の 凝固強度	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	
347 鶴田浩章、中村吉伸、 伊藤淳志	バルバル神殿における岩盤等の補強対策と品質評価	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	
348 鶴田浩章、中村吉伸、 伊藤淳志、肥後尚、 吹田浩	イドゥートのマスタバ墓における岩盤等の補強対策と品質 評価	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)	
349 堤亮太、瀧田健太、 山下大輝、藤井秀司、 鶴田浩章、伊藤淳志、 吹田浩、中村吉伸	石造文化財修復用アルコキシシランの凝結力の比較	日本接着学会誌(54-3)	未定	2018年3月(予定)	※
350 藤井秀司*、中村吉伸、 秋元信一	アブラムシの蜜輸送技術に倣った粉体粘着剤の創出	表面技術 (68-3)	3-8	2017年3月	※
351 S. Fujii, Y. Yokoyama, S. Nakayama, M. Ito, S. Yusa, Y. Nakamura	Gas bubbles stabilized by Janus particles with varying hydrophilic-hydrophobic surface characteristics	Langmuir	DOI:10.1021/acs. langmuir.7b02670	2017年	※

プロジェクト番号

S1311041

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
352	T. Sekido, M. Kappl, H.-J. Butt, S. Yusa, Y. Nakamura, S. Fujii	Effects of pH on structure and mechanical properties of dried pH-responsive latex particles	Soft Matter (13)	7562-7570	2017年	※
353	A. Bouleghlimat, M. A. Othman, S. Matsuzawa, Y. Nakamura, S. Fujii, N. J. Buurma	The effect of halides on the palladium nanoparticle catalyzed oxidative homocoupling reaction of aryl boronic acids in aqueous solutions; enhanced catalytic activity at the expense of catalyst recovery	Catalysts (7-9)	280	2017年	※
354	H. Kawashima, M. Paven, H. Mayama*, H.-J. Butt, Y. Nakamura, S. Fujii	Transfer of materials from water to solid surfaces by using liquid marbles	ACS Applied Materials & Interfaces (9-38)	33351-33359	2017年	※
355	野田昌代、岡田駿、 藤井秀司、中村吉伸、 浦濱圭彬	アクリル系粘着剤の力学特性におよぼす架橋度と試験速度の影響	日本接着学会誌(53-8)	236-275	2017年8月	※
356	Kohei Kido, Takashi Sumoto, Yoshihide Yasui, Yoshinobu Nakamura, Syuji Fujii	Droplet size and morphology analyses of dry liquid	Advanced Powder Technology (28)	1977-1981	2017年6月	※
357	中村吉伸、松本卓也、 宮崎謙一、堤亮太、 野田昌代、高倉和希、 藤井秀司、藤原和子、 日笠茂樹、佐々木真利子	非相溶ポリマーブレンドのモデル系のパルスNMRによる界面層厚さの解析	日本接着学会誌(53-6)	202-209	2017年6月	※
358	Syuji Fujii and Yoshinobu Nakamura	Stimuli-Responsive Bubbles and Foams Stabilized with Solid Particles	Langmuir	A-O	2017年5月	※
359	Y. Nakamura, T. Matsumoto, K. Miyazaki, M. Noda, K. Takakura, R. Tsutsumi, S. Fujii, K. Fujiwara, S. Hikasa	Effect of the Degree of Crosslinking on the Interfacial Layer Structure of Poly(vinyl Chloride) Dispersed with Crosslinked Poly(n-butyl Methacrylate) Particles	Compos. Interfaces (24-8)	761-778	2017年5月	※
360	H. Kawashima, H. Mayama, Y. Nakamura, and S. Fujii	Hydrophobic polypyrroles synthesized by aqueous chemical oxidative polymerization and their use as light-responsive liquid marble stabilizers	Polymer Chemistry (8)	2609-2618	2017年4月	※
361	藤井秀司、武内誠治、 枝廣雅美、吉見聡、 小暮亮雅、垂井泰郎、 笠原萌恵、安居嘉秀、 中村吉伸	粉体状粘着剤の開発: 合成および構造・物性評価	粉体および粉末冶金 (64-3)	121-125	2017年3月	※
*362	中村吉伸、鶴田浩章、 堤亮太、瀧田健太、 高倉和希、野田昌代、 藤井秀司	石材強化用アルコキシシランの構造分析	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(4)	49-59	2017年3月	※
*363	鶴田浩章、中村吉伸、 伊藤淳志、肥後時尚、 吹田浩	エジプト国イドゥート及びバーレーン国バルバル神殿における岩盤等の補強対策と品質評価	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(4)	29-38	2017年3月	※
364	S. Fujii, E. Mouri, K. Akiyama, S. Nakayama, K. Uda, Y. Nakamura, H. Matsuoka	pH-Sensitive adsorption behavior of polymer particles at the air-water interface	Langmuir (33)	1451-1459	2017年2月	※

プロジェクト番号

S1311041

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
365	T.Sekido, S.Wooh, R.Fuchs, M.Kappl, <u>Y.Nakamura</u> , H.-J.Butt, S.Fujii	Controlling the structure of supraballs by pH-responsive particle assembly	Langmuir (33)	1995-2002	2017年2月	※
366	K.Nakai, K.Ishihara, M.Kappl, S.Fujii, <u>Y.Nakamura</u> , S.Yusa	Polyion complex vesicles with solvated phosphobetaine shells formed from oppositely charged diblock copolymers	Polymers (9)	49	2017年2月	※
367	S.Nakayama, S.Hamasaki, K.Ueno, M.Mochizuki, S.Yusa, <u>Y.Nakamura</u> and S.Fujii	Foams stabilized with solid particles carrying stimuli-responsive polymer hairs	Soft Matter	4794-4804	2016年12月	※
368	S.Fujii, S.Yusa, and <u>Y.Nakamura</u>	Stimuli-Responsive Liquid Marbles: Controlling Structure, Shape, Stability, and Motion	Adv. Funct. Mater (26)	7206-7223	2016年10月	※
369	中村吉伸、野田昌代、 高倉和希、藤井秀司、 浦濱圭彬	粘着剤におけるパルスNMRによる構造解析	日本接着学会誌(52-8)	236-243	2016年8月	※
370	Nobuaki Nishizawa, Syuji Fujii, Takahiro Kakuta, Kazuo Tanaka, Shin-ichi Yusa, Yoshiki Chujo and <u>Yoshinobu Nakamura</u>	Polystyrene-Polyhedral Oligomeric Silsesquioxane CoreShell Element-block Polymer Particles Fabricated via Heterocoagulation Method	Chem. Lett (45-10)	1168-1170	2016年9月	※
371	Eriko Sato, Michihiro Yuri, Syuji Fujii, Takashi Nishiyama, <u>Yoshinobu Nakamura</u> and Hideo Horibe	Liquid marble containing degradable polyperoxides for adhesion force-changeable pressure-sensitive adhesives	RSC Advances (6)	56475-56481	2016年4月	※
*372	中村吉伸、嘉流望、 野田昌代、豊川翔、 藤井秀司	高分子/無機ハイブリッド接着剤による遺跡の脆弱な壁の補強の検討	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	129-136	2016年3月	
373	N.Karyu, M.Noda, S.Fujii, <u>Y.Nakamura</u> and Y.Urahama	Effect of adhesive thickness on the wettability and deformability of polyacrylic pressure-sensitive adhesives during probe tack test	Journal of Applied Polymer Science	Online発行のみ	2016年3月	※
374	嘉流望、野田昌代、 藤井秀司、中村吉伸、 浦濱圭彬	プローブタック試験時の濡れ挙動におよぼす粘着剤の分子構造の影響	日本接着学会誌 (52-3)	59-69	2016年3月	※
375	中村吉伸、嘉流望、 野田昌代、藤井秀司	シランカップリング剤処理における加水分解および縮合反応のコントロール	日本接着学会誌 (52-1)	9-15	2016年1月	※
376	藤井秀司、中村吉伸	虫の蜜をヒントにべたつかない粘着剤を開発！	化学71巻1号,72 (2016)	72	2016年1月	
377	R.Yamazaki, N.Karyu, M.Noda, S.Fujii and <u>Y.Nakamura</u>	Quantitative Measurement of Physisorbed Silane on Silica Particle Surface Treated with Silane Coupling Agents by Thermogravimetric Analysis	Journal of Applied Polymer Science(133-14)	3361-3369	2016年1月	※

プロジェクト番号

S1311041

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
378	K.Fukuoka, A.Tomikawa, <u>Y.Nakamura</u> , S.Fujii	Aqueous foams stabilized with several tens of micrometer-sized polymer particles: Effects of surface hydrophilic-hydrophobic balance on foamability and foam stability	Chem. Lett.	Online発行のみ	2016年	※
379	S.Ohno, Y.Tsuda, K.Nakai, S.Fujii, <u>Y.Nakamura</u> , S.Yusa	pH-Responsive Liquid Marbles Prepared by Fluorinated Fatty Acid	Chem. Lett.	Online発行のみ	2016年	※
380	N.Nishizawa, A.Kawamura, M.Kohri, <u>Y.Nakamura</u> , S.Fujii	Polydopamine particle as a particulate emulsifier	Polymers 8巻	62	2016年	※
381	M.Paven, H.Mayama, T.Sekido, H.-J.Butt, <u>Y.Nakamura</u> , S.Fujii	Light-driven delivery and release of materials using liquid marbles	Adv. Funct. Mater.	3372	2016年	※
382	S. Fujii, S. Sawada, S.Nakayama, M.Kappl, K.Ueno, K.Shitajima, H.-J. Butt, <u>Y.Nakamura</u>	Pressure-Sensitive Adhesive Powder	Materials Horizons 3巻	47-52	2016年	※
383	H.Takeoka, S.Wada, S.Yusa, S.Sakurai, <u>Y.Nakamura</u> , S.Fujii	Thermo-Responsive Polypyrrole-Palladium Nanocomposite Particles Synthesized by Aqueous Chemical Oxidative Dispersion Polymerization	Journal of The Adhesion Society of Japan (Special Issue, WCARP-V) 51巻S1号	255-263	2015年10月	※
384	K.Shitajima, N.Karyu, S.Fujii, <u>Y.Nakamura</u> and Y.Urahama	Effect of Adhesive Thickness on The Stringiness of Crosslinked Polyacrylic Pressure-Sensitive Adhesives	Journal of Applied Polymer Science,(132-27)	8615-8624	2015年7月	※
385	<u>Y.Nakamura</u> , R.Yamazaki, K.Shitajima, N.Karyu and S.Fujii	Aspects of Interfacial Structure of Silane Coupling Agents in Particulate-Filled Polymer Composites and the Reinforcement Effect	Reviews of Adhesion and Adhesives, (3-2)	188-215	2015年6月	※
386	N.Karyu, K.Shitajima, S.Fujii, <u>Y.Nakamura</u> , Y.Urahama,	Contact Time Dependence of Tack for Crosslinked Polyacrylic Pressure-sensitive Adhesives with Two Different Molecular Structures	International Journal of Adhesion and Adhesives,	75-82	2015年5月	※
387	K.Shitajima, N.Karyu, K.Takada, S.Fujii, <u>Y.Nakamura</u> and Y.Urahama	Temperature Dependence of Tack for a Polyacrylic Block Copolymer/Tackifier Blend	Polymers & Polymer Composites(23-3)	121-128	2015年4月	※
*388	中村吉伸、下嶋康平、 嘉流望、福田知由、 藤井秀司	シラン化合物の混合方法が複合系の特性におよぼす影響	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	185-192	2015年3月	※
389	中村吉伸、山崎諒太、 下嶋康平、嘉流望、 藤井秀司	シランカップリング剤処理層中の物理吸着分子の熱重量分析による定量	日本接着学会誌(51-2)	42-48	2015年2月	※
390	<u>Y. Nakamura</u> , K. Yamamura, N. Karyu, K. Shitajima, S. Fujii and Y. Urahama	Influences of Debonding Rate and Temperature on Tack Properties and Peel Behavior of Polyacrylic Block Copolymer/Tackifier System	Journal of Adhesion Science and Technology(29-9)	821-838	2015年2月	※

プロジェクト番号

S1311041

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
391	K. Shitajima, N. Karyu, S. Fujii, <u>Y. Nakamura</u> and Y. Urahama	Sawtooth-Shaped Stringiness with Front Frame Formation for Polyacrylic Pressure-Sensitive Adhesives with Two Different Molecular Structures	Journal of Adhesion Science and Technology(29-7)	609-623	2015年1月	※
392	E. Sato, M. Yuri, S. Fujii, T. Nishiyama, <u>Y. Nakamura</u> , H. Horibe	Liquid marbles as a micro-reactor for efficient radical alternating copolymerization of diene monomer and oxygen	Chem. Commun. 51巻	17241-17244	2015年	※
393	S. Nakayama, S. Yusa, <u>Y. Nakamura</u> , S. Fujii	Aqueous Foams Stabilized by Temperature-Sensitive Hairy Polymer Particles	Soft Matter 11巻	9099-9106	2015年	※
394	K. Ueno, G. Bournival, E. J. Wanless, S. Nakayama, E. C. Giakoumatos, <u>Y. Nakamura</u> , S. Fujii	Liquid Marble and Water Droplet Interactions and Stability	Soft Matter 11巻	7728-7738	2015年	※
395	S. Fujii, K. Kobayashi, <u>Y. Nakamura</u> , T. Okubo	Drying structures of micron-sized cationic gel spheres of lightly cross-linked poly(2-vinyl pyridine) in the deionized aqueous suspension	Colloid Polym. Sci. 293巻	1855-1864	2015年	※
396	K. Nakai, S. Fujii, <u>Y. Nakamura</u> , S. Yusa	Thermo-responsive Liquid Marbles Prepared with Low Melting Point Powder	Chem. Lett. 44巻	1077-1079	2015年	※
397	H. Imoto, Y. Nakao, N. Nishizawa, S. Fujii, <u>Y. Nakamura</u> , K. Naka	Tripodal Polyhedral Oligomeric Silsesquioxanes as Novel Class of Three-Dimensional Emulsifiers	Polym. J. 47巻, DOI:10.1038/pj.2015.38	609-615	2015年	※
398	山中真也、藤本敏行、空閑良壽、藤井秀司、中村吉伸	ホタテ貝殻ナノ粒子を乳化剤に用いたエマルションの応用展開	機能材料(7)	17-22	2014年7月	
399	S. Fujii, Y. Yamashita, <u>Y. Nakamura</u> , A. Tsuchida, T. Okubo	Cationic Gel Crystals and Amorphous-solids of Lightly Cross-linked Poly (2-vinylpyridine) Spheres in the Deionized Aqueous Suspension	Colloid and Polymer Science(292-7)	1627-1637	2014年7月	※
400	<u>Y. Nakamura</u> , R. Yamazaki, T. Fukuda, K. Shitajima, S. Fujii and M. Sasaki	Structure of Silane Layer Formed on Silica Particle Surfaces by Treatment with Silane Coupling Agents Having Various Functional Groups	J. Adhesion Sci. Technol	1895-1906	2014年6月	※
401	K. Ito, K. Shitajima, N. Karyu, S. Fujii, <u>Y. Nakamura</u> and Y. Urahama	Influence of the Degree of Crosslinking on the Stringiness of Crosslinked Polyacrylic Pressure-Sensitive Adhesives	J. Appl. Polym. Sci. (131-11)	5550-5560	2014年6月	※
402	S. Fujii, Y. Eguchi, <u>Y. Nakamura</u>	Pickering Emulsion Engineering: Fabrication of Materials with Multiple Cavities	RSC Advances(4-61)	32534-32537	2014年6月	※
403	K. Ito, K. Shitajima, N. Karyu, S. Fujii, <u>Y. Nakamura</u> and Y. Urahama	Influence of Interfacial Adhesion on The Stringiness of Crosslinked Polyacrylic Pressure-Sensitive Adhesives	Journal of Applied Polymer Science(131-19)	10160-10168	2014年5月	※

プロジェクト番号

S1311041

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
*404	中村吉伸、山崎諒太、 下嶋康平、藤井秀司	シリカ、アルミナ、炭酸カルシウムへのシランカップリング剤の 反応性	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	167-176	2014年3月	
405	K.Yamamura, K.Shitajima,S.Fujii, Y.Nakamura, Y.Hamada,S.Hagiwara, H.Kishi,Y.Urahama, M.Sasaki	Temperature Dependence of Tack and Pulse NMR Analysis of Polystyrene Block Copolymer/Tackifier System	J. Adhesion Sci. Technol (27-24)	2727-2740	2013年12月	※
406	T.Okubo,S.Fujii, Y.Nakamura	Drying Dissipative Structures of Cationic Gel Spheres of Lightly Cross-linked Poly (2-vinyl Pyridine) (170 ~ 180 nm in Diameter) in the Deionized Aqueous Suspension	Colloid and Polymer Science (291-12)	2805-2813	2013年12月	※
407	T.Okubo,S.Fujii,K.Aono, Y.Nakamura	Cationic Gel Crystals of Lightly Cross-linked Poly(2- vinylpyridine) Spheres (170~180 nm in Diameter) in the Deionized Aqueous Suspension	Colloid and Polymer Science (291-12,11)	2569-2577	2013年11月	※
408	T.Fukuda,S.Fujii, Y.Nakamura,M.Sasaki	Mechanical Properties of Silica Particle-Filled Styrene- Butadiene Rubber Composites Containing Polysulfide- Type Silane Coupling Agents: Influence of Loading Method of Silane	J. Appl. Polym. Sci(130-1)	322-329	2013年10月	※
409	S.Yusa,M.Morihara, K.Nakai,S.Fujii, Y.Nakamura, A.Maruyama,N.Shimada	Thermo-responsive Liquid Marbles	Polymer Journal(46)	145-148	2013年10月	※
410	T.Fukuda,S.Fujii, Y.Nakamura,M.Sasaki	Tensile Properties of Styrene-Butadiene Rubber/Silica Composites with Mercapto Functional Silane Coupling Agents: Influences of Loading Method and Alkoxy Group Number	Composite Interfaces(20-8)	635-646	2013年9月	※
411	Y.Nakamura, K.Imamura, K.Yamamura,S.Fujii and Y.Urahama	Influence of Crosslinking and Peeling Rate on Tack Properties of Polyacrylic Pressure-Sensitive Adhesives	J. Adhesion Sci. Technol (27-17)	1951-1965	2013年8月	※
412	H.Shinto,T.Hirata, T.Fukasawa,S.Fujii, H.Maeda,M.Okada, Y.Nakamura, T.Furuzono	Effect of Interfacial Serum Proteins on Melanoma Cell Adhesion to Biodegradable Poly(L-lactic Acid) Microspheres Coated with Hydroxyapatite	Colloids and Surfaces B: Biointerfaces(108)	8-15	2013年8月	※
413	Y.Nakamura,E.Kariya, T.Fukuda,S.Fujii, K.Fujiwara and S.Hikasa	Glass Transition Behavior of PMMA/PVA Incompatible Blend	Polym. Polym. Compos(21-6)	367-376	2013年6月	※
414	Y.Nakamura,Y.Nishida, T.Fukuda,S.Fujii and M.Sasaki	Mechanical Properties of Silane-treated Silica Particle- filled Polyisoprene Composites: Influence of Alkoxy Group Mixing Ratio in Silane Coupling Agent Containing Mercapto Group	J. Appl. Polym. Sci.128-4)	2548-2555	2013年5月	※
415	S.Fujii,Y.Yokoyama, Y.Miyanari,T.Shiono, M.Ito,S.Yusa, Y.Nakamura	Micrometer-sized Gold-silica Janus Particles as Particulate Emulsifiers	Langmuir(29-18)	5457-5465	2013年5月	※
416	K.Nakai,S.Fujii, Y.Nakamura,S.Yusa	Ultraviolet Light-responsive Liquid Marbles	Chem. Lett.(42-7,5)	586-588	2013年5月	※

プロジェクト番号

S1311041

<図書>

森 貴史

	著者名	書名	分担執筆(頁数)	出版社名	発行年月	総頁数
417	森 貴史	踊る裸体生活 —ドイツ健康身体論とナチスの文化史—	単著	勉誠出版	2017年10月	309
418	細川裕史編著 (分担執筆:森貴史)	ドイツで暮らそう	37-42、70-72、86-92	晃洋書房	2017年6月	153
419	溝井裕一、細川裕史 齊藤公輔 編著 (分担執筆:森貴史)	想起する帝国 —ナチス・ドイツの「記憶」の文化史—	月面に蟠踞するドイツ第 四帝国のリアリティ —反ナチス映画としての 『アイアン・スカイ』 —	勉誠出版	2017年1月	320
420	田野大輔、柳原伸洋編著 (分担執筆:森貴史)	教養のドイツ現代史	第13章、第14章	ミネルヴァ書房	2016年6月	360
421	浜本隆志編著 (柏木治、高田博行、 浜本隆三、細川裕史、 溝井裕一、森貴史著)	欧米社会の集団妄想とカルト症候群 —生成メカニズムの宗教・社会史的考察—	第4章、第11章	明石書店	2015年9月	400
422	森 貴史編	ドイツ王侯コレクションの文化史 —禁断の知とモノの世界—	(編著)	勉誠出版	2014年12月	368
423	森貴史、細川裕史、 溝井裕一	ドイツ奇人街道	(共著)	関西大学出版部	2014年7月	332

中澤 務

	著者名	書名	分担執筆(頁数)	出版社名	発行年月	総頁数
424	中澤 務	哲学を学ぶ	単著	晃洋書房	2017年3月	176
425	中澤 務	セネカ『人生の短さについて』	単著(訳)	光文社	2017年3月	310
426	中澤 務	プラトン『饗宴』	単著(訳)	光文社	2013年9月	295

プロジェクト番号 S1311041

浜本 隆志

	著者名	書名	分担執筆(頁数)	出版社名	発行年月	総頁数
427	浜本 隆志	関西大学と大正ロマンの世界	単著	関西大学出版部	2017年9月	247
*428	浜本 隆志	シンデレラの謎 —なぜ時代を超えて世界中に拡がったのか—	単著	河出書房新社	2017年6月	240
429	浜本 隆志	ナチスと隕石仏像 —SSチベット探検隊とアーリア神話—	単著	集英社新書	2017年7月	245
430	大野 寿子編著 (分担執筆:浜本隆志)	グリム童話と表象文化 —モチーフ・ジェンダー・ステレオタイプ—	「白雪姫」と近親相姦 (45-68)	勉誠出版	2017年7月	432
431	溝井裕一、細川裕史、 齊藤公輔 編 (分担執筆:浜本隆志)	想起する帝国 —ナチス・ドイツの「記憶」の文化史—	ナチス時代の祝祭 —ニュルンベルク党大会 を中心に—(115-146)	勉誠出版	2017年1月	320
432	浜本隆志編著 (柏木治、高田博行、 浜本隆三、細川裕史、 溝井裕一、森貴史著)	欧米社会の集団妄想とカルト症候群 —生成メカニズムの宗教・社会史的考察—	編著 序章、第1章、第2章、第3 章第6章、第7章、終章	明石書店	2015年9月	400
433	浜本 隆志	パレンティンダーの秘密 —愛の宗教文化史—	単著	平凡社	2015年1月	254
434	森 貴史編著 (分担執筆:浜本隆志)	ドイツ王侯コレクションの文化史 —禁断の知とモノの世界—	デッサウ —ヴェルリッツの奇想庭 園王国—	勉誠出版	2015年1月	41
435	浜本 隆志	海賊党の思想 —フリーダウンロードと液体民主主義—	単著	白水社	2013年7月	180

柏木 治

	著者名	書名	分担執筆(頁数)	出版社名	発行年月	総頁数
436	柏木 治 著	スタンダールのオイコノミア ~経済の思想、 ロマン主義、作家であること~	単著	関西大学出版部	2017年3月	340

プロジェクト番号 S1311041

著者名	書名	分担執筆(頁数)	出版社名	発行年月	総頁数
437 浜本隆志編著 (柏木治、高田博行、 浜本隆三、細川裕史、 溝井裕一、森貴史著)	欧米社会の集団妄想とカルト症候群 —生成メカニズムの宗教・社会史的考察—	第9章、第10章	明石書店	2015年9月	400

伊藤 淳志

著者名	書名	分担執筆(頁数)	出版社名	発行年月	総頁数
438 伊藤 淳志 他	基礎から学べる構造設計シリーズ/ 基礎構造編(基礎 I)	69-90	日本建築センター	2017年8月	148
439 伊藤 淳志 他	構造用教材(改訂第3版)	10-11 132-134	日本建築学会	2014年3月	219
440 富永晃司、伊藤淳志、他	建築学構造シリーズ 建築基礎構造	139-165	オーム社	2013年9月	228

土戸 哲明

著者名	書名	分担執筆(頁数)	出版社名	発行年月	総頁数
441 土戸 哲明	有害微生物の制御と管理—現場対応への実践的な取り組み	制御管理の考え方 (234-237) 物理的制御 [1]高温 [2]低温 (266-269)	テクノシステム	2016年11月	664
442 土戸 哲明	菌・カビを知る・防ぐ60の知恵 —プロ直伝! 防菌防カビの基礎知識—	単著	化学同人	2015年6月	148
443 五十君静信、江崎孝行、 高鳥浩介、土戸哲明監修	微生物の簡易迅速検査法	損傷菌 (183-187)	テクノシステム	2013年11月	792
444 高鳥浩介、久米田裕子編 (分担執筆:土戸哲明)	カビのはなし —マイクロな隣人のサイエンス—	かびを防ぐ (109-122)	朝倉書店	2013年9月	164

岡 絵理子

著者名	書名	分担執筆(頁数)	出版社名	発行年月	総頁数
445 江川直樹、鳴海邦碩、 岡絵理子他	ストック活用型団地再編への展望(前編) 関西大学団地再編プロジェクトの研究活動 (平成23~27年度)	関西大学出版部	共著	2016年2月	

プロジェクト番号 S1311041

	著者名	書名	分担執筆(頁数)	出版社名	発行年月	総頁数
446	江川直樹、鳴海邦碩、岡絵理子他	ストック活用型団地再編への展望(後編)団地再編専門家養成セミナーテキスト	関西大学出版部	共著	2016年2月	

西浦 忠輝

	著者名	書名	分担執筆(頁数)	出版社名	発行年月	総頁数
447	西浦 忠輝	「永遠に生きる」 吉村作治先生古稀記念論文集	401-409	中央公論美術出版	2013年1月	637

高鳥 浩介

	著者名	書名	分担執筆(頁数)	出版社名	発行年月	総頁数
448	高鳥 浩介監修	カラー図解 カビ苦情・被害管理マニュアル第5巻	解説4ページ	NPO法人カビ相談センター	2016年12月	86
449	高鳥浩介、久米田裕子、土戸哲明、古畑勝則監修	有害微生物の制御と管理一現場対応への実践的な取り組み	第1編 2.有害微生物の生態4ページおよび全体	テクノシステム	2016年11月	629
450	安部恵子、川上祐司、須山裕之、柳宇編著 安部恵子、石松維世、榎村浩一、小田尚幸、須山裕之、高鳥浩介、谷口正実、柳宇編著	空中環境における微生物対策	第6章微生物汚染の実体と調査 6.1住宅6ページ	技報堂出版	2016年3月	16
451	高鳥浩介、諸角聖監修	カビからまもる その知識と対策	1章 カビとは 2章 カビが生えるためには 3章 カビの代謝物 4章 カビの生態 50ページ	食品衛生協会	2015年12月	119
452	高鳥 浩介監修	カラー図解 カビ苦情・被害管理マニュアル第4巻	解説4ページ	NPO法人カビ相談センター	2014年12月	86
*453	高鳥浩介、久米田裕子監修	文化財の生物劣化と対策 カビ	第3章文化財に対するカビ被害とその予防	文化財虫菌害研究所	2014年5月	80
454	桑原祥浩・上田成子編著 高鳥浩介著	食品・環境の衛生検査	第1章 衛生微生物学実習1.4真菌検査法 5ページ	朝倉書店	2014年4月	122
455	高鳥 浩介	文化財保存修復セミナー	文化財保存支援機構	文化財保存支援機構	2014年3月	63

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

	著者名	書名	分担執筆(頁数)	出版社名	発行年月	総頁数
456	五十君静信、江崎孝行、高島浩介、土戸哲明監修	微生物の簡易迅速検査法	第4章第5節生活環境微生物3ページ、第9章第2節住環境中の空中浮遊微粒子と主要浮遊カビ3ページ、第10章第11項第2節環境真菌と気道アレルギー13ページ	テクノシステム	2013年11月	792
457	高島浩介、久米田裕子監修	カビのはなし —マイクロな隣人のサイエンス—	第1章生活環境にみるカビ7ページ、第4章住のカビ13ページ、第7章カビを防ぐ5ページ、第9章カビとの共生7ページ、コラム13ページ	朝倉書店	2013年9月	153
458	高島 浩介監修	カラー図解 カビ苦情・被害管理マニュアル第3巻	解説4ページ	NPO法人カビ相談センター	2013年8月	86

中村 吉伸

	著者名	書名	分担執筆(頁数)	出版社名	発行年月	総頁数
459	藤井秀司、中村吉伸	高分子微粒子ハンドブック(藤本 啓二 監修)	第3編5章3節 “高機能化リキッドマープル” (186-192)	シーエムシー出版	2017年7月	316
460	藤井秀司、中村吉伸	1. 新材料・新素材シリーズ 元素ブロック高分子 —有機-無機ハイブリッド材料の新概念— (中條 善樹 監修)	第2章5節 “有機無機同時析出重合法によるハイブリッド材料の創出”	シーエムシー出版	2016年1月	270
461	中村 吉伸	粘着剤、接着剤の最適設計と適用技術	第2章 粘着剤(テープ)の配合・設計と評価 第3節 粘着剤の粘弾性と粘着性発現メカニズム(90-96)	(株)技術情報協会	2014年6月	804
462	中村 吉伸	先端エレクトロニクス分野における封止・シーリングの材料設計とプロセス技術	第7章 デバイスとしての封止技術とトラブル対策 第1節 半導体 [1]半導体封止材料における界面のコントロール(497-503)	(株)技術情報協会	2013年8月	748
463	S. Fujii, Y. Nakamura	"Surface Coating of Soft Materials with Conducting Polymer-metal Nanocomposite" in "Applied Surface Chemistry of Nanomaterials"(Editors, J. Pinson & M. M. Chehimi)	Chapter 11(303-318)	Nova Science Publishers, Inc.	2013年6月	361

プロジェクト番号

S1311041

＜学会発表＞

吹田 浩

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
464	鶴田浩章、吹田浩	海外の文化財の岩石ブロックの非破壊検査による品質評価	第22回関西大学先端科学技術シンポジウム	関西大学 100周年記念会館	2018年1月
*465	吹田浩、伊藤淳志、末森薫	関西大学国際文化財・文化研究センターの活動	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告会	関西大学 梅田キャンパス	2017年12月
*466	吹田浩、肥後時尚	バーレーン王国、バルバル神殿の現状調査	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告会	関西大学 梅田キャンパス	2017年12月
*467	Hitroshi SUITA, Atsushi ITO, Kaoru SUEMORI	Ten Years of Kansai University Mission	International Meeting for saving Saqqara Archaeological Heritage in Saqqara: Ten Years Achievements of Kansai University Mission	Saqqara Palm Club Hotel, Giza, Egypt	November ,2017
*468	Hiroshi SUITA, Mariko SUITA, Tokihisa HIGO	Reconstruction of Paintings in Mastaba Idout	International Meeting for saving Saqqara Archaeological Heritage in Saqqara: Ten Years Achievements of Kansai University Mission	Saqqara Palm Club Hotel, Giza, Egypt	November ,2017
469	吹田浩、 アフド・シュエイブ、 アーデル・アカリシュ、 マイサ・マンズール、 伊藤淳志、中村吉伸、 鶴田浩章、安室喜弘、 サルマン・アル・マハリ	バーレーン王国バルバル神殿の保存のための研究	日本オリエント学会第59回大会	東京大学	2017年10月
470	中野智章、小野塚拓造、 河合望、吹田浩、 田澤恵子、藤井信之、 和田浩一郎	日本の古代エジプト資料に関する情報の把握と発信(ポスター発表)	日本オリエント学会第59回大会	東京大学	2017年10月
471	吹田 浩	ピラミッド・テキストの研究	関西大学 国際文化財・文化研究センター エジプト学研究セミナー	関西大学 千里山キャンパス	2017年7月
472	堤亮太、中村吉伸、 山下大輝、瀧田健太、 藤井秀司、鶴田浩章、 伊藤淳志、吹田浩	文化財修復用アルコキシシランの諸特性	第55回日本接着学会 年次大会	関西大学 千里山キャンパス	2017年6月
473	吹田浩、西浦忠輝	関西大学のエジプト調査プロジェクト	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学 東京センター	2016年10月

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
474	<u>Yoshihiro Yasumuro,</u> <u>Ryosuke Matsushita,</u> <u>Tokihisa Higo,</u> <u>Hiroshi Suita</u>	On-site AR Interface based on Web-based 3D Database for Cultural Heritage in Egypt	EUROGRAPHICS Workshop on Graphics and Cultural Heritage	Genova, Italy	2016年10月
475	吹田 浩	古代エジプトの宗教人間学 — 霊・魂の多様性と特殊性 —	日本宗教学会 第75回学術大会	早稲田大学	2016年9月
476	吹田 浩	古王国第5王朝最後の王、ウニスの時代	関西大学 国際文化財・文化研究センター エジプト学研究セミナー	関西大学 千里山キャンパス	2016年7月
477	<u>山下和子,</u> <u>アフメド・シュエイブ,</u> <u>川崎英也, 吹田浩,</u> <u>荒川隆一</u>	ミイラ布に残存する有機化合物のガスクロマトグラフィー質量分析(ポスター発表)	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月
*478	吹田 浩	関西大学国際文化財・文化研究センターの活動 (ポスター発表)	日本オリエント学会第57回大会	北海道大学	2015年10月
479	<u>Ryosuke Matsushita,</u> <u>Tokihisa Higo,</u> <u>Hiroshi Suita,</u> <u>Yoshihiro Yasumuro</u>	On-site AR Interface with Web-based 3D Archiving System for Archaeological Project	IEEE International Symposium on Mixed and Augmented Reality 2015 (ISMAR2015)	Fukuoka, Japan	2015年9月
480	<u>松下亮介, 肥後時尚,</u> <u>吹田浩, 安室喜弘</u>	考古学プロジェクトにおける3DデジタルアーカイブのためのARインタフェース	第20回日本バーチャルリアリティ学会大会	東京	2015年9月
*481	吹田 浩	関西大学国際文化財・文化研究センターの活動 (ポスター発表)	2015東アジア文化遺産保存 国際シンポジウムin奈良	奈良春日野国際 フォーラム 薈 ~I・RA・KA~	2015年8月
*482	<u>吹田浩,</u> <u>アフメド・シュエイブ,</u> <u>アーデル・アカリシュ,</u> <u>沢田正昭, 西浦忠輝,</u> <u>吹田真里子</u>	日本のフノリによる表打ち技術の海外壁画修復への応用(ポスター発表)	2015東アジア文化遺産保存 国際シンポジウムin奈良	奈良春日野国際 フォーラム 薈 ~I・RA・KA~	2015年8月
483	<u>山下和子,</u> <u>アフメド・シュエイブ,</u> <u>川崎英也, 吹田浩,</u> <u>荒川隆一</u>	ミイラの布に含まれる有機化合物の質量分析 (ポスター発表)	2015東アジア文化遺産保存 国際シンポジウムin奈良	奈良春日野国際 フォーラム 薈 ~I・RA・KA~	2015年8月
*484	<u>松下亮介, 安室喜弘</u> <u>吹田浩, 肥後時尚</u>	考古学プロジェクトにおけるデジタルアーカイブのための3DWebポータル	情報処理学会 人文科学と コンピュータシンポジウム (じんもんこん2014)	東京	2014年12月

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
*485	吹田 浩	エジプト文明の壁画を保存する	文化財を伝える －日本の保存技術が古代 エジプト文明の秘法を救う－	国立民族学博物館	2014年12月
486	Ryosuke Matsushita, Yoshihiro Yasumuro, Hiroshi Suita	Digital Archive System with 3D Web Portal Interface	The 5th International Euro- Mediterranean Conference (EuroMed 2014)	Limasol, Cyprus	2014年11月
*487	Hiroshi SUITA, Ahmed S. A. SHOEIB, Adel M. I. AKARISH, Masaaki SAWADA, Tadateru NISHIURA, Ewa ROZNIERSKA, Yoshihiro YASUMURO, Ryosuke MATSUSHITA	Conservation Works of Idout's Tomb (2,360 B.C.) in Saqqara, Egypt	International Symposium on Conservation of Ancient Sites on the Silk Road 2014	Dunhuang, China	2014年10月
488	Shunsuke Fukakusa, Kazuki Kawahara, Ahmed Sayed Shoeib, Adel Akarish, Hideya Kawasaki, Hiroshi Suita, Ryuichi Arakawa, Takashi Nakazawa	Characterization of Degradate Animal Glue in the Wall Paintings of the Idout Tomb	31st Meeting of JSSSCP "Japan Society for Scientific Studies on Cultural Properties"	Nara, Japan	June 4 -6, 2014
*489	ShunsukeFukakusa, Kazuki Kawahara, Ahmed Sayed Shoeib, Abel Akarish, HideyaKawasaki, Hiroshi Suita, Ryuichi Arakawa, Takashi Nakazawa	Characterization by Nano-LC/ESI-MS/MS of Highly Degraded Collagen Detected in 4,400-year-old Egyptian Wall Paintings of the Idout Tomb	62th ASMS Conference on Mass Spectrometry and Allied Topics	Baltimore Convention Center	2014年6月
*490	廣池晋治、涌田恭兵、 坂元仁、 アフメド・シュエイブ、 吹田真里子、吹田浩、 久米田裕子、高島浩介、 土戸哲明	寒天平板及び彩色石片上での黴の発育に対す るn-Alkanolsの阻害効果 (Inhibitory Effect of n-alkanols on Fungal Growth on the Agar Plates and the Painted Stone Chips)	2013 東アジア文化遺産保存 国際シンポジウム	韓国	2013年9月

森 貴史

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
*491	森 貴史	ドイツのエジプト博物館を考える	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告会	関西大学 梅田キャンパス	2017年12月
492	森 貴史	ドイツのエジプト博物館(ポスター発表)	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月

プロジェクト番号

S1311041

中澤 務

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
493	中澤 務	古代文明に対するイメージ形成と文化財保護	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月
494	中澤 務	プロタゴラスの相対主義再考	関西哲学会	大阪	2013年10月

浜本 隆志

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
495	浜本 隆志	古代エジプトの「シンデレラ民話」の世界伝播 (ポスター発表)	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学	2016年2月

柏木 治

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
496	柏木 治	エジプト黄道帯星座図と19世紀初期のフランス 文化(ポスター発表)	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学	2016年2月
497	柏木 治	「産業家」と考える階級について	日本スタンダード研究会	京都大学	2013年12月

伊藤 淳志

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
*498	吹田浩、伊藤淳志、 末森薫	関西大学国際文化財・文化研究センターの活 動	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告会	関西大学 梅田キャンパス	2017年12月
*499	西形達明、伊藤淳志	イドウトの地下埋葬室の岩盤強化	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告会	関西大学 梅田キャンパス	2017年12月
*500	Hitroshi SUITA, Atsushi ITO Kaoru SUEMORI	Ten Years of Kansai University Mission	International Meeting for saving Saqqara Archaeological Heritage in Saqqara: Ten Years Achievements of Kansai University Mission	Saqqara Palm Club Hotel, Giza, Egypt	November ,2017
*501	Yoshinobu NAKAMURA, Hiroaki TSURUTA, Tatsuaki NISHIGATA, Atsushi ITO	Consolidation/Reinforcement of Mother Rock of Mastaba Idout	International Meeting for saving Saqqara Archaeological Heritage in Saqqara: Ten Years Achievements of Kansai University Mission	Saqqara Palm Club Hotel, Giza, Egypt	November ,2017

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
502	吹田 浩、 アフメド・シュエイブ、 アーデル・アカリシュ、 マイサ・マンズール、 伊藤淳志、中村吉伸、 鶴田浩章、安室喜弘、 サルマン・アル・マハリ	バーレーン王国バルバル神殿の保存のための 研究	日本オリエント学会第59回大会	東京大学	2017年10月
503	堤亮太、中村吉伸、 山下大輝、瀧田健太、 藤井秀司、鶴田浩章、 伊藤淳志、吹田浩	文化財修復用アルコキシランの諸特性	第55回日本接着学会 年次大会	関西大学 千里山キャンパス	2017年6月
504	伊藤淳志、西形達明、 中村吉伸、鶴田浩章	イドウトの地下埋葬室の構造調査	関西大学 国際文化財・文化研究センター シンポジウム	関西大学 東京センター	2016年10月
505	T.Nishiura, I.Ono, A. Ito, H.Fujita, M.Morii, F. Astete, C. Cano	CONSERVATION OF MACHU PICCHU ARCHAEOLOGICAL SITE: INVESTIGATION AND EXPERIMENTAL RESTORATIONWORKS OF THE "TEMPLE OF THE SUN"	The 13th International Congress on the Deterioration and Conservation of Stone	Scotland, UK	2016年9月
506	伊藤淳志、西形達明、 鶴田浩章、中村吉伸	イドウトの地下埋葬室での保全作業 —母岩の強化—	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月
507	西形達明、伊藤淳志	イドウト地下埋葬室母岩の安定性と修復対策 (ポスター発表)	2015東アジア文化遺産保存 国際シンポジウムin奈良	奈良春日野国際 フォーラム 蓋 ～I・RA・KA～	2015年8月
508	西浦忠輝、岡田保良、 柴田英明、小野勇、 伊藤淳志、西形達明、 藤田晴啓、森井順之、 荒木良祐、荒木祐一郎、 カルロス・カノー、 フェルナンド・アステテ、 ピエダッド・チャンピ、 グラディス・フェリバリマチ	ペルー、マチュピチュ遺跡の保存修復 —「太陽の神殿」の劣化原因と保存修復方針—	文化財保存修復学会 第37回大会	京都市	2015年6月
509	伊藤淳志、西形達明	地震で崩壊？遺構の構造耐力を探る	関西大学国際文化財文化 研究センター・国士舘大学共催 公開シンポジウム	関西大学千里山 キャンパス 国士舘大学	2015年2月
*510	Ito, A, Nishigata, T	Reinforcement of Mother Rock in Idout Tomb, Egypt	International Symposium on Conservation of Aicent Sites on the Silk Road 2014	Dunhuang	2014年10月
511	西浦忠輝、沢田正昭、 岡田保良、柴田英明、 小野勇、伊藤淳志、 西形達明、藤田晴啓、 森井順之、海老澤孝雄、 大西良英、 フェルナンド・アステテ、 チャンピ・モンテロソ、 カルロス・カノー	ペルー、マチュピチュ遺跡の保存修復[Ⅲ] —太陽の神殿の劣化と保存修復に関する調査 研究—	文化財保存修復学会 第36回大会	東京都	2014年6月

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
512 西浦忠輝、藤田晴啓、 小野勇、海老澤孝雄、 伊藤淳志、柴田英明、 沢田正昭、 カルロス・カノー、 フェルナンド・アステテ、 チャンピ・モンテロソ	ペルー、マチュピチュ遺跡の保存修復〔Ⅱ〕 ー太陽の神殿の劣化と保存修復に関する調査 および実験施工ー	文化財保存修復学会 第35回大会	仙台市	2013年7月

西形 達明

発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
*513 西形達明、伊藤淳志	イドウトの地下埋葬室の岩盤強化	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告会	関西大学 梅田キャンパス	2017年12月
*514 Yoshinobu NAKAMURA, Hiroaki TSURUTA, Tatsuaki NISHIGATA, Atsushi ITO	Consolidation/Reinforcement of Mother Rock of Mastaba Idout	International Meeting for saving Saqqara Archaeological Heritage in Saqqara: Ten Years Achievements of Kansai University Mission	Saqqara Palm Club Hotel, Giza, Egypt	November ,2017
515 伊藤淳志、西形達明、 中村吉伸、鶴田浩章	イドウトの地下埋葬室の構造調査	関西大学 国際文化財・文化研究センター シンポジウム	関西大学 東京センター	2016年10月
516 伊藤淳志、西形達明、 鶴田浩章、中村吉伸	イドウトの地下埋葬室での保全作業 ー母岩の強化ー	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月
517 西形達明、伊藤淳志	イドウト地下埋葬室母岩の安定性と修復対策 (ポスター発表)	2015東アジア文化遺産保存 国際シンポジウムin奈良	奈良春日野国際 フォーラム 壺 ～I・RA・KA～	2015年8月
518 安室喜弘、北田祐平、 松下亮介、檀寛成、 西形達明	文化財の3次元計測計画手法 (ポスター発表)	2015東アジア文化遺産保存 国際シンポジウムin奈良	奈良春日野国際 フォーラム 壺 ～I・RA・KA～	2015年8月
519 西浦忠輝、岡田保良、 柴田英明、小野勇、 伊藤淳志、西形達明、 藤田晴啓、森井順之、 荒木良祐、荒木祐一郎、 カルロス・カノー、 フェルナンド・アステテ、 ピエダッド・チャンピ、 グラディス・フェリパリマチ	ペルー、マチュピチュ遺跡の保存修復 ー「太陽の神殿」の劣化原因と保存修復方針ー	文化財保存修復学会 第37回大会	京都市	2015年6月
520 伊藤淳志、西形達明	地震で崩壊？遺構の構造耐力を探る	関西大学国際文化財文化 研究センター・国士舘大学共催 公開シンポジウム	関西大学千里山 キャンパス 国士舘大学	2015年2月
521 Yuhei Kitada, Hiroshige Dan, Yoshihiro Yasumuro, Taisuke Ishigaki, Tatsuaki Nishigata, Masataka Imura	3D-Scan Planning of Outdoor Constructions Based on Structure from Motion and Mathematical Optimization	14th International Conference on Construction Applications of Virtual Reality (CONVR2014)	Sharjah, UAE	2014年11月

プロジェクト番号

S1311041

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
*522	<u>Ito, A, Nishigata, T</u>	Reinforcement of Mother Rock in Idout Tomb, Egypt	International Symposium on Conservation of Acient Sites on the Silk Road 2014	Dunhuang	2014年10月
523	北田祐平、安室喜弘、 檀寛成、西形達明、 石垣泰輔、井村誠孝	SfMIに基づいた屋外レーザースキヤンの最適計画	土木情報学シンポジウム	東京	2014年9月
524	小野勇、西浦忠輝、 柴田英明、西形達明	マチュピチュ遺跡「太陽の神殿」保存修復 —II—	第49回地盤工学研究発表会	北九州市	2014年7月
525	西浦忠輝、沢田正昭、 岡田保良、柴田英明、 小野勇、伊藤淳志、 西形達明、藤田晴啓、 森井順之、海老澤孝雄、 大西良英、 フェルナンド・アステテ、 チャンピ・モンテロソ、 カルロス・カノー	ペルー、マチュピチュ遺跡の保存修復〔Ⅲ〕 —太陽の神殿の劣化と保存修復に関する調査 研究—	文化財保存修復学会 第36回大会	東京都	2014年6月

土戸 哲明

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
*526	<u>Kosuke TAKATORI,</u> <u>Tetsuaki TSUCHIDO</u>	Biodeterioration of Cultural Heritage in japan	International Meeting for saving Saqqara Archaeological Heritage in Saqqara: Ten Years Achievements of Kansai University Mission	Saqqara Palm Club Hotel, Giza, Egypt	November ,2017
527	田中詩乃、本郷莉菜、 太田利子、高島美奈子、 久米田裕子、古田雅一、 土戸哲明、高島浩介	Aureobasidium (黒色酵母様菌) 胞子に対する 三制御比較検討	日本防菌防黴学会大会	豊中	2017年9月
528	堀切茂俊、原田真美、 坂元仁、土戸哲明、 古田雅一	Cladosporium属胞子の発芽課程における熱損 傷特性	日本防菌防黴学会大会	豊中	2017年9月
529	土戸 哲明	細菌と真菌の損傷菌 —加熱損傷を中心に(シンポジウム)—	日本防菌防黴学会大会	豊中	2017年9月
530	水ト慶子、三木幹男、 高島美奈子、富坂恭子、 田中詩乃、松本美奈子、 常盤俊之、土戸哲明、 久米田裕子、高橋淳子、 高島浩介	カビに関する相談件数(2015年)と相談内容	日本防菌防黴学会大会	豊中	2016年9月
531	原田真美、坂元仁、 古田雅一、高島浩介、 土戸哲明	殺菌処理したAspergillus属胞子への固形培地 を用いた発育遅延解析法の適用	日本防菌防黴学会大会	豊中	2016年9月

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
532	原田真美、坂元仁、古田雅一、高島浩介、土戸哲明	殺菌処理したAspergillus属孢子への固形培地を用いた発育遅延解析法の適用	日本食品微生物学会大会	東京	2016年9月
533	原田真美、堀切茂俊、坂元仁、土戸哲明、古田雅一	Cladosporium cladosporioidesの加熱損傷孢子の発育特性	日本農芸化学学会大会	札幌	2016年3月
*534	原田真美、坂元仁、古田雅一、高島浩介、土戸哲明	文化財汚染にみられる好乾性および耐乾性カビ孢子に対する放射線照射の抑制効(ポスター発表)	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月
535	高橋淳子、村松芳多子、太田利子、土戸哲明、高島浩介	器物におけるカビの発育に関する研究(ポスター発表)	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月
536	高島美奈子、富坂恭子、田中諒乃、常盤俊之、水ト慶子、久米田裕子、高橋淳子、土戸哲明、高島浩介	カビ検査技術に関する相談内容とその対応(2014年-2015年)	日本防菌防黴学会 第42回年次大会	大阪	2015年9月
537	土戸 哲明	21世紀市民社会と防菌防黴学会—創立40周年記念出版書の目指すもの—	日本防菌防黴学会 第42回年次大会	大阪	2015年9月
538	土戸 哲明	加熱殺菌	日本防菌防黴学会 第42回年次大会	大阪	2015年9月
*539	原田真美、堀切茂俊、坂元仁、福永健治、土戸哲明、古田雅一	カビ孢子の熱死滅評価へのマイクロプレートリーダーによる発育遅延解析法の適用性	日本防菌防黴学会 第42回年次大会	大阪	2015年9月
540	堀切茂俊、原田真美、坂元仁、土戸哲明、古田雅一	カビの同調発芽条件の検討と耐熱性の評価	日本防菌防黴学会 第42回年次大会	大阪	2015年9月
*541	廣池晋治、原田真美、坂元仁、古田雅一、高島浩介、土戸哲明	寒天平板におけるアルカノール異性体の抗カビ作用の比較	日本防菌防黴学会 第42回年次大会	大阪	2015年9月
542	土戸 哲明	微生物栄養細胞の損傷菌数評価のための、平板法と発育遅延解析法を併用した「固液発育活性差分法」とその理論	日本防菌防黴学会 第42回年次大会	大阪	2015年9月

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
543	岩田吏世、坂元仁、 中村一郎、土戸哲明、 古田雅一	平板法と発育遅延解析法を併用した「固液発育 活性差分法」による細菌の損傷菌数評価とその 加熱損傷への応用	日本防菌防黴学会 第42回年次大会	大阪	2015年9月
544	原田真美、廣池晋治、 坂元仁、古田雅一、 高島浩介、土戸哲明	文化財汚染黴胞子に対するAlkanolと放射線照 射の抑制効果(ポスター発表)	2015東アジア文化遺産保存 国際シンポジウムin奈良	奈良春日野国際 フォーラム 薨 ~I・RA・KA~	2015年8月
545	高島浩介、久米田祐子、 古田雅一、土戸哲明	文化財施設にみる空中カビとその生物特性 (ポスター発表)	2015東アジア文化遺産保存 国際シンポジウムin奈良	奈良春日野国際 フォーラム 薨 ~I・RA・KA~	2015年8月
546	水ト慶子、三木幹男、 土戸哲明、久米田裕子、 高橋淳子、高島浩介	「かびと生活」に関するアンケート結果から	日本防菌防黴学会 第41回年次大会	東京	2014年9月
547	廣池晋治、原田真美、 坂元仁、久米田裕子、 高島浩介、土戸哲明	寒天平板におけるアルカノール異性体の抗カビ 作用の比較	日本防菌防黴学会 第41回年次大会	東京	2014年9月
548	清水亨、李憲俊、 土戸哲明、久米田裕子、 高島浩介	室内環境の浮遊微生物測定に関する培養条件 の検討	日本防菌防黴学会 第41回年次大会	東京	2014年9月
*549	廣池晋治、涌田恭兵、 坂元仁、 アフメド・シュエイブ、 吹田真里子、吹田浩、 久米田裕子、高島浩介、 土戸哲明	寒天平板及び彩色石片上での黴の発育に対す るn-Alkanolsの阻害効果 (Inhibitory Effect of n-alkanols on Fungal Growth on the Agar Plates and the Painted Stone Chips)	2013 東アジア文化遺産保存 国際シンポジウム	韓国	2013年9月
550	高島浩介、久米田裕子、 土戸哲明	文化財のカビによるバイオフィルム(Biofilm Formed by Fungi on Cultural Heritage)	2013 東アジア文化遺産保存 国際シンポジウム	韓国	2013年9月
551	Takada, A, Hiroike, S, Sakamoto, J, Tsuchido, I and L.-K. Chang	Fungicidal Activity of Permaleic Acid (Poster)	8th Int. Symp. Sci. Technol.	大阪	2013年8月

荒川 隆一

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
552	安達吉宏、川野真太郎、 佐藤博文、小野大助、 川崎英也、荒川隆一、 静間基博	包接能を有する新規 MALDI用マトリックスの合 成と性能評価	つくば国際会議場 エポカルつくば	茨城県つくば市	2017年5月
553	小東剛、嶋津亮、 大塚洋一、松本卓也、 岩田太、川崎英也、 荒川隆一	タッピング型走査プローブエレクトロスプレーイ オン化法によるフィルム印刷物の質量分析イ メージング	第21回高分子分析討論会	名古屋国際会議場	2016年10月

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
554	川崎英也、栗田匡拓、 <u>荒川隆一</u>	金属ナノ粒子集積体の増強効果を利用したLDI-MSとラマン分光法との連携分析	第64回質量分析総合討論会	ホテル阪急エキスポパーク	2016年5月
555	福田朋恭、大坂一生、 <u>川崎英也</u> 、 <u>荒川隆一</u>	MALDI-MSを用いた2次元マッピング法による糖タンパク質の解析	第64回質量分析総合討論会	ホテル阪急エキスポパーク	2016年5月
556	小東剛、嶋津亮、大塚洋一、松本卓也、岩田太、 <u>川崎英也</u> 、 <u>荒川隆一</u>	ナノサイズピペットの利用によるタッピング型走査プローブ エレクトロスプレーイオン化質量分析イメージングの空間分解	第64回質量分析総合討論会	ホテル阪急エキスポパーク	2016年5月
557	加藤雄太、大坂一生、 <u>川崎英也</u> 、 <u>荒川隆一</u>	合金スパッタリング法を利用した表面支援レーザー脱離イオン化による質量分析イメージング	第64回質量分析総合討論会	ホテル阪急エキスポパーク	2016年5月
558	山下和子、 <u>アフメド・シュエイブ</u> 、 <u>川崎英也</u> 、 <u>吹田浩</u> 、 <u>荒川隆一</u>	ミイラ布に残存する有機化合物のガスクロマトグラフィー質量分析(ポスター発表)	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月
559	山下和子、 <u>アフメド・シュエイブ</u> 、 <u>川崎英也</u> 、 <u>吹田浩</u> 、 <u>荒川隆一</u>	ミイラの布に含まれる有機化合物の質量分析(ポスター発表)	2015東アジア文化遺産保存 国際シンポジウムin奈良	奈良春日野国際 フォーラム 葦 ~I・RA・KA~	2015年8月
560	<u>川崎英也</u> 、吉本純也、Aruneer Sangsuwan、岩崎泰彦、山下和子、大坂一生、 <u>荒川隆一</u>	リン脂質類似分子保護金4量体及び25量体クラスターのサイズ選択的合成	ナノ学会第13回大会	宮城県仙台市	2015年6月
561	栗田匡拓、 <u>川崎英也</u> 、 <u>荒川隆一</u>	SERS/SALDI連携分析のための銀ナノ粒子担持コンパクトディスク基板	ナノ学会第12回大会	京都大学 おうばくキャンパス	2014年5月
562	Shunsuke Fukakusa, Kazuki Kawahara, <u>Ahmed Sayed Shoeib</u> , <u>Adel Akarish</u> , <u>Hideya Kawasaki</u> , <u>Hiroshi Suita</u> , <u>Ryuichi Arakawa</u> , Takashi Nakazawa	Characterization of Degradate Animal Glue in the Wall Paintings of the Idout Tomb	31st Meeting of JSSSCP "Japan Society for Scientific Studies on Cultural Properties"	Nara, Japan	June 4 -6, 2014
*563	Shunsuke Fukakusa, Kazuki Kawahara, <u>Ahmed Sayed Shoeib</u> , <u>Abel Akarish</u> , <u>HideyaKawasaki</u> , <u>Hiroshi Suita</u> , <u>Ryuichi Arakawa</u> , Takashi Nakazawa	Characterization by Nano-LC/ESI-MS/MS of Highly Degraded Collagen Detected in 4,400-year-old Egyptian Wall Paintings of the Idout Tomb	62th ASMS Conference on Mass Spectrometry and Allied Topics	Baltimore Convention Center	2014年6月

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
564	稲本正、佐藤博文、 川野真太郎、静間基博、 小野大助、川崎英也、 荒川隆二	MALDI-MS、LC/ESIMSおよびLC/ELSDを用いたポリエチレングリコールの分析	第62回質量分析総合討論会	ホテル阪急 エキスポパーク	2014年5月
565	杉山知徳、川崎英也、 荒川隆二	シングルサイズのヒドロキシ酸保護銅ナノ粒子の合成	ナノ学会第12回大会	京都大学 おうばくキャンパス	2014年5月
566	小澤智行、川崎英也、 荒川隆二	Pt蒸着支援脱離イオン化を用いた葉およびポリマー表面のMSイメージング解析	第61回質量分析総合討論会	つくば国際会議場 エポカルつくば	2013年9月
567	Atsushi Yamamoto, Shusuke Takemine, Daisuke Ono, Hideya Kawasaki, Ryuichi Arakawa	Structural Identification of Chemical Components and Biodegradation Products of Highly Fluorinated Products Using (Two-dimensional) Liquid Chromatograph and High-resolution Mass Spectrometer	AOMSC(the 4th Asia Oceania Mass Spectrometry Conference)	Taipei International Convention Center	2013年7月1日
568	K.Nakaiaa,H.Kawasaki, R.Arakawa, E.K.Athanassioub, R.N.Grassb and W.J.Starkb	Functionalized Graphene-coated Cobalt Nanoparticles as the Matrix and Magnetic Separation for Highly Efficient SALDI-MS Analysis	AOMSC(the 4th Asia Oceania Mass Spectrometry Conference)	Taipei International Convention Center	2013年7月

川崎 英也

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
569	安達吉宏、川野真太郎、 佐藤博文、小野大助、 川崎英也、荒川隆二、 静間基博	包接能を有する新規 MALDI用マトリックスの合成と性能評価	つくば国際会議場 エポカルつくば	茨城県つくば市	2017年5月
570	小東剛、嶋津亮、 大塚洋一、松本卓也、 岩田太、川崎英也、 荒川隆二	タッピング型走査プローブエレクトロスプレーイオン化法によるフィルム印刷物の質量分析イメージング	第21回高分子分析討論会	名古屋国際会議場	2016年10月
571	川崎英也、栗田匡拓、 荒川隆二	金属ナノ粒子集積体の増強効果を利用したLDI-MSとラマン分光法との連携分析	第64回質量分析総合討論会	ホテル阪急 エキスポパーク	2016年5月
572	福田朋恭、大坂一生、 川崎英也、荒川隆二	MALDI-MSを用いた2次元マッピング法による糖タンパク質の解析	第64回質量分析総合討論会	ホテル阪急 エキスポパーク	2016年5月
573	小東剛、嶋津亮、 大塚洋一、松本卓也、 岩田太、川崎英也、 荒川隆二	ナノサイズピペットの利用によるタッピング型走査プローブエレクトロスプレーイオン化質量分析イメージングの空間分解	第64回質量分析総合討論会	ホテル阪急 エキスポパーク	2016年5月

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
574	加藤雄太、大坂一生、 川崎英也、荒川隆一	合金スパッタリング法を利用した表面支援レーザ脱離イオン化による質量分析イメージング	第64回質量分析総合討論会	ホテル阪急 エキスポパーク	2016年5月
575	山下和子、 アフメド・シュエイブ、 川崎英也、吹田浩、 荒川隆一	ミイラ布に残存する有機化合物のガスクロマトグラフィー質量分析(ポスター発表)	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月
576	山下和子、 アフメド・シュエイブ、 川崎英也、吹田浩、 荒川隆一	ミイラの布に含まれる有機化合物の質量分析(ポスター発表)	2015東アジア文化遺産保存 国際シンポジウムin奈良	奈良春日野国際 フォーラム 豊 ~I・RA・KA~	2015年8月
577	川崎英也、吉本純也、 Arunee Sangsuwan、 岩崎泰彦、山下和子、 大坂一生、荒川隆一	リン脂質類似分子保護金4量体及び25量体クラスターのサイズ選択的合成	ナノ学会第13回大会	宮城県仙台市	2015年6月
578	Shunsuke Fukakusa, Kazuki Kawahara, Ahmed Sayed Shoeib, Adel Akarish, Hideya Kawasaki, Hiroshi Suita, Ryuichi Arakawa, Takashi Nakazawa	Characterization of Degradate Animal Glue in the Wall Paintings of the Idout Tomb	31st Meeting of JSSSCP "Japan Society for Scientific Studies on Cultural Properties"	Nara, Japan	June 4 -6, 2014
*579	ShunsukeFukakusa, Kazuki Kawahara, Ahmed Sayed Shoeib, Abel Akarish, HideyaKawasaki, Hiroshi Suita, Ryuichi Arakawa, Takashi Nakazawa	Characterization by Nano-LC/ESI-MS/MS of Highly Degraded Collagen Detected in 4,400-year-old Egyptian Wall Paintings of the Idout Tomb	62th ASMS Conference on Mass Spectrometry and Allied Topics	Baltimore Convention Center	2014年6月
580	稲本正、佐藤博文、 川野真太郎、静間基博、 小野大助、川崎英也、 荒川隆一	MALDI-MS、LC/ESIMSおよびLC/ELSDを用いたポリエチレングリコールの分析	第62回質量分析総合討論会	ホテル阪急エキスポ パーク	2014年5月
581	杉山知徳、川崎英也、 荒川隆一	シングルサイズのヒドロキシ酸保護銅ナノ粒子の合成	ナノ学会第12回大会	京都大学 おうばくキャンパス	2014年5月
582	栗田匡拓、川崎英也、 荒川隆一	SERS/SALDI連携分析のための銀ナノ粒子担持コンパクトディスク基板	ナノ学会第12回大会	京都大学 おうばくキャンパス	2014年5月
583	小澤智行、川崎英也、 荒川隆一	Pt蒸着支援脱離イオン化を用いた葉およびポリマー表面のMSイメージング解析	第61回質量分析総合討論会	つくば国際会議場 エポカルつくば	2013年9月

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
584	Atsushi Yamamoto, Shusuke Takemine, Daisuke Ono, Hideya Kawasaki, Ryuichi Arakawa	Structural Identification of Chemical Components and Biodegradation Products of Highly Fluorinated Products Using (Two-dimensional) Liquid Chromatograph and High-resolution Mass Spectrometer	AOMSC(the 4th Asia Oceania Mass Spectrometry Conference)	Taipei International Convention Center	2013年7月
585	K.Nakaiaa,H.Kawasaki, R.Arakawa, E.K.Athanassioub, R.N.Grassb and W.J.Starkb	Functionalized Graphene-coated Cobalt Nanoparticles as the Matrix and Magnetic Separation for Highly Efficient SALDI-MS Analysis	AOMSC(the 4th Asia Oceania Mass Spectrometry Conference)	Taipei International Convention Center	2013年7月

岡 絵理子

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
*586	岡 絵理子	臨遺跡集落・サッカラ村の生活と空間調査	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告会	関西大学 梅田キャンパス	2017年12月
587	岡 絵理子	臨遺跡集落・サッカラ村の生活と空間構造(その5)―サッカラ村居住者の遺跡や村への認識の実態(ポスター発表)	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学	2016年2月

安室 喜弘

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
588	安室 喜弘	Photometric-based Recording of Temporal Changes in the BarBar Temple	関西大学 国際文化財・文化研究センター 成果報告会	バーレーン王国	2017年12月
*589	安室 喜弘	イドウトのmastaba墓の三次元計測とその活用	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告会	関西大学 梅田キャンパス	2017年12月
*590	Yoshihiro Yasumuro	3D Digitalization in Mastaba Idout	International Meeting for saving Saqqara Archaeological Heritage in Saqqara: Ten Years Achievements of Kansai University Mission	Saqqara Palm Club, Egypt	2017年11月
591	吹田 浩、 アフメド・シュエイブ、 アーデル・アカリシュ、 マイサ・マンズール、 伊藤淳志、中村吉伸、 鶴田浩章、安室喜弘、 サルマン・アル・マハリ	バーレーン王国バルバル神殿の保存のための研究	日本オリエント学会第59回大会	東京大学	2017年10月
592	藤里和樹、檀寛成、 安室喜弘	点群の3次元分布を考慮したレーザスキャナとSFMのレジストレーション	土木情報学シンポジウム	東京	2017年9月

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
593	Kazuki Fujisato, Hiroshige Dan, Taira Ozaki, Satoshi Kubota, Yoshihiro Yasumuro	Correlation Strategy for Integrating Point Cloud from Laser Scanner and SFM	International Workshop on Computing for Civil Engineering (IWCCE2017)	Seattle, USA	2017年7月
594	藤里和樹、頼光拓真、 檀寛成、安室喜弘	点群分布を考慮した対応点選定によるレーザスキャナとSFMの統合的3次元記録手法	情報処理学会 第79回全国大会	名古屋	2017年3月
595	Kazuki Fujisato, Hiroshige Dan, Yoshihiro Yasumuro	Semi-Automatic Correlation for Integrating Data	The 16th International Conference on Construction Applications of Virtual Reality (CONVR2016)	Hong Kong, China	2016年12月
596	Yoshihiro Yasumuro, Ryosuke Matsushita, Tokihisa Higo, Hiroshi Suita	On-site AR Interface based on Web-based 3D Database for Cultural Heritage in Egypt	EUROGRAPHICS Workshop on Graphics and Cultural Heritage	Genova, Italy	2016年10月
597	安室 喜弘	サッカーにおける修復のためのデジタル・アーカイブ	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学 東京センター	2016年10月
598	藤里和樹、檀寛成、 安室喜弘	レーザスキャナとSFMの統合のための対応点の選択手法	土木情報学シンポジウム	東京	2016年9月
599	藤里和樹、北田祐平、 松下亮介、檀寛成、 安室喜弘	レーザスキャナとSFMの併用による統合的3次元記録手法	情報処理学会 第78回全国大会	横浜	2016年3月
600	安室 喜弘	サッカーにおける修復のためのデジタル・アーカイブ	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月
601	北田祐平、安室喜弘、 檀寛成	SFMとMVSに基づいた現場のモデル化によるレーザスキャン計画とその運用方法	土木情報学シンポジウム	東京	2015年10月
602	Yuhei Kitada, Hiroshige Dan, Yoshihiro Yasumuro	Optimization Scenario for 3D-Scanning Plans of Outdoor Constructions Based on SFM	15th International Conference on Construction Applications of Virtual Reality in Construction (CONVR2015)	Banff, Alberta, Canada	2015年10月
603	Hiroki Inoue, Yoshihiro Yasumuro, Hiroshige Dan, Akira Kobayashi	Deflection Computation of Pipeline Surface Based on 3D Point Cloud	15th International Conference on Construction Applications of Virtual Reality in Construction (CONVR2015)	Banff, Alberta, Canada	2015年10月

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
604	Ryosuke Matsushita, Tokihisa Higo, <u>Hiroshi Suita</u> , Yoshihiro Yasumuro	On-site AR Interface with Web-based 3D Archiving System for Archaeological Project	IEEE International Symposium on Mixed and Augmented Reality 2015 (ISMAR2015)	Fukuoka, Japan	2015年9月
605	松下亮介、肥後時尚、吹田浩、安室喜弘	考古学プロジェクトにおける3DデジタルアーカイブのためのARインタフェース	第20回日本バーチャルリアリティ学会大会	東京	2015年9月
606	安室喜弘、北田祐平、松下亮介、檀寛成、西形達明	文化財の3次元計測計画手法(ポスター発表)	2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウムin奈良	奈良春日野国際フォーラム 葦~I・RA・KA~	2015年8月
607	Yoshihiro Yasumuro, Hiroshige Dan	Web-Based 3D Barrier-free Verification for Wheelchair Access	2nd International Conference on Civil and Building Engineering Infomatics (ICCBEL2015)	東京	2015年4月
608	安室 喜弘	エジプト考古学における3次元測量計画とその利用について	日本情報考古学会大会	大阪	2015年3月
*609	松下亮介、安室喜弘、吹田浩、肥後時尚	考古学プロジェクトにおけるデジタルアーカイブのための3DWebポータル	情報処理学会 人文科学とコンピュータシンポジウム (じんもんこん2014)	東京	2014年12月
*610	Hiroki Inoue, Hiroshige Dan, Akira Kobayashi, <u>Yoshihiro Yasumuro</u>	Inner Surface Measurement with RGB-D Camera Using Multiple Light Markers	14th International Conference on Construction Applications of Virtual Reality (CONVR2014)	Sharjah, UAE	2014年11月
*611	Yuhei Kitada, Hiroshige Dan, <u>Yoshihiro Yasumuro</u> , Taisuke Ishigaki, Tatsuaki Nishigata, Masataka Imura	3D-Scan Planning of Outdoor Constructions Based on Structure from Motion and Mathematical Optimization	14th International Conference on Construction Applications of Virtual Reality (CONVR2014)	Sharjah, UAE	2014年11月
612	Ryosuke Matsushita, <u>Yoshihiro Yasumuro</u> , <u>Hiroshi Suita</u>	Digital Archive System with 3D Web Portal Interface	The 5th International Euro-Mediterranean Conference (EuroMed 2014)	Limasol, Cyprus	2014年11月
*613	<u>Hiroshi SUIA</u> , <u>Ahmed S. A. SHOEIB</u> , <u>Adel M. I. AKARISH</u> , <u>Masaaki SAWADA</u> , <u>Tadateru NISHIURA</u> , <u>Ewa ROZNIERSKA</u> , <u>Yoshihiro YASUMURO</u> , <u>Ryosuke MATSUSHITA</u>	Conservation Works of Idout's Tomb (2,360 B.C.) in Saqqara, Egypt	International Symposium on Conservation of Ancient Sites on the Silk Road 2014	Dunhuang, China	2014年10月
614	北田祐平、安室喜弘、檀寛成、西形達明、石垣泰輔、井村誠孝	SfMIに基づいた屋外レーザスキャンの最適計画	土木情報学シンポジウム	東京	2014年9月

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
615	安室 喜弘	現場の形状スキャニングとシミュレーションへの活用アプローチ	第47回不連続性岩盤解析 実用化研究会	京都	2014年1月
616	Yoshihiro Yasumuro	A Server-client System for Optimized Plannung of Outdoor 3D Laser Scanning	Conference Proceedings -The 9th International Symposium on Social Management Systems (SSMS2013)	Sydney, Australia	2013年12月
617	Yoshihiro Yasumuro	Inner Surface Measurement with RGB-D Camera for Pipeline Aesessment	Proceedings of the First International Conference on Civil and Building Engineering Informatics (ICCBIE2013)	Tokyo	2013年11月
618	Yoshihiro Yasumuro	A Practical Scan Planning for Shape Measurement of Outdoor Constructions	Proceedings of the First International Conference on Civil and Building Engineering Informatics (ICCBIE2013)	Tokyo	2013年11月
619	Yoshihiro Yasumuro	3D-scan Planning of Outdoor Constructions Based on Photogrammetric Model and Mathematical Optimization	Proceedings of the 13th International Conference on Construction Applications of Virtual Reality 2013 (CONVR2013)	London, UK	2013年10月
620	Yoshihiro Yasumuro	3D Reconstruction of the "Cave" of the Great Pyramid from Video Footage	Proceedings of DigitalHeritage 2013, International Congress	Marseille, France	2013年10月
621	Yoshihiro Yasumuro	Coil Positioning System for Repetitive Transcranial Magnetic Stimulation Treatment by ToF Camera Ego-Motion	35th Annual International Conference of the IEEE EMBS	Osaka	2013年7月

鶴田 浩章

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
622	鶴田浩章	The Strengghening Counter-measure and Quality Estimation of Rock and Stone Work Block in the Barbar Temple	関西大学 国際文化財・文化研究センター 成果報告会	バーレーン王国	2017年12月
623	鶴田浩章、吹田浩	海外の文化財の岩石ブロックの非破壊検査に よる 品質評価	第22回関西大学先端科学技術 シンポジウム	関西大学 100周年記念会館	2018年1月
*624	鶴田浩章、中村吉伸	石材強化剤等によるイドゥート地下埋葬室の岩 盤 強化	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告会	関西大学 梅田キャンパス	2017年12月
*625	Yoshinobu NAKAMURA, Hiroaki TSURUTA, Tatsuaki NISHIGATA, Atsushi ITO	Consolidation/Reinforcement of Mother Rock of Mastaba Idout	International Meeting for saving Saqqara Archaeological Heritage in Saqqara: Ten Years Achievements of Kansai University Mission	Saqqara Palm Club Hotel, Giza, Egypt	November ,2017

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
626 吹田浩、 アフメド・シュエイブ、 アーデル・アカリシュ、 マイサ・マンズール、 伊藤淳志、中村吉伸、 鶴田浩章、安室喜弘、 サルマン・アル・マハリ	バーレーン王国バルバル神殿の保存のための研究	日本オリエント学会第59回大会	東京大学	2017年10月
627 三好孝英、鶴田浩章	中性化に着目した表面含浸材併用工法の塗布割合選定	平成29年度土木学会全国大会 第72回年次学術講演会	九州大学 伊都キャンパス	2017年9月
628 野村晃平、鶴田浩章	収縮低減材を用いた中流動コンクリートの収縮特性と耐凍害特性	平成29年度土木学会全国大会 第72回年次学術講演会	九州大学 伊都キャンパス	2017年9月
629 堤亮太、中村吉伸、 山下大輝、瀧田健太、 藤井秀司、鶴田浩章、 伊藤淳志、吹田浩	文化財修復用アルコキシランの諸特性	第55回日本接着学会 年次大会	関西大学 千里山キャンパス	2017年6月
630 伊藤淳志、西形達明、 中村吉伸、鶴田浩章	イドウトの地下埋葬室の構造調査	関西大学 国際文化財・文化研究センター シンポジウム	関西大学 東京センター	2016年10月
631 野村晃平、平井孝明、 鶴田浩章、上田尚史	フライアッシュを用いた中流動コンクリートの耐塩害特性と耐摩耗特性	土木学会第71回 年次学術講演会講演概要集	東北大学	2016年9月
632 三好孝英、鶴田浩章、 上田尚史	併用系表面含浸材の塗布量と劣化抑制効果の関係に関する研究	土木学会第71回 年次学術講演会講演概要集	東北大学	2016年9月
633 三好孝英、鶴田浩章、 上田尚史	併用系表面含浸材の塗布量と劣化抑制効果の関係に関する研究	土木学会関西支部 平成28年度年次学術講演会 講演概要集	立命館大学	2016年6月
634 野村晃平、鶴田浩章、 上田尚史、平井孝明	フライアッシュを用いた護岸用中流動コンクリートの基礎的性質	土木学会関西支部 平成28年度年次学術講演会 講演概要集	立命館大学	2016年6月
635 伊藤淳志、西形達明、 鶴田浩章、中村吉伸	イドウトの地下埋葬室での保全作業—母岩の強化—	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月
636 平井孝明、鶴田浩章、 高橋智幸、徳重英信、 上田尚史、竹田真義	サンゴ再生に用いるモルタル基盤の電気抵抗性の評価に関する基礎的研究	平成27年度土木学会 全国大会 第70回年次学術講演会	岡山大学	2015年9月

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
637 平井孝明、竹田眞義、 鶴田浩章、高橋智幸、 徳重英信、上田尚史	サンゴ再生に用いるモルタル基盤の電気抵抗性の評価	平成27年度土木学会 関西支部 年次学術講演会	摂南大学	2015年5月
638 島川和之、鶴田浩章、 上田尚史、中嶋亮介	けい酸塩系塗布後に塩分が浸透した供試体へのシラン系塗布の影響	平成26年度土木学会 全国大会 第69回年次学術講演会	大阪大学	2014年9月
639 竹本裕樹、鶴田浩章、 上田尚史	細骨材の一部に置換した下水汚泥焼却灰の種類によるコンクリートの凝結性状への影響	平成26年度土木学会 全国大会 第69回年次学術講演会	大阪大学	2014年9月
640 平井孝明、鶴田浩章、 上田尚史、安藤圭	増粘剤一液型SPを用いた中流動コンクリートの乾燥収縮特性と表面性状評価	平成26年度土木学会 全国大会 第69回年次学術講演会	大阪大学	2014年9月
641 児玉圭、上田尚史、 鶴田浩章	せん断補強鉄筋を有するRCはりのせん断破壊メカニズムの評価に関する実験的研究	平成26年度土木学会 全国大会 第69回年次学術講演会	大阪大学	2014年9月
642 藤井勇希、村上真、 竹内勝俊、鶴田浩章、 上田尚史、安藤圭	中流動コンクリートの塩化物イオン浸透とすりへりに対する抵抗性評価	平成26年度土木学会 関西支部 年次学術講演会	大阪産業大学	2014年5月
643 平井孝明、村上真、 鶴田浩章、上田尚史、 安藤圭	増粘剤一液型SPを用いた中流動コンクリートの収縮ひび割れ対策と表面性状評価	平成26年度土木学会 関西支部 年次学術講演会	大阪産業大学	2014年5月
*644 鶴田浩章、子田康弘、 岩城一郎	震災がれき焼却残さの性質とセメント硬化体の物性及び環境への影響	第3回コンクリート技術大会	郡山市	2013年10月
645 中嶋亮介、鶴田浩章、 島川和之	表面含浸材の併用における塗布間隔の変化が及ぼす中性化・塩害抑制効果	平成25年度土木学会 第68回 年次学術講演会	日本大学 生産工学部津田沼 キャンパス	2013年9月
646 藤井勇希、鶴田浩章、 松嶋秀記	護岸構造物への増粘剤系中流動コンクリートの適用に関する検討	平成25年度土木学会 第68回 年次学術講演会	日本大学 生産工学部津田沼 キャンパス	2013年9月
647 村上真、岩本永斗、 鶴田浩章	フレア型護岸に適用する増粘剤一液型高性能AE減水剤を使用した中流動コンクリート	平成25年度土木学会 第68回 年次学術講演会	日本大学 生産工学部津田沼 キャンパス	2013年9月

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
648	H.TSURUTA, R.NAKAJIMA	Study on the Effects of Combining Silicate and Silane Type Surface Penetrants on Concrete under Different Water Content Conditions	Proceedings of the 8th International Symposium in Science and Technology at Kansai University 2013	Kansai University	2013年8月
649	戸井干輝、木野村宏昭、 鶴田浩章、堂垣正博	RC橋脚の余裕度による耐震性能評価	平成25年度土木学会 関西支部 年次学術講演会	大阪市立大学	2013年6月
650	中嶋亮介、鶴田浩章、 島川和之	表面含浸材の併用における塗布割合の変化が及ぼす塩害抑制効果への影響	平成25年度土木学会 関西支部 年次学術講演会	大阪市立大学	2013年6月
651	村上真、岩本永斗、 鶴田浩章	増粘剤一液型高性能AE減水剤を使用した中流動コンクリートの諸性状	平成25年度土木学会 関西支部 年次学術講演会	大阪市立大学	2013年6月
652	島川和之、鶴田浩章、 中嶋亮介	表面含浸材の併用における塗布割合の変化が及ぼす遮水性と中性化抑制効果への影響	平成25年度土木学会 関西支部 年次学術講演会	大阪市立大学	2013年6月

西浦 忠輝

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
*653	西浦忠輝、沢田正昭	文化財保存の国際協力<その理念と実践>	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告会	関西大学 梅田キャンパス	2017年12月
654	T. Nishiura, Y. Murakami and M. Fukuda	Impregnation treatment with hydrophobic silane to an important stone building suffering from freezing damage in cold and heavy snowfall district	8th International Conference on Water Repellent Treatment for Building Materials	香港理工大学 (香港市)	2017年12月
655	Tadateru NISHIURA, Masaaki SAWADA	Conservation of Mural paintings in Asia	International Meeting for saving Saqqara Archaeological Heritage in Saqqara: Ten Years Achievements of Kansai University Mission	Saqqara Palm Club Hotel, Giza, Egypt	November ,2017
656	西浦 忠輝	再使用を目的とした古瓦の保存修復—日本の事例—	東アジア文化遺産保存 国際シンポジウム	上海復旦大学 (上海: 中国)	2017年8月
657	西浦忠輝、森井順之	大分県臼杵市、重文・宝篋印塔の保存修復処置と30年後の状態	文化財保存修復学会 第39回大会	金沢市	2017年7月
658	松本健、西浦忠輝、小野 勇	ヨルダン、ウム・カイス遺跡西円形劇場の修復	文化財保存修復学会 第39回大会	金沢市	2017年7月

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
659	西浦忠輝、友田正彦	タイ国、世界遺産・アユタヤ遺跡の総合的保存、活用施策	日本文化財科学会 第34回大会	山形市	2017年6月
660	西浦忠輝、吹田浩	関西大学のエジプト調査プロジェクト	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学 東京センター	2016年10月
661	Tadateru NISHIURA	Conservation of Ayutthaya Historic Site against Big Floods	INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON THE CONSERVATION OF BRICK MONUMENTS AT WORLD HERITAGE SITES	Ayutthay, Thailand	2016年10月
662	T.Nishiura, I.Ono, A.Ito, H.Fujita, M.Morii, F.Astete, C.Cano	CONSERVATION OF MACHU PICCHU ARCHAEOLOGICAL SITE: INVESTIGATION AND EXPERIMENTAL RESTORATIONWORKS OF THE "TEMPLE OF THE SUN"	The 13th International Congress on the Deterioration and Conservation of Stone	Scotland, UK	2016年9月
663	西浦忠輝、高品正行	瓦の保存修復とその耐久性—重文・定光寺観音堂の古瓦の保存修復と35年後の状態—	文化財保存修復学会 第38回大会	神奈川県平塚市	2016年6月
664	西浦忠輝、沢田正昭、高妻洋成	「2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウムin奈良」の成果と、東アジア文化遺産保存学会の活動	日本文化財科学会 第33回大会	奈良市	2016年6月
665	西浦 忠輝	アユタヤ遺跡における大洪水対策 (ポスター発表)	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月
*666	吹田浩、アフメド・シュエイブ、アーデル・アカリシュ、沢田正昭、西浦忠輝、吹田真里子	日本のフノリによる表打ち技術の海外壁画修復への応用 (ポスター発表)	2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウムin奈良	奈良春日野国際フォーラム 壺～I・RA・KA～	2015年8月
667	西浦忠輝	大洪水後のアユタヤ遺跡の保存と今後の対策	日本文化財科学会 第32回大会	東京都	2015年7月
668	松本健、西浦忠輝、小野勇	ローマ時代の円形劇場修復の研究	文化財保存修復学会 第37回大会	京都市	2015年6月
669	西浦忠輝、岡田保良、柴田英明、小野勇、伊藤淳志、西形達明、藤田晴啓、森井順之、荒木良祐、荒木祐一郎、カルロス・カノー、フェルナンド・アステテ、ピエダッド・チャンピ、グラディス・フェリバリマチ	ペルー、マチュピチュ遺跡の保存修復—「太陽の神殿」の劣化原因と保存修復方針—	文化財保存修復学会 第37回大会	京都市	2015年6月

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
670	西浦 忠輝	太陽の神殿の保存修復に向けて —共同研究プロジェクトの成果—	関西大学国際文化財文化 研究センター・国士舘大学共催 公開シンポジウム	関西大学 千里山キャンパス	2015年3月
671	西浦 忠輝	太陽の神殿の保存修復に向けて —共同研究プロジェクトの成果—	関西大学国際文化財文化 研究センター・国士舘大学共催 公開シンポジウム	国士舘大学	2015年2月
*672	Hiroshi SUITA, Ahmed S. A. SHOEIB, Adel M. I. AKARISH, Masaaki SAWADA, Tadateru NISHIURA, Ewa ROZNIERSKA, Yoshihiro YASUMURO, Ryosuke MATSUSHITA	Conservation Works of Idout's Tomb (2,360 B.C.) in Saqqara, Egypt	International Symposium on Conservation of Ancient Sites on the Silk Road 2014	Dunhuang, China	2014年10月
673	T.Nishiura, H.Shibata, I.Ono, M.Sawada, H.Fujita, M.Mori, et al.	Conservation of Machu-Picchu Archaeological Site —Investigation and Experimmental Restoration Works of "Temple of the Sun"-	International Symposium on Conservation of Ancient Sites on the Silk Road in 2014	Dunhuang, China	2014年10月
674	小野勇、西浦忠輝、 柴田英明、西形達明	マチュピチュ遺跡「太陽の神殿」保存修復 —II—	第49回地盤工学研究発表会	北九州市	2014年7月
675	西浦忠輝、宋苑瑞、 齋藤俊介、 アンドラス・モルゴス	石材強化保存材料としてのナノライムの物性評価〔II〕—試験片による実験的研究(2)—	日本文化財科学会 第31回大会	奈良市	2014年7月
676	西浦忠輝、沢田正昭、 岡田保良、柴田英明、 小野勇、伊藤淳志、 西形達明、藤田晴啓、 森井順之、海老澤孝雄、 大西良英、 フェルナンド・アステテ、 チャンピ・モンテロソ、 カルロス・カノー	ペルー、マチュピチュ遺跡の保存修復〔III〕 —太陽の神殿の劣化と保存修復に関する調査 研究—	文化財保存修復学会 第36回大会	東京都	2014年6月
677	松本健、小野勇、西浦忠輝	ローマ時代のモザイク床の修復	文化財保存修復学会 第36回大会	東京都	2014年6月
678	松本健、小野勇、西浦忠輝	古代ローマ遺跡の列柱道路の保存修復に関する研究〔VI〕—実際の保存修復作業(4)—	文化財保存修復学会 第36回大会	東京都	2014年6月
679	西浦忠輝、齋藤俊介、 宋苑瑞、 アンドラス・モルゴス	石材強化保存材料としてのナノライムの物性評価〔I〕—試験片による実験的研究(1)—	日本文化財科学会 第30回大会	弘前市	2013年7月

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
680 西浦忠輝、藤田晴啓、 小野勇、海老澤孝雄、 伊藤淳志、柴田英明、 沢田正昭、 カルロス・カノー、 フェルナンド・アステテ、 チャンピ・モンテロソ	ペルー、マチュピチュ遺跡の保存修復〔Ⅱ〕 —太陽の神殿の劣化と保存修復に関する調査 および実験施工—	文化財保存修復学会 第35回大会	仙台市	2013年7月
681 小野勇、松本健、西浦忠 輝	古代ローマ遺跡の列柱道路の保存修復に関する 研究〔Ⅴ〕—実際の保存修復作業(3)—	文化財保存修復学会 第35回大会	仙台市	2013年7月
682 小野勇、西浦忠輝、 柴田英明	マチュピチュ遺跡「太陽の神殿」保存修復	第48回地盤工学研究発表会	富山市	2013年7月

アフメド・サイエド・アフメド・シュエイブ

発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
683 Ahmed SHOEIB	Factors and Phenomina of Deterioration in the Barbar Temple	関西大学 国際文化財・文化研究センター 成果報告会	バーレーン王国	2017年12月
*684 アフメド・シュエイブ アーデル・アカリッシュ	イドゥートのマスタバ地下埋葬室の壁画とその 現状	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告会	関西大学 梅田キャンパス	2017年12月
*685 サラール・ハー・エル・ホーリ アフメド・シュエイブ アーデル・アカリッシュ マイサ・マンズール	文化財保存のこれから(ディスカッション)	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告会	関西大学 梅田キャンパス	2017年12月
*686 Ahmed SHOEIB	Conservation of Mural Paintings in Saqqara	International Meeting for saving Saqqara Archaeological Heritage in Saqqara: Ten Years Achievements of Kansai University Mission	Saqqara Palm Club Hotel, Giza, Egypt	November ,2017
687 吹田 浩、 アフメド・シュエイブ、 アーデル・アカリッシュ、 マイサ・マンズール、 伊藤淳志、中村吉伸、 鶴田浩章、安室喜弘、 サルマン・アル・マハリ	バーレーン王国バルバル神殿の保存のための 研究	日本オリエント学会第59回大会	東京大学	2017年10月
688 アフメド・シュエイブ アーデル・アカリッシュ	サッカラ遺跡群の保存と修復	関西大学 国際文化財・文化研究センター シンポジウム	関西大学 東京センター	2016年10月
689 アフメド・シュエイブ アーデル・アカリッシュ	サッカラ地域の壁画群 —イドゥートの事例にみる問題とその解決—	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
690	山下和子、 アフメド・シュエイブ、 川崎英也、吹田浩、 荒川隆一	ミイラ布に残存する有機化合物のガスクロマト グラフィー質量分析(ポスター発表)	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月
*691	吹田浩、 アフメド・シュエイブ、 アーデル・アカリシュ、 沢田正昭、西浦忠輝、 吹田真里子	日本のフノリによる表打ち技術の海外壁画修復 への応用(ポスター発表)	2015東アジア文化遺産保存 国際シンポジウムin奈良	奈良春日野国際 フォーラム 薨 ~I・RA・KA~	2015年8月
692	山下和子、 アフメド・シュエイブ、 川崎英也、 吹田浩、荒川隆一	ミイラの布に含まれる有機化合物の質量分析 (ポスター発表)	2015東アジア文化遺産保存 国際シンポジウムin奈良	奈良春日野国際 フォーラム 薨 ~I・RA・KA~	2015年8月
693	Shunsuke Fukakusa, Kazuki Kawahara, Ahmed Sayed Shoeib, Adel Akarish, Hideya Kawasaki, Hiroshi Suita, Ryuichi Arakawa, Takashi Nakazawa	Characterization of Degradate Animal Glue in the Wall Paintings of the Idout Tomb	31st Meeting of JSSSCP "Japan Society for Scientific Studies on Cultural Properties"	Nara, Japan	June 4 -6, 2014
*694	Shunsuke Fukakusa, Kazuki Kawahara, Ahmed Sayed Shoeib, Adel Akarish, Hideya Kawasaki, Hiroshi Suita, Ryuichi Arakawa, Takashi Nakazawa	Characterization by Nano-LC/ESI-MS/MS of Highly Degraded Collagen Detected in 4,400-Year-old Egyptian Wall Paintings of the Idout Tomb	62nd ASMS Conference on Mass Spectrometry and Allied Topics.	Baltimore, maryland.	June15-19, 2014
*695	Hiroshi Suita, Ahmed S. A. Shoeib, Adel M. I. Akarish, Masaaki Sawada, Tadateru Nishiura, Ewa Roznerska, Yoshihiro Yasumuro, Ryosuke Matsushita	Conservation Works of Idout's Tomb (2,360 B.C.) in Saqqara, Egypt.	Dunhuang Forum : International Symposium on Conservation of Ancient Sites on the Silk Road	Dunhuang, China	7-11,October 2014
*696	廣池晋治、涌田恭兵、 坂元仁、 アフメド・シュエイブ、 吹田真里子、吹田浩、 久米田裕子、高島浩介、 土戸哲明	寒天平板及び彩色石片上での黴の発育に対す るn-Alkanolsの阻害効果 (Inhibitory Effect of n-alkanols on Fungal Growth on the Agar Plates and the Painted Stone Chips)	2013 東アジア文化遺産保存 国際シンポジウム	韓国	2013年9月

アーデル・イブラヒム・モハメド・アカリシュ

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
697	Adel AKARISH	Characterization of Building Materials Used for the Barbar Temple	関西大学 国際文化財・文化研究センター 成果報告会	バーレーン王国	2017年12月
*698	アフメド・シュエイブ アーデル・アカリシュ	イドウトのmastaba地下埋葬室の壁画とその 現状	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告会	関西大学 梅田キャンパス	2017年12月

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
*699	<u>サラハー・エル・ホーリ</u> <u>アフメド・シュエイブ</u> <u>アーデル・アカリッシュ</u> <u>マイサ・マンズール</u>	文化財保存のこれから(ディスカッション)	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告会	関西大学 梅田キャンパス	2017年12月
*700	Adel AKARISH	Effect of Rock Nature on Mastaba Idout	International Meeting for saving Saqqara Archaeological Heritage in Saqqara:Ten Years Achievements of Kansai University Mission	Saqqara Palm Club Hotel, Giza, Egypt	November ,2017
701	<u>吹田 浩</u> 、 <u>アフメド・シュエイブ</u> 、 <u>アーデル・アカリッシュ</u> 、 <u>マイサ・マンズール</u> 、 <u>伊藤淳志</u> 、 <u>中村吉伸</u> 、 <u>鶴田浩章</u> 、 <u>安室喜弘</u> 、 <u>サルマン・アル・マハリ</u>	バーレーン王国バルバル神殿の保存のための 研究	日本オリエント学会第59回大会	東京大学	2017年10月
702	<u>アフメド・シュエイブ</u> <u>アーデル・アカリッシュ</u>	サッカラ遺跡群の保存と修復	関西大学 国際文化財・文化研究センター シンポジウム	関西大学 東京センター	2016年10月
703	<u>アフメド・シュエイブ</u> <u>アーデル・アカリッシュ</u>	サッカラ地域の壁画群 ーイドウトの事例にみる問題とその解決ー	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月
*704	<u>吹田浩</u> 、 <u>アフメド・シュエイブ</u> 、 <u>アーデル・アカリッシュ</u> 、 <u>沢田正昭</u> 、 <u>西浦忠輝</u> 、 <u>吹田真里子</u>	日本のフノリによる表打ち技術の海外壁画修復 への応用(ポスター発表)	2015東アジア文化遺産保存 国際シンポジウムin奈良	奈良春日野国際 フォーラム 薨 ~I・RA・KA~	2015年8月
705	<u>Hiroshi Suita</u> 、 <u>Ahmed S. A. Shoeib</u> 、 <u>Adel M. I. Akarish</u> 、 <u>Masaaki Sawada</u> 、 <u>Tadateru Nishiura</u> 、 <u>Ewa Roznerska</u> 、 <u>Yoshihiro Yasumuro</u> 、 <u>Ryosuke Matsushita</u>	Conservation Works of Idout's Tomb (2,360 B.C.) in Saqqara, Egypt.	Dunhuang Forum : International Symposium on Conservation of Ancient Sites on the Silk Road	Dunhuang, China	7-11,October 2014
706	Shunsuke Fukakusa, Kazuki Kawahara, Ahmed Sayed Shoeib, Adel Akarish, Hideya Kawasaki, Hiroshi Suita , Ryuichi Arakawa, Takashi Nakazawa	Characterization of Degradate Animal Glue in the WallPpaintings of the Idout Tomb	31st Meeting of JSSSCP "Japan Society for Scientific Studies on Cultural Properties"	Nara, Japan	June 4 -6, 2014
*707	Shunsuke Fukakusa, Kazuki Kawahara, Ahmed Sayed Shoeib, Adel Akarish, Hideya Kawasaki, Hiroshi Suita , Ryuichi Arakawa, Takashi Nakazawa	Characterization by Nano-LC/ESI-MS/MS of Highly Degraded Collagen Detected in 4,400-Year-old Egyptian Wall Paintings of the Idout Tomb	62nd ASMS Conference on Mass Spectrometry and Allied Topics.	Baltimore, maryland.	June15-19, 2014

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
*708 Adel I. M. Akarish	Characterization of Some Inorganic Pigments and Plasters Used in Old Kingdom, Saqqara area, Egypt	2nd Symposium of the Grand Museum Conservation Center	GEM-CC, Cairo.	18-19 March, 2013

サラーハ・エル・ホーリ

発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
*709 <u>サラーハ・エル・ホーリ</u> <u>アフメド・シュエイブ</u> <u>アーデル・アカリッシュ</u> <u>マイサ・マンズール</u>	文化財保存のこれから(ディスカッション)	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告会	関西大学 梅田キャンパス	2017年12月
*710 Salah el-Kholy	Saqqara Archaeological Heritage	International Meeting for saving Saqqara Archaeological Heritage in Saqqara: Ten Years Achievements of Kansai University Mission	Saqqara Palm Club Hotel, Giza, Egypt	November ,2017
*711 Salah el-Kholy	Die Sammlungen in den Museen der Universität Cairo aus der Ausgrabungen von Sami Gabra in Tuna el Gebel.	Die ferne Welt	Munich, Germany	19- 21 Januar.2014
712 Salah el-Kholy	The Excavation of the Cairo University in the site Tuna el Gebel	Excavation activities of the Cairo Uni.	Cairo	April 2013.

マイサ・マンズール

発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
713 Maisa MANSOUR	Biological Deterioration on the Barbar Temple	関西大学 国際文化財・文化研究センター 成果報告会	バーレーン王国	2017年12月
*714 Maisa MANSOUR	Biodeterioration of Cultural Heritage in Egypt	International Meeting for saving Saqqara Archaeological Heritage in Saqqara: Ten Years Achievements of Kansai University Mission	Saqqara Palm Club Hotel, Giza, Egypt	November ,2017
*715 <u>サラーハ・エル・ホーリ</u> <u>アフメド・シュエイブ</u> <u>アーデル・アカリッシュ</u> <u>マイサ・マンズール</u>	文化財保存のこれから(ディスカッション)	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告会	関西大学 梅田キャンパス	2017年12月
*716 吹田 浩、 アフメド・シュエイブ、 アーデル・アカリッシュ、 マイサ・マンズール、 伊藤淳志、中村吉伸、 鶴田浩章、安室喜弘、 サルマン・アル・マハリ	バーレーン王国バルバル神殿の保存のための研究	日本オリエント学会第59回大会	東京大学	2017年10月

プロジェクト番号

S1311041

エヴァ・ロズネルスカ

発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
*717 Hiroshi SUITA, Ahmed S. A. SHOEIB, Adel M. I. AKARISH, Masaaki SAWADA, Tadateru NISHIURA, Ewa ROZNIERSKA, Yoshihiro YASUMURO, Ryosuke MATSUSHITA	Conservation Works of Idout's Tomb (2,360 B.C.) in Saqqara, Egypt	International Symposium on Conservation of Ancient Sites on the Silk Road 2014	Dunhuang, China	2014年10月

ラファオ・ロマン・クーン

発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
*718 Rafal KUHN, Paulina JUSZCZYK	Conservation of Mural Paintings in the Saint Nicolaus Church in Warta, Poland	International Meeting for saving Saqqara Archaeological Heritage in Saqqara: Ten Years Achievements of Kansai University Mission	Saqqara Palm Club Hotel, Giza, Egypt	November ,2017
719 ラファオ・ロマン・クーン	ポーランドの壁画	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月

沢田 正昭

発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
*720 西浦忠輝、沢田正昭	文化財保存の国際協力<その理念実践>	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告会	関西大学 梅田キャンパス	2017年9月
721 Tadateru NISHIURA, Masaaki SAWADA	Conservation of Mural paintings in Asia	International Meeting for saving Saqqara Archaeological Heritage in Saqqara: Ten Years Achievements of Kansai University Mission	Saqqara Palm Club Hotel, Giza, Egypt	November ,2017
722 西浦忠輝、沢田正昭、 高妻洋成	「2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウム in奈良」の成果と、東アジア文化遺産保存学会 の活動	日本文化財科学会 第33回大会	奈良市	2016年6月
723 沢田 正昭	東アジアの中の韓日技術交流	Proceedings of the 44th International Conference of the korean Society of Conservation Science for Cultural Heritage,	Korea	2016年
*724 吹田浩、 アフド・シュエイブ、 アーデル・アカリシュ、 沢田正昭、西浦忠輝、 吹田真里子	日本のフノリによる表打ち技術の海外壁画修復 への応用(ポスター発表)	2015東アジア文化遺産保存 国際シンポジウムin奈良	奈良春日野国際 フォーラム 壺 ~I・RA・KA~	2015年8月

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
*725	Hiroshi SUITA, Ahmed S. A. SHOEIB, Adel M. I. AKARISH, Masaaki SAWADA, Tadateru NISHIURA, Ewa ROZNERKA, Yoshihiro YASUMURO, Ryosuke MATSUSHITA	Conservation Works of Idout's Tomb (2,360 B.C.) in Saqqara, Egypt	International Symposium on Conservation of Ancient Sites on the Silk Road 2014	Dunhuang, China	2014年10月
726	T.Nishiura, H.Shibata, I.Ono, M.Sawada, H.Fujita, M.Mori, et al.	Conservation of Machu-Picchu Archaeological Site - Investigation and Experimental Restoration Works of "Temple of the Sun"-	International Symposium on Conservation of Ancient Sites on the Silk Road in 2014	Dunhuang, China	2014年10月
727	西浦忠輝、沢田正昭、 岡田保良、柴田英明、 小野勇、伊藤淳志、 西形達明、藤田晴啓、 森井順之、海老澤孝雄、 大西良英、 フェルナンド・アステテ、 チャンピ・モンテロソ、 カルロス・カノー	ペルー、マチュピチュ遺跡の保存修復〔Ⅲ〕 —太陽の神殿の劣化と保存修復に関する調査研究—	文化財保存修復学会 第36回大会	東京都	2014年6月
728	西浦忠輝、藤田晴啓、 小野勇、海老澤孝雄、 伊藤淳志、柴田英明、 沢田正昭、 カルロス・カノー、 フェルナンド・アステテ、 チャンピ・モンテロソ	ペルー、マチュピチュ遺跡の保存修復〔Ⅱ〕 —太陽の神殿の劣化と保存修復に関する調査および実験施工—	文化財保存修復学会 第35回大会	仙台市	2013年7月

高鳥 浩介

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
*729	<u>Kosuke TAKATORI,</u> <u>Tetsuaki TSUCHIDO</u>	Biodeterioration of Cultural Heritage in Japan	International Meeting for saving Saqqara Archaeological Heritage in Saqqara: Ten Years Achievements of Kansai University Mission	Saqqara Palm Club Hotel, Giza, Egypt	November, 2017
730	田中詩乃、本郷莉菜、 太田利子、高鳥美奈子、 久米田裕子、古田雅一、 土戸哲明、高鳥浩介	Aureobasidium (黒色酵母様菌) 胞子に対する三制御比較検討	日本防菌防黴学会大会	豊中	2017年9月
731	水ト慶子、三木幹男、 高鳥美奈子、富坂恭子、 田中詩乃、松本美奈子、 常盤俊之、土戸哲明、 久米田裕子、高橋淳子、 高鳥浩介	カビに関する相談件数(2015年)と相談内容	日本防菌防黴学会大会	豊中	2016年9月
732	原田真美、坂元仁、 古田雅一、高鳥浩介、 土戸哲明	殺菌処理したAspergillus属胞子への固形培地を用いた発育遅延解析法の適用	日本防菌防黴学会大会	豊中	2016年9月
733	原田真美、坂元仁、 古田雅一、高鳥浩介、 土戸哲明	殺菌処理したAspergillus属胞子への固形培地を用いた発育遅延解析法の適用	日本食品微生物学会大会	東京	2016年9月

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
*734 原田真美、坂元仁、 古田雅一、高島浩介、 土戸哲明	文化財汚染にみられる好乾性および耐乾性カビ胞子に対する放射線照射の抑制効(ポスター発表)	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月
735 高橋淳子、村松芳多子、 太田利子、土戸哲明、 高島浩介	器物におけるカビの発育に関する研究 (ポスター発表)	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月
736 高島美奈子、富坂恭子 田中詩乃、常盤俊之 水ト慶子、久米田裕子 高橋淳子、土戸哲明 高島浩介	カビ検査技術に関する相談内容とその対応 (2014年-2015年)	日本防菌防黴学会 第42回年次大会	大阪	2015年9月
737 米津彰人、松岡由衣、 岩井美和、関智子、 後藤友美、佐伯憲子、 北井智、東脇和美、 高島浩介	カビの種別にみた発育と酸素消費の関係	日本防菌防黴学会 第42回年次大会	大阪	2015年9月
*738 廣池晋治、原田真美、 坂元仁、古田雅一、 高島浩介、土戸哲明	寒天平板におけるアルコール異性体の 抗カビ作用の比較	日本防菌防黴学会 第42回年次大会	大阪	2015年9月
739 原田真美、廣池晋治、 坂元仁、古田雅一、 高島浩介、土戸哲明	文化財汚染黴胞子に対するAlkanolと 放射線照射の抑制効果	2015東アジア文化遺産保存 国際シンポジウムin奈良	奈良春日野国際 フォーラム 葦 ~I・RA・KA~	2015年8月
740 高島浩介、久米田祐子、 古田雅一、土戸哲明	文化財施設にみる空中カビとその生物 特性	2015東アジア文化遺産保存 国際シンポジウムin奈良	奈良春日野国際 フォーラム 葦 ~I・RA・KA~	2015年8月
741 田中詩乃、太田利子、 高橋淳子、高島美奈子、 高島浩介	植物病原性カビに対する保存料の有効性	日本防菌防黴学会 第41回年次大会	東京	2014年9月
742 高島 浩介	カビを知る-マクロとミクロの視点から	日本防菌防黴学会 第41回年次大会	東京	2014年9月
743 高島美奈子、久米田裕 子、 吉川佳奈、吉川博幸、 高島浩介	図書館で被害を受けた書籍からのカビ分離法と 原因カビ	日本防菌防黴学会 第41回年次大会	東京	2014年9月
744 常盤俊之、柳田連太郎、 田中詩乃、太田利子、 高橋淳子、高島美奈子、 高島浩介	カビ発育からみた寒天培地への基質侵入性	日本防菌防黴学会 第41回年次大会	東京	2014年9月

プロジェクト番号

S1311041

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
745	清水亨、李憲俊、 土戸哲明、久米田裕子、 高島浩介	室内環境の浮遊微生物測定に関する培養条件の検討	日本防菌防霉学会 第41回年次大会	東京	2014年9月
746	稲田知佳、高島美奈子、 久米田裕子、松村芳多子、 太田利子、高島浩介	ハイロカビBotrytisの季節特異性	日本防菌防霉学会 第41回年次大会	東京	2014年9月
747	水ト慶子、三木幹男、 土戸哲明、久米田裕子、 高橋淳子、高島浩介	「かびと生活」に関するアンケート結果から	日本防菌防霉学会 第41回年次大会	東京	2014年9月
748	廣池晋治、原田真美、 坂元仁、久米田裕子、 高島浩介、土戸哲明	寒天平板におけるアルカノール異性体の抗カビ作用の比較	日本防菌防霉学会 第41回年次大会	東京	2014年9月
749	李憲俊、小菅旬子、 高島浩介	シリコーンシーラントにおけるCladosporiumの汚染形態	日本防菌防霉学会 第40回年次大会	大阪	2013年9月
750	太田利子、田中詩乃、 高島美奈子、高島浩介	保存料の各種真菌に対する有効性評価について	日本防菌防霉学会 第40回年次大会	大阪	2013年9月
751	清水亨、富坂恭子、 高島美奈子、常盤俊之、 高島浩介、李憲俊、 村松芳多子、太田利子、 高橋淳子、久米田裕子	梅雨に特異的な無胞子性カビMyceliaの生物学的特性	日本防菌防霉学会 第40回年次大会	大阪	2013年9月
752	高島浩介、久米田裕子、 土戸哲明	文化財のカビによるバイオフィルム (Biofilm Formed by Fungi on Cultural Heritage)	2013 東アジア文化遺産保存 国際シンポジウム	韓国	2013年9月
*753	廣池晋治、涌田恭兵、 坂元仁、 アフメド・シュエイブ、 吹田真里子、吹田浩、 久米田裕子、高島浩介、 土戸哲明	寒天平板及び彩色石片上での黴の発育に対するn-Alkanolsの阻害効果 (Inhibitory Effect of n-alkanols on Fungal Growth on the Agar Plates and the Painted Stone Chips)	2013 東アジア文化遺産保存 国際シンポジウム	韓国	2013年9月
754	高橋淳子、太田利子、 高島浩介	感受性真菌、抵抗性真菌に対する保存料の有効性評価について	日本食品化学学会・ 第19回総会学術大会	名古屋	2013年8月

プロジェクト番号

S1311041

中村 吉伸

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
*755	鶴田浩章、中村吉伸	石材強化剤等によるイドゥート地下埋葬室の岩盤強化	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告会	関西大学 梅田キャンパス	2017年12月
756	川嶋永人、眞山博幸、 中村吉伸、藤井秀司	非水液体を内部液とする光熱変換リキッドマーブルの遠隔物質運搬	第27回 日本MRS年次大会	横浜市開港記念会館	2017年12月
757	羽後治佳、西澤伸朗、 中村吉伸、藤井秀司	静電相互作用を利用するリン酸基含有元素ブロック高分子微粒子の創出	第27回 日本MRS年次大会	横浜市開港記念会館	2017年12月
758	伊藤将也、川嶋永人、 中村吉伸、藤井秀司	光熱変換微粒子安定化泡カプセルの運動制御	第27回 日本MRS年次大会	横浜市開港記念会館	2017年12月
*759	Yoshinobu NAKAMURA, Hiroaki TSURUTA, Tatsuaki NISHIGATA, Atsushi ITO	Consolidation/Reinforcement of Mother Rock of Mastaba Idout	International Meeting for saving Saqqara Archaeological Heritage in Saqqara: Ten Years Achievements of Kansai University Mission	Saqqara Palm Club Hotel, Giza, Egypt	November ,2017
760	羽後治佳、西澤伸朗、 中村吉伸、藤井秀司	金属イオンを有するリン酸基含有元素ブロック高分子微粒子の創出	第13回日本接着学会 関西支部若手の会	大阪市立大学 学術総合情報センター	2017年11月
761	笠原萌恵、秋元信一、 針山孝彦、高久康春、 中村吉伸、藤井秀司	アブラムシに学ぶ粘着性液体の粉体化	第13回日本接着学会 関西支部若手の会	大阪市立大学 学術総合情報センター	2017年11月
762	伊藤将也、川嶋永人、 中村吉伸、藤井秀司	近赤外光による粒子安定化泡の運動制御	第13回日本接着学会 関西支部若手の会	大阪市立大学 学術総合情報センター	2017年11月
763	浅海雄太、川嶋永人、 中村吉伸、藤井秀司	ミクロンメートルサイズのコアシェル型高分子粒子により安定化されたリキッドマーブル	第13回日本接着学会 関西支部若手の会	大阪市立大学 学術総合情報センター	2017年11月
764	中村充、堤亮太、 藤井秀司、中村吉伸	シランカップリング剤と無機粒子充てんによるエポキシ樹脂の低吸水性化	第13回日本接着学会 関西支部若手の会	大阪市立大学 学術総合情報センター	2017年11月
765	柏原佑亮、岡田駿、 藤井秀司、中村吉伸、 浦濱圭彬、日笠茂樹、 藤原和子	架橋高分子の力学特性とその速度依存性	第13回日本接着学会 関西支部若手の会	大阪市立大学 学術総合情報センター	2017年11月

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
766	岡田駿、藤井秀司、 中村吉伸、浦濱圭彬、 中嶋健、伊藤万喜子、 梁暁斌	粘着特性のAFMIによるフォースカーブからの考察	第13回日本接着学会 関西支部若手の会	大阪市立大学 学術総合情報センター	2017年11月
767	堤亮太、藤井秀司、 中村吉伸	無機粒子表面のシランカップリング剤の吸着状態についてのTG分析よりの考察	第13回日本接着学会 関西支部若手の会	大阪市立大学 学術総合情報センター	2017年11月
768	Hisato Kawashima, Maxime Paven, Hiroyuki Mayama, Hans-Jürgen Butt, Yoshinobu Nakamura, Syuji Fujii	Stimuli-driven material delivery and release using liquid marble	The 4th international Symposium on the Hybrid Materials and Processing (HyMaP 2017)	Busan, Korea	2017年11月
769	柏原佑亮、岡田駿、 藤井秀司、中村吉伸、 浦濱圭彬、日笠茂樹、 藤原和子	粘着剤の力学特性とその速度依存性	第38回粘着技術研究会	すみだ産業会館	2017年11月
770	中村充、堤亮太、 藤井秀司、中村吉伸	シランカップリング剤による無機粒子充てんエポキシ樹脂の低吸水性化	第38回粘着技術研究会	すみだ産業会館	2017年11月
771	岡田駿、藤井秀司、 中村吉伸、浦濱圭彬、 中嶋健、伊藤万喜子、 梁暁斌	原子間力顕微鏡によるフォースカーブからの粘着性発現メカニズムの考察	第38回粘着技術研究会	すみだ産業会館	2017年11月
772	堤亮太、佐々木凱央、 藤井秀司、中村吉伸、 日笠茂樹、藤原和子	アミノ基とメルカプト基を有するシランカップリング剤混合系による炭酸カルシウムの表面処理と充てんゴムの補強性	第38回粘着技術研究会	すみだ産業会館	2017年11月
773	羽後治佳、西澤伸朗、 中村吉伸、藤井秀司	リン元素を導入した高分子微粒子の創出	第36回無機高分子研究討論会	東京理科大学記念 講堂 神楽坂キャン パス	2017年11月
774	吹田 浩、 アフメド・シュエイブ、 アーデル・アカリシュ、 マイサ・マンズール、 伊藤淳志、中村吉伸、 鶴田浩章、安室喜弘、 サルマン・アル・マハリ	パーレーン王国バルバル神殿の保存のための研究	日本オリエント学会第59回大会	東京大学	2017年10月
775	岡田駿、藤井秀司、 中村吉伸、浦濱圭彬、 中嶋健、伊藤万喜子、 梁暁斌	アクリル系ブロックコポリマー粘着剤の粘着特性と原子間力顕微鏡によるフォースカーブとの関連	第17回高分子表面研究討論会	京都大学化学研究所	2017年10月
776	川嶋永人、眞山博幸、 中村吉伸、藤井秀司	光熱変換リキッドマーブルを用いた遠隔物質運搬・放出システムの構築	第17回高分子表面研究討論会	京都大学化学研究所	2017年10月

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
777 羽後治佳、西澤伸朗、 中村吉伸、藤井秀司	フリーラジカル分散重合によるリン酸基含有元素ブロック高分子微粒子の創出	第17回高分子表面研究討論会	京都大学化学研究所	2017年10月
778 伊藤将也、川嶋 永人、 中村吉伸、藤井秀司	光熱変換微粒子安定化泡の創出および光による泡の運動制御	第17回高分子表面研究討論会	京都大学化学研究所	2017年10月
779 藤井秀司、城戸弘平、 中村吉伸	ドライリキッド工学に基づく粉末状2液混合型接着剤の創出、	高分子学会 第66回高分子討論会	愛媛大学 城北キャンパス	2017年9月
780 藤井秀司、川嶋永人、 眞山博幸、 Maxime Paven、 Hans-Jürgen Butt、 中村吉伸	元素ブロック高分子粒子安定化リキッドマーブルに基づく物質運搬システムの構築	高分子学会 第66回高分子討論会	愛媛大学 城北キャンパス	2017年9月
781 川嶋永人、眞山博幸、 藤井秀司、中村吉伸	光刺激応答性リキッドマーブルを用いた物質運搬・放出制御	第68回 コロイドおよび 界面化学討論会	神戸大学 鶴甲第1キャンパス	2017年 9月
782 羽後治佳、西澤伸朗、 藤井秀司、中村吉伸	分散重合法によるリン酸基含有元素ブロック高分子微粒子の創出	第68回 コロイドおよび 界面化学討論会	神戸大学 鶴甲第1キャンパス	2017年 9月
783 伊藤将也、川嶋永人、 眞山博幸、中村吉伸、 藤井秀司	化学酸化重合法による光熱変換微粒子安定化泡カプセルの創出	第68回 コロイドおよび 界面化学討論会	神戸大学 鶴甲第1キャンパス	2017年 9月
784 Syuji Fujii, Hiroyuki Mayama, Hisato Kawashima, Maxime Paven, Hans-Jürgen Butt, Yoshinobu Nakamura	Stimuli-Driven Delivery and Release of Materials Using Liquid Marbles	IUMRS-ICAM 2017	Kyoto, Japan	2017年8月
785 N. Fukuda, Y. Nakamura, S. Fujii	Colloid transportation based on transpiration	IUMRS-ICAM 2017	Yosida Campus, Kyoto University	2017年8月
786 H. Kawashima, H. Mayama, S. Fujii, Y. Nakamura	Light-driven material transport system developed with liquid marble	IUMRS-ICAM 2017	Yosida Campus, Kyoto University	2017年8月
787 Kohei KIDO, Yoshinobu NAKAMURA, Syuji FUJII	Powdered twin-pack adhesive development based on soft dispersion materials	IUMRS-ICAM 2017	Yosida Campus, Kyoto University	2017年8月

プロジェクト番号

S1311041

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
788	福田奈央、中村吉伸、藤井秀司	蒸散現象に倣った高分子微粒子運搬技術の開発	第63回高分子研究発表会	兵庫県民会館	2017年7月
789	川嶋永人、眞山博幸、藤井秀司、中村吉伸	光応答リキッドマーブルを用いた物質運搬・放出制御	第63回高分子研究発表会	兵庫県民会館	2017年7月
790	城戸弘平、中村吉伸、藤井秀司	粉末状2液混合型接着剤の構造・物性評価	第63回高分子研究発表会	兵庫県民会館	2017年7月
791	笠原萌恵、城戸弘平、中村吉伸、藤井秀司	発音性粉体状粘着剤の創出	第63回高分子研究発表会	兵庫県民会館	2017年7月
792	羽後治佳、西澤伸朗、藤井秀司、中村吉伸	静電相互作用を利用する元素ブロック高分子微粒子の創出	第63回高分子研究発表会	兵庫県民会館	2017年7月
793	伊藤将也、川嶋永人、中村吉伸、藤井秀司	光熱変換微粒子安定化泡の創出	第63回高分子研究発表会	兵庫県民会館	2017年7月
794	岡田駿、高倉和希、野田昌代、藤井秀司、中村吉伸、浦濱圭彬、中嶋健、伊藤万喜子、梁曉斌	アクリル系ブロックコポリマー粘着剤の力学特性とAFMによるフォースカーブ	第63回高分子研究発表会	兵庫県民会館	2017年7月
795	堤亮太、藤井秀司、中村吉伸	メタクリロキシ基を有するシランカップリング剤のシリカ表面への反応性におよぼす室温放置と後処理の影響	第63回高分子研究発表会	兵庫県民会館	2017年7月
796	堤亮太、佐々木凱央、山崎諒太、藤井秀司、中村吉伸	アミノ基とメルカプト基を有するシランカップリング剤混合系による炭酸カルシウムの表面処理	第63回高分子研究発表会	兵庫県民会館	2017年7月
797	川嶋永人、眞山博幸、中村吉伸、藤井秀司	光熱変換リキッドマーブルを用いた物質運搬・放出制御への応用	第35回関西界面科学セミナー	神戸大学瀧川記念 学術交流会館	2017年6月 2017年7月
798	伊藤将也、川嶋永人、中村吉伸、藤井秀司	光熱変換微粒子安定化泡の創出および運動制御	第35回関西界面科学セミナー	神戸大学瀧川記念 学術交流会館	2017年6月 2017年7月

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
799	小椋 穰、今中 誠、 中村 吉伸、日笠 茂樹、 藤原 和子、吉田 瞬、 杉林 俊雄、木本 正樹	ゴム変性エポキシ樹脂のモード荷重下における その場観察	第55回日本接着学会年次大会	関西大学 千里山キャンパス	2017年6月
800	城戸 弘平、中村 吉伸、 藤井 秀司	2液混合型接着剤の粉体化	第55回日本接着学会年次大会	関西大学 千里山キャンパス	2017年6月
801	笠原 萌恵、城戸 弘平、 中村 吉伸、藤井 秀司	発音性リキッドマープル粘着剤の開発	第55回日本接着学会年次大会	関西大学 千里山キャンパス	2017年6月
802	伊藤 将也、川嶋 永人、 中村 吉伸、藤井 秀司	化学酸化重合法による微粒子安定化泡カプセルの創出	第55回日本接着学会年次大会	関西大学 千里山キャンパス	2017年6月
803	岡田 駿、高倉 和希、 野田 昌代、藤井 秀司、 中村 吉伸、浦濱 圭彬、 中嶋 健、伊藤 万喜子、 梁 曉斌	アクリル系ブロックポリマーのAFMIによる フォースカーブとタック特性の関連	第55回日本接着学会年次大会	関西大学 千里山キャンパス	2017年6月
804	堤 亮太、藤井 秀司、 中村 吉伸	メタクリロキシ基を有するシランカップリング剤の 反応性と重縮合体の生成量	第55回日本接着学会年次大会	関西大学 千里山キャンパス	2017年6月
805	堤 亮太、中村 吉伸、 山下 大輝、瀧田 健太、 藤井 秀司、鶴田 浩章、 伊藤 淳志、吹田 浩	文化財修復用アルコキシシランの諸特性	第55回日本接着学会年次大会	関西大学 千里山キャンパス	2017年6月
806	川嶋 永人、眞山 博幸、 藤井 秀司、中村 吉伸	光熱変換ポリマーで安定化されたリキッドマープルの創出と物質運搬システムへの応用	第66回高分子学会年次大会	幕張メッセ	2017年5月
807	城戸 弘平、中村 吉伸、 藤井 秀司	ドライリキッドエンジニアリングに基づく粉末状2 液混合型接着剤の創出	第66回高分子学会年次大会	幕張メッセ	2017年5月
808	笠原 萌恵、城戸 弘平、 中村 吉伸、藤井 秀司	発音性粉体状粘着剤の開発	第66回高分子学会年次大会	幕張メッセ	2017年5月
809	羽後 治佳、西澤 伸朗、 藤井 秀司、中村 吉伸	リン酸基含有元素ブロック高分子微粒子の創出	第66回高分子学会年次大会	幕張メッセ	2017年5月

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
810	伊藤将也、川嶋永人、 中村吉伸、藤井秀司	化学酸化重合法による微粒子安定化泡のカプセル化	第66回高分子学会年次大会	幕張メッセ	2017年5月
811	岡田駿、高倉和希、 野田昌代、藤井秀司、 中村吉伸、浦濱圭彬	ブロックコポリマー系粘着剤のAFMによる相構造解析と粘着特性	第66回高分子学会年次大会	幕張メッセ	2017年5月
812	堤亮太、藤井秀司、 中村吉伸	TG分析によるシリカ表面のシランカップリング剤分子の分析	第66回高分子学会年次大会	幕張メッセ	2017年5月
813	川嶋永人、眞山博幸、 藤井秀司、中村吉伸	光熱変換リキッドマーブルの創出と遠隔物質運動制御システムへの応用	2016年合同研究発表会	甲南大学 岡本キャンパス	2016年11月
814	城戸弘平、藤井秀司、 中村吉伸	ドライリキッド工学に基づく粉末状接着剤の創出	2016年合同研究発表会	甲南大学 岡本キャンパス	2016年11月
815	城戸弘平、藤井秀司、 中村吉伸	ドライリキッドを基盤技術とする粉末状接着剤の創出	第35回無機高分子研究討論会	東京理科大学	2016年11月
816	Kazuki TAKAKURA, Masayo NODA, Syuji FUJII, Yoshinobu NAKAMURA, Yoshiaki URAHAMA	Relation between peel strength and stringiness behavior for crosslinked polyacrylic pressure-sensitive adhesives	2nd International Pressure Sensitive Adhesive Technoforum	東京国際交流館	2016年11月
817	Masayo NODA, Kazuki TAKAKURA, Syuji FUJII, Yoshinobu NAKAMURA, Yoshiaki URAHAMA	Influences of crosslinking degree, entanglement and test rate on the adhesion and mechanical properties of polyacrylic pressure-sensitive adhesives	2nd International Pressure Sensitive Adhesive Technoforum	東京国際交流館	2016年11月
818	川嶋永人、眞山博幸、 藤井秀司、中村吉伸	物質運搬制御システム構築に向けた光熱変換リキッドマーブルの創出	第19回高分子ミクロスフェア討論会	千葉大学 西千葉キャンパス	2016年11月
819	城戸弘平、藤井秀司、 中村吉伸	気液分散体技術に基づく粉体化2液混合型接着剤の創出	第19回高分子ミクロスフェア討論会	千葉大学 西千葉キャンパス	2016年11月
820	福岡敬介、尾崎翔伍、 森田裕史、中村吉伸、 藤井秀司	二次元コロイド粒子配列体の応力変形を利用した非球状高分子微粒子の合成	第19回高分子ミクロスフェア討論会	千葉大学 西千葉キャンパス	2016年11月

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
821	川嶋永人、眞山博幸、 藤井秀司、中村吉伸	光熱変換リキッドマーブルの創出と物質運搬制御システムへの応用	日本接着学会関西支部 第12回若手の会	関西大学 千里山キャンパス 100周年記念会館	2016年10月
822	城戸弘平、藤井秀司、 中村吉伸	気液分散体技術を基にする2液混合型接着剤の粉体化	日本接着学会関西支部 第12回若手の会	関西大学 千里山キャンパス	2016年10月
823	堤亮太、藤井秀司、 中村吉伸	TG分析で検討したシランカップリング剤の反応性におよぼす有機官能基とアルコキシ数の影響	日本接着学会関西支部 第12回若手の会	関西大学 千里山キャンパス	2016年10月
824	福岡敬介、尾崎翔伍、 森田裕史、中村吉伸、 藤井秀司	二次元コロイド粒子配列体の応力変形を利用する非球状高分子微粒子の創出	日本接着学会関西支部 第12回若手の会	関西大学 千里山キャンパス	2016年10月
825	関戸崇文、 Hans-Jürgen Butt, Sanghyuk Wooh, 中村吉伸、藤井秀司	超撥液基板上における高分子微粒子3次元組織体の構造制御	日本接着学会関西支部 第12回若手の会	関西大学 千里山キャンパス	2016年10月
826	高倉和希、野田昌代、 藤井秀司、中村吉伸、 浦濱圭彬	アクリル架橋系粘着剤のピール強度と糸曳き挙動におよぼす試験速度の影響	日本接着学会関西支部 第12回若手の会	関西大学 千里山キャンパス	2016年10月
827	野田昌代、高倉和希、 藤井秀司、中村吉伸、 浦濱圭彬	アクリル架橋系粘着剤の分子鎖の絡み合いと力学特性および粘着特性との関連	日本接着学会関西支部 第12回若手の会	関西大学 千里山キャンパス	2016年10月
828	伊藤淳志、西形達明、 中村吉伸、鶴田浩章	イドウトの地下埋葬室の構造調査	関西大学 国際文化財・文化研究センター シンポジウム	関西大学 東京センター	2016年10月
829	関戸崇文、 Hans-Jürgen Butt, Sanghyuk Wooh, 中村吉伸、藤井秀司	超撥液基板上における高分子微粒子3次元組織体のモルフォロジー制御	第67回コロイドおよび 界面化学討論会	北海道教育大学 旭川校	2016年9月
830	川嶋永人、眞山博幸、 藤井秀司、中村吉伸	光熱変換リキッドマーブルを用いた物質運搬制御システムの構築	第67回コロイドおよび 界面化学討論会	北海道教育大学 旭川校	2016年9月
831	川嶋永人、眞山博幸、 藤井秀司、中村吉伸	近赤外光を用いた光熱変換リキッドマーブルの遠隔物質運動制御システムの構築	第34回関西界面科学セミナー もっと知りたい・ここが知りたい 分散と材料の界面科学	神戸大学	2016年7月

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
832	城戸弘平、藤井秀司、 中村吉伸	気液分散体技術を基にする粉末状2液 混合型接着剤の創出	第34回関西界面科学セミナー もっと知りたい・ここが知りたい 分散と材料の界面科学	神戸大学 六甲台 第2キャンパス	2016年7月
833	福田奈央、中村吉伸、 藤井秀司	植物の蒸散作用を利用した高分子粒子の運搬 技術の開発	第34回関西界面科学セミナー もっと知りたい・ここが知りたい 分散と材料の界面科学	神戸大学 六甲台 第2キャンパス	2016年7月
834	高倉和希、野田昌代、 藤井秀司、中村吉伸、 浦濱圭彬	アクリル架橋系粘着剤のピール強度と糸曳き挙 動におよぼす粘着剤層厚さの影響	第37回 粘着技術研究会	大阪科学技術 センター	2016年7月
835	野田昌代、高倉和希、 藤井秀司、中村吉伸、 浦濱圭彬	分子鎖の絡み合いがアクリル架橋系粘着剤の 力学特性とタックにおよぼす影響	第37回 粘着技術研究会	大阪科学技術 センター	2016年7月
836	川嶋永人、眞山博幸、 藤井秀司、中村吉伸	リキッドマーブルを用いた遠隔物質運搬システ ムの構築	第62 回高分子研究発表会	兵庫県民会館	2016 年7月
837	城戸弘平、藤井秀司、 中村吉伸	気液ソフト分散体を基盤材料とする粉末状2液 混合型接着剤の創出	第62 回高分子研究発表会	兵庫県民会館	2016 年7月
838	堤亮太、高倉和希、 藤井秀司、中村吉伸	各種官能基を有するシランカップリング剤の無 機粒子表面への反応性のTG分析による検討	第62 回高分子研究発表会	兵庫県民会館	2016 年7月
839	西澤伸朗、河村彩香、 桑折道済、中村吉伸、 藤井秀司	ポリドーパミン粒子を乳化剤としたピッカリング エマルションの創出	第62 回高分子研究発表会	兵庫県民会館	2016 年7月
840	福岡敬介、尾崎翔伍、 森田裕史、中村吉伸、 藤井秀司	二次元コロイド粒子配列体の応力変形を利用 する非球状高分子微粒子の合成	第62 回高分子研究発表会	兵庫県民会館	2016 年7月
841	関戸崇文、 Hans-Jürgen Butt, Sanghyuk Wooh, 中村吉伸、藤井秀司	超撥水性基板上における高分子微粒子 3次元組織体の創出	第62 回高分子研究発表会	兵庫県民会館	2016 年7月
842	高倉和希、野田昌代、 藤井秀司、中村吉伸、 浦濱圭彬	アクリル架橋系粘着剤のピール特性と糸曳き挙 動におよぼす分子構造の影響	第62 回高分子研究発表会	兵庫県民会館	2016 年7月

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
843	福田奈央、中村吉伸、藤井秀司	植物の蒸散現象を模した高分子微粒子運搬システムの開発	第62回高分子研究発表会	兵庫県民会館	2016年7月
844	野田昌代、高倉和希、藤井秀司、中村吉伸、浦濱圭彬	アクリル架橋系粘着剤の架橋点間に存在する絡み合い分子鎖の影響	第62回高分子研究発表会	兵庫県民会館	2016年7月
845	川嶋永人、眞山博幸、藤井秀司、中村吉伸	遠隔物質運動制御システム構築に向けた光熱変換リキッドマーブルの創出	ACA2016および第54回日本接着学会年次大会	東京工業大学大岡山キャンパス	2016年6月
846	城戸弘平、藤井秀司、中村吉伸	2液混合型粉末状接着剤の創出	ACA2016および第54回日本接着学会年次大会	東京工業大学大岡山キャンパス	2016年6月
847	堤亮太、高倉和希、藤井秀司、中村吉伸	TG分析によるシランカップリング剤のシリカ表面への反応性の検討	ACA2016および第54回日本接着学会年次大会	東京工業大学大岡山キャンパス	2016年6月
848	高倉和希、野田昌代、藤井秀司、中村吉伸、浦濱圭彬	アクリル架橋系粘着剤のピール特性と糸曳き挙動におよぼす粘着剤層厚さの影響	ACA2016および第54回日本接着学会年次大会	東京工業大学大岡山キャンパス	2016年6月
849	野田昌代、高倉和希、藤井秀司、中村吉伸、浦濱圭彬	引張速度の違いがアクリル架橋系粘着剤の弾性率とタックにおよぼす影響	ACA2016および第54回日本接着学会年次大会	東京工業大学大岡山キャンパス	2016年6月
850	川嶋永人、眞山博幸、藤井秀司、中村吉伸	光熱変換リキッドマーブルを用いた遠隔物質運動制御システムの構築	第65回高分子学会年次大会	神戸国際会議場・展示場	2016年5月
851	城戸弘平、藤井秀司、中村吉伸	ソフト分散体技術を基盤とする粉末状接着剤の創出	第65回高分子学会年次大会	神戸国際会議場・展示場	2016年5月
852	西澤伸朗、河村彩香、桑折道済、中村吉伸、藤井秀司	ポリドーパミン粒子を乳化剤としたエマルションの創出	第65回高分子学会年次大会	神戸国際会議場・展示場	2016年5月
853	福岡敬介、尾崎翔伍、中村吉伸、藤井秀司	2Dコロイド粒子配列体の応力変形を利用する非球状高分子微粒子の合成	第65回高分子学会年次大会	神戸国際会議場・展示場	2016年5月

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
854	関戸崇文、 Hans-Jürgen Butt、 Michael Kappl、 中村吉伸、藤井秀司	pH応答性ラテックス乾燥法と粒子乾燥体モル フォロジーの相関関係の解明	第65回高分子学会年次大会	神戸国際会議場・ 展示場	2016年5月
855	高倉和希、野田昌代、 藤井秀司、中村吉伸、 浦濱圭彬	アクリル架橋系粘着剤のピール特性におよぼす 粘着剤層厚さの影響	第65回高分子学会年次大会	神戸国際会議場・ 展示場	2016年5月
856	福田奈央、中村吉伸、 藤井秀司	植物の蒸散作用に基づく粒子運搬技術の開発	第65回高分子学会年次大会	神戸国際会議場・ 展示場	2016年5月
857	野田昌代、高倉和希、 藤井秀司、中村吉伸、 浦濱圭彬	アクリル架橋系粘着剤のタック特性におよぼす 基材と剥離速度の影響	第65回高分子学会年次大会	神戸国際会議場・ 展示場	2016年5月
858	西澤伸朗、中村吉伸、 藤井秀司	ソープフリー乳化重合法による元素ブロック高 分子微粒子の創出	元素ブロック第5回 合同修士論文発表会	京都リサーチ パーク	2016年3月
859	高倉和希、嘉流望、 野田昌代、藤井秀司、 中村吉伸、浦濱圭彬	アクリル架橋系粘着剤の糸引き挙動とピール特 性の関連	第9回若手シンポジウム 研究発表会	兵庫県立大学 姫路工学キャンパス	2016年3月
860	野田昌代、嘉流望、 高倉和希、藤井秀司、 中村吉伸、浦濱圭彬	弾性率の異なるアクリル架橋系粘着剤のタック 特性	第9回若手シンポジウム 研究発表会	兵庫県立大学 姫路工学キャンパス	2016年3月
861	伊藤淳志、西形達明、 鶴田浩章、中村吉伸	イドゥートの地下埋葬室での保全作業 —母岩の強化—	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月
862	高倉和希、嘉流望、 野田昌代、藤井秀司、 中村吉伸、浦濱圭彬	アクリル架橋系粘着剤のピール強度におよぼす 剥離速度の影響	第11回日本接着学会 関西支部若手の会	兵庫県立大学 姫路工学キャンパス	2015年11月
863	西澤伸朗、中村吉伸、 藤井秀司	有機高分子-シルセスキオキサン元素ブロック 高分子微粒子の合成	第11回日本接着学会 関西支部若手の会	兵庫県立大学 姫路工学キャンパス	2015年11月
864	野田昌代、嘉流望、 高倉和希、藤井秀司、 中村吉伸、浦濱圭彬	架橋度を変化させたアクリル架橋系粘着剤の 力学特性とタック特性	第11回日本接着学会 関西支部若手の会	兵庫県立大学 姫路工学キャンパス	2015年11月

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
865	福岡敬介、尾崎翔伍、 中村吉伸、藤井秀司	2Dコロイド粒子配列体の応力変形を利用した非 球状高分子微粒子の創出	第11回日本接着学会 関西支部若手の会	兵庫県立大学 姫路工学キャンパス	2015年11月
866	嘉流望、野田昌代、 藤井秀司、中村吉伸、 浦濱圭彬	アクリル架橋系粘着剤のタック特性におよぼす 凝集力の影響	第11回日本接着学会 関西支部若手の会	兵庫県立大学 姫路工学キャンパス	2015年11月
867	西澤伸朗、中村吉伸、 藤井秀司	有機高分子-かご状シルセスキオキサン元素ブ ロック高分子微粒子の合成	第16回高分子表面研究討論会	(株)島津製作所 三条工場内本館	2015年11月
868	野田昌代、嘉流望、 高倉和希、藤井秀司、 中村吉伸、浦濱圭彬	アクリル架橋系粘着の弾性率がタックに与える 影響	第16回高分子表面研究討論会	(株)島津製作所 三条工場内本館	2015年11月
869	福岡敬介、尾崎翔伍、 中村吉伸、藤井秀司	2Dコロイド粒子配列体の応力変形を利用した非 球状高分子微粒子の合成	第16回高分子表面研究討論会	(株)島津製作所 三条工場内本館	2015年11月
870	嘉流望、野田昌代、 高倉和希、藤井秀司、 中村吉伸、浦濱圭彬	粘着剤層厚さと凝集力がアクリル架橋系粘着剤 のタック特性におよぼす影響	第16回高分子表面研究討論会	(株)島津製作所 三条工場内本館	2015年11月
871	高倉和希、嘉流望、 野田昌代、藤井秀司、 中村吉伸、浦濱圭彬	アクリル架橋系粘着のピール強度と糸引き挙動 の速度依存性	第36回粘着技術研究会	すみだ産業会館	2015年10月
872	野田昌代、嘉流望、 高倉和希、藤井秀司、 中村吉伸、浦濱圭彬	粘着剤の力学特性から見たタック特性	第36回粘着技術研究会	すみだ産業会館	2015年10月
873	嘉流望、下嶋康平、 野田昌代、藤井秀司、 中村吉伸、浦濱圭彬	アクリル架橋系粘着剤の粘着剤層厚さがタック 特性におよぼす影響	第36回粘着技術研究会	すみだ産業会館	2015年10月
874	野田昌代、嘉流望、 高倉和希、藤井秀司、 中村吉伸、浦濱圭彬	アクリル架橋系粘着の架橋度が力学特性とタ ックにおよぼす影響	第65回ネットワークポリマー 講演討論会	新潟大学	2015年10月
875	嘉流望、野田昌代、 藤井秀司、中村吉伸、 浦濱圭彬	アクリル架橋系粘着剤のタック特性におよぼす 粘着剤層厚さの影響	第65回ネットワークポリマー 講演討論会	新潟大学	2015年10月

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
876	西澤伸朗、中村吉伸、藤井秀司	有機高分子-かご状シルセスキオキサン元素ブロック高分子粒子の創出	第66回コロイドおよび界面化学討論会(主催:公益社団法人日本化学会コロイドおよび界面化学部会)	鹿児島大学 群元キャンパス	2015年9月
877	福岡敬介、尾崎翔伍、中村吉伸、藤井秀司	2次元コロイド粒子配列体の応力変形を利用する非球状高分子微粒子の創出	第66回コロイドおよび界面化学討論会(主催:公益社団法人日本化学会コロイドおよび界面化学部会)	鹿児島大学 群元キャンパス	2015年9月
878	中村吉伸、嘉流望、野田昌代、豊川翔、藤井秀司	ポリマー接着剤による脆弱な壁の補修に関する基礎研究(ポスター発表)	2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウムin奈良	奈良春日野国際フォーラム 葦~I・RA・KA~	2015年8月
879	福岡敬介、尾崎翔伍、中村吉伸、藤井秀司	コロイド結晶の応力変形を利用する異形化ポリスチレン粒子の合成	第33回関西西界面科学セミナー	大阪工業大学 大阪センター	2015年7月
880	嘉流望、野田昌代、藤井秀司、中村吉伸、浦濱圭彬	粘着剤層厚さがアクリル架橋系粘着剤のタック特性におよぼす影響	第61回高分子研究発表会	兵庫県民会館	2015年7月
881	野田昌代、嘉流望、高倉和希、藤井秀司、中村吉伸、浦濱圭彬	力学特性から考察したアクリル架橋系粘着剤のタック	第61回高分子研究発表会	兵庫県民会館	2015年7月
882	高倉和希、野田昌代、嘉流望、藤井秀司、中村吉伸、浦濱圭彬	アクリル架橋系粘着剤のピール特性の剥離速度・角度依存性	第61回高分子研究発表会	兵庫県民会館	2015年7月
883	中山沙織、中村吉伸、藤井秀司	刺激応答性ヘアリー高分子微粒子で安定化された泡の構造評価	第61回高分子研究発表会	兵庫県民会館	2015年7月
884	西澤伸朗、中村吉伸、藤井秀司	有機高分子-かご状シルセスキオキサン元素ブロック高分子粒子の創出	第61回高分子研究発表会	兵庫県民会館	2015年7月
885	福岡敬介、尾崎翔伍、中村吉伸、藤井秀司	コロイド粒子二次元配列体の応力変形を利用する非球状高分子微粒子の創出	第61回高分子研究発表会	兵庫県民会館	2015年7月
886	嘉流望、野田昌代、藤井秀司、中村吉伸、浦濱圭彬	アクリル架橋系粘着剤のタック特性:粘着剤層厚さおよび温度の影響	第53回日本接着学会年次大会	愛知工業大学 八草キャンパス	2015年6月

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
887	野田昌代、高倉和希、 嘉流望、藤井秀司、 中村吉伸、浦濱圭彬	架橋密度および変形速度がアクリル架橋系粘着剤の力学特性とタック特性におよぼす影響	第53回日本接着学会年次大会	愛知工業大学 八草キャンパス	2015年6月
888	高倉和希、野田昌代、 嘉流望、藤井秀司、 中村吉伸、浦濱圭彬	アクリル架橋系粘着剤のピール強度の試験速度依存性	第53回日本接着学会年次大会	愛知工業大学 八草キャンパス	2015年6月
889	中山沙織、中村吉伸、 藤井秀司	pHおよび温度刺激に応答する高分子微粒子安定化泡	第53回日本接着学会年次大会	愛知工業大学 八草キャンパス	2015年6月
890	藤井秀司、澤田静香、 中山沙織、 ミヒヤエルカブル、 上野和之、下嶋康平、 ハンスヨーガンブット、 中村吉伸	粉体粘着剤	第53回日本接着学会年次大会	愛知工業大学 八草キャンパス	2015年6月
891	嘉流望、野田昌代、 高倉和希、藤井秀司、 中村吉伸、浦濱圭彬	アクリル架橋系粘着剤のタック特性におよぼす粘着剤層厚さと温度の影響	第64回高分子学会年次大会	札幌コンベンション センター	2015年5月
892	野田昌代、高倉和希、 嘉流望、藤井秀司、 中村吉伸、浦濱圭彬	アクリル架橋系粘着剤の力学特性とタック特性	第64回高分子学会年次大会	札幌コンベンション センター	2015年5月
893	高倉和希、野田昌代、 嘉流望、藤井秀司、 中村吉伸、浦濱圭彬	アクリル架橋系粘着剤のピール特性に及ぼす剥離速度および剥離角度の影響	第64回高分子学会年次大会	札幌コンベンション センター	2015年5月
894	下嶋康平、嘉流望、 藤井秀司、中村吉伸、 浦濱圭彬	アクリル架橋系粘着剤の糸曳き挙動におよぼす粘着剤層厚さの影響	第35回 粘着技術研究会	連合会館 東京都	2014年10月
895	嘉流望、下嶋康平、 藤井秀司、中村吉伸、 浦濱圭彬	アクリル架橋系粘着剤の分子構造がタック特性および剥離特性におよぼす影響	第35回 粘着技術研究会	連合会館 東京都	2014年10月
896	高倉和希、下嶋康平、 藤井秀司、中村吉伸、 浦濱圭彬	アクリル系粘着剤のピール特性におよぼす速度と分子構造の影響	第35回 粘着技術研究会	連合会館 東京都	2014年10月
897	野田昌代、嘉流望、 藤井秀司、中村吉伸、 浦濱圭彬	アクリル系粘着剤のタックと力学特性	第35回 粘着技術研究会	連合会館 東京都	2014年10月

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
898	嘉流望、下嶋康平、 藤井秀司、中村吉伸、 浦濱圭彬	アクリル架橋系粘着剤の分子構造がタック特性 および剥離特性におよぼす影響	第62回高分子討論会	長崎大学	2014年9月
899	下嶋康平、嘉流望、 藤井秀司、中村吉伸、 浦濱圭彬	アクリル架橋系粘着剤の糸曳き挙動におよぼ す粘着剤層厚さの影響	第62回高分子討論会	長崎大学	2014年9月
900	N.Karyu, K.Shitajima, S.Fujii, <u>Y.Nakamura</u> , Y.Urahama	Contact Time Dependent of Tack for Crosslinked Polyacrylic Pressure-Sensitive Adhesives With Two Different Molecular Structures	WCARP-V (5th World Congress on Adhesion and Related Phenomena,	Nara Prefectural New Public Hall	2014年9月
901	S.Hamasaki, E.J. Wanless, <u>Y. Nakamura</u> , S. Fujii	Polymeric Microcapsules Fabricated from Liquid Marbles	WCARP-V (5th World Congress on Adhesion and Related Phenomena,	Nara Prefectural New Public Hall	2014年9月
902	K. Shitajima, S. Fujii, <u>Y. Nakamura</u> , Y. Urahama	Influence of Adhesive Thickness on Stringiness Behaviour for Polyacrylic Pressure-Sensitive Adhesive	WCARP-V (5th World Congress on Adhesion and Related Phenomena,	Nara Prefectural New Public Hall	2014年9月
903	H. Takeoka, H. Hamasaki, <u>Y. Nakamura</u> , S. Fujii	Polypyrrole-platinum Nanocomposite Coating on Polystyrene Particles by Chemical Oxidative Seeded Dispersion Polymerization	WCARP-V (5th World Congress on Adhesion and Related Phenomena,	Nara Prefectural New Public Hall	2014年9月
904	上野和之、浜崎青、 G. Bournval, E.J.WANLESS、 中村吉伸、藤井秀司	リキッドマーブルのカプセル化および構造・安定 性評価	第65回コロイドおよび 界面化学討論会	東京理科大学	2014年9月
905	竹岡拓昭、和田倭佳、 遊佐真一、桜井伸一、 藤井秀司、中村吉伸	水系化学酸化分散重合による温度応答性ポリ ビロール-パラジウムナノコンポジット粒子の創 出	第65回コロイドおよび 界面化学討論会	東京理科大学	2014年9月
906	嘉流望、下嶋康平、 藤井秀司、中村吉伸、 浦濱圭彬	アクリル架橋系粘着剤の分子構造がタック特性 へ与える影響	第60回高分子研究発表会	兵庫県民会館	2014年7月
907	下嶋康平、嘉流望、 藤井秀司、中村吉伸、 浦濱圭彬	粘着剤層厚さがアクリル架橋系粘着剤の糸曳 き挙動におよぼす影響	第60回高分子研究発表会	兵庫県民会館	2014年7月
908	中山沙織、浜崎青、 Hans-Jürgen Butt, 藤井秀司、中村吉伸	ヘアリー粒子によって安定化された泡の安定 性・構造評価	第60回高分子研究発表会	兵庫県民会館	2014年7月

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
909 竹岡拓昭、和田優佳、遊佐真一、桜井伸一、藤井秀司、中村吉伸	温度応答性ナノコンポジット粒子の創出	第60回高分子研究発表会	兵庫県民会館	2014年7月
910 上野和之、GhislainBOURNVAL, Erica J. WANLESS, 中村吉伸、藤井秀司	高分子微粒子によって安定化されたリキッドマールのカプセル化および安定性評価	第60回高分子研究発表会	兵庫県民会館	2014年7月
911 下嶋康平、藤井秀司、中村吉伸、浦濱圭彬	アクリル系粘着剤の糸曳き挙動におよぼすネットワーク密度と分子構造の影響	精密ネットワークポリマー研究会 第7回若手シンポジウム	東京工業大学大岡山キャンパス	2014年3月
912 S.Yusa, K.Nakai, S.Fujii, Y.Nakamura, Y.Iwasaki	Stimuli-responsive Liquid Marbles	5th Asian Conference on Colloid and Interface Science (ACCIS 2013)	University of North Bengal India	2013年11月
913 下嶋康平、藤井秀司、中村吉伸、浦濱圭彬	アクリル系粘着剤の糸曳き形状におよぼす分子構造と架橋度の影響	第34回 粘着技術研究会	連合会館 東京都	2013年11月
914 嘉流望、藤井秀司、中村吉伸、浦濱圭彬	架橋型アクリル粘着剤の密着性におよぼす分子構造の影響	第34回 粘着技術研究会	連合会館 東京都	2013年11月
915 藤井秀司、原松栄次、中村吉伸、森田裕史	2次元ソフト微粒子配列体の応力変形および数値解析	第64回コロイドおよび界面化学討論会	名古屋工業大学	2013年9月
916 江口洋介、藤井秀司、中村吉伸	微粒子安定化エマルション工学	第64回コロイドおよび界面化学討論会	名古屋工業大学	2013年9月
917 山本祐輔、藤井秀司、中村吉伸、日笠茂樹、藤原和子	ポリアクリル酸ブチル-シリカナノコンポジット粒子の創出および新規複合粘着剤への応用	第64回コロイドおよび界面化学討論会	名古屋工業大学	2013年9月
918 藤井秀司、濱崎博行、中村吉伸、大高敦、阿部浩也、山中真也	有機無機同時析出重合法による磁性ナノコンポジット触媒粒子の創出	第62回高分子討論会	金沢大学 角間キャンパス	2013年9月
919 山本祐輔、藤井秀司、中村吉伸、日笠茂樹、藤原和子	ナノコンポジット粘着剤の創出・機能評価	第15回日本接着学会 関西支部 若手の会	神戸大学 統合研究拠点 コンベンションホール	2013年9月

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
920 嘉流望、武南行記、 下嶋康平、藤井秀司、 中村吉伸、浦濱圭彬	タック特性による架橋型アクリル系粘着剤の濡れ挙動の考察	第15回日本接着学会 関西支部 若手の会	神戸大学 統合研究拠点 コンベンションホール	2013年9月
921 下嶋康平、藤井秀司、 中村吉伸、浦濱圭彬	架橋型アクリル系粘着剤における縁を有する糸曳き形状の出現	第15回日本接着学会 関西支部 若手の会	神戸大学 統合研究拠点 コンベンションホール	2013年9月
922 山崎諒太、藤井秀司、 中村吉伸	シランカップリング剤処理層中の物理吸着分子の存在比におよぼす処理条件の影響	第15回日本接着学会 関西支部 若手の会	神戸大学 統合研究拠点 コンベンションホール	2013年9月
923 中山沙織、浜崎青、 上野和之、藤井秀司、 中村吉伸	微粒子安定化泡の安定性・構造評価	第15回日本接着学会 関西支部 若手の会	神戸大学 統合研究拠点 コンベンションホール	2013年9月
924 竹岡拓昭、濱崎博行、 藤井秀司、中村吉伸	水系化学酸化シード分散重合によるナノコンポジット被覆高分子微粒子の創出	第15回日本接着学会 関西支部 若手の会	神戸大学 統合研究拠点 コンベンションホール	2013年9月
925 江口洋介、藤井秀司、 中村吉伸	ピッカリングエマルジョン工学: 多中空構造体の創出	第15回日本接着学会 関西支部 若手の会	神戸大学 統合研究拠点 コンベンションホール	2013年9月
926 中井啓太、遊佐真一、 藤井秀司、中村吉伸、 丸山厚、嶋田直彦	感温性ポリマーによる水滴のカプセル化 森原 将史、	第59回高分子研究発表会	兵庫県民会館	2013年7月
927 竹岡拓昭、濱崎博行、 藤井秀司、中村吉伸	有機無機同時析出シード分散重合法によるナノコンポジット被覆微粒子の創出	第59回高分子研究発表会	兵庫県民会館	2013年7月
928 上野和之、浜崎青、 福井伶子、藤井秀司、 中村吉伸	リキッドマーブルを利用した水含有高分子カプセルの創製	第59回高分子研究発表会	兵庫県民会館	2013年7月
929 山下幸造、藤井秀司、 中村吉伸	水系シード分散重合によるポリドーパミン被覆微粒子の合成	第59回高分子研究発表会	兵庫県民会館	2013年7月
930 山崎諒太、藤井秀司、 中村吉伸	熱重量分析によるシランカップリング剤処理層中の物理吸着分子についての考察	第59回高分子研究発表会	兵庫県民会館	2013年7月

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
931	下嶋康平、高田恭平、山村和広、藤井秀司、中村吉伸、浦濱圭彬、藤原和子、日笠茂樹	アクリル系ブロックコポリマー/タックファイヤ系の粘着特性	第59回高分子研究発表会	兵庫県民会館	2013年7月
932	藤井秀司、横山雄一、中村吉伸、遊佐真一、伊東聖訓	ヤヌス粒子の界面吸着現象を利用したエマルジョンの安定化	文部科学省・科学研究費補助金・新学術領域研究「ソフトインターフェースの分子科学」第10回公開シンポジウム	東京大学 駒場キャンパス	2013年7月
933	藤井秀司、濱崎博行、中村吉伸	機能性ドーパントを利用する導電性高分子の構造・機能制御	文部科学省 科学研究費 新学術領域研究 元素ブロック 高分子材料の創出 第2回公開シンポジウム	東京工業大学 大岡山キャンパス	2013年7月
934	上野和之、浜崎青、福井伶子、藤井秀司、中村吉伸、Erica Wanless	水含有カプセル粒子の創出	第51回日本接着学会年次大会	明治大学 駿河台キャンパス	2013年6月
935	江口洋介、藤井秀司、中村吉伸	微粒子安定化エマルジョンをプラットフォームとする多中空構造体の創出	第51回日本接着学会年次大会	明治大学 駿河台キャンパス	2013年6月
936	藤井秀司、原松栄次、中村吉伸、森田裕史	2次元ソフト微粒子配列体の応力変形	第51回日本接着学会年次大会	明治大学 駿河台キャンパス	2013年6月
937	下嶋康平、藤井秀司、中村吉伸、浦濱圭彬	架橋型アクリル系粘着剤の糸曳き形状に影響する因子の検討	第51回日本接着学会年次大会	明治大学 駿河台キャンパス	2013年6月
938	中村吉伸、福田知由、藤井秀司	シリカ粒子充てんSBRの引張特性におよぼすメルカプト基含有シランカップリング剤の添加方法の影響	第51回日本接着学会年次大会	明治大学 駿河台キャンパス	2013年6月
939	中村吉伸、山村和広、武南行記、下嶋康平、藤井秀司、浦濱圭彬	ブロータック試験による架橋型アクリル系粘着剤の被着体への濡れ挙動の検討	第51回日本接着学会年次大会	明治大学 駿河台キャンパス	2013年6月
940	江口洋介、藤井秀司、中村吉伸	ピッカリングエマルジョン集合体の作製:ナノメートルからミリメートルの階層構造	第62回高分子学会年次大会	京都国際会館	2013年5月
941	竹岡拓昭、濱崎博行、藤井秀司、中村吉伸	有機無機同時析出化学酸化シード重合によるポリスチレン/ポリピロール-白金ナノコンポジット粒子の創出	第62回高分子学会年次大会	京都国際会館	2013年5月

プロジェクト番号

S1311041

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
942	山下幸造、藤井秀司、 中村吉伸	水系分散重合によるポリドーパミンナノ微粒子の合成	第62回高分子学会年次大会	京都国際会館	2013年5月
943	藤井秀司、原松栄次、 中村吉伸、森田裕史	ソフト微粒子から形成される2次元配列体の応力変形	第62回高分子学会年次大会	京都国際会館	2013年5月
944	山本祐輔、藤井秀司、 中村吉伸、日笠茂樹、 藤原和子	高分子-シリカナノコンポジット粒子の創出および粘着特性に及ぼすシリカナノ粒子の影響	第62回高分子学会年次大会	京都国際会館	2013年5月
945	下嶋康平、藤井秀司、 中村吉伸、浦濱圭彬	架橋型粘着剤の糸曳き挙動: ポリマー構造の影響	第62回高分子学会年次大会	京都国際会館	2013年5月
946	山崎諒太、藤井秀司、 中村吉伸	熱重量分析によるシランカップリング剤のシリカ粒子への反応性の検討	第62回高分子学会年次大会	京都国際会館	2013年5月

プロジェクト番号

S1311041

<PD・特任研究員、RA等の研究成果一覧>

(雑誌論文)

末森 薫

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
947	吹田浩、末森薫	関西大学国際文化財・文化研究センターの活動	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)
948	吹田浩、肥後時尚、末森薫、 サルマン・アルマハリ	バーレーン王国における文化遺産保護プロジェクト	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)
949	安室喜弘、森直紀、廣瀬詢、 藤里和樹、高橋里緒、 肥後時尚、末森薫、吹田浩	写真測量とレーザースカナにもとづいた文化財の過去と現在の視覚的照合—バルバル神殿を事例として—	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)
*950	森直紀、廣瀬詢、藤里和樹、 高橋里緒、肥後時尚、 末森薫、吹田浩、安室喜弘	写真測量とレーザースカナにもとづいた文化財の過去と現在の視覚的照合	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(5)	未定	2018年3月(予定)
951	Naoko SONODA, Shingo HIDAHA, Kaoru SUEMORI	Challenges and reflections for a sustainable climate control at the National Museum of Ethnology, Japan	ICOM-CC 18th Triennial Conference 2017 Copenhagen	頁番号なし	September, 2017
952	末森 薫	敦煌莫高窟の北周代における石窟空間構成—図案が示す方向性による解釈—	『世界遺産学研究』(4) *査読通過、年度内発刊予定	32-62	2017年8月

佐々木 淑美

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
953	Juni Sasaki	Material and Technique of Mosaics in Hagia Sophia, Istanbul —Reuse of gold tesserae and an attempt to estimate age—	Getty Conservation Institute Proceedings, 12th Conference of the International Committee for the Conservation of Mosaics (ICCM), Italy - Sardinia, October 27-31, 2014	未定	2017年9月(予定)
954	佐々木淑美、石崎武志	ハギア・ソフィア大聖堂南北ギャラリー階モザイクの制作年代と保存状況に関する調査	平成28年度東北芸術工科大学 文化財保存修復研究センター紀 要No.7	18-26	2017年5月
955	佐々木淑美、犬塚将英	煉瓦造文化遺産の保存環境と塩類析出に関する調査—INAXライブミュージアム「窯のある資料館」を事例に—	保存科学 第56号	175-187	2017年3月
956	佐々木 淑美	ハギア・ソフィア大聖堂北ティンパナム壁の修復史	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(4)	189-198	2017年3月
957	佐々木淑美、小椋大輔、 安福勝、水谷悦子、 石崎武志	ハギア・ソフィア大聖堂内壁修復に伴う壁材および修復史の調査—北西エクセドラと北ティンパナムを例に—	平成26年度東北芸術工科大学 文化財保存修復研究センター紀 要・事業報告No.6	8-18	2016年5月

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
*958 佐々木淑美、小椋大輔、安福勝、水谷悦子、石崎武志、	ハギア・ソフィア大聖堂のペンデンティブに残るモザイクおよび壁画に関する調査	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	137-148	2016年3月

ヘシャーム・モハメド

著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
*959 ヘシャーム・モハメド	A Review of the Seismicity and Impact of Earthquakes on Life in Egypt	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	55-71	2016年3月

スライマーン・アラールエルディーン

著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
960 スライマーン・アラールエルディーン	標準アラビア語における基本構文の分類 —動詞を含む文と無動詞文の違いについて—	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	67-79	2015年3月
961 スライマーン・アラールエルディーン	ゼロ繋辞文における一致関係 —標準アラビア語の[0NP _i +NP ₂]構文の場合—	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	23-32	2014年3月

藤井 信之

著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
962 藤井 信之	サイス王朝(第26王朝)時代のエジプト —対外政策を中心に—	関西大学 国際文化財・文化研究センター エジプト学研究セミナー	未定	2018年3月(予定)
*963 藤井 信之	リビア系諸王朝と諸王をめぐる問題について	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(5)	未定	2018年3月(予定)
964 藤井 信之	リビア王朝の分権的支配と婚姻政策	関西大学 国際文化財・文化研究センター エジプト学研究セミナー	63-87	2017年3月
965 藤井 信之	日本国内のエジプト・コレクション	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(4)	177-187	2017年3月
966 藤井 信之	リビア系諸王朝と諸王をめぐる問題について	古代エジプト研究	23-47	2016年12月
967 藤井 信之	A Prosopographical Study of the Inscription on the Sarcophagus of Pediese (Berlin29):An Aspect of the Political Structure of Egypt in the Fourth Century B.C.E.	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	49-65	2015年3月
*968 藤井 信之	陛下の第一の大將軍パディアセトについて—石棺 Berlin29の碑文からみた前4世紀のエジプト—	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	41-54	2014年3月

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

吹田 真里子

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
*969	吹田 真里子	ペンメルウ(Pn-mrw)の遺書に見る女性の位置づけ —葬祭神官の職をめぐって—	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	33-39	2014年3月
*970	廣池晋治、坂元仁、 アフメド・シュエイフ、 吹田真里子、吹田浩、 高島浩介、土戸哲明	気相系シャーレおよび彩色石片上でのn-アルカノール の抗カビ活性	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	135-145	2014年3月

肥後 時尚

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
971	肥後 時尚	「コフィン・テキスト」における「二柱のマアト」(MAAty)	オリエント 60-(2)	未定	2018年3月(予定)
972	鶴田浩章、中村吉伸、 伊藤淳志、肥後時尚、吹田 浩	イドウトのmastaba墓における岩盤等の補強対策と 品質評価	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)
973	吹田浩、肥後時尚	イドウトのmastaba墓における壁画の復元	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)
974	吹田浩、肥後時尚、末森薫、 サルマン・アルマハリ	パーレン王国における文化遺産保護プロジェクト	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)
975	安室喜弘、森直紀、廣瀬詢、 藤里和樹、高橋里緒、 肥後時尚、末森薫、吹田浩	写真測量とレーザスキャナにもとづいた文化財の過 去と現在の視覚的照合—バルバル神殿を事例として —	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)
*976	森直紀、廣瀬詢、藤里和樹、 高橋里緒、肥後時尚、末森 薫、 吹田浩、安室喜弘	写真測量とレーザスキャナにもとづいた文化財の過 去と 現在の視覚的照合	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(5)	未定	2018年3月(予定)
*977	肥後 時尚	サッカー、ウニスの共同墓地における私人墓調査の 現状	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(4)	269-282	2017年3月
*978	鶴田浩章、中村吉伸、 伊藤淳志、肥後時尚、 吹田浩	エジプト国イドウト及びパーレン国バルバル神殿 における岩盤等の補強対策と品質評価	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(4)	29-38	2017年3月
*979	安室喜弘、頼光拓真、 藤里和樹、肥後時尚、 吹田浩	写真測量にもとづく文化財の経時的変化の可視化手 法 —Barbar Templeにおける変容検証への試み—	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(4)	39-48	2017年3月
*980	肥後時尚、青木彩香、 松下亮介、安室喜弘、 吹田浩	イドウトのmastaba「第3室西壁」における3次元計測 データを用いた復元と再解釈	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	9-22	2016年3月

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
*981 安室喜弘、松下亮介、 肥後時尚、吹田浩	イドゥートのマスタバ調査プロジェクトにおけるモバイルAR システムの提案	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	1-8	2016年3月
982 松下亮介、肥後時尚、 吹田浩、安室喜弘	考古学プロジェクトにおける3DデジタルアーカイブのためのARインタフェース 3DデジタルアーカイブのためのARインタフェース	第20回日本バーチャルリアリティ学会大会論文集	259-262	2015年9月
*983 肥後 時尚	古代エジプト古王国時代のマアトの一側面—ピラミッド・テキスト第260番から	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	215-228	2015年3月

(学会発表)

末森 薫

発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
*984 吹田浩、伊藤淳志、 末森薫	関西大学国際文化財・文化研究センターの活動	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告会	関西大学 梅田キャンパス	2017年12月
*985 Hitroshi SUITA, Aisushi ITO, Kaoru SUEMORI	Ten Years of Kansai University Mission	International Meeting for saving Saqqara Archaeological Heritage in Saqqara: Ten Years Achievements of Kansai University Mission	Saqqara Palm Club Hotel, Giza, Egypt	November ,2017
986 Naoko SONODA, Shingo HIDAKA, Kaoru SUEMORI	Challenges and reflections for a sustainable climate control at the National Museum of Ethnology, Japan	The 18th Triennial Conference of the International Council of Museums Committee for Conservation (ICOM-CC)	Copenhagen, Denmark	September 4-8, 2017
987 Kaoru SUEMORI, Yue Yongchiang, Li Tianming, Ma Qian, Dong Guanchang, Toshiya MATUI, Haruo YAGI	Optical photographic examination of mural paintings in Cave 127 of the Majijshan Grottoes, Tianshui, China	Symposium of Conservation of Cultural Heritage in East Asia in Shanghai	Shanghai, China	August 24-26, 2017
988 末森薫、園田直子、 日高真吾、奥村泰之、 河村友佳子、橋本沙知、 和高智美、高橋由美子	十日町で発見された越後縮「御召縮」関連資料の光学調査	文化財保存修復学会 第39回大会	金沢	2017年7月
989 園田直子、日高真吾、 末森薫、松田万緒、 西澤昌樹、和高智美、 河村友佳子、橋本沙知	国立民族学博物館における収蔵庫再編成—民族資料の収納・保管改善—	文化財保存修復学会 第39回大会	金沢	2017年7月
990 日高真吾、園田直子、 末森薫、西澤昌樹、 吉田憲司、和高智美、 河村友佳子、橋本沙知	国立民族学博物館の失火対応について—消火剤の除塵を中心に—	文化財保存修復学会 第39回大会	金沢	2017年7月
991 和高智美、日高真吾、 園田直子、末森薫、 河村友佳子、橋本沙知、 村山歩	密閉型額装を用いた展示・保管方法の有効性の検証—十日町市博物館所蔵資料「藕糸織」の事例から—	文化財保存修復学会 第39回大会	金沢	2017年7月
992 河村友佳子、橋本沙知、 日高真吾、園田直子、 末森薫、和高智美、 園本信夫、本田光子	被災した民俗資料の応急処置—熊本地震の経験から—	文化財保存修復学会 第39回大会	金沢	2017年7月

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
993 末森薫、園田直子、 日高真吾、長野泰彦、 河村友佳子、橋本沙知、 和高智美、藤井裕之	民族・民俗資料を対象とした光学調査の応用事例 —チベット版木に刻まれた文字の可視化と変退色し た春日地藏講所蔵絵馬の図案復元—	日本文化財科学会 第34回大会	山形	2017年6月
994 日高真吾、吉田憲司、 丸川雄三、寺村裕史、 末森薫、和高智美	東日本大震災を契機に開発した 『津波の記憶を刻む文化遺産「寺社・石碑」データ ベース』の可能性	日本文化財科学会 第34回大会	山形	2017年6月
995 和高智美、日高真吾、 末森薫、川越和四、 福田尚、幡野寛治	学校を利用した収蔵施設の維持管理に関する一考察 —宮城県気仙沼市旧月立中学校収蔵施設の事例か ら—	日本文化財科学会 第34回大会	山形	2017年6月
996 河村友佳子、橋本沙知、 日高真吾、園田直子、 寺村裕史、末森薫、 和高智美	3Dスキャナー及び3Dプリンターの文化財分野での活 用についての検証 —七宝山神恵院観音寺所蔵扁額のレプリカ制作をと おして—	日本文化財科学会 第34回大会	山形	2017年6月

佐々木 淑美

発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
997 佐々木 淑美	ハギア・ソフィア大聖堂ペンデンティブの保存状況なら びに材料・技法に関する調査	日本建築学会大会	福岡大学	2016年8月
998 佐々木 淑美	ハギア・ソフィア大聖堂西ギャラリー階モザイクの調査	文化財保存修復学会第38回大 会	東海大学	2016年6月
999 佐々木淑美、石崎武志	ハギア・ソフィア大聖堂内壁修復に伴う壁材および修 復史の調査—北ティンパヌムを例に—	日本文化財科学会 第33回大会	奈良大学	2016年6月
1000 佐々木淑美、小椋大輔、 安福 勝、水谷悦子、 石崎武志	ハギア・ソフィア大聖堂における飛来海塩粒子量の調 査	日本文化財科学会 第33回大会	奈良大学	2016年6月
*1001 佐々木 淑美	ハギア・ソフィア大聖堂南ギャラリー階モザイクの保存 状況ならびに材料・技法に関する調査	日本建築学会大会	東海大学	2015年9月
*1002 水谷悦子、小椋大輔、 石崎武志、安福勝、 佐々木淑美	ハギア・ソフィア大聖堂の壁画保存に関する研究 そ の4 観光客からの熱水分発生が内壁表面における 水分蒸発に及ぼす影響に関する検討	日本建築学会大会	東海大学	2015年9月
*1003 佐々木淑美、石崎武志	トルコにおける飛来海塩粒子量の測定	2015東アジア文化遺産保存 国際シンポジウムin奈良	奈良春日野国際フォー ラム 豊 ~I・RA・KA~	2015年8月
*1004 佐々木淑美、吉田直人、 小椋大輔、安福勝、 水谷悦子、石崎武志	トルコの歴史的建築物の内壁における塩類析出に関 する調査	日本文化財科学会 第32回大会	東京学芸大学	2015年7月
*1005 佐々木淑美、吉田直人、 小椋大輔、安福勝、 水谷悦子、石崎武志	ハギア・ソフィア大聖堂の南北ティンパヌム壁画材料 に関する調査	日本文化財科学会 第32回大会	東京学芸大学	2015年7月

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
*1006	水谷悦子、小椋大輔、石崎武志、安福勝、佐々木淑美	観光客からの熱水分発生がハギア・ソフィア大聖堂の壁画の劣化に与える影響の検討	日本文化財科学会 第32回大会	東京学芸大学	2015年7月
*1007	佐々木淑美、石崎武志	ハギア・ソフィア大聖堂南側廊および南北ギャラリー階モザイクの金テッセラに関する調査	文化財保存修復学会 第37回大会	京都工芸繊維大学	2015年6月

藤井 信之

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
1008	中野智章、小野塚拓造、河合望、吹田浩、田澤恵子、藤井信之、和田浩一郎	日本の古代エジプト資料に関する情報の把握と発信 (ポスター発表)	日本オリエント学会第59回大会	東京大学	2017年10月
1009	藤井 信之	松岡美術館所蔵の木製人型棺について:制作年代と被葬者の家系をめぐる問題を中心に	日本オリエント学会 第56回大会	上智大学	2014年10月
1010	藤井 信之	エジプト第26王朝期の將軍および提督たち:軍制の変化からみたサイス朝の支配体制	日本オリエント学会 第55回大会	京都外国語大学	2013年10月

吹田 真里子

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
*1011	Hiroshi SUITA, Mariko SUITA, Tokihisa HIGO	Reconstruction of Paintings in Mastaba Idout	International Meeting for saving Saqqara Archaeological Heritage in Saqqara: Ten Years Achievements of Kansai University Mission	Saqqara Palm Club Hotel, Giza, Egypt	November, 2017
*1012	吹田 浩、アフメド・シュエイブ、アーデル・アカリシュ、沢田正昭、西浦忠輝、吹田真里子	日本のフノリによる表打ち技術の海外壁画修復への応用 (ポスター発表)	2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウム in奈良	奈良春日野国際フォーラム 豊 ~I・RA・KA~	2015年8月
*1013	廣池晋治、涌田恭兵、坂元仁、アフメド・シュエイブ、吹田真里子、吹田浩、久米田裕子、高島浩介、土戸哲明	寒天平板及び彩色石片上での黴の発育に対する n-Alkanols の阻害効果 (Inhibitory Effect of n-alkanols on Fungal Growth on the Agar Plates and the Painted Stone Chips)	2013 東アジア文化遺産保存国際シンポジウム	韓国	2013年9月

肥後 時尚

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
1014	肥後時尚	Verificattion of Current Situation of the Barbar Temple	関西大学 国際文化財・文化研究センター 成果報告会	バーレーン王国	2017年12月
*1015	吹田浩、肥後時尚	バーレーン王国、バルバル神殿の現状調査	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告会	関西大学 梅田キャンパス	2017年12月
*1016	Hiroshi SUITA, Mariko SUITA, Tokihisa HIGO	Reconstruction of Paintings in Mastaba Idout	International Meeting for saving Saqqara Archaeological Heritage in Saqqara: Ten Years Achievements of Kansai University Mission	Saqqara Palm Club Hotel, Giza, Egypt	November, 2017

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
*1017	Tokihisa HIGO	Maat in the Pyramid Texts	The Second Annual Egyptology Graduate Student Conference, Brown University	Providence, USA	November ,2017
1018	肥後 時尚	古代エジプトの「二道の書」におけるマアト	日本オリエント学会 第59回大会	東京	2017年10月
1019	肥後 時尚	古代エジプトの葬祭文書におけるマアト女神(仮)	日本宗教学会 第76回学術大会	東京	2017年9月
1020	Tokihisa HIGO	Maat in the Coffin Texts	Egyptological Conference in Copenhagen, 2017	Copenhagen, Denmark	May , 2017
1021	肥後 時尚	古代エジプトのマアト —「コフィン・テキスト」の決定詞から—	関西大学史学地理学会 2016年度大会・総会	大阪	2016年12月
1022	肥後 時尚	古代エジプトのマアトの形態分類 —中王国時代の文献資料を中心に—	日本オリエント学会 第58回大会	東京	2016年11月
1023	Yoshihiro YASUMURO, Ryosuke MATSUSHITA, Tokihisa HIGO, Hiroshi SUITA	On-site AR Interface based on Web-based 3D Database for Cultural Heritage in Egypt	EUROGRAPHICS Workshop on Graphics and Cultural Heritage (2016)	Genova, Italy	October , 2016
1024	肥後 時尚	古代エジプトのマアト —葬祭文書の事例から—	日本宗教学会 第75回学術大会	東京	2016年9月
1025	肥後 時尚	古代エジプトの宗教文化研究 —マアト研究を事例に—	東方キリスト教圏研究会 第12回例会	京都	2016年4月
*1026	肥後 時尚	古代エジプトのマアト研究 —葬祭文書に焦点を当てた文献研究の提示—	第41回古代エジプト研究会	中部大学	2015年11月
*1027	肥後 時尚	古代エジプトの「コフィン・テキスト」におけるマアトの一側面	日本オリエント学会 第57回大会	北海道大学	2015年10月
1028	Ryosuke Matsushita, Tokihisa Higo, Hiroshi Suita, Yoshihiro Yasumuro	On-site AR Interface with Web-based 3D Archiving System for Archaeological Project	IEEE International Symposium on Mixed and Augmented Reality 2015 (ISMAR2015)	Fukuoka, Japan	2015年9月
1029	松下亮介、肥後時尚、 吹田浩、安室喜弘	考古学プロジェクトにおける3DデジタルアーカイブのためのARインタフェース	第20回日本バーチャルリアリティ学会大会	東京	2015年9月

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
1030	松下亮介、安室喜弘 吹田浩、肥後時尚	考古学プロジェクトにおけるデジタルアーカイブのための3DWebポータル	情報処理学会 人文科学と コンピュータシンポジウム (じんもんこん2014)	東京	2014年12月

(その他の研究成果)

末森 薫

(講演・セミナー)

	発表者名	発表標題名	主催	開催地	発表年月
1031	末森 薫	文化財保存修復セミナー 文化遺産と国際協力	関西大学 国際文化財・文化研究センター	関西大学 千里山キャンパス	×
*1032	末森 薫	エジプトにおける日本の文化遺産保護	エジプト文化遺産研究会	関西大学 梅田キャンパス	2018年1月
1033	末森 薫	第5部 学生・大学院生による地域文化の再発見 討 論 (コーディネーター)	国際フォーラム「地域文化の再発 見—大学・博物館の視点から—	別府大学	2017年10月
1034	末森 薫	御召縮文書の光学調査 中間報告会: 篤姫と和宮が 愛した御召縮の解明に向けて 「縮問屋加賀屋無木家所蔵・松村屋根津家屏風包紙 文書 光学撮影調査 中間報告」	十日町市古文書整理ボランティア	十日町情報館	2017年5月

(その他)

	派遣者	事業名	事業主	派遣地	派遣時期
1035	末森 薫	大エジプト博物館合同保存修復プロジェクト 担当業務: 収蔵品管理、殺虫処理	国際協力機構	エジプト・ギザ	2017年7月

肥後 時尚

(講座・セミナー)

	発表者名	発表標題名	主催	開催地	発表年月
*1036	肥後 時尚	古代エジプトの文化史研究—文献学の視点から—	エジプト文化遺産研究会	関西大学 梅田キャンパス	2018年1月
1037	肥後時尚、藤井信之	中期エジプト語講座 中級	関西大学 国際文化財・文化研究センター	関西大学 梅田キャンパス	2017年11月 2017年12月
1038	肥後時尚、吹田浩	中期エジプト語講座 初級	関西大学 国際文化財・文化研究センター	関西大学 梅田キャンパス	2017年6月

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

藤井 信之

(講演・セミナー)

	発表者名	発表標題名	主催	開催地	発表年月
1039	肥後尚、 <u>藤井信之</u>	中期エジプト語講座 中級	関西大学 国際文化財・文化研究センター	関西大学 梅田キャンパス	2017年11月 2017年12月
1040	藤井 信之	サイス王朝(第26王朝)時代のエジプト	関西大学 国際文化財・文化研究センター エジプト学研究セミナー	関西大学 梅田キャンパス	2017年7月
1041	藤井 信之	日本国内のエジプト文化財	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学 東京センター	2016年10月
1042	藤井 信之	リビア王朝時代(第22王朝-第24王朝)の支配体制と墓制	関西大学 国際文化財・文化研究センター エジプト学研究セミナー	関西大学 梅田キャンパス	2016年7月
1043	藤井 信之	古代エジプトへの招待	NHK文化センター	大阪	2013年4月～ 毎月1回
1044	藤井 信之	エジプト王ラメセス2世:「帝国」再興への道程	京都ギリシア・ローマ美術館	京都	2015年4月

吹田 真里子

(活動)

1045	吹田 真里子	イドゥート壁画デザイン復元	日本・エジプト合同マスタバ・ イドゥート調査ミッション	—	—
------	--------	---------------	--------------------------------	---	---

「研究発表の状況」の学会欄で記述した論文、学会発表等以外の研究成果および企業との連携実績があれば具体的に記入してください。また、上記11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付してください。

<その他の研究成果>

(講演・セミナー等)

吹田 浩

	発表者名	発表標題名	主催	開催地	発表年月
1046	肥後尚、吹田浩	中期エジプト語講座 初級	関西大学 国際文化財・文化研究センター	関西大学 梅田キャンパス	2017年6月
1047	吹田 浩	中期エジプト語講座 中級	関西大学 国際文化財・文化研究センター	関西大学 千里山キャンパス	①2016年11月 ②2015年12月 ～2016年1月 ③2013年12月 ～2014年1月
1048	吹田 浩	中期エジプト語講座 初級	関西大学 国際文化財・文化研究センター	関西大学 千里山キャンパス	①2016年5～6月 ②2015年10～11月 ③2014年12月 ～2015年1月 ④2013年12月 ～2014年1月
1049	吹田 浩	文化財保存修復セミナー 「文化財と国際協力」 「文化財保護における国際協力」	関西大学 国際文化財・文化研究センター	関西大学 千里山キャンパス	①2017年2月 ②2014年3月

柏木 治

	発表者名	発表標題名	主催	開催地	発表年月
1050	柏木 治	シンポジウム「文学と青春」	慶應義塾大学文学部、三田文学会	慶應大阪シティ キャンパス	2018年1月
1051	柏木 治	スタンダールと「金」 —外交官小説家の懐事情—	日仏文化講座 Cercle Académique Français (CAF)	神戸国際会館	2014年6月
1052	柏木 治	文化財保存修復セミナー 「文化と文化遺産～エジプト遺産と文化イデオロ ギー」	関西大学 国際文化財・文化研究センター	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月

伊藤 淳志

	発表者名	発表標題名	主催	開催地	発表年月
1053	伊藤 淳志	文化財保存修復セミナー ①「地盤と文化財」 ②「地盤と文化財建築」 ③「基礎構造力学」	関西大学 国際文化財・文化研究センター	関西大学 千里山キャンパス	①2017年2月 ②2016年2月 ③2015年2月
1054	伊藤 淳志	枠で拘束した地盤の鉛直支持力	兵庫県建築技術研究会	神戸	2014年10月
1055	伊藤 淳志	マチュピチュ遺跡の保存修復およびイースター島モ アイ遺跡の現状	日本建築学会近畿支部 基礎構造部会	大阪	2014年7月

	発表者名	発表標題名	主催	開催地	発表年月
1056	伊藤淳志、西形達明	Machu Picchu における石積み構造物の変状調査	新潟国際情報大学・国士舘大学	新潟	2014年3月

西形 達明

	発表者名	発表標題名	主催	開催地	発表年月
1057	西形 達明	文化財保存修復セミナー ①「歴史的構造物と災害」 ②「文化財構造物」	関西大学 国際文化財・文化研究センター	関西大学 千里山キャンパス	①2018年2月 ②2016年2月
1058	伊藤淳志、西形達明	Machu Picchu における石積み構造物の変状調査	新潟国際情報大学・国士舘大学	新潟	2014年3月

土戸 哲明

	発表者名	発表標題名	主催	開催地	発表年月
1059	土戸 哲明	食品加工・製造における殺菌技術—とくに微生物学的側面からみた課題と新技術への期	日本食品工学会大会シンポジウム	吹田	2017年8月
1060	土戸 哲明	大腸菌の加熱損傷・修復機構と損傷菌数評価	日本損傷菌研究会 損傷菌セミナー2017	東京	2017年6月
1061	土戸 哲明	微生物の殺菌処理サバイバル戦略 ～細菌芽胞はなぜ強く、損傷菌はどう復活するのか？～	けいはんなサイエンスカフェ	けいはんな	2017年3月
1062	土戸 哲明	生きるか死ぬか、それが問題だ！ —損傷菌の運命と世界—	日本生物工学会 東日本支部コロキウム	東京	2017年3月
1063	土戸 哲明	ストレス環境における微生物とその制御～加熱等に対するストレス応答	日本食品工学会講習会	奈良	2016年12月
1064	土戸 哲明	細菌の自殺：その仕組みと微生物制御の応用可能性	食品安全科学五大学フォーラム	大阪	2016年11月
1065	土戸 哲明	損傷菌：その定義、原因、特性について	食の機能と安全研究会	大阪	2016年11月
1066	土戸 哲明	加熱による殺菌の原理と効果	けいはんなイノベーションセンター セミナー	けいはんな	2016年9月
1067	土戸 哲明	食品殺菌における細菌芽胞と損傷菌の問題	ILSI (国際生命科学機構) 食品微生物部会講演会	けいはんな	2016年8月

	発表者名	発表標題名	主催	開催地	発表年月
1068	土戸 哲明	損傷菌 —その定義・特性・検出と発生要因をめぐる問題—	日本損傷菌研究会 損傷菌セミナー2016	堺	2016年7月
1069	土戸 哲明	食品の加熱殺滅菌のプロセスと微生物学的アプローチの接点	大阪府立大学微生物制御研究 センターシンポジウム2016	大阪	2016年6月
1070	土戸 哲明	微生物制御(殺菌・抗菌・除菌)技術とその作用メカニズム—微生物細胞の抵抗戦略を超えて	日本化学会CSJフェスタ	東京	2015年10月
1071	土戸 哲明	細菌学の基礎 I —細菌の特徴、分類および検出方法など	日本臨床工学技士会 (透析液安全管理責任者セミナー)	東京	2015年7月
1072	土戸 哲明	殺菌・抗菌入門ワークショップ—わかりやすい微生物の取扱い・検査・制御法	テクノシステム	東京	2015年5月
1073	土戸 哲明	安全なカビ検査・管理のための人材育成のしくみづくり	NPO法人カビ相談センター	東京	2015年2月
1074	土戸 哲明	損傷菌のメカニズムと制御法	サイエンスフォーラム	東京	2014年12月
1075	土戸 哲明	微生物制御の原理と殺菌・静菌技術の基礎知識	テクノシステム	東京	2014年9月
1076	土戸 哲明	細菌学の基礎—細菌の特徴、分類および検出方法など、透析液安全管理責任者セミナー	公益社団法人 日本臨床工学技士会	東京	2014年7月
1077	土戸 哲明	微生物制御の原理と殺菌・静菌技術の基礎知識	テクノシステム	東京	2013年10月
1078	土戸 哲明	微生物熱死滅データベース[再増補版]とその活用	サイエンスフォーラム: 予測微生物学セミナー	東京	2013年4月

安室 喜弘

	発表者名	発表標題名	主催	開催地	発表年月
1079	安室 喜弘	文化財保存修復セミナー ①「文化財とデジタル技術」 ②「文化財とIT」	関西大学 国際文化財・文化研究センター	関西大学 千里山キャンパス	①2018年2月 ②2016年2月
1080	安室 喜弘	数理計画法によるレーザーสキャンの事前計画	大規模環境の3次元計測と認識・ モデル化技術専門委員会	大阪	2016年10月

発表者名	発表標題名	主催	開催地	発表年月
1081 安室 喜弘	エジプト考古学における3次元測量計画とその利用について	日本情報考古学会 第34回大会	大阪	2015年3月

鶴田 浩章

発表者名	発表標題名	主催	開催地	発表年月
1082 鶴田 浩章	サンゴ礁再生に用いるモルタル基盤の開発	第22回関西大学先端科学技術 シンポジウム	関西大学 100周年記念会館	2018年1月
1083 鶴田 浩章	サンゴ再生促進技術研究グループの活動の概要	日本材料学会 生体・医療材料部門委員会 関西大学先端科学技術推進機構 サンゴ再生促進技術研究グループ	同志社大学 大阪サテライトキャンパス	2016年12月

西浦 忠輝

発表者名	発表標題名	主催	開催地	発表年月
1084 西浦 忠輝	文化財保存修復セミナー ①「人類の歴史、未来と文化財」 ②「人類の歴史、未来と文化財」、「木造文化」 「石造文化財」 ③④「人類の歴史と文化財」、「木材」、「石材・レンガ」	関西大学 国際文化財・文化研究センター	関西大学 千里山キャンパス	①2018年2月 ②2016年2月 ③2015年2月 ④2014年3月
1085 西浦 忠輝	上智大学公開講座(ソフィアコミュニカレッジ) 人類の歴史、文化、未来 —あらためて文化遺産保護の意味を考える—	上智大学	上智大学 〔東京都千代田区〕	2017年11月
1086 西浦 忠輝	「文化財保存修復を目指す人のための実践コース」 —材質と文化財の保存修復—	NPO法人 文化財保存支援機構	東京国立博物館 黒田記念館	2017年7月
1087 西浦 忠輝	タイ国・アユタヤ遺跡・大洪水における保存修復対策と今後の方策	文化遺産研究プロジェクト 報告会 in 楓門祭	国士舘大学	2015年11月
1088 西浦 忠輝	文化財保存修復専門家養成実践セミナー 「人類の歴史と文化財」	NPO法人 文化財保存支援機構	東京国立博物館 黒田記念館	2015年8月
1089 西浦 忠輝	天空の古代都市マチュピチュ遺跡	日本イコモスアカデミー ANAセールス(株)	東京都	2015年5月
1090 西浦 忠輝	太陽の神殿の保存修復	「マチュピチュ遺跡保存修復国際 プロジェクト」シンポジウム	新潟国際情報大学	2014年3月

サラハ・エル・ホーリ

発表者名	発表標題名	主催	開催地	発表年月
*1091 サラーハ・エル・ホーリ	中期エジプト語講座 フォローアップ講座	関西大学 国際文化財・文化研究センター	関西大学 梅田キャンパス	2018年2月
*1092 サラーハ・エル・ホーリ	エジプト学研究的現在	エジプト文化遺産研究会	関西大学 梅田キャンパス	2018年1月

沢田 正昭

	発表者名	発表標題名	主催	開催地	発表年月
1093	沢田 正昭	文化財保存修復セミナー ①「文化財化学の歩み」 ②③④ 「文化財と自然科学」、「文化財保護における国際協力」	関西大学 国際文化財・文化研究センター	関西大学 千里山キャンパス	①2018年2月 ②2016年2月 ③2015年2月 ④2014年3月
1094	沢田 正昭	アンコール遺跡・バイヨン寺院浮き彫りの保存方法の研究	平成19～22年度科学研究費補助金(基盤研究A) 研究成果報告書 (研究課題番号19251001)		2014年3月
1095	沢田 正昭	もうひとつの遺跡保存	『はぎとり・きりとり・かたどり』 奈良文化財研究所埋蔵文化財センター設立40周年記念 平成26年度飛鳥資料館秋期特別展 (p43-49)	奈良県明日香村 飛鳥資料館講堂	2014

高鳥 浩介

	発表者名	発表標題名	主催	開催地	発表年月
1096	高鳥 浩介	文化財IPM コーディネータ資格取得講習会	東京文化財研究所	東京	2017年12月
1097	高鳥 浩介	文化財保存修復セミナー ①～⑤「文化財の生物劣化と対策:カビ」	関西大学 国際文化財・文化研究センター	関西大学 千里山キャンパス	①2018年2月 ②2017年2月 ③2016年2月 ④2015年2月 ⑤2014年3月
1098	高鳥 浩介	空調システム診断士養成研修用テキスト	二日温空調 システムクリーニング協会	東京	2014年4月
1099	高鳥 浩介	文化財IPM コーディネータ資格取得講習会	九州国立博物館	福岡県	①2016年12月 ②2015年12月 ③2014年12月 ④2013年12月
1100	高鳥 浩介	空調システム診断士養成研修用テキスト	二日温空調 システムクリーニング協会	名古屋	2013年10月

中村 吉伸

	発表者名	発表標題名	主催	開催地	発表年月
1101	中村 吉伸	近畿化学協会第39期研修塾第5回講座 古代エジプト遺跡を接着技術がまもる	近畿化学協会	大阪科学技術センター	2017年12月
1102	中村 吉伸	平成28年度FAMCO研究成果報告会 シランカップリング剤で粒子充てん複合材料のInterphaseをつくる、みる	先端機能材料R&Dコンソーシアム (FAMCO)	名古屋工業大学	2017年3月
1103	中村 吉伸	2016年度エポキシ研修セミナー フィラー設計	一般社団法人日本接着学会	大阪市立大学 梅田サテライト 文化交流センター	2017年3月
1104	中村 吉伸	混合・分散の基礎セミナー第7回 固体状混合系の応用:高分子/高分子および高分子/無機の混合	一般社団法人日本接着学会	大阪市立大学 梅田サテライト 文化交流センター	2016年12月

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

	発表者名	発表標題名	主催	開催地	発表年月
1105	中村 吉伸	サタデーセミナー 粒子充填系高分子複合材料におけるシランカップリング剤による界面のコントロール	一般社団法人日本ゴム協会	電子会館4F	2016年6月
1106	中村 吉伸	粘着研究会第148回例会 プローブタック試験の工夫による粘着性発現メカニズムの解明	一般社団法人日本接着学会 粘着研究会	大阪市立 工業研究所	2016年1月
1107	中村 吉伸	エポキシサテライトセミナー エポキシ樹脂の複合化による特性向上	一般社団法人日本接着学会	大阪市立大学 梅田サテライト 文化交流センター	2016年1月
1108	中村 吉伸	『なぜくっつくのか分かるように粘着強さを測定するには』 日本材料学会第85回高分子材料セミナー	日本材料学会	日本材料学会本部	2014年6月
1109	中村 吉伸	『シランカップリング剤による表面界面制御はどこまでできるのか?』 異業種交流会「関西テクノサークル」講演会	関西テクノサークル	大阪キャッスルホテル	2014年1月
1110	中村 吉伸	『粘着剤の特性からみたテープはく離による密着性評価のポイントと限界』 電気鍍金研究会研究例会-技術者と経営者のためのめっき技術-	電気鍍金研究会	大阪府 電気鍍金会館	2013年9月
1111	中村 吉伸	『モルフォロジーで強い材料を作る -複合材料, 粘着剤, エジプト壁画保存接着剤-』 平成25年度TAネットワークス技術講習会	TAネットワークス	篠山市立四季の森生涯 学習センター	2013年6月

仲 政明

	発表者名	発表標題名	主催	開催地	発表年月
1112	仲 政明	生徒・指導者講習会	京都府高等学校文化連盟 美術・工芸専門部	京都府立宮津高等学校	2016年12月
1113	仲 政明	日本画講習会	岡山県立総社南高等学校美術部	岡山県立総社南 高等学校	2015年
1114	大沼憲昭、 <u>仲政明</u>	「普遍的な日本画の美を探る」	京都アートフェア2013	みやこめっせ1F展示場 (京都勸業館)	2013年4月

(研究報告)

柏木 治

	著者	記事名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
1115	柏木 治	「産業家」と「考える階級」について(発表概要)	日本スタンダード研究会 『スタンダード研究会会報』(24)	5-7	2014年5月

アーデル・イブラヒム・モハメド・アカリシュ

	発表者名	発表標題名	主催	開催地	発表年月
1116	Adel I. M. Akarish	Summer courses for training the undergraduate Students from different Geological departments belonging to all t Universities of Egypt .	NRC, Cairo	NRC , Cairo	Every Summer
1117	Adel I. M. Akarish	Ancient Egyptian Stone Quarries Introduced for Colleagues from Commonwealth Countries	Ministry of Foreigner Affair	NRC , Cairo	January,27- February 7, 2013
1118	Adel I. M. Akarish	Geology of Some Archaeological Site in Egypt Introduced for Colleagues from Commonwealth Countries	Ministry of Foreigner Affair	NRC , Cairo	January,27- February 7, 2013
1119	Adel I. M. Akarish	Upper Cretaceous Rocks in Sinai, Egypt, Introduced for Colleagues from Commonwealth Countries	Ministry of Foreigner Affair	NRC , Cairo	January,27- February 7, 2013
1120	Adel I. M. Akarish	Stones Used in the Archalological Objects and Sites Introduced to SCA Inspectors	SCA , Ministry of Antiquities	Zamalk , Cairo	September , 21013

(翻訳)

サラハ・エル・ホーリ

1121	Salah el-Kholy	Entdeckung von Verena, mit Kamm und Krug Revueing the Translation	a Book, from German to arabic	188	2014年5月
------	----------------	--	-------------------------------	-----	---------

(その他)

森 貴史

1122	森 貴史	平成27年度科学研究費審査委員表彰受賞	—	—	2015年11月
------	------	---------------------	---	---	----------

柏木 治

1123	柏木 治	「選評」(第34回織田作之助青春賞)	『三田文学』第132号	三田文学会	2018年1月
1124	柏木 治	「力強い性衝動 新鮮」 (第34回織田作之助青春賞・U-18賞選評)	毎日新聞朝刊(2018年1月10日)	毎日新聞大阪本社	2018年1月
1125	柏木 治	読書教養講座「職業としての物語作家」 (桜庭一樹氏との対談)	21世紀活字文化プロジェクト (読売新聞社)	関西大学	2017年10月
1126	柏木 治	「選評」(第33回織田作之助青春賞)	『三田文学』第128号	三田文学会	2017年1月

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

1127	柏木 治	「楽しみな13歳」 (第33回織田作之助青春賞・U-18賞選評)	毎日新聞朝刊(2017年1月10日)	毎日新聞大阪本社	2017年1月
1128	柏木 治	読書教養講座「読む楽しみ、書く楽しみ」 (中江有里氏との対談)	21世紀活字文化プロジェクト (読売新聞社)	関西大学	2016年12月
1129	柏木 治	公開対談「く締め切り」という言葉がなくなる日」 (三浦しをん氏との対談)	織田作之助賞実行委員会	関西大学	2016年7月
1130	柏木 治	「選評」(織田作之助青春賞)	『三田文学』第124号	三田文学会	2016年2月
1131	柏木 治	「確かなりアリティー」 (織田作之助青春賞・U-18賞選評)	毎日新聞朝刊(2016年1月10日)	毎日新聞大阪本社	2016年1月
1132	柏木 治	読書教養講座「本と旅と人生論」 (ヤマザキマリ氏との対談)	21世紀活字文化プロジェクト (読売新聞社)	関西大学	2015年10月
1133	柏木 治	公開対談「小説家Mの、傍迷惑人生！」 (朝井まかて氏との対談)	織田作之助賞実行委員会	関西大学	2015年7月
1134	柏木 治	読書教養講座 「江戸も東京も雨が似合い、夜がいい～文学が創った日本人の都市とこころ」 (ロバート・キャンベル氏との対談)	21世紀活字文化プロジェクト (読売新聞社)	関西大学	2014年12月
1135	柏木 治	読書教養講座 「この時代を生きる——文学の視点から」 (池澤夏樹氏との対談)	21世紀活字文化プロジェクト (読売新聞社)	関西大学	2013年9月

土戸 哲明

1136	古田雅一、土戸哲明	食品乳化剤の芽胞熱死滅促進作用機構の解析	三菱化学フーズ	受託研究	2015年4月～2018年3月
1137	古田雅一、土戸哲明	浴室の温水によるカビ死滅機構の解析	パナソニック エコシステムズ株式会社	受託研究 (契約更改2回)	2014年6月～2018年3月
1138	古田雅一、土戸哲明	洗濯後の衣類部屋干し臭原因菌の制御	パナソニック アプライアンス株式会社	共同研究 (契約更改2回)	2014年7月～2015年3月
1139	土戸 哲明	洗濯後の衣類部屋干し臭原因菌の特性解析	パナソニック アプライアンス株式会社	共同研究	2013年4月～2014年3月

西浦 忠輝

1140	西浦 忠輝	ペルー共和国マチュピチュ遺跡建造物遺構の保存修復に関する調査研究	科学研究費助成事業 研究成果報告書	---	2015年6月
1141	西浦 忠輝	「奇跡の地球物語」 天空の城竹田城ー時空を超えた建築技術ー	テレビ朝日	全国放送	2013/10/6 18:30~17:00

アーデル・イブラヒム・モハメド・アカリシュ

1142	Meber in research Project	the project research "Carbonation of the Arabian-Nubian Shield of Egypt: Implications for large-scale CO2 fluxes in the Neoproterozoic, 2015-2017	---	2015-2017	---
1143	Meber in research Project	Preparation and characterization of inorganic nanosized materials for industrial applications	Funded by National Research Centre, Egypt	2013-2016	---

サラハ・エル・ホーリ

1144	Tuna el Gebel	Directing and Carrying out the Excavation of the Cairo University in Tuna el Gebel	---	---	October 2013 for one and half Month, then in April 2014 for three weeks.
1145	Salah el-Kholy	Refreezing the Papers of Dr.Magda Abdallah for the Professor Degree	---	---	in June 2014

ラファオ・ロマン・クーン

1146	Rafal Kuhn	Transfers of wall paintings for the Regional Museum in Kutno	---	Kutno	FY2016
------	------------	--	-----	-------	--------

高鳥 浩介

1147	高鳥浩介、高橋淳子	保存料に対する植物病原性真菌プロフィール作成	公益財団法人日本食品化学 研究振興財団平成25年度助成金 第20回研究成果報告書	印刷中	印刷中
1148	高鳥浩介、高橋淳子	保存料に対する感受性真菌および抵抗性真菌プロフィール作成	公益財団法人日本食品化学 研究振興財団平成24年度助成金 第19回研究成果報告書	116-121	2013年12月

仲 政明

1149	仲 政明	兵庫県指定文化財菅根天満宮蔵 「曽我蕭白筆 牽牛図」復元模写制作	(財)元興寺文化財研究所連携	---	2014年9月
1150	仲 政明	岡山県本性院蔵「涅槃図」復元模写	(株)坂田墨珠堂連携	---	2014年6月

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

1151	仲 政明	エジプト・イドウトマスタバ墓壁画部分復元模写制作	—	—	2014年1月
*1152	仲 政明	「中国宋代絵画表現技法の萌芽的研究－絵画表現と古代絹の相関関係－」研究代表者	文部科学省科学研究費補助金 (挑戦的萌芽研究)	—	2012年4月～2014年3月
1153	仲 政明	エジプト・イドウトマスタバ墓壁画部分現状模写制作	—	—	2013年6月
*1154	仲 政明	滋賀県大津市安養寺阿弥陀如来像復元模写制作	(株)坂田墨珠堂連携	—	2013年4月

<海外研究協力者の成果一覧>

サブリー・ファラグ

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
1155	サブリー・ファラグ	サッカラの遺跡群とそれらが抱える問題点	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月
	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
*1156	Sabry Farag	Present Situation and Problems for the Protection of Culteral Heritage in Saqqara	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	215-222	2014年3月

ハーニー・アフマド

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
*1157	Hani Ahmmed	The Reality and Challenges of Preserving Egyptian Antiquities in Light of Changes that Occurred in Egypt after the Revolution of January 2011	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	201-214	2014年3月

モスタファ・アブデル・ファッターハ

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
*1158	Mostafa ABDEL FATAH, Ashraf EWAIS	Site Management of Saqqara Archaeological Heritage	International Meeting for saving Saqqara Archaeological Heritage in Saqqara: Ten Years Achievements of Kansai University Mission	Saqqara Palm Club Hotel, Giza, Egypt	November ,2017
1159	モスタファ・アブデル・ファッターハ	セラベウム —現実とクレームのはざまの修復作業—	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月
	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
*1160	Mostafa ABDEL FATAH, Mohamed KALLAAF, Hassan IMMAM and Shaaban ABDEL AAL	The Role of Geotechnical Properties of Rocks in Failure of Stability of the Funeral Subsurface Structure in Saqqara Plateau, Egypt. Part1.	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(5)	未定	2018年3月(予定)

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
*1161	Ashraf Youssef EWAIS, Mostafa Ahmed AHMED and Michel FARIED	A Close Look at the Step Pyramid Restoration Project	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(4)	199-219	2017年3月
*1162	Mustafa Ahmed ABDELATAH and Mohamed Kamal KHALLAF	Effect of Clay Minerals on Mural Paintings of Ptahshepses Burial Chamber at Gisir El-Mudir, Saqqara	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	31-44	2016年3月
*1163	Mustafa Ahmed Abdefatah, Muhamed Kamal and Shabban Mahmund	Ptahshepses Mural Painting and its Characterization at Gesr El-Mudir in Saqqara, Egypt	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	109-126	2015年3月
*1164	Mustafa Abdel-fatah	Saqqara Administration for the Conservation and Restoration of Antiquities over 70 Years	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	223-232	2014年3月

ナーセル・フェルガニ

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
*1165	Nasser Fergany	The Current Condition of the Saqqara Monuments	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	233-249	2014年3月

アシュラフ・ユーセフ・エワイス

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
*1166	アシュラフ・ユーセフ・エワイス	エジプトにおける文化遺産保護の現在	エジプト文化遺産研究会	関西大学 梅田キャンパス	2018年1月
*1167	Mostafa ABDELATAH, Ashraf EWAIS	Site Management of Saqqara Archaeological Heritage	International Meeting for saving Saqqara Archaeological Heritage in Saqqara: Ten Years Achievements of Kansai University Mission	Saqqara Palm Club Hotel, Giza, Egypt	November ,2017
1168	アシュラフ・ユーセフ・エワイス	階段ピラミッドの保存と修復に関する検討	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
*1169	Ashraf EWAIS, Mohamed KAMAL, Gamal MAHGOUB and Adel AKARISH	Artistic Study of the Wildlife Scene at the Burial Chamber of Rashepses in Saqqara, Egypt	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(5)	未定	2018年3月(予定)
*1170	Ashraf Youssef EWAIS, Mostafa Ahmed AHMED and Michel FARIED	A Close Look at the Step Pyramid Restoration Project	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(4)	199-219	2017年3月
*1171	Hassan Abdallah HASSAN, Basma ZAGHLOL and Ashraf Youssef EWAIS	Treatment of Findings from the Site of the New Kingdom(the South of Saqqara)Leiden and Turin Excavation(Spring 2015)	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(4)	221-229	2017年3月

プロジェクト番号	S1311041
----------	----------

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
*1172	Ashraf Youssef Ewais and Rémi LEGROS	Conservation and Restoration of an Offering Table from the Excavation of the French Archaeological Mission in Saqqara (Autumn 2014)	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	45-53	2016年3月
*1173	Ashraf Youssef Ewais	Treatment and Conservation of the Statue of Nefer from the Czech Mission Excavations in Abusir Area	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	97-107	2015年3月
*1174	Ashraf Youssef Ewais	Examples of Conservation and Restoration Work in Saqqara	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	251-264	2014年3月

モハメド・イブラヒム

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
*1175	Mohamed Ibrahim	Crisis of Egyptian Monuments and the Future	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	187-198	2014年3月

サルマン・アルマハリ

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
*1176	サルマン・アルマハリ	バーレーン王国の文化遺産	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告会	関西大学 梅田キャンパス	2017年12月
*1177	Salman ALMAHARI	Site Management in Bahrain	International Meeting for saving Saqqara Archaeological Heritage in Saqqara: Ten Years Achievements of Kansai University Mission	Saqqara Palm Club Hotel, Giza, Egypt	November ,2017
1178	サルマン・アルマハリ	バハレーンの考古遺産	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月
1179	吹田 浩、 アフド・シュエイブ、 アーデル・アカリシュ、 マイサ・マンズール、 伊藤淳志、中村吉佳、 鶴田浩章、安室喜弘、 サルマン・アルマハリ	バーレーン王国バルバル神殿の保存のための研究	日本オリエント学会第59回大会	東京大学	2017年10月
	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
1180	吹田浩、肥後時尙、末森薫、 サルマン・アルマハリ	バーレーン王国における文化遺産保護プロジェクト	関西大学 国際文化財・文化研究センター 最終成果報告書	未定	2018年3月(予定)
*1181	Ahmed Shoeib and Salman Almahari	Characterization of Old Mortars from Historic Buildings in Muharraq, Bahrain	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	89-96	2015年3月

ミシェル・ファリード

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
*1182	Ashraf Youssef EWAIS, Mostafa Ahmed AHMED and Michel FARIED	A Close Look at the Step Pyramid Restoration Project	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(4)	199-219	2017年3月

ハサン・アブダラー・ハサン

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
*1183	Hassan Abdallah HASSAN, Basma ZAGHLOL and Ashraf Youssef EWAIS	Treatment of Findings from the Site of the New Kingdom(the South of Saqqara)Leiden and Turin Excavation(Spring 2015)	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(4)	221-229	2017年3月

バスマ・ザガロール

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
*1184	Hassan Abdallah HASSAN, Basma ZAGHLOL and Ashraf Youssef EWAIS	Treatment of Findings from the Site of the New Kingdom(the South of Saqqara)Leiden and Turin Excavation(Spring 2015)	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(4)	221-229	2017年3月

ラガフ・サラマ

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
*1185	Ragab SALAMA, Ibrahim EL-RIFAI, Naglaa MAHMOUD, Rajia MOHSENE and Fathi SALEH	Multispectral Imaging and Analytical Study of a Painted Wooden Coffin from the Late Period Stored at the Saqqara Museum	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(4)	231-246	2017年3月

イブラヒム・エルリファーイ

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
*1186	Ragab SALAMA, Ibrahim EL-RIFAI, Naglaa MAHMOUD, Rajia MOHSENE and Fathi SALEH	Multispectral Imaging and Analytical Study of a Painted Wooden Coffin from the Late Period Stored at the Saqqara Museum	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(4)	231-246	2017年3月

ナグラ・マフムード

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
*1187	Ragab SALAMA, Ibrahim EL-RIFAI, Naglaa MAHMOUD, Rajia MOHSENE and Fathi SALEH	Multispectral Imaging and Analytical Study of a Painted Wooden Coffin from the Late Period Stored at the Saqqara Museum	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(4)	231-246	2017年3月

ラギア・モハセニ

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
*1188	Ragab SALAMA, Ibrahim EL-RIFAI, Naglaa MAHMOUD, Rajia MOHSENE and Fathi SALEH	Multispectral Imaging and Analytical Study of a Painted Wooden Coffin from the Late Period Stored at the Saqqara Museum	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(4)	231-246	2017年3月

ファティ・サーレ

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
*1189	Ragab SALAMA, Ibrahim EL-RIFAI, Naglaa MAHMOUD, Rajia MOHSENE and Fathi SALEH	Multispectral Imaging and Analytical Study of a Painted Wooden Coffin from the Late Period Stored at the Saqqara Museum	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(4)	231-246	2017年3月

モハメド・アブデルサッター

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
*1190	Mohamed ABDELSATTAR, Shehata AHMED, Gamal AHMED and Khaled MAHMOUD	Role of Sculpture Techniques in Completion and Restoration of Missing Parts:the Stone Statue of Impy	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(4)	247-253	2017年3月

アムル・シャカール

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
*1191	Ahmed SHOEB, A.A.SHAKAL and M.L.Abd EL-LATIF	Comparison between Nanolime and Plexisol P550 as Two Consolidants for the Preservation of Humidity Saturated Monumental Limestone	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(4)	255-267	2017年3月

アブデル・ラティフ

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
*1192	Ahmed SHOEB, A.A.SHAKAL and M.L.Abd EL-LATIF	Comparison between Nanolime and Plexisol P550 as Two Consolidants for the Preservation of Humidity Saturated Monumental Limestone	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(4)	255-267	2017年3月

マジェッド・ナフス

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
*1193	MAGED ABDELSALAM IBRAHIM NAFS	イスラム教と他宗教における寛容と共存 (アラビア語原著)	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(5)	未定	2018年3月(予定)
*1194	MAGED ABDELSALAM IBRAHIM NAFS	イスラム教と他宗教における寛容と共存 (英語訳)	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(5)	未定	2018年3月(予定)

アブド・エル・ザヘル

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
*1195	Ahmed SHOEB, Abd El zاهر A. ABDOELALA and Ahmed I. MANCY	Technical Characterization of the Mural Paintings in the Burial Chamber of Mereruka Tomb, Saqqara, Egypt	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(5)	未定	2018年3月(予定)

アフメド・マンシー

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
*1196	Ahmed SHOEB, Abd El zاهر A. ABDOELALA and Ahmed I. MANCY	Technical Characterization of the Mural Paintings in the Burial Chamber of Mereruka Tomb, Saqqara, Egypt	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(5)	未定	2018年3月(予定)

ルシュディヤ・ハッサン

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
*1197	Maisa MANSOUR, Adel AKARISH, Rushdya HASSAN and Ahmed SHOEB,	Analytical Study of Deteriorated Pharaonic Textile from Mummified Burials – Saqqara	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(5)	未定	2018年3月(予定)

モハメド・カマル

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
*1198	Ashraf EWAIS, Mohamed KAMAL, Gamal MAHGOUB and Adel AKARISH	Artistic Study of the Wildlife Scene at the Burial Chamber of Rashepses in Saqqara, Egypt	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(5)	未定	2018年3月(予定)

ガマル・マフゲーブ

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
*1199	Ashraf EWAIIS, Mohamed KAMAL, <u>Gamal MAHGQUB</u> and <u>Adel AKARISH</u>	Artistic Study of the Wildlife Scene at the Burial Chamber of Rashepses in Saqqara, Egypt	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(5)	未定	2018年3月(予定)

モハメド・カラーフ

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
*1200	Mostafa ABDELFAH, <u>Mohamed KALLAAF</u> , Hassan IMMAM and Shaaban ABDELAAL	The Role of Geotechnical Properties of Rocks in Failure of Stability of the Funeral Subsurface Structure in Saqqara Plateau, Egypt. Part1.	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(5)	未定	2018年3月(予定)

ハッサン・イマーム

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
*1201	Mostafa ABDELFAH, Mohamed KALLAAF, <u>Hassan IMMAM</u> and Shaaban ABDELAAL	The Role of Geotechnical Properties of Rocks in Failure of Stability of the Funeral Subsurface Structure in Saqqara Plateau, Egypt. Part1.	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(5)	未定	2018年3月(予定)

シャバーン・アブデラール

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
*1202	Mostafa ABDELFAH, Mohamed KALLAAF, Hassan IMMAM and <u>Shaaban ABDELAAL</u>	The Role of Geotechnical Properties of Rocks in Failure of Stability of the Funeral Subsurface Structure in Saqqara Plateau, Egypt. Part1.	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(5)	未定	2018年3月(予定)

パウリーナ・ユシュチック

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
*1203	<u>Rafal KUHN</u> , Paulina JUSZCZYK	Conservation of Mural Paintings in the Saint Nicolaus Church in Warta, Poland	International Meeting for saving Saqqara Archaeological Heritage in Saqqara: Ten Years Achievements of Kansai University Mission	Saqqara Palm Club Hotel, Giza, Egypt	November ,2017

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

<研究成果の公開状況>(上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等

<既に実施しているもの>

◆2013年度

・研究会【別紙資料 P12】

エジプト文化財の危機と今後

日 程:2013年11月11日(月)・11月14日(木)

テーマ: サッカラ村の調査から

・講演会【別紙資料 P11】

エジプト文化財の危機と今後

日 程:2013年11月19日(火)・11月20日(水)

テーマ: エジプト文化財の修復の実践—サッカラを中心に—

・特別講演会【別紙資料 P10】

第1回特別講演会

日 程:2013年11月26日(火)

テーマ: エジプト文化財の危機と今後

・中期エジプト語講座 初級【別紙資料 P19】

日 程:2013年12月7日(土)・14日(土)・21日(土)・2014年1月11日(土)

・特別講演会【別紙資料 P10】

日 程:2013年1月25日(土)

テーマ: 関西大学のエジプト調査10年の歩み

・研究集会【別紙資料 P10】

日 程:2014年2月24日(月)～2月26日(水)

テーマ: エジプト学・文化財研究セミナー

・セミナー【別紙資料 P14】

文化財保存修復専門家養成実践セミナー

日 程:2014年3月5日(水)～3月11日(火)

◆2014年度

・研究会【別紙資料 P12】

日 程:2014年9月28日(日)

テーマ: エジプト政権の動向と国際関係

・特別講演会【別紙資料 P10】

日 程:2014年9月28日(日)

テーマ: 現在のエジプトにおける政治的動向と市民の生活

・中期エジプト語講座 初級【別紙資料 P19】

日 程:2014年12月13日(土)・20日(土)・2015年1月10日(土)・17日(土)

・研究会【別紙資料 P12】

日 程:2015年1月27日(火)

テーマ: サッカラ、イドゥートの岩盤強化策

・文化財保存修復専門家養成実践セミナー【別紙資料 P14-15】

日 程:2015年2月22日(日)～3月1日(日)

・公開シンポジウム【別紙資料 P5】

日 程:2015年2月28日(土)・3月1日(日)

テーマ: 天空の古代都市「マチュピチュ遺跡」を譲れ

—保存修復研究国際プロジェクトの成果—

・研究会【別紙資料 P12】

日 程:2015年3月2日(月)

テーマ: マチュピチュ遺跡—日本とペルーにおける共同研究の今後—

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

- 講演会【別紙資料 P11】
日 程:2015 年 3 月 18 日(水)
テーマ:シリアの文化財とその現状 2015
- ◆2015 年度
- 国際シンポジウム【別紙資料 P6-7】
日 程:2015 年 8 月 27 日(木)～8 月 29 日(土)
テーマ:東アジア文化遺産保存国際シンポジウム
- 国際シンポジウム【別紙資料 P7】
日 程:2015 年 9 月 14 日(月)～9 月 16 日(水)
テーマ:イスラムと国際社会
- 特別講演会【別紙資料 P10】
日 程:2015 年 9 月 18 日(金)
テーマ:エジプトにおける近年の考古学の発見
- 講演会【別紙資料 P19】
日 程:2015 年 9 月 20 日(日)
テーマ:古代エジプト文明の技術
- 中期エジプト語講座 初級【別紙資料 P20】
日 程:2015 年 10 月 10 日(土)・24 日(土)・31 日(土)・11 月 7 日(土)
- 中期エジプト語講座 中級【別紙資料 P20】
日 程:2015 年 12 月 12 日(土)・19 日(土)・2016 年 1 月 9 日(土)
- エジプト学・文化財研究セミナー【別紙資料 P11】
日 程:2016 年 1 月 23 日(土)～1 月 24 日(日)
- 文化財保存修復専門家養成実践セミナー(中級)【別紙資料 P15-16】
日 程:2016 年 2 月 22 日(月)～2 月 26 日(金)
- 国際シンポジウム【別紙資料 P7-8】
日 程:2016 年 2 月 27 日(土)・2 月 28 日(日)
テーマ:世界の文化財保護～地域に根ざした活動と課題～
- ワークショップ【別紙資料 P18】
日 程:2016 年 2 月 29 日(月)
テーマ:Recent Activities in Cultural Heritage
- 研究会【別紙資料 P12】
日 程:2016 年 3 月 24 日(木)
テーマ:イスラム教と他宗教の共存およびイスラム教宗派間の共存
- ◆2016 年度
- セミナー【別紙資料 P18】
日 程:2016 年 7 月 31 日(日)
テーマ:エジプト学研究セミナー
- 公開シンポジウム【別紙資料 P6】
日 程:2016 年 10 月 29 日(土)
テーマ:エジプト文化財の保全に向けて
- 中期エジプト語講座 初級【別紙資料 P20】
日 程:2016 年 5 月 28 日(土)・6 月 4 日(土)・11 日(土)・18 日(土)
- 中期エジプト語講座 中級【別紙資料 P20】
日 程:2016 年 11 月 12 日(土)・19 日(土)・26 日(土)
- 文化財保存修復専門家養成実践セミナー(中級)【別紙資料 P16-17】
日 程:2016 年 2 月 20 日(土)～2 月 26 日(金)
- ◆2017 年度
- 中期エジプト語講座 初級【別紙資料 P20】
日 程:2017 年 6 月 3 日(土)・10 日(土)・17 日(土)・24 日(土)

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

- ・セミナー【別紙資料 P18】
日 程:2017年7月23日(日)
テーマ:エジプト学研究セミナー
- ・サッカー国際専門家会議【別紙資料 P8-9】
日 程:2017年11月8日(水)・11月9日(木)
テーマ:サッカーの文化遺産保護に向けて
- ・中期エジプト語講座 中級【別紙資料 P20】
日 程:2017年11月18日(土)・25日(土)・12月3日(土)
- ・最終成果報告会【別紙資料 P13】
日 程:2017年12月17日(日)
テーマ:総合文化財の構築を目指した5年間の軌跡
- ・成果報告会【別紙資料 P12】
日 程:2017年12月24日(日)
テーマ:バーレーン王国・バルバル神殿における関西大学ミッションの研究成果
- ・エジプトワークショップ【別紙資料 P19】
日 程:2018年1月21日(日)～23日(火)
テーマ:Facing Techniques for Mural Painting with Applying Funori(Seaweed) Paste
- ・研究会【別紙資料 P13】
日 程:2018年1月31日(水)
テーマ:エジプト学と文化遺産保護の現在
- ・中期エジプト語講座 フォローアップ講座【別紙資料 P20】
日 程:2018年2月1日(木)・2日(金)
- ・文化財保存修復専門家養成実践セミナー【別紙資料 P17】
日 程:2018年2月22日(木)～2月28日(水)
- ・研究会
日 程:2018年3月16日(金)
テーマ:文化財保存修復の大学教育・教育活動に関する研究会

◆インターネットでの公開状況

いずれも情報はホームページ(<http://www.kansai-u.ac.jp/chc/>)にて公開している。

講演会等イベントについては、事前にポスターを掲載して告知し、各研究員の研究活動や著作の刊行、データベースの運用状況などの情報を随時掲載し、公開している。

また、フェイスブックで、研究拠点の情報を発信しており、上記のホームページよりも、エジプトの文化財にかかわる海外のニュースを含め、多様で身近な情報を多く発信するようにしている。

(<https://www.facebook.com/Egypt.Kansai.University>)

14 その他の研究成果等

2016年3月に、サッカー遺跡より修復技術者8名、考古学者2名を招聘し、関西大学のセンターで「科学的論文の書きかた」、及び、「博物館の地域活用方法」についての研修を11日にわたって実施した。エジプトが遺跡や文化財の修復について発信する情報は、今日もなお極めて限られている。公刊雑誌の数が少ないうえに、科学的論文の書き方の知識に不十分な面があり、豊富な修復経験や発掘経験がある一方で、国際的な舞台では事実上報告を行っていない。センターのサッカーでの調査活動に関連して、すでに複数の修復技術者がセンターの紀要に公刊しており、その経緯からエジプト人実務者の論文公刊能力向上を図ったものである。

また、エジプトでは中央博物館の整備は一応強化しているが、博物館の地域社会との連携した活用方法は考えられていない。地域社会と切り離された博物館は、地域社会に利益をもたらさないばかりでなく、日本や欧米との文化的橋渡しもできず、エジプト社会の理解を促進していない。今後、エジプトの治安が安定したときを念頭に置き、地域社会への還元、エジプトとその他世界の相互理解を促進するプログラムを提供した。エジプトの考古省は、2016年4月から外国隊に対してエジプト人職員への研修を義務付けるようになった。センターのプログラムは、現場レベルの実務的な内容をこえて、エジプト人実務者の国際的レベルへ

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

の進出を狙ったものであり、近く、彼らの論文が投稿されることが期待されるなど、現地からも高く評価されている。

15 「選定時」及び「中間評価時」に付された留意事項及び対応

<「選定時」に付された留意事項>

特定の教員に負担、受益が偏るのには、注意が必要である。

<「選定時」に付された留意事項への対応>

各グループにグループ長が置かれており、グループ内を調整するとともに、運営委員会にてセンター全体の運営を調整するようにしている。これによって、負担と受益に偏りが出ないようにしている。エジプト学・エジプト社会グループは吹田、文化財修復グループはシュエイブ、科学技術グループは伊藤、国際文化グループは森がグループ長となっており、グループ内の役割分担と、グループ間の研究の調整を行っている。

<「中間評価時」に付された留意事項>

該当なし

<「中間評価時」に付された留意事項への対応>

該当なし

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

年度・区分	支出額	内						備考
		法人負担	私学助成	共同研究機関負担	受託研究等	寄付金	その他(科研費)	
平成25年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	5,680	1,893	3,787				
	研究費	91,706	29,696	20,188		27,472	2,000	12,350 (株)山田技術士事務所、 (株)ショウワ、(株)安藤・間他
平成26年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	55,114	26,627	19,426		2,191	1,800	5,070 コングロエンジニアリング(株) ヒロセ(株)、荒川化学工業(株)他
平成27年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	81,677	32,111	25,044		3,846	0	20,670 ヒロセ(株)、(株)ニイカ 日本合成化学工業(株)他
平成28年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	71,043	32,282	19,409		7,332	1,100	10,920 (研)科学技術振興機構 パナホーム(株)他
平成29年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	2	8	20,671		2,485	2,500	9,750 東洋インキSCホールディングス(株) コングロエンジニアリング(株)他
総額	施設	0	0	0	0	0	0	0
	装置	0	0	0	0	0	0	0
	設備	5,680	1,893	3,787	0	0	0	0
	研究費	3,810	104,738	0	43,326	7,400	58,760	
総計	3,510	108,525	0	43,326	7,400	58,760		

※平成29年度は予定額

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

17

《施設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。)(千円)

施設名称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
総合研究室棟2階	H25年度	160㎡	3室	29名			

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

㎡

《装置・設備》(私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。)(千円)

装置・設備の名称	整備年度	型番	台数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置)				h h h h h			
(研究設備) デジタルマイクロスコープ	H25年度	コントローラー本体部 (VHX-2000SP1554)他	1	1275	5,680	3,787	私学助成
(情報処理関係設備)				h h h h h			

18 研究費の支出状況

(千円)

年度	平成	25	年度	積算内訳	
小科目	支出額		主な用途	金額	主な内容
教育研究経費支出					
消耗品費	14,444	消耗品費等	14,444	消耗品(4,855)、ソフトウェア(168)、消耗図書資料(3,417)、消耗器具備品(6,004)	
通信運搬費	96	郵券代等	96	郵券代(89)、支払運搬費(7)	
印刷製本費	1,785	印刷費	1,785	印刷費(1,755) 製本費(30)	
旅費交通費	9,983	一般出張旅費等	9,983	一般出張旅費(4,349)、交通費(5,634)	
賃貸料	252	賃貸料	252	賃借料(252)	
報酬・委託料	7,393	報酬等	7,393	報酬(4,335)、その他の業務委託費(3,058)	
(雑費)	6,432	その他雑費	6,432	その他の雑費(6,432)	
(その他)	19	会議・会合費等	19	会議・会合費(19)	
計	40,404		40,404		
アルバイト関係支出					
人件費支出 (兼務職員)	3,082		3,082	特任研究員(2,274)月給379,000円×6ヶ月 実人数1人 アルバイト(808)時給900円、年間時間数898時間 実人数1人	
教育研究経費支出	0		0		
計	3,082		3,082		
設備関係支出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)					
教育研究用機器備品	6,658	器具備品	6,658	器具備品費(6,658)	
図書	0				
計	6,658		6,658		

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

収入内訳(反対給付がある場合)				
(他の補助活動)	260		260	平成25年度文化財保存修復セミナーに伴う受講料
計	260		260	
研究スタッフ関係支出				
リサーチ・アシスタント	0		0	
ポスト・ドクター	0		0	
研究支援推進経費	0		0	
計	0		0	

年度	平成 26 年度		積算内訳	
小科目	支出額	主な用途	金額	主な内容
教育研究経費支出				
消耗品費	16,243	消耗品費等	16,243	消耗品(7,357)、ソフトウェア(134)、消耗図書資料(1,828)、消耗器具備品(6,924)
通信運搬費	194	郵券代等	194	郵券代(118)、支払運搬費(76)
印刷製本費	3,715	印刷費	3,715	印刷費(3,659)、製本費(56)
旅費交通費	7,263	一般出張旅費等	7,263	一般出張旅費(4,006)、交通費(3,257)
賃貸料	176	賃貸料	176	賃借料(176)
報酬・委託料	9,853	報酬等	9,853	報酬(5,336)、その他の業務委託費(4,517)
(雑費)	2,824	その他雑費	2,824	その他の雑費(2,824)
(その他)	261	会議・会合費等	261	支払手数料(144)、会議・会合費(38)、設備修繕費(79)
計	40,529		40,529	
アルバイト関係支出				
人件費支出 (兼務職員)	4,548		4,548	特任研究員(4,548) 月給379,000円×12ヶ月 実人数1人
教育研究経費支出	0		0	
計	4,548		4,548	
設備関係支出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	1,276	器具備品	1,276	器具備品費(1,276)
図書	0		0	
計	1,276		1,276	

収入内訳(反対給付がある場合)				
(他の補助活動)	300		300	平成26年度文化財保存修復セミナーに伴う受講料
計	300		300	
研究スタッフ関係支出				
リサーチ・アシスタント	0		0	
ポスト・ドクター	0		0	
研究支援推進経費	0		0	
計	0		0	

年度	平成 27 年度		積算内訳	
小科目	支出額	主な用途	金額	主な内容
教育研究経費支出				
消耗品費	8,013	消耗品費等	8,013	消耗品(3,661)、ソフトウェア(192)、消耗図書資料(1,511)、消耗器具備品(2,649)
通信運搬費	425	郵券代等	425	郵券代(130)、支払運搬費(295)
印刷製本費	2,539	印刷費	2,539	印刷費(2,512)、製本費(27)
旅費交通費	15,540	一般出張旅費等	15,540	一般出張旅費(5,614)、交通費(9,926)
賃貸料	193	賃借料	193	賃借料(193)
報酬・委託料	11,772	報酬等	11,772	報酬(6,511)、その他の業務委託費(5,261)
(雑費)	9,310	その他雑費	9,310	その他の雑費(9,310)
(その他)	54	会議・会合費等	548	支払手数料(431)、会議・会合費(15)、設備修繕費(102)
計	48,340		48,340	
アルバイト関係支出				
人件費支出 (兼務職員)	0		0	
教育研究経費支出	0		0	
計	0		0	

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

設備関係支出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	0		0
図書	0		0
計	0		0
収入内訳(反対給付がある場合)			
(他の補助活動)	275		275 平成27年度文化財保存修復セミナーに伴う受講料
計	275		275
研究スタッフ関係支出			
リサーチ・アシスタント	0		0
ポスト・ドクター	9,096		9,096 PD(4,548) 月給379,000円×12ヶ月 実人数1人 特任研究員(4,548) 月給379,000円×12ヶ月 実人数2人
研究支援推進経費	0		0
計	9,096		9,096

年度	平成 28 年度		
小科目	支出額	積算内訳	
		主な用途	金額
教育研究経費支出			
消耗品費	10,282	消耗品費等	10,282
通信運搬費	937	郵券代等	937
印刷製本費	3,610	印刷費	3,610
旅費交通費	14,425	一般出張旅費等	14,425
賃貸料	443	賃貸料	443
報酬・委託料	5,544	報酬等	5,544
(雑費)	5,023	その他雑費	5,023
(その他)	300	会議・会合費等	300
計	40,564		40,564
アルバイト関係支出			
人件費支出	0		0
(兼務職員)	0		0
教育研究経費支出	0		0
計	0		0
設備関係支出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	246	器具備品	246
図書	0		0
計	246		246
収入内訳(反対給付がある場合)			
(他の補助活動)	135		135 平成28年度文化財保存修復セミナーに伴う受講料
計	135		135
研究スタッフ関係支出			
リサーチ・アシスタント	1,920		1,920 RA(1,920) 月給160,000円×12ヶ月 実人数1人
ポスト・ドクター	9,096		9,096 PD(4,548) 月給379,000円×12ヶ月 実人数1人 特任研究員(4,548) 月給379,000円×12ヶ月 実人数1人
研究支援推進経費	0		0
計	11,016		11,016

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

年 度	平成 29 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消耗品費	6,266	消耗品費等	6,266
通信運搬費	837	郵券代等	837
印刷製本費	5,469	印刷費	5,469
旅費交通費	12,588	一般出張旅費等	12,588
賃貸料	319	賃貸料	319
報酬・委託料	8,070	報酬等	8,070
(雑 費)	9,463	その他雑費	9,463
(その他)	185	会議・会合費等	185
計	43,197		43,197
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出	0		0
(兼 務 職 員)	0		0
教育研究経費支出	0		0
計	0		0
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	603	器具備品	603
図 書	0		0
計	603		603
収 入 内 訳 (反 対 給 付 が あ る 場 合)			
(他の補助活動)	255		255
計	255		255
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	1,920		1,920
			RA(1,920) 月給160,000円×12ヶ月 実人数1人
ポスト・ドクター	9,096		9,096
			PD(4,548) 月給379,000円×12ヶ月 実人数1人 特任研究員(4,548) 月給379,000円×12ヶ月 実人数1人
研究支援推進経費	0		0
計	11,016		11,016

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

学校法人名	学校法人関西大学	大学名	関西大学
研究プロジェクト名	国際的な文化財活用方法の総合的研究		

平成 25 年度選定「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
研究成果報告書

別 紙 資 料

目 次

1. 関西大学国際文化財・文化研究センター運営内規……………p.1
2. 関西大学国際文化財・文化研究センター外部評価委員一覧……………p.3
3. 国際文化財・文化研究センター各種研究会・シンポジウムの開催状況……………p.5
4. 国際文化財・文化研究センターチラシデータ集……………p.21
5. 国際文化財・文化研究センターの研究成果出版状況……………p.36
6. メディア掲載……………p.87
7. ホームページ、Facebook……………p.89

(趣 旨)

第 1 条 この内規は、平成25年度文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の選定を受けた「国際的な文化財活用方法の総合的研究」(以下「研究プロジェクト」という。)を推進する研究組織「関西大学国際文化財・文化研究センター」(以下「センター」という。)の運営に関して必要な事項を定める。

(目 的)

第 2 条 センターは、文化財修復の専門家を育成し、その技術の高度化を促進するとともに、従来の文化財の科学を軸にして、理系の科学技術を応用し、文系の学問(エジプト学や異文化理解)と結びつけて、海外の異なった文化世界でも活躍できる人材を育成し、その成果を社会に還元する「総合文化財学」を確立し、日本国内のみならず、海外においても活躍できる、文化財修復の高度な技術者を育成し、それらの文化財の修復に関心のある学生・大学院生・社会人に教育活動をととして文化財や文化での深い洞察を与えることを目的とする。

(事 業)

第 3 条 センターは、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 研究プロジェクトの学術研究及び調査
- (2) 研究調査に必要な図書及び資料の収集整理
- (3) 学術研究に関する研究成果の発表
- (4) シンポジウム及び講演会の開催
- (5) その他センターが必要と認める事業

(構 成)

第 4 条 センターに次の職員を置く。

- (1) センター長 1 名
- (2) 研究員 約20名
- 2 センターに若干名の特別任用研究員、ポスト・ドクトラル・フェロー及びリサーチ・アシスタントを置くことができる。
- 3 センターに若干名の客員研究員を置くことができる。
- 4 センターに若干名の非常勤研究員を置くことができる。

(センター長)

第 5 条 センター長は、センターを代表し、その業務を統括する。

- 2 センター長は、研究プロジェクトの研究代表者をもって充てる。

(研究員)

第 6 条 研究員は、研究プロジェクトの実施計画に基づき、研究活動に従事する。

- 2 研究員は、本学専任教育職員もしくは大学等の研究機関に所属する研究者又はそれに相当する研究実績を有すると認められる研究者のうちから、センター運営委員会の議を経て、センター長が任命する。
- 3 研究員の任期は研究プロジェクトの実施期間とする。

(特別任用研究員、ポスト・ドクトラル・フェロー及びリサーチ・アシスタント)

第 7 条 特別任用研究員、ポスト・ドクトラル・フェロー及びリサーチ・アシスタントの取扱いは、関西大学特別任用研究員に関する取扱要領、関西大学ポスト・ドクトラル・フェローに関する取扱要領及び関西大学リサーチ・アシスタントに関する取扱要領に基づく。

(客員研究員)

第 8 条 客員研究員は、大学等の研究機関に所属する研究者又はそれに相当する研究実績を有すると認められる研究者のうちから、センター運営委員会が決定し、センター長が

委嘱する。

- 2 客員研究員は、第3条に規定する事業を推進するにあたり、必要に応じて協力する。
- 3 客員研究員の任期は年度末までとする。ただし、本人及びセンターが希望する場合には更新できるものとする。

(非常勤研究員)

第9条 非常勤研究員は、前条に規定する客員研究員以外で、センターの研究活動に関連する研究実績を有する研究者のうちから、センター運営委員会が決定し、センター長が委嘱する。

- 2 非常勤研究員は、第3条に規定する事業を推進するにあたり、必要に応じて協力する。
- 3 非常勤研究員の任期は年度末までとする。ただし、本人及びセンターが希望する場合には更新できるものとする。

(訪問研究員の受入れ)

第10条 国内外の教育・研究機関の研究者(大学院生を含む。)で、センターにおいて研究を志望する者を、センター運営委員会の議を経て、訪問研究員として受入れることができる。

(センター運営委員会)

第11条 センターにセンター運営委員会を置く。

- 2 センター運営委員会は、センター長、本学専任教育職員の研究員及び研究所事務グループ長で構成する。
- 3 委員長は、センター長をもって充てる。
- 4 委員長は、必要に応じてセンターに所属する学外の研究員の出席を求めることができる。

第12条 センター運営委員会は、委員長が招集し、議長となる。

- 2 センター運営委員会は、次の事項を審議決定する。
 - (1) センターの運営に関する事項
 - (2) 第3条各号に掲げる事業に関する事項
 - (3) 研究設備等の運用と管理に関する事項
 - (4) センターの人事に関する事項
 - (5) センターの自己点検・評価及び外部評価に関する事項
- 3 センター運営委員会は、前条第2項に規定する委員の過半数の出席をもって成立し、議事は出席者の過半数をもって決する。

(事務)

第12条 センターに関する事務は、研究所事務グループが行う。

(内規の改廃)

第13条 この内規の改廃は、センター運営委員会の議を経て、研究推進委員会の承認を得るものとする。

附 則

この内規は、平成25年9月30日から施行し、平成25年4月1日から適用する。

関西大学国際文化財・文化研究センター

外部評価委員一覧

(敬称略、平成 29 年 7 月 1 日現在)

氏 名	役 職・選 定 理 由
サミール・ヌーハ	<p>【役職】 同志社大学神学部・神学研究科 客員教授</p> <p>同志社大学の COE プロジェクトであった「一神教学際研究センター」においてアラブ・イスラム世界との研究者交流を強力に推進しているエジプト人研究者であり、国際的に知られる東洋学研究の第一人者。アラブと日本の事情に詳しく、本センターでの文化・都市研究の業績を評価できる研究者である。</p>
西山 要一	<p>文化財保存環境の研究、古代象嵌銘技法の研究、文化財防災の研究で多くの業績を出し、日本文化財科学会の理事・評議員の任にあるなど、日本の文化財科学の分野の第一人者である。また、レバノン共和国のティール市で、ローマ時代の地下墳墓およびその壁画の修復を行っており、海外、特にアラブ地域の文化財の実情に詳しく、本センターで行っている壁画修復についても的確な評価ができる研究者である。</p>
三谷 研爾	<p>【役職】 大阪大学文学研究科 文化動態論専攻 教授</p> <p>専門はドイツ・オーストリア文学、中欧文学論。プラハのドイツ語文学、近代における都市空間と言語的表象の相互作用を研究する一方で、ユダヤ人問題や文化史にも詳しく、ヨーロッパの文化事象を広範に考察する視点による著作を多くもつために、国際文化グループの活動や業績についても、バランスよく評価をおこなえる研究者である。</p>
渡會 仁	<p>【役職】 大阪大学ナノサイエンスデザイン教育研究センター 招へい教授</p> <p>分析化学を専門とし、基礎研究から応用研究まで、広い分野を対象とした研究業績がある。特に、機器を用いる微量分析法については従来法の改良や独自の方法の開発を行っている。また、日本分析化学会の会長や日本学術振興会の専門委員を務めるなど、国内外の大学の研究事情にも通じている。よって、広い視野から評価のできる研究者である。</p>

氏 名	役 職・選 定 理 由
上利 泰幸	<p>【役職（所属）】 地方行政独立法人 大阪産業技術研究所 高分子化学の熱伝導を専門として、基礎研究にとどまらずに環境技術として応用するための研究を重視している。文化財の保全には、各種の高分子材料が使われており、新しい高分子材料の開発と文化財への応用とすでに用いられた高分子材料の劣化が問題となっている。劣化に深くかわる熱伝導に詳しい同氏の知見は、センターが行っている新しい高分子材料の開発を正当に評価できる人材である。</p>

【公開シンポジウム】

2014年度

テーマ: 天空の古代都市「マチュピチュ遺跡」を護れ—保存修復研究L国際プロジェクトの成果—

使用言語: スペイン語

開催日	場所	プログラム	参加者数
2015/2/28	国士館大学 多目的ホール	<p>[総合司会] 岡田保良(国士館大学)</p> <p>[開会挨拶] 三浦信行(国士館大学学長)</p> <p>[講演] マチュピチュ遺跡の歴史とその保護・活用 ビエダッド・チャンピ(ペルー政府文化省マチュピチュ遺跡保護管理事務所保存部長) グラディス・ファルバリマチ(ペルー政府文化省マチュピチュ遺跡保護管理事務所保存主任) 太陽の神殿の保存修復に向けて: 共同研究プロジェクトの成果 西浦忠輝CHC研究員(国士館大学イラク古代文化研究所教授) デジタルアーカイブで残す: 太陽の神殿の三次元計測 柴田英明(国士館大学) 小野勇(国士館大学) 地震で崩壊? 遺構の構造耐力を探る 伊藤淳志CHC研究員(関西大学環境都市工学部教授) 西形達明CHC研究員(関西大学環境都市工学部教授) 知られざるウルバンバ渓谷遺跡群: 保護、活用と地域発展 藤田晴啓(新潟国際情報大学)</p> <p>[パネルディスカッション] より良い保存修復と活用: 今後に向けて コーディネーター 天野幸弘(朝日新聞社)</p> <p>パネリスト ビエダッド・チャンピ、西浦忠輝、伊藤淳志、藤田晴啓</p> <p>[閉会の辞] 岡田保良(国士館大学)</p>	156
2015/3/1	関西大学 千里ホールA	<p>[総合司会] 西形達明CHC研究員(関西大学環境都市工学部)</p> <p>[開会挨拶] 楠見晴重(関西大学学長)</p> <p>[講演] マチュピチュ遺跡の歴史とその保護・活用 ビエダッド・チャンピ(ペルー政府文化省マチュピチュ遺跡保護管理事務所保存部長) グラディス・ファルバリマチ(ペルー政府文化省マチュピチュ遺跡保護管理事務所保存主任) 太陽の神殿の保存修復に向けて: 共同研究プロジェクトの成果 西浦忠輝CHC研究員(国士館大学イラク古代文化研究所教授) 地震で崩壊? 遺構の構造耐力を探る 伊藤淳志CHC研究員(関西大学環境都市工学部教授) 西形達明CHC研究員(関西大学環境都市工学部教授) 聖地・マチュピチュ遺跡の気象環境 森井順之(東京文化財研究所)</p> <p>[パネルディスカッション] より良い保存修復と活用: 今後に向けて コーディネーター 天野幸弘(朝日新聞社)</p> <p>パネリスト ビエダッド・チャンピ、西浦忠輝、伊藤淳志、西形達明、岡田保良(国士館大学)</p> <p>[閉会挨拶] 吹田浩CHCセンター長(関西大学文学部教授)</p>	74

2016年度

テーマ:エジプト文化財の保全に向けて

使用言語:日本語・英語

開催日	場所	プログラム	参加者数
2016/10/29	関西大学 東京センター	<p>[総合司会] 佐々木淑美(関西大学)</p> <p>[開会挨拶] 吹田浩CHCセンター長(関西大学文学部教授)</p> <p>[講演] 関西大学のエジプト調査プロジェクト—エジプト学ならびに保存科学の見地から— 吹田浩CHCセンター長(関西大学文学部教授) 西浦忠輝CHC研究員(国士館大学イラク古代文化研究所教授)</p> <p>サッカー遺跡群の保存と修復 アフメド・シュエイブCHC研究員(カイロ大学考古学教授) アーデル・アカリシュCHC研究員(エジプト国立研究センター)</p> <p>サッカーにおける修復のためのデジタル・アーカイブ 安室喜弘CHC研究員(関西大学環境都市工学部教授)</p> <p>イドゥートの地下埋葬室の構造調査 伊藤淳志CHC研究員(関西大学環境都市工学部教授) 西形達明CHC研究員(関西大学名誉教授) 中村吉伸CHC研究員(大阪工業大学教授) 鶴田浩章CHC研究員(関西大学環境都市工学部教授)</p> <p>ギザの文化財の保存修復—サッカー、マヤ墓の事例を中心に— サブリ・アデルガッファール(考古省大カイロ地域保存修復局長)</p> <p>マラウイ国立博物館とエル・ミニヤの文化財の保存修復活動 シハーブ・フセイン・アデルナーセル・ファッデル (考古省中エジプト地域保存修復博物館局長)</p> <p>日本国内のエジプト文化財 藤井信之(関西大学CHC非常勤研究員)</p> <p>[閉会挨拶] 吹田浩CHCセンター長(関西大学文学部教授)</p>	40

【国際シンポジウム】

2015年度

名称:2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウム

使用言語:日本語、中国語、韓国語

開催日	場所	プログラム	参加者数
2015/8/27	奈良春日野国際 フォーラム 壹 (能楽ホール)	<p>石造文化財の保護に関する幾つかの理念的問題について 黄克忠(中国文化遺産研究院)</p> <p>韓国における東アジア文化遺産の保存科学と教育システムについて 金奎虎(公州大学校)</p> <p>人類の歴史、文化、未来:あらためて文化遺産保護の意味を考える 西浦忠輝CHC研究員(国士館大学)</p> <p>館蔵壁画の保護に関する理論的研究とその実践 —甘肅省博物館所蔵の武威天梯山石窟壁画の保存修復を例として 汪万福(敦煌研究院)</p> <p>ゲル化した壁画表面強化材料の除去技術に関する研究 張秉賢(浙江大学)</p> <p>杭州、文廟の彩色絵の現地保存に関する研究 徐飛(南京博物院)</p> <p>朝鮮後期の宮闈の丹青顔料の特性と分析調査 宋柔娜(公州大学校)</p> <p>朝鮮時代、丹青の七組物種中の朱土の復元研究 安秉燦(高麗大学校)</p> <p>テラヘルツイメージング技術の文化財非破壊診断調査への応用 高妻洋成(奈良文化財研究所)</p> <p>木造文化財の生物被害の調査方法と対策に関する研究 徐民錫(国立文化財研究所)</p> <p>陝川・海印寺の藏經板殿の保存環境に関する調査研究 鄭容在(韓国傳統文化大学校)</p> <p>寒冷地における土を部材にもつ文化財の劣化と保存に関する研究 石崎武志(東北芸術工科大学)</p> <p>磨崖仏の覆屋内温度環境制御による保存について 森井順之(東京文化財研究所)</p>	290

2015/8/28	奈良春日野国際フォーラム 壺(能楽ホール)	<p>漢代鉄鎖の構造の非破壊分析について 葉琳(重慶市文化遺産研究員)</p> <p>中国古□ 柳秋穎(陝西省文物保護研究院)</p> <p>韓国、榮山江流域における大型甕棺の定量分析とその考古科学的意味 李讓熙(国立公州大学)</p> <p>松庵寺・塑造佛の自然科学的分析研究 洪鐘郁(国立文化財研究所)</p> <p>X線CT・3Dプリンタ等の3D計測技術を活用した陶質複製品の開発と活用 今津節生(九州国立博物館)</p> <p>文化財の断層撮影に適した大型エックス線CTスキャナーの活用 荒木臣紀(東京国立博物館)</p> <p>振動を用いた劣化予知と機能性修復材料の評価 松井敏也(筑波大学)</p> <p>出土した青銅文化財の保護理念とその実践—叶家山出土青銅器の保存修復を例として 李玲(湖北省博物館)</p> <p>水浸木造文化財の風冷凍結乾燥 胡東波(北京大学考古文博学院)</p> <p>陶器修復用ウレタン樹脂の開発と適用に関する研究 魏光徹(韓瑞大学)</p> <p>大韓帝国時代の皇室馬車の保存処理方法に関する研究 李賢珠(国立故宮博物館)</p> <p>中国における実験考古学の現状 杜金鵬(中国社会科学院考古研究所)</p> <p>科学的手法を用いた模刻制作による日本の木造仏教彫刻の研究 —東大寺中性院弥勒菩薩立像模刻制作を例として— 小島久典(東京藝術大学)</p> <p>東日本大震災で被災した文化財の救出活動の経験から 岡田健(東京文化財研究所)</p>	290
-----------	-----------------------	---	-----

テーマ: イスラムと国際社会

使用言語: 日本語、英語

開催日	場所	プログラム	参加者数
2015/9/14	関西大学 尚文館1階 マルチメディア AV大教室	<p>イスラム戦争法および国際法から見たIslamic State 〔報告者〕 Ahmed Al-Dawoody(Assistant Professor,Zayd Univ.UAE) Hamdy Hassan(Professor,Zayd Univ.UAE) 沖祐太郎(九州大学、専任講師)</p>	約70名
2015/9/15	関西大学 尚文館1階 マルチメディア AV大教室	<p>アラブの春は何をもたらしたか・・・とりわけ女性の地位に現れた変化 〔報告者〕 Tarak Abdaallah (Interim Director of the Institute for Islamic World Study,Zayed Univ.UAE) Triham Bahi(Assistant Professor,Cairo Univ.Egypt) 辻上奈美江(東京大学総合文化研究科特任准教授)</p>	約70名
2015/9/16	関西大学 尚文館1階 マルチメディア AV大教室	<p>世界遺産および文化遺産の保護 〔報告者〕 吹田浩CHCセンター長(関西大学文学部教授) Hany Aboel-Azm (General Director of the Foreign Mission Affairs & P.Committees,エジプト考古省) 前田耕作(和光大学名誉教授) 〔特別コメンテーター〕 香西茂(京都大学名誉教授)</p>	約70名

名称: 世界の文化財保護～地域に根ざした活動と課題～

使用言語: 日本語・英語

開催日	場所	プログラム	参加者数
		<p>〔開会挨拶〕 楠見晴重(関西大学学長)</p> <p>〔講演〕 サッカー地域の壁画群—イドゥートの事例にみる問題とその解決— アフメド・シュエイブCHC研究員(カイロ大学考古学教授) アーデル・アカリシュCHC研究員(エジプト国立研究センター)</p> <p>イドゥート地下埋葬室での保全作業—母岩の強化— 伊藤淳志CHC研究員(関西大学環境都市工学部教授) 西形達明CHC研究員(関西大学環境都市工学部教授) 鶴田浩章CHC研究員(関西大学環境都市工学部教授) 中村吉伸CHC研究員(大阪工業大学教授)</p> <p>サッカーにおける修復のためのデジタル・アーカイブ 安室喜弘CHC研究員(関西大学環境都市工学部教授)</p> <p>〔ポスターセッション〕 西浦忠輝CHC研究員(国士舘大学イラク古代文化研究所教授) 高鳥浩介CHC研究員(NPO法人カビ相談センター理事長/東京農業大学客員教授) 土戸哲明CHC研究員(大阪府立大学教授) アフメド・シュエイブCHC研究員(カイロ大学考古学教授) 川崎英也CHC研究員(関西大学化学生命工学部教授) 吹田浩CHCセンター長(関西大学文学部教授)</p>	

2016/2/27	関西大学 尚文館1階 マルチメディア AV大教室	<p>荒川隆一CHC研究員(関西大学化学生命工学部特別契約教授) 森貴史CHC研究員(関西大学文学部教授) 柏木治CHC研究員(関西大学文学部教授) 浜本隆志CHC研究員(関西大学名誉教授) 岡絵理子CHC研究員(関西大学環境都市工学部教授) 中澤務CHC研究員(関西大学文学部教授)</p> <p>[講演] サッカラの遺跡群とそれらが抱える問題点 サブリ・ファラグ(エジプト考古省サッカラ遺跡管理事務所) サッカラにおける聖なる動物の墓 ハムディ・アミン(エジプト考古省サッカラ遺跡管理事務所) セラベウム—現実とクレームのはざまの修復作業— モスタファ・アブデルファッターハ(エジプト考古省ギザ地域保存修復部門) 階段ピラミッドの保存と修復に関する検討 アシュラフ・ユーセフ(エジプト考古省サッカラ地区修復部門)</p> <p>[パネルディスカッション] エジプト文化財修復の成果と課題 吹田浩CHCセンター長(関西大学文学部教授) 伊藤淳志CHC研究員(関西大学環境都市工学部教授) 中村吉伸CHC研究員(大阪工業大学教授) アフメド・シュエイブCHC研究員(カイロ大学考古学教授) サブリ・ファラグ(エジプト考古省サッカラ遺跡管理事務所) ハムディ・アミン(エジプト考古省サッカラ遺跡管理事務所) モスタファ・アブデルファッターハ(エジプト考古省ギザ地域保存修復部門) アシュラフ・ユーセフ(エジプト考古省サッカラ地区修復部門)</p>	57
2016/2/28	関西大学 尚文館1階 マルチメディア AV大教室	<p>[講演] ポーランドの壁画 ラファオ・クーン(ニコラウス・コペルニクス大学) バハレーンの考古遺産 サルマン・アルマハーリ(バーレーン王国文化省考古遺産局) シリアの文化遺産の悲劇—現在の状況とこれから— ユーセフ・カンジョウ(シリア・アレppo国立博物館前館長)</p> <p>[ポスターセッション] 西浦忠輝CHC研究員(国士館大学イラク古代文化研究所教授) 高鳥浩介CHC研究員(NPO法人カビ相談センター理事長/東京農業大学客員教授) 土戸哲明CHC研究員(大阪府立大学教授) アフメド・シュエイブCHC研究員(カイロ大学考古学教授) 川崎英也CHC研究員(関西大学化学生命工学部教授) 吹田浩CHCセンター長(関西大学文学部教授) 荒川隆一CHC研究員(関西大学化学生命工学部特別契約教授) 森貴史CHC研究員(関西大学文学部教授) 柏木治CHC研究員(関西大学文学部教授) 浜本隆志CHC研究員(関西大学名誉教授) 岡絵理子CHC研究員(関西大学環境都市工学部教授) 中澤務CHC研究員(関西大学文学部教授)</p> <p>[講演] 敦煌石窟壁画の修復材料および技術 蘇伯民(敦煌研究院保存研究所) 大エジプト博物館保存修復センター(GEM-CC)の人材育成のための国際協力事業 松田泰典(JICA専門家/東京文化財研究所) ~ベリーダンス演舞~ Belly Divas(関西大学ベリーダンスサークル)</p> <p>[パネルディスカッション] 各国の文化財保護の現状と国際的なかわり 西浦忠輝CHC研究員(国士館大学イラク古代文化研究所教授) サルマン・アルマハーリ(バーレーン王国文化省考古遺産局) アフメド・シュエイブCHC研究員(カイロ大学考古学教授) 蘇伯民(敦煌研究院保存研究所) 西形達明CHC研究員(関西大学環境都市工学部教授) 岡絵理子CHC研究員(関西大学環境都市工学部教授)</p> <p>[閉会挨拶] 吹田浩CHCセンター長(関西大学文学部教授)</p>	53

テーマ: サッカラの文化遺産保護に向けて 関西大学調査ミッションの10年間の軌跡

使用言語: 日本語・英語・アラビア語

開催日	場所	プログラム	参加者数
2017/11/8	サッカラバームクラブ(エジプト、ギザ県)	<p>[講演] Session 1: 関西大学調査ミッションとサッカラ遺跡 関西大学調査ミッションの10年間の軌跡 吹田浩CHCセンター長(関西大学文学部教授) 末森薫(関西大学CHC・PD) サッカラの文化遺産 サラハ・エル・ホーリCHC研究員(カイロ大学考古学教授) Session 2: 壁画保存 アフメド・シュエイブCHC研究員(カイロ大学考古学教授) アジアの壁画と中国敦煌莫高窟における壁画の劣化要因 西浦忠輝(CHC研究員) 沢田正昭(CHC研究員)</p>	80

		<p>ポーランド、ヴァルタの聖ニコラス教会における壁画保存 ラファオ・ロマン・クーンCHC研究員(ニコラウス・コペルニクス大学美術学部科学技術職) パウリーナ・ユシュチック(ポーランド修復会社修復技術者)</p> <p>Session 3: 文化財の生物劣化 エジプトにおける文化財の生物劣化 マイサ・マンスールCHC研究員(カイロ大学考古学部助教授)</p> <p>日本における文化財の生物劣化 高鳥浩介CHC研究員(NPO法人カビ相談センター理事長/東京農業大学客員教授) 土戸哲明CHC研究員</p>	
2017/11/9	サッカーバームクラブ(エジプト、ギザ県)	<p>〔講演〕 Session 4: 文化遺産における岩盤・石材の保存 岩盤の特性が及ぼすイドゥートのマスタバへの影響 アーデル・アカリシュCHC研究員(エジプト国立研究センター)</p> <p>イドゥートのマスタバの岩盤強化 中村吉伸CHC研究員(大阪工業大学教授) 鶴田浩章CHC研究員(関西大学環境都市工学部教授) 西形達明CHC研究員(関西大学名誉教授) 伊藤淳志CHC研究員(関西大学環境都市工学部教授)</p> <p>カンボジア・アンコール遺跡におけるバイヨン寺院浮き彫りの保存 松井敏也</p> <p>Session 5: 文化遺産のドキュメンテーション イドゥートのマスタバの三次元データ化 安室喜弘CHC研究員(関西大学環境都市工学部教授)</p> <p>イドゥートのマスタバにおける壁画の復元 吹田浩CHCセンター長(関西大学文学部教授) 吹田浩真里子(関西大学CHC・非常勤研究員) 肥後時尚(関西大学CHC・RA)</p> <p>Session 6: 文化遺産の管理 サッカーの文化遺産の管理 モスタファ・アブデルファッターハ(エジプト考古省ギザ地域保存修復部門) アシュラフ・ユースフ(エジプト考古省サッカー地区修復部門)</p> <p>バハレーンにおける遺跡管理 サルマン・アルマハーリ(バーレーン王国文化省考古遺産局)</p> <p>Session 7: ディスカッション - サッカーの文化遺産保護における今後の課題</p>	63

【特別講演】

2013年度

テーマ: エジプト文化財の危機と今後

使用言語: 英語

開催日	場所	プログラム	参加者数
2013/11/26	関西大学 尚文館1階 マルチメディア AV大教室	挨拶: 楠見晴重(関西大学学長) 講演: モハメド・イブラヒム(エジプト・アラブ共和国考古大臣)	69

テーマ: 関西大学のエジプト調査10年の歩み

使用言語: 日本語

開催日	場所	プログラム	参加者数
2014/1/25	関西大学 東京センター	〔講演〕 吹田浩CHCセンター長(関西大学文学部教授)	80

2014年度

テーマ: 現在のエジプトにおける政治的動向と市民の生活

使用言語: 英語

開催日	場所	プログラム	参加者数
2014/9/28	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	〔講演〕 カマル・ガバラ(アル・アラハム新聞編集主幹)	15

2015年度

テーマ: エジプトにおける近年の考古学の発見

使用言語: 英語

開催日	場所	プログラム	参加者数
2015/9/18	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	〔講演〕 ハーニー・アボエルアズム(エジプト考古省外国隊部門パーマネント・コミッティー総局長)	10

【研究集会】

2013年度

テーマ: エジプト学・文化財研究セミナー

使用言語: 英語

開催日	場所	プログラム	参加者数
2014/2/24	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	〔講演〕 古代エジプトにおける言語と教育 サイド・コハリー(カイロ大学考古学エジプト学科教授) アマルナ文書からみるエジプトと古代近東地域の外交関係 ナーセル・メッカーウィ(カイロ大学考古学エジプト学科教授) アビドス神殿 サルワ・カーメル(カイロ大学考古学エジプト学科教授)	11
2014/2/25	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	〔講演〕 古代エジプト語における象形文字と語彙の意味関係 決定詞表音文字を中心に ヘバ・ヌーハ(カイロ大学考古学エジプト学科教授) 古代エジプト史に適用される古代史研究の方法論 ザケーア・ザキ(カイロ大学考古学エジプト学科教授) エジプト、オアシス地域における壁画の劣化状況に関する研究 古代エジプト壁画の修復と分析における新しい動向 モナ・フアード(カイロ大学考古学保存修復学科教授) 石灰岩製の歴史建造物における生理科学的劣化 石灰岩と砂岩製の歴史建造物に対する強化の方法論 ムハンマド・アブデル・ハーディー(カイロ大学考古学保存修復学科教授)	10
2014/2/26	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	〔講演〕 バビロンの取り扱いと修復 バビルス製造に関する諸説 ワフィーカ・ノスビー(カイロ大学考古学保存修復学科教授) ファラオ時代における古代エジプトのガラス製造工程の技術 ローマ時代におけるガラス製造工程の技術 サルワ・ガード・エル・カリーム(カイロ大学考古学保存修復学科教授) アイヴァソフスキーの油絵贋作の発見 デュジャンの森林の風景画—修復の材料、技術に関する研究 ムスタファ・アティア(カイロ大学考古学保存修復学科教授)	8

2015年度

テーマ:エジプト学・文化財研究セミナー

使用言語:英語

開催日	場所	プログラム	参加者数
2016/1/23	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	〔講演〕 考古資料としてのガラスの劣化と保存に関する一研究 サルワ・ガードエルカリーム(カイロ大学考古学部保存修復学科教授) パピルス紙と写本資料の保存処置 ワフィーカ・ノスヒー・ワフバ(カイロ大学考古学部保存修復学科教授) 国際憲章と国際会議における歴史地区の保存 エルサイド・マフムード・エルバンナ(カイロ大学考古学部保存修復学科教授) 考古資料としてのミイラの保存処置を目的とした実験と応用研究 ゴマー・アブデルマスクード(カイロ大学考古学部保存修復学科教授)	19
2016/1/24	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	〔講演〕 先史およびエジプト初期王朝時代の狩猟場面 ムスタファ・カーリーファ(カイロ大学考古学部エジプト学科教授) 王家の示威行為とその歴史的背景 ザケーア・ザキ・ガマルッディーン(カイロ大学考古学部エジプト学科教授) 古代メソポタミアの円筒印章に見る神へのとりなしの祈り スライマー・エルワヘリー(カイロ大学考古学部エジプト学科准教授) エジプトの軍事会議—ヒクソス時代、トメス3世時代、ラメセス2世時代— モハセン・ネグメルディーン(カイロ大学考古学部エジプト学科准教授)	16

【講演会】

2013年度

テーマ:エジプト文化財の危機と今後

使用言語:英語

開催日	場所	プログラム	参加者数
2013/11/19	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	〔講演〕 エジプト考古学における現実と挑戦 2011年1月のエジプト革命以降の観点から ハーニー・アフマド(考古最高評議会監督官) サッカーの文化財保護の現状と問題点 サブリー・ファラグ(サッカー遺跡管理事務所所長)	26
2013/11/20	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	〔講演〕 サッカーで良い作業をするためあに必要なこと モスタファ・アブデル・ファッターハ(サッカー遺跡発掘管理事務所修復部門責任者) サッカーの文化財の現状 ナーセル・ファルガニ(サッカー遺跡管理事務所修復技術者) サッカーにおける修復作業の作業例 アシュラフ・ユーセフ(サッカー遺跡管理事務所修復技術者)	26

2014年度

テーマ:シリアの文化財とその現状 2015

使用言語:英語

開催日	場所	プログラム	参加者数
2015/3/18	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	〔講演〕 ユーセフ・カンジョウ(シリア・アレppo国立博物館前館長)	5

【研究会】

2013年度

テーマ:エジプト文化財の危機と今後—サッカラ村の調査から—

使用言語:英語

開催日	場所	プログラム	参加者数
2013/11/11	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	〔講演〕 サッカラ村での調査をふまえて バスマ・エル・カッティープ(観光省職員) サッカラ村の行政の実情 サミール・ハーシエム(サッカラ村役場職員)	13
2013/11/14	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	〔講演〕 サッカラ遺跡と観光タクシー ユーセフ・アッワード(サッカラ村旅客運送業者) サッカラ村の就業の実情 ファイジー・ゲネーディー(サッカラ村旅客運送業者) サッカラ村と外国発掘隊の仕事 マルズーク・アブドルワーヒド(サッカラ村発掘作業員) エジプトの遺跡調査にかかわって サイード・アブカリーム(サッカラ村発掘作業員)	13

2014年度

テーマ:エジプト政権の動向と国際関係

使用言語:英語

開催日	場所	プログラム	参加者数
2014/9/28	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	〔講演〕 カマル・ガバラ(アル・アラハム新聞編集主幹)	5

テーマ:岩盤研究会

使用言語:英語

開催日	場所	プログラム	参加者数
2015/1/27	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	〔講演〕 サッカラ、イドウトの岩盤強化策 エマド・モーガン(大成建設(株)カイロオフィス技術責任者)	12

テーマ:マチュピチュ遺跡—日本とペルーにおける共同研究の今後—

使用言語:スペイン語

開催日	場所	プログラム	参加者数
2015/3/2	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	〔講演〕 ビエタッド・チャンピ(ペルー政府文化省マチュピチュ遺跡保護管理事務所保存部長) グラディス・ファルバリマチ(ペルー政府文化省マチュピチュ遺跡保護管理事務所保存主任)	11

2015年度

テーマ:イスラーム教と他宗教の共存およびイスラーム教宗派間の共存

使用言語:アラビア語・英語・日本語

開催日	場所	プログラム	参加者数
2016/3/24	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	マジッド・ナフス(エジプト・アズハル大学)	6

【報告会】

2017年度

テーマ:バーレーン王国・バルバル神殿における関西大学ミッションの研究成果

使用言語:英語

開催日	場所	プログラム	参加者数
2017/12/24	バーレーン王国	Verification of Current Situation of the Barbar Temple 肥後時尚(関西大学CHC・RA) Characterization of Building Materials Used for the Barbar Temple アーデル・アカリシュCHC研究員(エジプト国立研究センター) Factors and Phenomina of Deterioration in the Barbar Temple アフメド・シュエイブCHC研究員(カイロ大学考古学部教授) The Strengthening Counter-measure and Quality Estimation of Rock and Stone Work Block in the Barbar T 鶴田浩章CHC研究員(関西大学環境都市工学部教授) Biological Deterioration on the Barbar Temple マイサ・マンズールCHC研究員(カイロ大学考古学部助教授) Photometric-based Recording of Temporal Changes in the BarBar Temple 安室喜弘CHC研究員(関西大学環境都市工学部教授)	17

テーマ:総合文化財の構築を目指した5年間の軌跡
 使用言語:日本語・英語・アラビア語

開催日	場所	プログラム	参加者数
2017/12/17	関西大学 梅田キャンパス	[講演] セッション1:文理融合型の文化財・文化研究 関西大学国際文化財・文化研究センターの活動 吹田浩CHCセンター長(関西大学文学部教授) 伊藤淳志CHC研究員(関西大学環境都市工学部教授) 末森薫(関西大学CHC・PD) 文化財保存の国際協力をその理念と実践> 西浦忠輝(CHC研究員) 沢田正昭(CHC研究員) ドイツのエジプト博物館を考える 森貴史CHC研究員(関西大学文学部教授) 臨遺跡集落・サッカラ村の生活と空間調査 岡絵理子CHC研究員(関西大学環境都市工学部教授) セッション2:エジプトにおける文化遺産保護プロジェクト イドゥートのマスタバ地下埋葬室の壁面とその現状 アーデル・アカリシュCHC研究員(エジプト国立研究センター) アフメド・シュエイブCHC研究員(カイロ大学考古学教授) イドゥートのマスタバ地下埋葬室の岩盤強化 西形達明(CHC研究員) 伊藤淳志CHC研究員(関西大学環境都市工学部教授) 石材強化剤等によるイドゥート地下埋葬室の壁面補強 鶴田浩章CHC研究員(関西大学環境都市工学部教授) 中村吉伸CHC研究員(大阪工業大学教授) イドゥートのマスタバ墓の三次元計測とその活用 安室喜弘CHC研究員(関西大学環境都市工学部教授) セッション3:バーレーンにおける文化遺産保護プロジェクト バーレーン王国の文化遺産 サルマン・アルマハーリ(バーレーン王国文化省考古遺産局) バーレーン王国の文化遺産 吹田浩CHCセンター長(関西大学文学部教授) 肥後時尚(関西大学CHC・RA) セッション4:ディスカッション「文化財保存のこれから」 サラーハ・エル・ホーリCHC研究員(カイロ大学考古学教授) アーデル・アカリシュCHC研究員(エジプト国立研究センター) アフメド・シュエイブCHC研究員(カイロ大学考古学教授) マイサ・マンズールCHC研究員(カイロ大学考古学助教授)	51

テーマ:エジプト学と文化遺産保護の現在
 使用言語:英語・日本語

開催日	場所	プログラム	参加者数
2018/1/31	関西大学 梅田キャンパス	[講演] エジプト学研究の現在 サラーハ・エル・ホーリCHC研究員(カイロ大学考古学教授) 古代エジプトの文化史研究-文献学の視点から- 肥後時尚(関西大学CHC・RA) エジプトにおける文化遺産保護の現在 アシュラフ・ユーセフ(エジプト考古省サッカラ遺跡管理事務所修復技術者) エジプトにおける日本の文化遺産保護 末森薫(関西大学CHC・PD) トメス3世時代の神官職から見た外国人と「もたらされた物」-神官プイエムラー墓の壁画を中心として 松村由美(関西大学大学院文学研究科総合人文学専攻) 古代エジプトの教訓文学と道徳教育 尼崎弥生(関西大学文学部総合人文学科世界史専修) 古代エジプト初期王朝時代における王権観-パレルモ・ストーンとその関連史料を例に- 東濱直希(関西大学文学部総合人文学科世界史専修)	24

【セミナー】

2013年度

テーマ:文化財保存修復専門家養成実践セミナー

使用言語:日本語

開催日	場所	プログラム	参加者数
2014/3/5	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	〔講義〕 人間、文化、歴史と文化遺産—人類の未来を考えるために— 西浦忠輝CHC研究員(国士舘大学イラク古代文化研究所教授) 遺跡と建造物 上野邦一(奈良女子大学古代学術研究センター特任教授)	24
2014/3/6	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	〔講義〕 文化財と社会 天野幸弘(元朝日新聞編集委員) 世界遺産を考える—奈良から国際協力— 西村康(公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務局長) 絵画をかたちづくるもの:絵具の科学 園田直子(国立民族学博物館文化資源研究センター教授) 文化財保護における国際協力(I) 澤田正昭CHC研究員	
2014/3/7	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	〔講義〕 木材の特質と木造文化財保存の基礎 石造文化財の保存修復 西浦忠輝CHC研究員(国士舘大学イラク古代文化研究所教授) 文化財保存と大気環境—文化財に及ぼす大気汚染の影響とその防御— 西山要一(奈良大学教授) 文化財の生物劣化と対策(I)カビ 高鳥浩介CHC研究員(NPO法人カビ相談センター理事長/東京農業大学客員教授)	
2014/3/8	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	〔講義〕 文化財と自然科学 文化遺産の保存と活用 澤田正昭CHC研究員 金属材料学の基礎 桐野文良(東京藝術大学大学院教授) 漆工芸をまもり伝える 北村繁(漆工芸家)	
2014/3/9	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	〔講義〕 文化財保護の歴史と行政 井上敏(桃山学院大学准教授) 博物館における文化財の展示・収蔵環境 博物館と保存科学—保存科学が果たす役割 魚鳥純一(奈良大学准教授)	
2014/3/10	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	〔講義〕 災害と文化財救援活動—東日本大震災の事例から— 日高真吾(国立民族学博物館文化資源研究センター准教授) 表装技術(装演技術)による文化財修理 岡興造(株式会社岡墨光堂会長) 歴史資料の保存修復 大林賢太郎(京都造形芸術大学教授) 文化財保護における国際協力(II) 吹田浩CHCセンター長(関西大学文学部教授)	
2014/3/11	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	〔講義〕 考古遺物(保護と活用)—保存修復に携わって— 増澤文武 (財団法人元興寺文化財研究所名誉研究員理事/NPO法人文化財保存支援機構理事) 民俗文化財の保存と活用法 伊達仁美(京都造形芸術大学教授)	

2014年度

テーマ:文化財保存修復専門家養成実践セミナー

使用言語:日本語

開催日	場所	プログラム	参加者数
2015/2/22	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	〔講義〕 人間、文化、歴史と文化遺産—人類の未来を考えるために— 西浦忠輝CHC研究員(国士舘大学イラク古代文化研究所教授) 国際協力 文化財と自然科学 沢田正昭CHC研究員(東北芸術工科大学文化財保存修復センター長)	

2015/2/23	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	〔講義〕 文化財各論(保護と活用)「美術工芸品(Ⅱ)漆」 北村繁(漆工芸家) 災害と文化財救援活動—東日本大震災の事例から 日高真吾(国立民族学博物館文化資源研究センター准教授) 表装技術による文化財修理 岡興造(株式会社岡墨光堂会長) 文化遺産の保存と活用 平澤毅(独立行政法人国立文化財機構文化遺産部景観研究室長)	26
2015/2/24	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	〔講義〕 文化財と社会 天野幸弘(元朝日新聞編集委員) 基礎構造力学 伊藤淳志CHC研究員(関西大学環境都市工学部教授) 木材の特質と木造文化財保存の基礎 石造文化財の保存修復 西浦忠輝CHC研究員(国土館大学イラク古代文化研究所教授)	
2015/2/25	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	〔講義〕 自然と文化財 西山要一(奈良大学教授) “考古遺物(保護と活用)”—自然科学・技術面で捉えと— 増澤文武 (財団法人元興寺文化財研究所名誉研究員理事/NPO法人文化財保存支援機構理事) 文化財保護制度の歴史 井上敏(桃山学院大学准教授)	
2015/2/26	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	〔講義〕 遺跡と文化財 上野邦一(奈良女子大学古代学術研究センター特任教授) 文化財材料学の基礎—金属 桐野文良(東京藝術大学大学院教授) 絵画をかたちづくるもの:絵具の科学 園田直子(国立民族学博物館文化資源研究センター教授)	
2015/2/27	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	〔講義〕 民族資料の保存とその活用 伊達仁美(京都造形芸術大学教授) 文化財と環境「文化財の生物劣化と対策 カビ」 高鳥浩介CHC研究員(NPO法人カビ相談センター理事長/東京農業大学客員教授) 博物館における文化財の展示・収蔵環境 博物館と保存科学—保存科学が果たす役割— 魚島純一(奈良大学准教授)	
2015/2/28	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	〔講義〕 世界遺産を考える—奈良から国際協力— 西村康(公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所長) 歴史資料 大林賢太郎(京都造形芸術大学教授) 非破壊的な調査の体験—光を使った文化財の調査方法— 文化財の形に触れて感じて考える 今津節生(九州国立博物館課長)	

2015年度

テーマ:文化財保存修復専門家養成実践セミナー

使用言語:日本語

開催日	場所	プログラム	参加者数
2016/2/20	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	〔講義〕 基礎文化財論 西浦忠輝CHC研究員(国土館大学イラク古代文化研究所教授) 文化と文化遺産 柏木治CHC研究員(関西大学文学部教授) 社会と文化財 天野幸弘(元朝日新聞編集委員) 文化財と自然科学 成瀬正和(宮内庁正倉院事務所)	
2016/2/21	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	〔講義〕 木造文化財 西浦忠輝CHC研究員(国土館大学イラク古代文化研究所教授) 世界遺産を考える 西村康(公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所長) 美術工芸品(漆) 北村繁(漆工芸家) 金属文化財 桐野文良(東京藝術大学大学院教授)	

2016/2/22	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	〔講義〕 文化財保護と行政 現状と課題 井上敏(桃山学院大学准教授) 歴史資料 WS「紙と和紙」 大林賢太郎(京都造形芸術大学教授)	20
2016/2/23	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	〔講義〕 地盤と文化財建築 伊藤淳志CHC研究員(関西大学環境都市工学部教授) 文化財と国際協力 沢田正昭CHC研究員(東北芸術工科大学文化財保存修復センター長) 遺跡と建造物 上野邦一(奈良女子大学古代学学術研究センター特任教授) 文化財構造物 西形達明(関西大学環境都市工学部教授)	
2016/2/24	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	〔講義〕 民族資料 伊達仁美(京都造形芸術大学教授) 考古遺物 増澤文武 (財団法人元興寺文化財研究所名誉研究員理事/NPO法人文化財保存支援機構理事) 〔実習〕 計測、修復 今津節生(九州国立博物館課長)	
2016/2/25	国立民族学博物 館	〔講義〕 民族資料の保存管理 日高真吾(国立民族学博物館文化資源研究センター准教授) 美術工芸品(絵画) 園田直子(国立民族学博物館文化資源研究センター教授)	
2016/2/26	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	〔講義〕 石造文化財 西浦忠輝CHC研究員(国士舘大学イラク古代文化研究所教授) 文化財の生物劣化と対策 高島浩介CHC研究員(NPO法人カビ相談センター理事長/東京農業大学客員教授) 博物館と文化財 魚島純一(奈良大学准教授)	

2016年度

テーマ:文化財保存修復専門家養成実践セミナー

使用言語:日本語

開催日	場所	プログラム	参加者数
2017/2/20	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	〔講義〕 基礎文化財論 佐々木淑美(関西大学CHC・PD) 民俗資料 伊達仁美(京都造形芸術大学教授) 奈良の文化財と世界遺産 中井公(公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所研修事業部長) 文化財と自然科学 成瀬正和(宮内庁正倉院事務所)	13
2017/2/21	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	〔講義〕 遺跡と建造物 上野邦一(奈良女子大学古代学学術研究センター特任教授) 博物館と文化財 魚島純一(奈良大学教授)	
2017/2/22	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	〔実習〕 紙と織物 大林賢太郎(京都造形芸術大学教授) 〔講義〕 文化財と国際協力 吹田浩CHCセンター長(関西大学文学部教授) 美術工芸品 北村繁(漆工芸家)	
2017/2/23	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	〔講義〕 地盤と文化財 伊藤淳志CHC研究員(関西大学環境都市工学部教授) 文化財とIT 安室喜弘CHC研究員(関西大学環境都市工学部教授) 文化財保護行政論 井上敏(桃山学院大学准教授)	

2017/2/24	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	〔実習〕 考古遺物 今津節生(九州国立博物館課長) 〔講義〕 災害と文化財 日高真吾(国立民族学博物館文化資源研究センター准教授) 絵画をかたちづくるもの絵具の科学 園田直子(国立民族学博物館文化資源研究センター教授)
2017/2/25	国立民族学博物館	〔講義〕 石造文化財 成瀬正和(宮内庁正倉院事務所) 金属文化財 桐野文良(東京藝術大学大学院教授) 木造文化財 西山要一(奈良大学教授) 文化財の生物劣化と対策 高鳥浩介CHC研究員(NPO法人カビ相談センター理事長/東京農業大学客員教授)

2017年度

テーマ:文化財保存修復専門家養成実践セミナー

使用言語:日本語

開催日	場所	プログラム	参加者数
2018/2/22	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	〔講義〕 人類の歴史、未来と文化財 西浦忠輝(CHC研究員) 金属文化財の技法・材料 桐野文良(東京藝術大学大学院教授) 遺跡と建造物 上野邦一(奈良女子大学古代学術研究センター特任教授) 文化財の制度と歴史 井上敏(桃山学院大学准教授) 〔講義・実習〕 考古遺物の保存と活用 今津節生(奈良大学文学部文化財学科教授)	23
2018/2/23	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	〔講義・実習〕 伝統技法・材料と保存:和紙と織物 大林賢太郎(京都造形芸術大学教授) 文化財とデジタル技術 安室喜弘CHC研究員(関西大学環境都市工学部教授) 伝統技法・材料と保存:美術工芸品 北村繁(漆工芸家)	
2018/2/24	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	〔講義・実習〕 文化財の生物劣化と対策:虫 高畑誠(宮内庁正倉院事務所) 文化財の生物劣化と対策:カビ 高鳥浩介CHC研究員(NPO法人カビ相談センター理事長/東京農業大学客員教授) 文化財と彩色材料 成瀬正和(東北芸術工科大学客員教授) 中神敬子(日本画修復家)	
2018/2/26	奈良	〔実地研修〕 元興寺文化財研究所 東大寺・東大寺ミュージアム 正倉院	
2018/2/27	国立民族学博物館	〔実地研修・実習〕 博物館資料の保存と管理 園田直子(国立民族学博物館文化資源研究センター教授) 国立民族学博物館/バックヤード見学(収蔵庫・燻蒸庫・多機能資料保管庫)・博物館資料の点検 西澤雅樹(国立民族学博物館係長) 和高智美(国立民族学博物館) 河村友佳子(国立民族学博物館) 橋本沙知(国立民族学博物館) 〔講義〕 博物館展示の方法と考え方 日高真吾(国立民族学博物館文化資源研究センター准教授) 〔実地研修〕 展示場見学 日高真吾(国立民族学博物館文化資源研究センター准教授)	
2018/2/28	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	〔講義・実習〕 文化財の取り扱い:梱包・輸送技術 日本通運 文化財科学の歩み 沢田正昭CHC研究員(東北芸術工科大学文化財保存修復センター長) 世界遺産の制度と意義 岡田保良(国士舘大学イラク古代文化研究所長) 歴史的建造物と災害 西形達明CHC研究員(関西大学名誉教授) 文化遺産と国際協力 末森薫(関西大学CHC・PD)	

2016年度

テーマ:エジプト学研究セミナー

使用言語:日本語

開催日	場所	プログラム	参加者数
2016/7/31	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	〔講義〕 王墓にみるエジプト初期国家の王権 中野智章(中部大学国際関係学部教授) 古王朝第5王朝最後の王、ウニスの時代 吹田浩CHCセンター長(関西大学文学部教授) トウトアंकアメン(ツタンカーメン)王時代のエジプト 河合望(金沢大学国際文化資源学研究センター客員准教授) リビア王朝時代(第22王朝-第24王朝)の首はい体制と墓制 藤井信之(関西大学CHC非常勤研究員)	55

2017年度

テーマ:エジプト学研究セミナー

使用言語:日本語

開催日	場所	プログラム	参加者数
2017/7/23	関西大学 梅田キャンパス	〔講演〕 古代エジプトにおける神・人・神話 田澤恵子(公益財団法人古代オリエント博物館研究員) ピラミッド・テキストの研究 吹田浩CHCセンター長(関西大学文学部教授) 新王国時代のメンフィスとその墓地について 河合望(金沢大学新学術創成研究機構准教授) サイス王朝(第26王朝)時代のエジプト 藤井信之(関西大学CHC非常勤研究員)	115

【ワークショップ】

2015年度

テーマ:Recent Activities in Cultural Heritage

使用言語:英語

開催日	場所	プログラム	参加者数
2016/2/29	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	The History of the Complex of Zose サブリ・ファラグ(エジプト考古省サッカラ遺跡管理事務所) The Serapeum Tomb: History and Architectur ハムディ・アミン(エジプト考古省サッカラ遺跡管理事務所) Scientific Study of the Step Pyramid Projec アシュラフ・ユーセフ(エジプト考古省サッカラ地区修復部門) Conservation Activities in Egypt モスタファ・アブデルファッターハ(エジプト考古省ギザ地域保存修復部門) Present Crisis of Cultural Properties in Syr ユーセフ・カンジョウ(シリア・アレppo国立博物館前館長) Conservation Activity in Dunhuan 蘇伯民(敦煌研究院保存研究所) Burial Mounds in Bahrai サルマン・アルマハーリ(バーレーン王国文化省考古遺産局)	8

2016年度

テーマ: 壁画修復のためのワークショップ

使用言語: 英語・アラビア語

開催日	場所	プログラム	参加者数
2017/3/8, 9, 12, 13, 14, 15	カイロ・サッカ	Wall paintings in ancient Egypt サラーハ・エル・ホーリCHC研究員(カイロ大学考古学部教授) How to prepare materials to be used in conservation of wall paintings モスタファ・アブデルファッターハ(エジプト考古省ギザ地域保存修復部門) アシュラフ・ユーセフ(エジプト考古省サッカ地区修復部門) Wall painting Techniques in ancient Egypt アフメド・シュエイブCHC研究員(カイロ大学考古学部教授) Practice Consolidation モスタファ・アブデルファッターハ(エジプト考古省ギザ地域保存修復部門) Practice facing ラファオ・ロマン・クーン(ニコラウス・コベルニクス大学美術学部科学技術職) The effect of Saqqara geological formation and clay minerals on the deterioration of wall paintings アーデル・アカリシュCHC研究員(エジプト国立研究センター) Practice ラファオ・ロマン・クーン(ニコラウス・コベルニクス大学美術学部科学技術職) パウリーナ・パーバラ・クーン(トルン現代美術センター学芸員) Wysokinska Aleksandra Juszczak Paulina Practice Detaching アシュラフ・ユーセフ(エジプト考古省サッカ地区修復部門) Lecture for practical paper writing 吹田浩CHCセンター長(関西大学文学部教授) The effect of Micro biology deterioration on wall paintings マイサ・マンズールCHC研究員(カイロ大学考古学部助教授) Practice Backing アシュラフ・ユーセフ(エジプト考古省サッカ地区修復部門) Modern ways of Documentation of wall paintings 安室喜弘CHC研究員(関西大学環境都市工学部教授) Practice packing アシュラフ・ユーセフ(エジプト考古省サッカ地区修復部門)	27

2017年度

テーマ: エジプトワークショップ

使用言語: 英語・アラビア語

開催日	場所	プログラム	参加者数
2018/1/21, 22, 23	カイロ・サッカ	[講義] Facing Techniques for Mural Painting with Applying Funori(Seaweed) Paste 岡泰央(株式会社岡墨光堂 代表取締役)	各日 25

【その他】

2013年度

テーマ: 中期エジプト語講座 初級

使用言語: 日本語

開催日	場所	プログラム	参加者数
2013/12/7・14・21・2014/1/11	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	講師: 吹田浩CHCセンター長(関西大学文学部教授)	18

2014年度

テーマ: 中期エジプト語講座 初級

使用言語: 日本語

開催日	場所	プログラム	参加者数
2014/12/13・20 2015/1/17・20	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	講師: 吹田浩CHCセンター長(関西大学文学部教授)	31

2015年度

テーマ: 日本物理学会2015秋季大会市民科学講演会 科学技術と私たちのくらし

使用言語: 日本語

開催日	場所	プログラム	参加者数
2015/9/20	関西大学 千里山キャンパス 100周年記念 会館	蓄電技術によるエネルギー 高効率利用社会の幕開け 石川正司(関西大学化学生命工学部教授) 古代エジプト文明の技術 吹田浩CHCセンター長(関西大学文学部教授)	確認 できず

テーマ:中期エジプト語講座 初級
使用言語:日本語

開催日	場所	プログラム	参加者数
2015/10/10・ 24・31・11/7	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	講師: 吹田浩CHCセンター長(関西大学文学部教授)	21

テーマ:中期エジプト語講座 中級
使用言語:日本語

開催日	場所	プログラム	参加者数
2015/12/12・ 19・1/9	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	講師: 吹田浩CHCセンター長(関西大学文学部教授)	20

テーマ:古代壁画の保存と活用に関する日本・エジプト共同研修会
使用言語:日本語・英語・アラビア語

開催日	場所	プログラム	参加者数
2016/3/18～ 22	北海道小樽市 生涯学習プラザ 東北芸術工科大学	参加者 吹田浩CHCセンター長(関西大学文学部教授) アーデル・アカリシュCHC研究員(エジプト国立研究センター) アフメド・シュエイブCHC研究員(カイロ大学考古学部教授) AMR ABDEL FATTAH ABDELSAMEA ISMAIEL SHAKAL(エジプト考古省サッカラ地区修復部修復家) ASHRAF YOUSSEF EWAIS YOUSSEF(エジプト考古省サッカラ地区修復部監督者) BASMA ZAGHLOUL ISMAIL MAHMOUD ABDEL KARIM(エジプト考古省サッカラ地区修復部修復家) HASSAN ABDALLAH HASSAN SOLIMAN(エジプト考古省サッカラ地区修復部修復家) HUSSEIN MOHAMMED RABIE HUSSEIN ELDESUKY(エジプトカイロ大学考古学部准教授) MAGED AHMED MOHAMED MOHAMED SALEH(エジプト考古省サッカラ地区修復部修復家) MAGED ABDELSALAM IBRAHIM NAFS(エジプトアズハル大学教授) MASHHOUR MAHMOUD AZIZELDEIN ABDELMOUTY(エジプト考古省サッカラ地区修復部修復家) MOHAMMED ABDELSATTAR ABDEL AZIM MOHAMED RAWASH(エジプト考古省サッカラ地区修復部修復家) MOSTAFA AHMED AHMED ABDEL FATAH(エジプト考古省ギザ地域保存修復部門総監督) SAMIA SEIFELNASER ABUELMAGD GEDDAWY(エジプト考古省サッカラ地区修復部修復家) YASMIN HASSAN MOSTAFA ALAAELDIN(エジプト考古省サッカラ地区修復部修復家)	17

2016年度

テーマ:中期エジプト語講座 初級
使用言語:日本語

開催日	場所	プログラム	参加者数
2016/5/28・ 6/4・11・18	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	講師: 吹田浩CHCセンター長(関西大学文学部教授)	17

テーマ:中期エジプト語講座 中級
使用言語:日本語

開催日	場所	プログラム	参加者数
2016/11/12・ 19・26	関西大学 総合研究室棟2階 実験・講習室	講師: 吹田浩CHCセンター長(関西大学文学部教授)	10

2017年度

テーマ:中期エジプト語講座 初級
使用言語:日本語

開催日	場所	プログラム	参加者数
2017/6/3・10・ 17・24	関西大学 梅田キャンパス	講師: 肥後時尚(関西大学CHC・RA)	33

テーマ:中期エジプト語講座 中級
使用言語:日本語

開催日	場所	プログラム	参加者数
2017/11/18・ 25・12/3	関西大学 梅田キャンパス	講師: 藤井信之(関西大学CHC・非常勤研究員) 肥後時尚(関西大学CHC・RA)	21

テーマ:中期エジプト語講座 フォローアップ講座
使用言語:日本語

開催日	場所	プログラム	参加者数
2018/2/2・3	関西大学 梅田キャンパス	講師: サラーハ・エル・ホーリCHC研究員(カイロ大学考古学部教授)	14

CHC Kansai University

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
関西大学国際文化財・文化研究センター (CHC)

エジプト文化財の危機と今後 —サッカラ村の調査から—

Program

11月11日(月)
13:00-14:30
バスマ・エル・ロフアイーブ(観光客員)
Basma El-Khatib
サッカラ村での調査をふまえて
Airing the Survey in Saqqara Village

14:40-16:30
サマール・ハーフ・エル・メム(サッカラ村役所職員)
Samer Hafeez
サッカラ村の行政と実務
Administration of Saqqara Village

14日(水)
19:40-21:30
ユーセフ・アッワード(エジプト考古学調査員)
Youssef Awad
サッカラの遺跡と観光客
Saqqara Archaeological Sites and Tourism

13:00-14:30
アブドゥル・アズィズ・イサハク(観光客員)
Abdul Aziz
サッカラ村の雇用の実情
Situation of Employment in Saqqara Village

14:40-16:30
マムズーン・アブドゥルワヒド(サッカラ村建設作業員)
Mamoon Abdelwahid
サッカラ村と外国発掘隊の仕事
Saqqara Village and Working for Foreign Missions

16:30-17:30
サイード・アブカール(サッカラ村発掘作業員)
Said Abukarim
エジプトの遺跡調査にかかわって
Joining Excavations in Egyptian Archaeological Sites

日時：平成25年11月11日(月)
14日(水)

聴講：無料
※お気軽にどうぞ。

場所：関西大学国際文化財・文化研究センター 講義室
(総合研究棟2F)

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号
TEL: 06-6368-1111(内線番号3242, 又は3249) FAX: 06-6368-0235
Address: 3-3-35 Yamate-cho, Suita-shi, Osaka 564-8680, JAPAN
E-Mail: chc@jim.kandai.jp

URL: <http://www.kansai-u.ac.jp/chc/index.html>

関西大学 国際文化財・文化研究センター
Kansai University Center for Global Study of Cultural Heritage and Culture

CHC Kansai University

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
関西大学国際文化財・文化研究センター (CHC)

エジプト文化財の危機と今後 Crisis of Egyptian Monuments and the Future エジプト文化財の修復の実践—サッカラを中心に— Practice of Conservation and Restoration for Egyptian Antiquities: Mainly in Saqqara

Program

11月19日(火)
13:00-14:30
ハム・アブアード(考古学調査員)
Ham Ahmed Inspector of the Supreme Council of Antiquities
エジプト考古学における発見と挑戦
Egyptian Antiquity Between Discovery and Challenge
1911年1月のエジプト革命後の状況
In Light of Changes which Occurred in Egypt after the Revolution of January 2011

14:40-16:30
サブリン・フアラグ(サッカラ遺跡保護局職員)
Sabrin Farag Director of Saqqara Inspectorate
サッカラの文化財保護の現状と課題
Present Situation and Problems for Protection of Cultural Heritage in Saqqara

20日(水)
10:40-12:10
オスマン・アブドゥルアッファターフ(サッカラ遺跡保護局事務官)
Osman Abdou El-Fattah Director of Conservation of Saqqara Inspectorate
サッカラで働く作業員を支援するために必要なこと
Our Needs in Saqqara to Perform a Good Work

13:00-14:30
ナセル・ファラギ(サッカラ遺跡保護局職員)
Nasser Farag (Conservation of Saqqara Inspectorate)
サッカラの文化財の現状
The Current Condition of Saqqara Monuments

14:40-16:10
アブドゥル・アズィズ・イサハク(サッカラ遺跡保護局職員)
Abdul Aziz (Conservation of Saqqara Inspectorate)
サッカラにおける修復作業の実践
Examples of Conservation and Restoration Work in Saqqara

日時：2013年11月19日(火)
20日(水)

場所：関西大学国際文化財・文化研究センター
講義室 (関西大学総合研究棟2階)
聴講：無料 (出入り自由)
使用言語：英語のみ

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号
Address: 3-3-35 Yamate-cho, Suita-Shi, Osaka 564-8680, JAPAN
TEL: 06-6368-1111(内線番号3242, 又は3249) FAX: 06-6368-0235
URL: <http://www.kansai-u.ac.jp/chc/index.html> E-Mail: chc-jim@ml.kandai.jp
関西大学 国際文化財・文化研究センター
Kansai University Center for Global Study of Cultural Heritage and Culture

CHC Kansai University

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
関西大学国際文化財・文化研究センター (CHC)

特別講演 平成25年11月26日(火) 13:00 ~ 14:30 関西大学大学院棟 尚文館1階 マルチメディア AV 大教室

Prof. Dr. Mohamed Ibrahim
(モハメド・イブラヒム博士)
Minister of State for Antiquities
(考古大臣, エジプト・アラブ共和国)

「エジプト文化財の危機と今後」 Crisis of Egyptian Monuments and the Future

来聴歓迎
※あらかじめ、お申込み下さい。

エジプトの文化財に今、何が起きているのか?
当局はどのように対応しようとしているのか?
考古大臣から、正確な情報を話していただきます。

【申し込み・お問い合わせ先】
関西大学国際文化財・文化研究センター
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号
TEL: 06-6368-1111 (内線番号 3242 又は 3249)
FAX: 06-6368-0235
Email: chc_jim@ml.kandai.jp
URL: <http://www.kansai-u.ac.jp/chc/>

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号
TEL: 06-6368-1456 Fax: 06-6368-1457
URL: <http://www.kansai-u.ac.jp/chc/>
Twitter: @CHC_KU
Facebook: <http://www.facebook.com/Egypt.Kansai.University>

関西大学 国際文化財・文化研究センター
CHC, Kansai University

中期エジプト語講座 初級

関西大学国際文化財・文化研究センターは、中期エジプト語の講座を開講します。中期エジプト語は、古代エジプトの3千年の歴史の中で最も基本的なもので、エジプト学は、誰もこの言語を初めに勉強します。本講座は、中期エジプト語の文法をみっちり勉強します。4日間の集中講義によって、古代エジプト語を読む自信を持つことができます。講座終了時には受講者の皆様に、修了証を頒布します。社会人や学生の皆さんで関心のある方は、奮ってご参加ください。

<開催日時>
平成25年 12月7日(土) 14日(土) 21日(土)
平成26年 1月11日(土)
各講義とも 10:00-17:30の間に6コマ実施

<場所>
関西大学 総合研究棟2階
国際文化財・文化研究センター

<講師>
吹田 浩
(関西大学 国際文化財・文化研究センター長)

<対象>
・初めてエジプト語を学ぶ方
・エジプト語に興味のある方

<申込方法>
参加希望者は電子メールで件名を「中期エジプト語講座 初級」とし、
①氏名(ふりがな) ②連絡先電話番号 ③年齢
を明記のうえ、下記メールアドレスまでお送りください。
学習経験のある方は別途お問い合わせください。
※11月22日締切(定員になり次第締め切らせていただきます。)

<応募先>
関西大学国際文化財・文化研究センター
メールアドレス: chc_jim@ml.kandai.jp

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号
関西大学 総合研究棟2階
国際文化財・文化研究センター
Tel: 06-6368-1456 Fax: 06-6368-1457
URL: <http://www.kansai-u.ac.jp/chc/>
Twitter: @CHC_KU
Facebook: <http://www.facebook.com/Egypt.Kansai.University>



関西大学東京センター・関西大学国際文化財・文化研究センター 共催

特別講演会

『関西大学のエジプト調査10年の歩み』

講師／吹田 浩 関西大学文学部教授、関西大学国際文化財・文化研究センター 所長

関西大学は、2004年にサッカで古代壁画の修復のための研究を始めました。日本・エジプト合同マスコイ・イトワート調査ミッションとして、日本とエジプトが特別な関係で調査することをモットーにしています。エジプトの遺跡発掘調査、カイロ大学考古学部に、遺跡所在地のサッカ村のいすれとも良好な関係があり、これが、エジプト学、異文化研究、さらに化学分析、試掘調査化学、建築史、本工学など文脈統合型の多様な研究を行う基盤になっています。また、サッカ村と遺跡とのかかわりをも研究対象にしており、国際的にもこれほど多様な研究を行っている調査隊はありません。



開催日 平成26年1月25日(土)13:30~15:00

場所 関西大学東京センター

申込締切 平成26年1月15日(水)必着

受講料 無料



吹田 浩(おいた ひろし)

1975年奈良県生まれ。21年本学文学部史学専攻専攻修了後、22年に法華大学講師として赴任し、26年に助教授、2002年から教授。本学文学部中東部第一助教授に就任してエジプト考古学を専攻し、古代エジプトの宗教研究に専ら取り組む。専門はエジプト学、考古学、言語学、そして、これらに基づいて調査を遂行するという一環の体系的な研究調査を実施している。現在は、古代エジプトの文化史の研究に加え、エジプトの遺跡の発掘調査活動にも関心を持っており、カイロ大学は学部の教員や研究生の大半が共同で研究を進めている。2004年から、サッカにあるイトワートという名の古墳(マスコイ)の地下遺跡発掘調査を実施しており、この地域の歴史の解明と調査を目的として取り組んでいる。



エジプト学・文化財研究セミナー Seminar on Egyptology and Monuments

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
関西大学国際文化財・文化研究センター(CHC)

関西大学国際文化財・文化研究センター(CHC)は、カイロ大学考古学部の研究者10名によるエジプト学とエジプト文化財保存の研究分野についての研究集会を開催します。この研究集会は専門的かつ多面的なアプローチを行う日本初の試みとなります。エジプトや文化財に興味のある多数の方のご参加を歓迎いたします。

日時：2014年2月24日(月)~2月26日(水)

場所：関西大学国際文化財・文化研究センター

参加費：無料

実験・講習室(総合研究棟2階)

使用言語：英語

2024年(月)	2月24日(月)	2月25日(火)	2月26日(水)
10:40~12:10	サイード・ゴザウィー(エジプト) 古埃及エジプトの言語と教育 Language and Education in Ancient Egypt	ヘレ・ネー(エジプト) 古埃及エジプトにおける象形文字と音韻の重要性 研究、古埃及エジプト The Semantic Relations between the Hieroglyphic Signs and the Meaning of Words in Ancient Egyptian Language (Determinatives and Phonetic Signs)	マリア・ヌビ(エジプト) 古埃及エジプトの紙の製造と保存 Treatment and Conservation of Papyrus in Ancient Egypt: The Theory of Manufacture of Papyrus
13:00~14:30	サー・モリス・メソウ(エジプト) アマタナ文書から見たエジプトと古代近東地域の外交関係 Diplomatic Relations Egypt and the Ancient Near East through the Amarna Letters	ザキア・ハル(エジプト) 古埃及エジプトに適用される考古学的手法 The Methodology for Studying Ancient History Applied in Ancient Egyptian History	ザキア・ハル(エジプト) アマタナ文書から見たエジプトと古代近東地域の外交関係 Diplomatic Relations Egypt and the Ancient Near East through the Amarna Letters
14:40~16:10	サバハ・カヌー(エジプト) アトメンの三角 The Temple of Amen	マリア・ヌビ(エジプト) エジプト、エジプトの象形文字と音韻の重要性に関する研究 Study on the Determinative Aspect of Hieroglyphic Signs in Egyptian Quills 古埃及エジプトの象形文字と音韻の重要性に関する研究 New Trends in the Analysis and Conservation of Ancient Egyptian Metal Painting	ザキア・ハル(エジプト) アマタナ文書から見たエジプトと古代近東地域の外交関係 Diplomatic Relations Egypt and the Ancient Near East through the Amarna Letters
16:20~17:50	ムハンマド・アブド・ハディ(エジプト) 古埃及エジプトの石灰石建築物の保存 Methodology of Consolidation of Historical Building of Limestone and Sandstone	ムハンマド・アブド・ハディ(エジプト) 古埃及エジプトの石灰石建築物の保存 Methodology of Consolidation of Historical Building of Limestone and Sandstone	ムハンマド・アブド・ハディ(エジプト) 古埃及エジプトの石灰石建築物の保存 Methodology of Consolidation of Historical Building of Limestone and Sandstone



平成 25 年度 文化財保存修復セミナー 応募要項

— 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 —



関西大学 国際文化財・文化研究センター

協力：特定非営利活動法人 文化財保存支援機構



「文化財保存修復セミナー」開催趣旨

昨今のグローバル化の流れの中で、文化、あるいは文化財を介した国際交流は益々重要な位置を占めています。一方これからの担う世代の中でも、伝統的なものづくりや、歴史遺産への興味が高まっています。こうした背景には、文化を愛し、そこから産み出された文化財を大切に守る日本社会の長い伝統があります。昨今の学生や社会人の中にも、文化——とりわけ文化財に関わりたいと希望する方が数多く存在しています。

これを受けて、関西大学 国際文化財・文化研究センターでは、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の中で、「文化財保存修復セミナー」を開催する運びとなりました。講師陣には既に現場で活躍している研究者、技術者など一流の専門家を迎え、今まで文化財に全く触れたことのない方にも分かりやすく授業を行います。

将来の文化財専門家への一歩として、共に学んでいきましょう。

- 定員 30名
- 参加資格：大学生で文化財関係を学ぼうとする者
一般社会人で文化財保護に強い関心を持ち学ぼうとする者
※希望者多数の場合は主催者が選抜。
- 受講時間数：42時間(7日)
講義39時間 / 実技・見学等3時間
- 実施期間：平成26年3月5日(水)、6日(木)、7日(金)、8日(土)、9日(日)、10日(月)、11日(火) 全7日間
- 時間：9:30~11:00、11:00~12:30、14:00~15:30、15:30~17:00
(1講義1.5時間/1日・4講義が原則。ただし3時間の講義もあります。)
- 場所：関西大学 国際文化財・文化研究センター 実技・講習室
大阪府吹田市山手町3-3-35 関西大学千里山キャンパス 総合研究室棟2階
(阪急千里線「関大前」駅 徒歩約10分)
詳細は以下のURLをご確認ください。(15の建物)
<http://www.kansai-u.ac.jp/global/guide/mapenri.html>
必要に応じて展示室や修理室の見学、その他の博物館、修理施設等。
- 参加費：一般 20,000円 / 学生・院生 10,000円 / 関西大学生・院生 5,000円
- 受講者の特典：全日程履修者には修了証書を授与します。※
※必ずお読みください。受講料は別途お申し込みの際に案内いたします。
- 応募期間：平成26年2月21日(金)まで
- 応募方法：申し込み用紙に必要事項①氏名 ②年齢 ③連絡先住所 ④連絡先電話番号、FAX番号、メールアドレス等 ⑤所属機関、部署(学生の場合は、専攻コース名など) ⑥専門の会員の有無 ⑦経歴>を記入の上、NPO法人文化財保存支援機構事務局まで、FAX、郵送あるいはe-mail 添付にてお送り下さい。

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
関西大学国際文化財・文化研究センター (CHC)

研究会

「エジプト政権の動向と国際関係」

Movement of Egyptian Government and International Relations

Kamal Gaballa

(カマル・ガバラ)

(アル・アハラム新聞コラムニスト、元編集長、エジプト)

平成26年9月28日(日)
9:00~10:00

関西大学国際文化財・文化研究センター
講習室(関西大学総合研究室棟2階)

※あらかじめ、メールにてお申込みください。
chc-jm@m1.kandai.jp
お申込み多数の場合は先着順。

エジプトの政治に今、何が起きているのか？市民の生活への影響は？迅速するエジプト情勢を現地地の新聞記者から話していただきます。

【申し込み・お問い合わせ先】
関西大学国際文化財・文化研究センター
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35
TEL: 06-6368-1111
(内線番号 3242 又は 3249)
FAX: 06-6368-0235
Email: chc-jm@m1.kandai.jp
URL: <http://www.kansai-u.ac.jp/chc/>

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
関西大学国際文化財・文化研究センター (CHC)

特別講演

「現在のエジプトにおける政治的動向と市民の生活」

Current Movement of Politics and Daily Life in Egypt

Kamal Gaballa

(カマル・ガバラ)

(アル・アハラム新聞コラムニスト、元編集長、エジプト)

平成26年9月28日(日)
11:00~12:00

関西大学国際文化財・文化研究センター
講習室(関西大学総合研究室棟2階)

※あらかじめ、メールにてお申込みください。
chc-jm@m1.kandai.jp
お申込み多数の場合は先着順。

エジプトの政治に今、何が起きているのか？市民の生活への影響は？迅速するエジプト情勢を現地地の新聞記者から話していただきます。

【申し込み・お問い合わせ先】
関西大学国際文化財・文化研究センター
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35
TEL: 06-6368-1111
(内線番号 3242 又は 3249)
FAX: 06-6368-0235
Email: chc-jm@m1.kandai.jp
URL: <http://www.kansai-u.ac.jp/chc/>



関西大学 国際文化財・文化研究センター
IHC Kansai University

中期エジプト語講座 初級

関西大学国際文化財・文化研究センターでは、中期エジプトの講座を開催します。
中期エジプト語は、古代エジプトの3000年の歴史の中で使用された文字の最も基本的なもので、この言語の習得は、エジプト学の研究の第一歩となっています。本講座では、4日間の集中講義を通して、古代エジプト語を読む力と自信を持つことができます。講座終了時には、受講者の皆様に修了証を授与します。社会人や学生の方で関心をお持ちの方は、奮ってご参加ください。

<開講日時>

平成26年 12月13日(土) 20日(土)
平成27年 1月10日(土) 17日(土)
(各講座とも10:40~17:30の形でコマ実施)

※開講の内容は、毎年実施し乍ら変更の可能性があります。
※開講にあたっては、必ず受講申し込みを済ませてください。
※受講料は別途お申し込みください。
※受講料は別途お申し込みください。

<開講場所>

関西大学 総合研究棟2階
国際文化財・文化研究センター 講義室

<対象>

・初めて古代エジプト語を学ぶ方
・古代エジプト語に興味のある方

<講師>

佐田 浩 (関西大学国際文化財・文化研究センター長)

<申込方法>

参加希望者は、電子メールにて、お名前を「中期エジプト語講座希望」とし、
①氏名②フリガナ③ご連絡先(電話番号)④年齢
を明記のうえ、下記メールアドレスまでお送りください。
また、学習履歴のある方は、別途お知らせください。
⑤ 11月28日締切定員に達し次第、締め切らせて頂く場合があります)

<申込先>

関西大学国際文化財・文化研究センター
メールアドレス: ihc-jm@ml.kansai-u.jp

SDA 6060

大塚町駅前ビル3F303号
関西大学 総合研究棟2階
国際文化財・文化研究センター
Tel 06-6366-1436 Fax 06-6366-1437
URL: www.kansai-u.ac.jp/ihc/ Twitter: @IHC_KU
Facebook: <https://www.facebook.com/ihc.kansai-university>



国際文化財・文化研究センター 岩盤研究会

主催：国際文化財・文化研究センター

場所：総合研究棟2階 実験・講義室

日時：2015年1月27日(火) 10:00~15:00

発表者及び題目

EMAD BOLIS BEKHEET MORGAN (大成建設株式会社カイロオフィス技術責任者)

10:00~10:30 サッカー、イドゥートの岩盤強化策

10:40~12:40 対論〈質疑応答含む〉

<12:40~14:00 昼食休憩>

14:00~15:00 エジプトの建築工法・対談対策の特長性



平成26年度

文化財保存修復セミナー

応募要項

—文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業—



関西大学 国際文化財・文化研究センター

「文化財保存修復セミナー」開催趣旨

昨今のグローバル化の流れの中で、文化、あるいは文化財を介した国際交流は益々重要な位置を占めています。方々から集まる世代の中でも、伝統的なものづくりや、歴史遺産への関心が高まっています。こうした背景には、文化を愛し、そこから学び出した文化財を大切に守る日本社会の強い意識があります。昨今の学術や社会人の手にも、文化——とりわけ文化財に関わりたいと希望する方が数多く存在しています。

これを受けて、関西大学国際文化財・文化研究センターでは、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の中で、「文化財保存修復セミナー」を開催する運びとなりました。講師には既に現場で活躍している研究者、技術者のほか、産の専門家も迎え、今まで文化財に全く関心なかった方にも分かりやすく授業を行います。また、今年度は修復の基となる資料の資料も取り扱います。

将来の文化財専門家への一歩として、共に学んでいきましょう。

- 定員：30名
- 参加資格：大学生で文化財関係を学習しようとする者
一般社会人で文化財保護に関心を持ち学習しようとする者
※希望者多数の場合は主催者が選抜。
- 受講時間数：48時間(6日)
講義39時間 / 実習・見学等9時間
- 実施期間：平成27年2月22日(日)、23日(月)、24日(火)、25日(水)、26日(木)、27日(金)、28日(土)、3月1日(日)
全8日間
- 時 間：9:30~11:00、11:00~12:30、14:00~15:30、15:30~17:00
(1講義:15時間/1日+4講義が原則。ただし3時間の講義もあります。)
- 場 所：関西大学 国際文化財・文化研究センター 実験・講義室
大阪府吹田市守口4-1-10 吹田市守口キャンパス 総合研究棟202号
(吹田市守口 関大前) 朝 徒歩約10分
詳細は以下のURLをご確認ください(415の電話)
<http://www.kansai-u.ac.jp/ihc/ihc120seminar.html>

■参 加 費：一般 20,000円 / 学生・院生 10,000円 / 関西大学学生・院生 5,000円
※当日、学生の方は学生証をご持参ください。

■受講者の特典：全日研修修業には修了証書を授与します。

※この特典は、研修で修業する方のみに適用されます。ご留意ください。

■応募期間：平成27年1月25日(日)まで

■応募方法：申し込み用紙に必要事項を①氏名 ②年齢 ③連絡先住所 ④連絡先電話番号、FAX番号、メールアドレス等 ⑤添付書類、郵着(学生の場合は、専攻コース名など) ⑥専門⑦略歴を記入の上、株式会社ニュース(募集要項)まで、FAX、郵送あるいはe-mail 添付にてお送り下さい。

申し込み用紙は下記URLよりダウンロードもできます。

<http://www.kansai-u.ac.jp/ihc/ihc120seminar.html>

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
関西大学国際文化財・文化研究センター (CHC)
特別講演

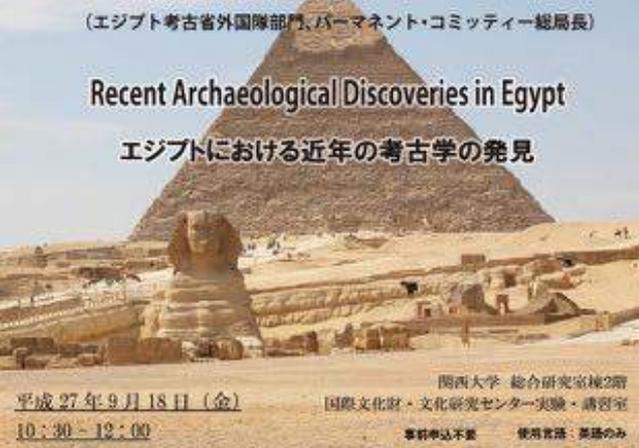
Hany Abo el-Azm

ハーニー・アボエルアズム氏
General Director of the Foreign Missions Affairs and P. Committee,
Ministry of State for Antiquities
(エジプト考古省外国隊部門・パーマネント・コミティー総局長)

Recent Archaeological Discoveries in Egypt

エジプトにおける近年の考古学の発見

平成27年9月18日(金) 関西大学 総合研究棟2階 国際文化財・文化研究センター実験・講習室
10:30 - 12:00 事前申込不要 使用言語: 英語のみ




国際文化財・文化研究センター
〒564-8680
大阪府吹田市山手町 3-3-15
Tel: 06-6368-1456
(内線番号 3242 又は 3249)
Fax: 06-6368-1457
Email: chc-jim@kandai.jp
URL: http://www.kansai-u.ac.jp/chc/

思えていたかな、
関西大学の研究力

JPS 日本物理学会 2015 秋季大会 市民科学講演会
科学技術と私たちの暮らし

日本物理学会2015秋季大会が関西大学で開催されるのを機会に、「科学技術と私たちの暮らし」をテーマとする市民科学講演会を開催いたします。

日時 2015年9月20日(日) 13:30~15:45 (開場12:30)
会場 関西大学 千里山キャンパス 100周年記念会館

13:30~
講演 「蓄電技術によるエネルギー 高効率利用社会の幕開け」 石川正司
(関西大学化学系生命工学部 教授 関西大学 先端科学技術推進機構 機構長)



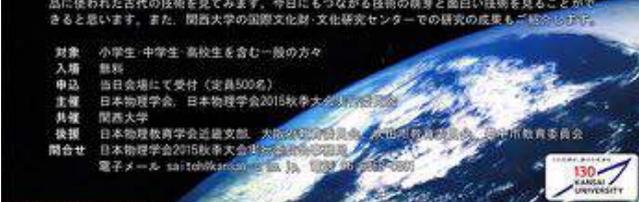
電気エネルギーを有効に利用するためには、変動の大きい自然エネルギーから発電した電力を安定化して使いやすくするといった、社会全体を見据えた大規模な蓄電技術と、より便利で軽く安全で多くの電気を貯蔵できるという小規模な蓄電技術があります。この両技術はどちらもこれからの高効率エネルギー社会に必須で、特に我が国では、我々自身が必要とするだけでなく、もともと持っている高い技術で世界に貢献する産業としての意味もあります。本講演では、最近の蓄電技術を分かりやすく紹介し、この技術のポイントを解説します。また、安全を重視した電池や、宇宙などの特殊な環境で活躍する電池についても紹介します。

14:45~
講演 「古代エジプト文明の技術」 吹田浩
(関西大学文学部 教授 関西大学 国際文化財・文化研究センター センター長)



古代エジプトの歴史は、紀元前3000年ごろに始まり、そのあとほぼ3千年にわたり、文明が発展しました。この古代エジプト文明は、ピラミッド、ミイラ、王家の墓、黄金の仮面など多くの文化財を残しています。今回のお話では、エジプトを訪ねると見られる壁画や、ファイアンスやガラスなどの芸術品に使われた古代の技術を見てみます。今日にもつながる技術の萌芽と面白い技術を見ることができると考えます。また、関西大学の国際文化財・文化研究センターでの研究の成果もご紹介いたします。

対象 小学生・中学生・高校生を含む一般の方
入場 無料
申込 当日会場にて受付(定員500名)
主催 日本物理学会、日本物理学会2015秋季大会市民科学講演会
共催 関西大学
後援 日本物理教育学会近畿支部、大阪大学国際関係学、山形大学国際学、山形市教育委員会
問合せ 日本物理学会2015秋季大会市民科学講演会事務局
電子メール saiteki@kaiyaku.or.jp 電話 011-834-3001



関西大学 国際文化財・文化研究センター
CHC, Kansai University

中期エジプト語講座 初級

関西大学国際文化財・文化研究センターでは、今年も「中期エジプト語講座 初級編」を開催します。この講座では、古代エジプト語の基本となる中期エジプト語を読める力を身につけることができます。また、12月に開講予定の「中級編」(文章の読解)に向けての基礎目的になっております。講座終了時には、受講者の皆様に修了証を授与します。社会人や学生の方で関心をお持ちの方は、奮ってご参加ください!

※開講スケジュールの都合により、別に勝手ながら10月17日(土)の回を11月7日(土)に変更させていただきます。大家の迷惑をおかけいたしますが、何卒よろしくお願いたします。

<開講日時>
平成27年 10月10日(土) 24日(土) 31日(土) **11月7日(土)**
(各講座とも10:40-17:30の間で6コマ実施)

<開講場所>
関西大学 総合研究棟2階 国際文化財・文化研究センター 講習室

<講師>
吹田浩 (関西大学国際文化財・文化研究センター長)

<対象>
初めて古代エジプト語を学ぶ方
古代エジプト語に興味のある方

<連絡先>
関西大学国際文化財・文化研究センター
メールアドレス: chc-jim@kandai.jp

564-8680
大阪府吹田市山手町 3-3-15
関西大学 総合研究棟2階
国際文化財・文化研究センター
Tel: 06-6368-1456 Fax: 06-6368-1457
URL: www.kansai-u.ac.jp/chc/ Twitter: @CHC_KU
Facebook: https://www.facebook.com/egpt.kansai.university



関西大学国際文化財・文化研究センター
CHC, Kansai University

中期エジプト語講座 中級

関西大学国際文化財・文化研究センターでは、「中期エジプト語講座 中級編」を開催します。この講座では、「シスへの物語」や「雄弁な貴族の物語」といった古代エジプトの文学作品を読み進めていきます。実際のテキストを読み解くことで、初級編で身に付けた力を試すとともに、古代エジプトの社会や文化も同時に知ることが出来ます。講座終了時には、受講者の皆様に修了証を授与します。社会人や学生の方で関心をお持ちの方は、奮ってご参加ください!

<開講日時>
平成27年 12月12日(土) 19日(土)
平成28年 1月9日(土) (各講座とも10:40-17:30の間で6コマ実施)

<開講場所>
関西大学 総合研究棟2階 国際文化財・文化研究センター 講習室

<講師>
吹田浩 (関西大学国際文化財・文化研究センター長)

<対象>
「中期エジプト語講座 初級」を受講した方
古代エジプト語の学習経験がある方

phak an her ne her her
in in her her ne her

「おはようはこへやってきたのか、旦那で何がおかしたのか」 (10:43:34)

<申込方法>
参加希望者は、電子メールにて、件名を「中期エジプト語講座 中級」とし、
①氏名(ふりがな) ②連絡先(電話番号) ③年齢
を明記のうえ、下記メールアドレスまでお送りください。
また、学習経験のある方は、別途お知らせください。
※11月26日(木)締切(定員に達し次第、締め切らせて頂く場合があります)

<申込先>
関西大学国際文化財・文化研究センター
メールアドレス: chc-jim@kandai.jp

564-8680
大阪府吹田市山手町 3-3-15
関西大学 総合研究棟2階
国際文化財・文化研究センター
Tel: 06-6368-1456 Fax: 06-6368-1457
URL: www.kansai-u.ac.jp/chc/ Twitter: @CHC_KU
Facebook: https://www.facebook.com/egpt.kansai.university





文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
関西大学国際文化財・文化研究センター (CHC)

第2回 エジプト学・文化財研究セミナー

2nd Seminar on Egyptology and Monuments

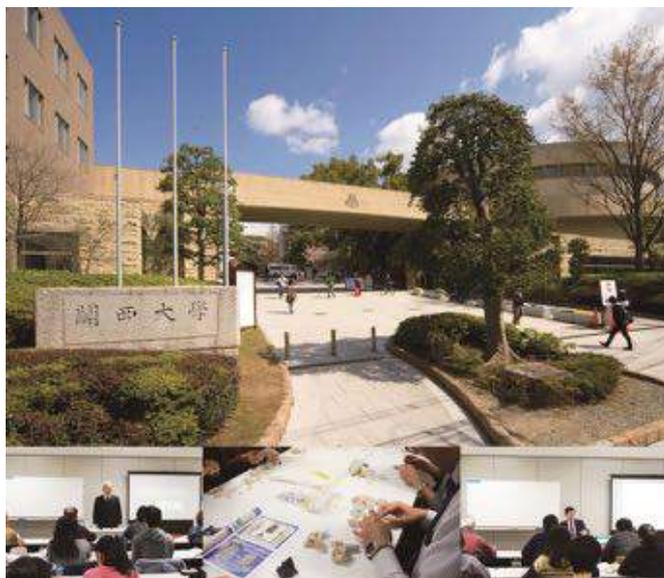
関西大学国際文化財・文化研究センター(CHC)は、カイロ大学考古学部の研究者8名による、エジプト学とエジプト文化財保存の研究についての研究会を開催します。
エジプト学や文化財に興味のある多数の方のご来場を歓迎いたします。

日時：2016年1月23日(土)・1月24日(日) 場所：関西大学国際文化財・文化研究センター
実験・講習室 (総合研究室棟2階)

1/23 (Sat) 保存修復 (Conservation and Restoration)	1/24 (Sun) エジプト学 (Egyptology)
①10:40-12:10 サルバ・ゴードエルカリーム Salwa Godeblarin 「考古資料としてのガラスの劣化と保存に関する一研究」 A Study of Deterioration and Conservation of Archaeological Glass	①10:40-12:10 ムスタファ・カリファ Mustafa Khalifa 「先史およびエジプト初期文明時代の狩猟風景」 Hunting Scenes in prehistoric and Archaic Egypt
②13:00-14:30 ワフィーカ・ノブシー・ワフバ Wafiq Nouby Wabba 「パピルス紙と写本資料の保存修復」 The Conservation Treatments of Papyrus and Manuscripts	②13:00-14:30 ザケーア・ザキ・ガメルディーン Zaki Gamaldeen 「王家の守護神とその歴史的背景」 The Royal Divinity and its Historical Background
③14:40-16:10 エルサイード・マフムード・エルバンナ Elsayed Mohamed Elbanna 「国際条約と国際会議における歴史地区の保存」 The Conservation of Historic Areas in the International Charters and Conferences	③14:40-16:10 スライマン・エルワヘリー Soliman Elwaelly 「古代メソポタミアの内装壁画に見る神への祈りの祈り」 The Intercourse Scenes in Mesopotamian Cylinder Seals
④16:20-17:30 ゴマール・アブデルマヌード Gomaa Abdelmanouf 「考古資料としてのミイラの保存修復を目的とした実験と応用研究」 Experimental and Applied Studies for the Conservation Treatment of Archaeological Mummies	④16:20-17:30 モハン・ネゲメディン Mohsen Negmetdin 「エジプトの軍部会館—ヒクソス時代、トトメス3世時代、ラムセス2世時代—」 Councils of War: Hyksos era, Thutmose III, and Ramses II

〒564-8680 大阪府吹田市千里3丁目2番23号
Address 3-3-23 Yamate-cho, Suita-shi, Osaka 564-8680, Japan
Tel: 06-6369-1111(総機) 06-6369-1507
URL: www.kansai-u.ac.jp/chc/index.html
E-Mail: chc@ipc.kansai-u.ac.jp
関西大学国際文化財・文化研究センター
Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture, Kansai University

参加費：無料
使用言語：英語



平成27年度 文化財保存修復セミナー 応募要項

—文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業—



関西大学 国際文化財・文化研究センター

「文化財保存修復セミナー」開催趣旨

昨今の急速なグローバル化と異なった文化を巡る摩擦の中で、文化や文化財を保全し、活用することは、益々重要となってきています。また、これからの多岐にわたる時代の中でも、伝統的なものづくりや、歴史遺産への興味が増えています。文化を愛し、そこから生み出された文化財を大切にすることは、人類が平和に共存する基盤ともなるものです。多くの学生や社会人の方が、文化とつなぐ文化財を学びたいと希望しておられます。

これを受けて、関西大学国際文化財・文化研究センターでは、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の中で、「文化財保存修復セミナー」を開催しております。講師陣には既に現場で活躍している研究者、技術者など一流の専門家を邀し、今まで文化財に全く触れたことのない方にも分かりやすく授業を行います。また、修復作業の基となる簡単な実習も行います。

本来の文化財専門家への一歩として、共に学んでいきましょう。

- 定員：30名
- 参加資格：大学生で文化財関係を学ぼうとする者
一般社会人で文化財保護に関心を持ち学ぼうとする者
※希望者多数の場合は主催者が選別。
- 受講時間数：約41時間(7日)
講義33時間 / 実習・見学等の8時間
- 実施期間：平成28年2月20日(土)、21日(日)、22日(月)、23日(火)、24日(水)、26日(木)、26日(金)
全7日間 ※なお、2月27日(土)、28日(日)にシンポジウム開催予定です。要ってご参加下さい。
- 時間：9:30-11:00、11:15-12:45、13:45-15:15、15:30-17:00
(1講義：1.5時間/1日、4講義が原則、ただし3時間の講義もあります。)
- 場 所：関西大学 国際文化財・文化研究センター 実験・講習室
大阪府吹田市千里3丁目23番23号 関西大学千里山キャンパス 総合研究室棟2階
(阪急千里線「関大駅」駅 徒歩約14分)
詳細は以下のURLをご確認ください。(15の添付)
<http://www.kansai-u.ac.jp/chc/global/education/seminar.html>

■参加費：一般 20,000円 / 学生・院生 10,000円 / 関西大学学生・院生 8,000円
※当日、学生の方は学生証をご持参ください。

- 受講者の特典：全日程履修者には修了証書と授与します。
※必ず修了の申請書と修了証書申請書をご提出ください。
- 応募期間：平成28年1月24日(日)まで
- 応募方法：申し込み用紙に必要事項を①氏名 ②年齢 ③連絡先住所 ④連絡先電話番号、FAX番号、メールアドレス等 ⑤所属機関、部署(学生の場合は、専攻コース名など) ⑥専門立願書>を記入の上、株式会社ニュース(要票参照)まで、FAX、郵送あるいはe-mail 送付にてお送り下さい。
申し込み用紙は下記URLよりダウンロードもできます。
http://www.kansai-u.ac.jp/chc/image/seminar/1/2/seminar_form.doc


 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
 関西大学国際文化財・文化研究センター (CHC)

国際シンポジウム
世界の文化財保護
 ~地域に根ざした活動と課題~
 Preservation of Cultural Heritage
 ~Local Challenges and Activities~

2016年2月27日(土)・28日(日)
 関西大学 千里山キャンパス
 尚文館1階 マルチメディアAV大教室

初日の「エジプト文化財修復の成果と課題」では、世界中のマスメディアでとりあげられたエジプトの崩壊ピラミッドの修復方法の是非についてとりあげます。現地サッカーの遺跡監督官や保存修復の責任者をお迎えし、現地のありのままの状況をお話していただきます。そして、エジプトの遺跡の保存修復の現状や課題について詳しく議論します。

2日目の「各国の文化財保護の現状と国際的なつながり」では、様々な国の文化財の問題に注目します。絶望的な危機にあるシリアの文化財や、ポーランド、バハレーン、中国といった幅広い地域の文化財の現状に加えて、文化財保護をめぐる国際協力について話し合います。

"Strategic Project to Support the Formation of Research Bases at Private Universities" of the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT)



(会場案内)



(お問い合わせ)
 関西大学国際文化財・文化研究センター
 〒564-8680
 大阪府吹田市山手町3-3-35
 Tel: 06-6368-1111 (内線番号3242又は3249)
 Fax: 06-6368-0235
 Email: chc-jim@ml.kandai.jp
 URL: www.kansai-u.ac.jp/chc/
 Twitter: @CHC_KU
 Facebook: https://www.facebook.com/Egypt.Kansai.University

参加費無料
 事前申込不要
 同時通訳あり



Workshop
Recent Activities in Cultural Heritage
 29th February (Monday), 2016

CHC, Kansai University
 Researchers office (second floor)

10:00	Opening	
10:10~11:10	① The History of the Complex of Zoser	Sabry Farag
11:10~12:10	② The Serapeum Tomb: History and Architecture	Hamdy Amin
12:10~13:00	Lunch break	
13:00~13:45	③ Scientific Study of the Step Pyramid Project	Ashraf Youssef
13:45~14:30	④ Conservation Activities in Egypt	Mostafa Abdelatah
14:30~15:00	Break	
15:00~15:50	⑤ Present Crisis of Cultural Properties in Syria	Youssef Kanjou
15:50~16:40	⑥ Conservation Activity in Dunhuang	Su Bomng
16:40~17:30	⑦ Burial Mounds in Bahrain	Salman Almahari


 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
 関西大学国際文化財・文化研究センター (CHC)

**イスラーム教と他宗教の共存および
 イスラーム教宗派間の共存**

エジプト アズハル大学
 マジェッド・ナフス氏



イスラーム研究の著名な研究者であるマジェッド氏との質疑応答もありますので、イスラームについての素朴な疑問をお持ちの方をはじめ、多くの方のご参加をお待ちしております。

日時：2016年3月24日(木) 13:00-14:30
 場所：関西大学国際文化財・文化研究センター 多目的室
 (総合研究室棟2階)

関西大学国際文化財・文化研究センター
 〒564-8680
 大阪府吹田市山手町3-3-35
 Tel: 06-6368-1111 (内線番号3242又は3249)
 Fax: 06-6368-0235
 Email: chc-jim@ml.kandai.jp
 URL: www.kansai-u.ac.jp/chc/



関西大学 国際文化財・文化研究センター
CIIC Kansai University

中期エジプト語講座 初級

関西大学国際文化財・文化研究センターでは、中期エジプト語の初級講座を開催します。中期エジプト語は、古代エジプトの3000年の歴史の中で使われた文字の最も基本的なもので、この言語の習得はエジプト学研究の一歩となっています。本講座では、4日間の集中講座を通して、古代エジプト語を習得の力を養うことができます。講座終了時には、受講者の理解に即した解説を行います。社会人や学生の皆さんで関心のある方は、奮ってご参加ください。

＜開催日時＞
平成28年 5月24日(土) 6月4日(日) 6月11日(土) 6月18日(日)
(各講座とも10:00-17:00の間で4コマ講座)

＜講師＞
関西大学総合研究機構工務
国際文化財・文化研究センター 内藤・博智

＜会場＞
会場 国国際文化財・文化研究センター(新)

＜対象＞
・ 初級エジプト語を学ぶ方
・ エジプト語に興味のある方

＜申込方法＞
参加費等は電子メールで件名を「中期エジプト語講座 初級」とし、
①氏名(ふりがな) ②連絡先電話番号 ③年齢 をご明記のうえ、下記メールアドレスまでお送りください。
また、学習用のテキストは別途お申し込みをさせていただきます。
※ 5月13日締切 (定員に達し次第、締め切らせていただく場合がございます)

＜申込先＞
関西大学国際文化財・文化研究センター
メールアドレス: che.jim@ml.kansai.jp

〒564-8680
大阪府吹田市山手町3-3-35
関西大学 総合研究機構
国際文化財・文化研究センター
Tel: 06-4368-1456 Fax: 06-4368-1457
URL: www.kansai-u.ac.jp/che/ Twitter: @CIIC_KU
Facebook: https://www.facebook.com/Egypt.Kansai.University



文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
関西大学国際文化財・文化研究センター(CIIC)

エジプト学研究セミナー

エジプト学研究の第一線で活躍されている日本のエジプト学研究者をお招きし、古代エジプトの各時代にテーマを絞った研究を講演して頂きます。本格的なエジプト学研究の入り口となるような内容の講演となりますので、古代エジプトの歴史や文化に関心をお持ちの方は、奮ってご参加ください。

日時：平成28年 7月31日(日)
場所：国際文化財・文化研究センター 実験・研究室
(関西大学総合研究機構2階) ※参加費無料

＜申込方法＞
電子メールで件名を「エジプト学研究セミナー」とし、
①氏名(ふりがな) ②連絡先電話番号 ③年齢 をご明記のうえ、下記メールアドレスまでお送りください。
※ 7月24日(日)締切 (定員に達し次第、締め切らせていただく場合がございます)

＜申込先＞
関西大学国際文化財・文化研究センター
メールアドレス: che.jim@ml.kansai.jp

〒564-8680
大阪府吹田市山手町3-3-35
関西大学 総合研究機構
国際文化財・文化研究センター
Tel: 06-4368-1456 Fax: 06-4368-1457
URL: www.kansai-u.ac.jp/che/ Twitter: @CIIC_KU
Facebook: https://www.facebook.com/Egypt.Kansai.University



文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
関西大学国際文化財・文化研究センター (CIIC)

エジプト文化財の保全に向けて

Preservation of Egyptian Monuments

2016.10.29(土) 午前10時～午後5時
関西大学東京センター

参加無料 同時通訳あり

◆ 収蔵先(関西大学CIICセンター長)
西澤金剛(国士館大学古代文化研究所)
「関西大学のエジプト語講座プロジェクト」

◆ アフド・シェイク(カイロ大学考古学専攻)
アール・アガシ(エジプト国立研究センター)
「マツカシ遺跡群の保存と修復」

◆ 安室喜弘(関西大学環境都市工学部)
「マツカシにおける修復のためのデジタル・アーカイブ」

◆ 伊藤洋志(関西大学環境都市工学部、西沢金剛(関西大学名誉教授)、
中村吉伸(大阪工業大学工学部)、藤田浩章(関西大学環境都市工学部)
「イトワラの地下宮殿家の発掘調査」

◆ サブリ・アブデルガッファール(考古学大カイロ地域保存修復局長)
「オザの文化財の保存修復—マツカシ、マヤ墓の事例を中心に—」

◆ シハーブ・フセイン・アブデルナーセル・ファデル
(考古学エジプト地域保存修復局長)
「マラクイ国立博物館とエル・ミヤの文化財の保存修復活動」

◆ 藤井昌之(関西大学CIIC)
「日本国内のエジプト文化財」

参加をご希望の方は、お名前とご連絡先を明記のうえ、10月16日(日)までに、電子メールにて下記の申込先までご連絡ください(定員:100名)
【申込先】 関西大学国際文化財・文化研究センター (email: che.jim@ml.kansai.jp)



関西大学 国際文化財・文化研究センター
CIIC Kansai University

中期エジプト語講座 中級

関西大学国際文化財・文化研究センターでは、「中期エジプト語講座 中級」を開催します。この講座では、「シラへの発展」や「近代エジプトの文学」をテーマとして、中級レベルの学習を行います。受講者の理解に即した解説を行います。社会人や学生の皆さんで関心のある方は、奮ってご参加ください。

＜開催日時＞
平成28年 11月12日(土) 11月19日(土) 11月26日(土)
(各講座とも10:00-17:00の間で4コマ講座)

＜講師＞
関西大学総合研究機構工務
国際文化財・文化研究センター 内藤・博智

＜会場＞
会場 国国際文化財・文化研究センター(新)

＜対象＞
・ 「中期エジプト語 初級」を修了した方
・ 古代エジプト語の学習経験がある方

＜申込方法＞
参加費等は電子メールで件名を「中期エジプト語講座 中級」とし、
①氏名(ふりがな) ②連絡先電話番号 ③年齢 をご明記のうえ、下記メールアドレスまでお送りください。
また、学習用のテキストは別途お申し込みをさせていただきます。
※ 11月5日締切 (定員に達し次第、締め切らせていただく場合がございます)

＜申込先＞
関西大学国際文化財・文化研究センター
メールアドレス: che.jim@ml.kansai.jp

〒564-8680
大阪府吹田市山手町3-3-35
関西大学 総合研究機構
国際文化財・文化研究センター
Tel: 06-4368-1456 Fax: 06-4368-1457
URL: www.kansai-u.ac.jp/che/ Twitter: @CIIC_KU
Facebook: https://www.facebook.com/Egypt.Kansai.University





平成 28 年度
文化財保存修復セミナー
 応募要項

一文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業一



関西大学 国際文化財・文化研究センター

「文化財保存修復セミナー」開催趣旨

昨今の急速なデジタル化と異なった文化を伝える手段の中で、文化や文化財を保全し、活用することは、最も重要となってきています。また、これらを行う世代の中でも、伝統的なものづくりや、歴史遺産への興味が高まっています。文化を愛し、そこから産み出された文化財を大切にすることは、人類が平和に共存する基盤ともなるものです。多くの学生や社会人の関心が、文化一とりわけ文化財を学びたいと高まっています。

これを受けて、関西大学国際文化財・文化研究センターでは、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の中で、「文化財保存修復セミナー」を開設しております。講師陣には既に現場で活躍している研究者、技術者など一線の専門家を迎え、今まで文化財に全く触れたことのない方にも分かりやすく授業を行います。また、修復作業の基本となる簡単な実習も行います。

将来の文化財専門家への一歩として、共に学んでいきましょう。

- 定 員：30名
- 参加資格：大学生で文化財関係を学ぶようとする者
一般社会人で文化財保護に強い関心を持ち学ぶようとする者
※希望者多数の場合は主催者が選定。
- 受講時間数：約36時間(6日間)
講義33時間 / 実習 約3時間
- 実施期間：平成28年2月20日(月)、21日(火)、22日(水)、23日(木)、24日(金)、25日(土)
全6日間
- 時 間：9:30~11:00、11:15~12:45、13:45~15:15、15:30~17:00
(1講義:1.5時間/1日-4講義が原則、ただし3時間の講義もあります。)
- 場 所：関西大学 国際文化財・文化研究センター 実教・講習室
大阪府吹田市山手町3-3-33 関西大学山手キャンパス 総合研究棟2階
(阪急千生線「阪大前」駅、徒歩約10分)
詳細は以下のURLをご確認ください(15の更新)
<http://www.kansai-u.ac.jp/global/culturalheritage/seminar.html>
- 参 加 費：一般 20,000円 / 学生・院生 10,000円 / 関西大学学生・院生 5,000円
※当日、学生の方は学生証をご持参ください。

■受講者の特典：全日程修了者には修了証書を授与します。
※この修了の申請では修了の申請はできません。ご確認下さい。

■応募締切期：平成28年2月13日(月)まで

■応募方法：申し込み用紙に必要事項①氏名 ②年齢 ③連絡先住所 ④連絡先電話番号、FAX番号、メールアドレス等 ⑤所属機関、部署(学生の場合は、専攻コース名など) ⑥専門⑦職歴を記入の上、株式会社ミューズ(募集参照)まで、FAX、郵送あるいはe-mail送信にてお送り下さい。

申し込み用紙は下記URLよりダウンロードもできます。
<http://www.kansai-u.ac.jp/global/seminar/H28seminar-form.doc>

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
 関西大学 国際文化財・文化研究センター
<http://www.kansai-u.ac.jp/global/culturalheritage/center.html>

中期エジプト語講座 初級

開講日時：2017年 6月3日(土)、6月10日(土)、6月17日(土)、6月24日(土)
 (全4回 各回とも10:50~17:30の間で8コマ実習)

開講場所：関西大学 梅田キャンパス
 〒530-0014 大阪府大阪市北区豊崎町1-5
 Tel : 06-4256-2410
 URL : <http://www.kansai-u.ac.jp/medai/>

お問い合わせ先
 〒530-0014 大阪府大阪市北区豊崎町1-5
 関西大学 総合研究センター
 国際文化財・文化研究センター
 〒530-0014 大阪府大阪市北区豊崎町1-5
 TEL : 06-4256-2410 Fax : 06-4256-1417
 URL : www.kansai-u.ac.jp/chc/ chc@mi.kandai.jp
 Facebook : <https://www.facebook.com/Egypt.kansai.university/>

●参加無料 定員20名

関西大学国際文化財・文化研究センターでは、中期エジプト語の初級講座を毎年開催しております。古代エジプトでは、およそ5000年前から文字が使用されていたと言われており、中王国時代を中心に使用された中期エジプト語は、古代エジプト語を学習する上で最も基本的な言語になります。本講座では、4日間の講義を通して、中期エジプト語の基本的な文法を学びます。古代エジプトや言語に関心のある方、奮ってご参加ください。

講師 総務 阿部 (国際文化財・文化研究センター リサーチアシスタント)
 吹田 浩 (国際文化財・文化研究センター長)

講義内容(予定)

1日目 文字の種類・代名詞・動詞文の基本	●講義の内容は、前年度に実施した中期エジプト語の講義と同等ですが、これまでに参加された方、もう一度復習の学習に役立てたい方も是非ご参加ください。また、今年度の初級に中級講座も開講する予定です。
2日目 主文と従属文・存在文、動詞と不定詞	
3日目 wj / 元の動詞と名詞化・状態文・使役動詞文	
4日目 関係形・関係節・否定の形・疑問文・不変化詞	

対象 初めて古代エジプト語を学ぶ方・古代エジプト語に関心をお持ちの方(定員20名)

nfr in hn', n rj in r n Kmt
※講義を修了することで、このような文章を創るようになります。

申込方法
 希望者は氏名を「中期エジプト語講座 初級」とし、①氏名(漢字・フリガナ)②連絡先(住所・電話番号・Eメールアドレス)③所属先(勤務先もしくは学校名)を明記のうえ、EメールもしくはFAXにて下記の申込先までお送りください。また、学習経験のある方は別途お問い合わせください。
※本人情報は、本講座およびセンターの活動のご案内にのみ使用させていただきます。

◆2017年6月21日(日)締切
 ※定員に達し次第、締め切らせていただく場合がございます。

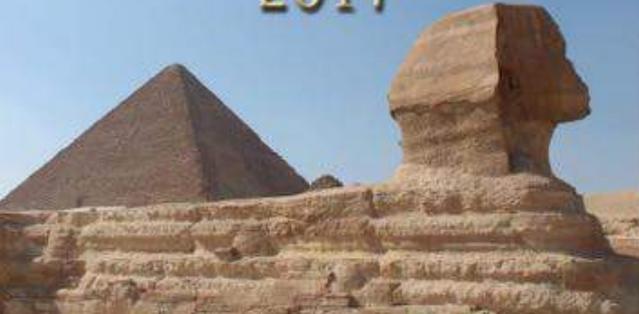
申込先 関西大学国際文化財・文化研究センター
 Eメールアドレス : chc-jim@mi.kandai.jp
 Fax : 06-6368-1457

関西大学 梅田キャンパス(北豊崎駅前)
 交通：JR有楽町線「北豊崎」駅より徒歩約5分
 〒530-0014

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
 関西大学国際文化財・文化研究センター (CHC)
 Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture, Kansai University




エジプト学研究セミナー 2017



開催日時：2017年7月23日(日) 10:30~17:00
 開催場所：関西大学 梅田キャンパス
 KANDAI Me RISE 8Fホール ※千里山キャンパスではありません

お問い合わせ先
 〒564-8680 大阪府吹田梅田山手町3-3-35
 関西大学 総合研究推進2階 国際文化財・文化研究センター
 E-mail: chc-jim@ml.kandai.jp
 Tel: 06-6368-1111 (内線 3542・3548) Fax: 06-6368-1457
 HP: www.kansai-u.ac.jp/chc/ Twitter: @CHC_KU
 Facebook: https://www.facebook.com/fypj.kansai.university

参加無料 先着100名
 要事前申込 (7月14日締切)
 ※申込方法の詳細は、裏面をご確認ください

【講演者紹介】

【田澤 恵子】
 公益財団法人古代オリエント博物館研究員。筑波大学大学院博士課程地域研究科修了。英国・リヴァプール大学大学院博士課程考古学・古典学・エジプト学修了。Ph.D. エジプト学を専門とし、古代エジプト人の宗教生活や思想及び心教を研究対象とする。

【吹田 浩】
 関西大学文学部教授。カオロ大学考古学部にPh.D.を修得。エジプト学を専門とし、文化史・宗教史の立場から古代エジプト史を研究している。2003年より、エジプト文化財の海外保護ミッションを主催。2013年に国際文化財・文化研究センターを設立し、同センター長を務める。

【河合 望】
 金沢大学新学術領域研究助産教授。早稲田大学大学院文学研究科博士課程修了。ジョーンズ・ホプキンス大学大学院博士課程修了。Ph.D. エジプト学を専門とし、特に新王国時代の歴史と考古学を研究。また、長年にわたりエジプト現地の発掘調査に従事している。

【藤井 信之】
 関西大学国際文化財・文化研究センター非常勤研究員。関西学院大学大学院博士課程後期課程単位取得退学。関西学院大学大学院にて博士号(歴史学)を取得。エジプト学を専門とし、特にエジプトの第3中間期や新王国時代の歴史研究を進めている。

【講演プログラム】

10:30~10:40	開会のあいさつ	
10:40~11:40	「古代エジプトにおける神・人・神話」	田澤 恵子
11:40~13:00	休憩	
13:00~14:00	「ピラミッド・テキストの研究」	吹田 浩
14:15~15:15	「新王国時代のメンフィスとその墓地について」	河合 望
15:30~16:30	「サイス王朝(第26王朝)時代のエジプト」	藤井 信之
16:30~16:50	質問コーナー	
16:50~17:00	閉会のあいさつ	

＜申込方法＞
 参加を希望される方は件名を「エジプト学研究セミナー 2017」とし、①氏名(漢字・ふりがな) ②連絡先(住所・電話番号・Eメールアドレス) ③所属先(勤務先もしくは学校名)を明記のうえ、EメールもしくはFaxにて下記の申込先までご連絡ください。所属先情報は本セミナーおよびセンターの活動のご案内のみ使用させていただきます。

2017年7月14日(金) 締切
 ※定員に達し次第、締め切らせていただく場合がございます。

＜申込先＞
 関西大学国際文化財・文化研究センター
 Email: chc-jim@ml.kandai.jp
 Fax: 06-6368-1457



関西大学 梅田キャンパス交通案内
 阪急「梅田駅」東口南側から徒歩5分
 JR「大塚駅」から徒歩10分

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
 関西大学 国際文化財・文化研究センター (CHC)
 Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture, Kansai University



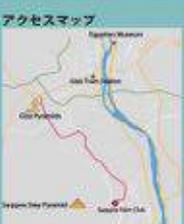
国際専門家会議 サッカラの文化遺産保護に向けて 関西大学調査ミッションの10年間の軌跡

2017年11月8日・9日 会場: サッカラバームクラブ (エジプト、ギザ県)

11月8日
 Session 1. 関西大学調査ミッションとサッカラ遺跡
 1. 関西大学調査ミッションの10年間の軌跡 吹田 浩, 本島 真
 2. サッカラの文化遺産 サラハ・エル・マヘリ
 Session 2. 歴史保存
 1. サッカラにおける歴史保存 アブメド・エル・モスタファ
 2. アジアの歴史と中国敦煌莫高窟における 歴史の文化遺産 西島 美穂, 内田 真輝
 3. ポーランド、ワルタの聖ニコラス教会における歴史保存 タツマツ・ケン
 Session 3. 文化財の生物劣化
 1. エジプトにおける文化財の生物劣化 ママ・マヌセル
 2. 日本における文化財の生物劣化 高野 昌典, 土井 智樹

(お問い合わせ)
 関西大学
 国際文化財・文化研究センター
 〒564-8680
 大阪府吹田梅田山手町3丁目番地35号
 (総合研究推進2階)
 Tel: 06-6368-1456
 Fax: 06-6368-1457
 E-mail: chc-jim@ml.kandai.jp
 Facebook: @CHC Kansai University
 Twitter: @CHC_KU
 URL: http://www.kansai-u.ac.jp/chc/index.html

11月9日
 Session 4. 文化遺産における彫像・石材の保存
 1. 彫像の特性及びイドワートのマスタフの彫像 アーナム・アムリシェ
 2. イドワートのマスタフの彫像の保存 中村 浩明, 藤田 尚輝, 西島 美穂, 伊藤 達也
 3. カンボジア・アンコール遺跡におけるハイロン寺院等彫像の保存 松岡 真由
 Session 5. 文化遺産のドキュメンテーション
 1. イドワートのマスタフの三次元データ化 笠原 真央
 2. イドワートのマスタフにおける彫像の復元 吹田 浩, 本島 真等, 西島 美穂
 Session 6. 文化遺産の管理
 1. サッカラの文化遺産の管理 アム・アムリシェ, フラウエンホフ
 Session 7. ディスカッション サッカラの文化遺産保護における今後の課題 アム・アムリシェ

アクセスマップ


文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
 関西大学 国際文化財・文化研究センター
 Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture, Kansai University



中期エジプト語講座 中級 2017

日時: 2017年11月18日(土)
 11月25日(土)
 12月3日(日)
 (全3回 各回 10:30~17:30 開講)
 ※3日目のみ日曜日となります

会場: 関西大学 梅田キャンパス
 〒564-8680 大阪府吹田梅田山手町3-3-35
 URL: www.kansai-u.ac.jp/chc/ 06-6368-1457
 Facebook: www.facebook.com/fypj.kansai.university

参加無料 対象: 先着15名(初学者)
 <申込方法>
 申込書は件名を「中期エジプト語講座 中級」とし、①氏名(漢字・ふりがな) ②連絡先(住所・電話番号・Eメールアドレス) ③所属先(勤務先もしくは学校名)を明記のうえ、EメールもしくはFaxにて下記の申込先までお問い合わせください。※2017年10月31日(火)締切

●お問い合わせ先
 〒564-8680 大阪府吹田梅田山手町3-3-35
 関西大学総合研究推進2階国際文化財・文化研究センター
 E-mail: chc-jim@ml.kandai.jp
 Tel: 06-6368-1456 Fax: 06-6368-1457
 URL: www.kansai-u.ac.jp/chc/ Twitter: @CHC_KU
 Facebook: www.facebook.com/fypj.kansai.university



文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
 関西大学 国際文化財・文化研究センター
 Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture, Kansai University

中期エジプト語講座 中級 2017

日時：2017年11月18日(土)・11月25日(土)・12月3日(日)
 (全3回各回 10:30~17:30 開講)

会場：関西大学 梅田キャンパス ※3日目のみ日曜日となります。
 〒530-0014 大阪府大阪市北区鶴野町1-5
 URL: www.kansai-u.ac.jp/umeda/ ●参加無料 対象：先着15名(既学習者)
 ※千鳥山キャンパスではありません。

imihw hr ntr 'i Hrw
 ※鏡面では、このような時文を読み取れます。

関西大学国際文化財・文化研究センターでは、「中期エジプト語講座 中級」を毎年開講しています。この講座では、「シヌヘの物語」や「透特奈美夫の物語」等の物語文学や、墓や神廟に刻まれた碑文、そして「死者の書」や「ピラミッド・テキスト」に代表される葬儀文書の読解に挑戦します。この講座を通して、中期エジプト語の読解力を更に伸ばすとともに、古代エジプトの文化や歴史を学んでいきます。古代エジプトのより専門的な学習に取り組みたい方は、奮ってご参加ください。

講師：吹田 浩 (国際文化財・文化研究センター長)
 藤井 信之 (国際文化財・文化研究センター 研究員)
 池後 時典 (国際文化財・文化研究センター リサーチ・アシスタント)

講義内容(予定)
 (1日)11月18日(土) 物語文学 (2日)11月25日(土) 碑文 (3日)12月3日(日) 葬儀文書

対象
 ・「中期エジプト語講座 初級」で古代エジプト語の基本文法を学ばれた方(定員15名)
 ・中期エジプト語の十分な学習経験がある方

申込方法
 希望者は氏名を「中期エジプト語講座 中級」とし、
 ①氏名(漢字・ふりがな)②連絡先(住所・電話番号)③Eメールアドレス④所属先(勤務先もしくは学校名)⑤4字冠読数の右側を所記のうえEメールもしくはFAXにて下記の申込先までお送りください。
 申込先：〒530-0014 大阪府大阪市北区鶴野町1-5 関西大学 梅田キャンパス 8Fホール
 ◆2017年10月3日(火) 締切
 ※定員に達しない場合は、開講を中止する場合がございます。

申込・お問い合わせ先
 関西大学国際文化財・文化研究センター
 cchc@jims.kansai-u.ac.jp Fax: 06-6368-1457

関西大学 梅田キャンパスの交通案内
 梅田駅 徒歩約10分
 池田駅 徒歩約10分
 JR「大塚」から徒歩10分

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
 関西大学国際文化財・文化研究センター (CHC)
 Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture, Kansai University

関西大学国際文化財・文化研究センター 最終成果報告会

総合文化財学の構築を目指した5年間の軌跡

2017年12月17日(日) 10:00~17:00
 関西大学梅田キャンパス KANDAI Me RISE 8Fホール

プログラム

セッション1: 文理融合型の文化財・文化研究
 関西大学国際文化財・文化研究センターの活動
 文化財保存の国際協力とその理念と実践
 ドイツのエジプト博物館を考える
 建築師兼作家・サッカラ村の生活と空間調査
 吹田 浩、伊藤 淳史、森 麻里
 西野 忠博、河田 正明
 森 貴史
 岡 敏子

セッション2: エジプトにおける文化遺産保護プロジェクト
 イドゥートのマスタバ/地下埋葬室の調査とその現状
 アフメド・シュエイブ、
 アーデル・アカリシュ
 西野 忠博、伊藤 淳史
 藤田 拓実、中村 吉伸
 安藤 肇弘

セッション3: パーレンにおける文化遺産保護プロジェクト
 パーレン王墓の文化遺産
 サルマン・アルマハリー
 パーレン王墓、1067-68年間の掘削調査
 吹田 浩、池後 時典

セッション4: ディスカッション「文化財保存のこれから」
 サラーハイエル・ネーリ、アフメド・シュエイブ、
 アーデル・アカリシュ、マイサ・マンサーフ

先着100名 参加無料
 要券申込 締切:12月8日(金)
 申込先: cchc@jims.kansai-u.ac.jp
 ※詳細は要項をご参照ください

関西大学 Belly Diver
 によるペリダース
 特別演習も行います。

関西大学 Belly Diver
 の情報はこちらから

関西大学国際文化財・文化研究センター 最終成果報告会

総合文化財学の構築を目指した5年間の軌跡

「国際文化財・文化研究センター」(Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture, CHC) は、文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の助成を受け、2013年度に関西大学に設立されました。「国際的な文化財活用方法の総合的研究」を課題とし、2017年度まで5年にわたり研究を進めて参りました。当センターの前身である「文化財保存修復研究拠点」(Institute for Conservation and Restoration of Cultural Properties, ICRP) 等と合わせると、実に10年以上にわたり「文化財の保存」などを課題とした研究活動を進めてきたことになります。

当センターでは、エジプト学、現代エジプト研究、文化財保存修復、異文化研究などを専門とする人文系研究者、そして、地盤・建築工学、分析化学、微生物学、高分子化学、マルチメディア工学などを専門とする理工系研究者で構成する(1)エジプト学・エジプト社会グループ、(2)文化財保存修復グループ、(3)国際文化グループ、(4)科学技術グループの4つのグループが共同しながら、文化財の保全と活用に向けた文理融合型の国際的な研究活動を推進して参りました。また、文化財保存修復やエジプト学をテーマとしたシンポジウムやセミナーの開催、報告書や紀要、機関紙、ニュースレターの出版を通して、社会への教育普及活動や若手研究者の育成にも取り組んで参りました。

本報告会では、はじめに、当センターが取り組んで参りました文理融合型多様な研究・活動の成果について、さまざまな視点より報告致します。そして、エジプトのサッカラにあるイドゥートのマスタバ墓、およびパーレンの1067/68年間の掘削を対象として取り組んで参りました文化遺産の保存を目的としたプロジェクトの活動成果を報告し、各地の専門家との協働を通して、今後の文化遺産の保存に向けた課題を明らかにしたいと思います。

先着100名 参加無料
 要券申込 締切:12月8日(金)
 申込先: cchc@jims.kansai-u.ac.jp
 ※詳細は要項をご参照ください

申込方法
 希望者を氏名を「最終成果報告会」とし、①氏名(漢字・ふりがな)②連絡先(住所・電話番号)③Eメールアドレス④所属先(勤務先もしくは学校名)を所記のうえ、EメールもしくはFAXにて下記の申込先までご連絡ください。
 申込先：〒530-0014 大阪府大阪市北区鶴野町1-5 関西大学 梅田キャンパス 8Fホール

申込・お問い合わせ先
 関西大学国際文化財・文化研究センター
 E-mail: cchc@jims.kansai-u.ac.jp Fax: 06-6368-1457

お問い合わせ先
 〒530-0014 大阪府大阪市北区鶴野町1-5-25
 関西大学 総合文化遺産2階 国際文化財・文化研究センター
 TEL: 06-6368-1111 (内線: 3242-3248) Fax: 06-6368-1457 E-mail: cchc@jims.kansai-u.ac.jp
 HP: www.kansai-u.ac.jp/cchc Twitter: @CHC2013
 Facebook: http://www.facebook.com/EGPT.kansaiUniversity

関西大学梅田キャンパスの交通案内
 池田駅 徒歩約10分
 池田駅 徒歩約10分
 JR「大塚」から徒歩10分



文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
 関西大学国際文化財・文化研究センター

2017年度 文化財保存修復セミナー

期間：2018年2月22日（木）～2月28日（水）（2月25日（日）は休み）
 場所：関西大学 国際文化財・文化研究センター 実験・講習室
 大阪府吹田市山手町3-3-35 関西大学千里山キャンパス総合研究室棟2階
 ※2月26日（月）、2月27日（火）は現地に研修を行う予定です。

お問い合わせ先：関西大学国際文化財・文化研究センター 文化財保存修復セミナー事務局
 e-mail: ku-choc@moses.co.jp / Tel: 050-5838-7902 / Fax: 06-6537-1410
 ※参加希望者は、応募要領を送付いたします。

主催：文化財保存修復学会、日本文化財科学会



関西大学国際文化財・文化研究センター主催
 「2017年度文化財保存修復セミナー」

関西大学国際文化財・文化研究センターは、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の支援を受け、総合文化財学の構築を目指して2013年度より研究活動を進めて参りました。当研究センターでは、保存修復の分野を中心として、文化財に関する様々な項目を幅広く学ぶ「文化財保存修復セミナー」を各年度計4回にわたり開催し、歴史や文化、文化財に興味・関心のある数多くの学生および一般の方々にご参加いただきました。

5ヶ年事業の最終年度に開催する今回のセミナーでは、これまでの内容と少し趣向を変え、より多くの実習や実地研修を盛り込んだ内容を計画しました。本セミナーが、文化財について幅広い知識を学んでいただける機会となるとともに、さまざまな視点より文化財を取り巻く現状を体験していただける場となることを期待しています。

カリキュラム（予定）

<p>座学</p> <ul style="list-style-type: none"> 人類の歴史、未来と文化財 文化財の制度と歴史 世界遺産の制度と意義 文化財科学の多み 金属文化財の技法・材料 遺跡と遺物 歴史的建造物と実習 文化遺産と国際協力 	<p>座学+実習</p> <ul style="list-style-type: none"> 伝統技法・材料と保存：美術工芸 伝統技法・材料と保存：和紙と織物 文化財と彩色材料 考古遺物の保存と活用 文化財とデジタル技術 文化財の生物劣化と対策：カビ 文化財の生物劣化と対策：虫 文化財の取り扱い：梱包・輸送技術
--	--

実地研修 奈良寺文化財研究所 東大寺、東大寺ミュージアム 正倉院 国立民族学博物館

植物資料の保存と管理（座学）
 パンクード見学（自費旅費・昼食含まず）
 植物資料の虫媒（実習）
 植物標本の方法と考え方（座学+展示場見学）

担当講師
 担当講師は、過去CHCホームページに掲載する予定です。下記URLをご参照ください。

- 注：本セミナーの開催にあたり、関心のある学生および一般の方。
- 注：2018年2月22日（木）～2月28日（水）の日程は、2018年2月25日（日）は休みです。
- 参加費：2018年2月22日（木）～2月28日（水）の日程は、2018年2月25日（日）は休みです。
- 参加費：一般 20,000円 / 学生・教員 10,000円 / 関西大学学生・教員 5,000円
- 申込締切：2018年1月21日（日）
- 申込方法：当センターのホームページより申込用紙をダウンロードし、必要事項をご記入の上、E-mail、FAX、または郵送にてお送りください。
 ※郵送の場合は、申込用紙の裏面に記入してください。
- お問い合わせ先：関西大学国際文化財・文化研究センター 文化財保存修復セミナー事務局
 〒558-0012 大阪府吹田市山手町3-3-35 総合研究室棟2階
 E-mail: ku-choc@moses.co.jp / Tel: 050-5838-7902 / Fax: 06-6537-1410
 Tel: 050-5838-7902 ※電話での受付は2018年1月16日（木）～17日（金）となります。
 URL: http://www.kansai-u.ac.jp/chc/ku-choc/seminar2018/2017
 ※12月18日（土）～19日（日）は本セミナーの開催日となります。



**国際文化財・文化研究センター
 成果報告会**

「バーレーン王国・パルパル神殿における関西大学ミッションの研究結果」

主 催：国際文化財・文化研究センター
 場 所：バーレーン王国
 日 時：2017年12月24日（日）10:00～12:30

発表者及び題目

- Verification of Current Situation of the Barbar Temple
 紀後時典（関西大学 CHC・RA）
- Characterization of Building Materials Used for the Barbar Temple
 アーブル・アカシム CHC 研究員（エジプト国立研究センター）
- Factors and Phenomena of Deterioration in the Barbar Temple
 アフメド・シムエビブ CHC 研究員（カイロ大学考古学助教授）
- The Strengthening Counter measure and Quality Estimation of Rock and Stone Work Block in the Barbar Temple
 輪田浩幸 CHC 研究員（関西大学産業都市工学助教授）
- Biological Deterioration on the Barbar Temple
 マイサ・マンヌール CHC 研究員（カイロ大学考古学助教授）
- Photometric-based Recording of Temporal Changes in the Barbar Temple
 安室真弘 CHC 研究員（関西大学産業都市工学助教授）

ワークショップ

Facing Techniques for Mural Painting with Applying Funori(Seaweed) Paste

・日時：2018年1月21日（日）～1月23日（火）
 ・場所：エジプト Palm Club ホテル
 ・講師：岡 孝典（株式会社岡豊光堂 代表取締役 岡 省太郎）
 ・各日講義60分、実習150分

	講義	実習
	14:30-15:30	15:30-18:00
1月21日（日）	フノリの特長 歴史、利用価値 日本における実用例	フノリの抽出（切断～濾し）
1月22日（月）	イドラートの壁面におけるフノリの使用と課題	フノリの塗布による表打ち
1月23日（火）	剥落止め的重要性 フノリによる表打ちの課題とその他の手法の検討	表打ちの取り直し


 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
 関西大学国際文化財・文化研究センター (CIC)
 Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture, Kansai University

エジプト文化遺産研究会

—エジプト学と文化遺産保護の現在—



2018年1月31日(水) 10:00~17:00
関西大学梅田キャンパス Kandai Me Rise

プログラム

エジプト学研究の現在

1. エジプト学研究の現在—ツタ・エル・ガハラの最新研究成果と古代エジプトの歴史学を中心に—
—ツタ・エル・ガハラ(カイロ大学考古学)
 講師: サラーハ・エル・ホーリ
2. 古代エジプトの文化史研究 —文庫学の視点から—
—文庫学(関西大学国際文化財・文化研究センター)
 講師: アマル・レファート
(カイロ大学文学部日本語学科)

エジプトにおける文化遺産保護

3. エジプトにおける文化遺産保護の現在 —ワークショップを事例として—
—アジュラフ・エビス(エジプト考古学研究所(エジプト考古学研究所))
4. エジプトにおける日本の文化遺産保護
—調査報告(関西大学国際文化財・文化研究センター)

エジプト学修士研究・卒業研究発表

5. トトメス3世時代の神官職から見た外国人と「もたらされた物」
—神官アイエムラーの職能を中心として—
 報告者: 松村由美 (関西大学大学院文学研究科総合人文学専攻)
6. 古代エジプトの教員文学と遺産教育
—報告者(関西大学文学部総合人文学専攻)
7. 古代エジプト初期王朝時代における王権観
—パレリキ・ストーンとその関連史料を以て—
 報告者: 関西大学文学部総合人文学専攻歴史専攻



関西大学梅田キャンパス案内

完全「梅田駅」南口5分徒歩1分
 沿「大丸線」から徒歩10分

(申込先) 関西大学国際文化財・文化研究センター Email: cic_japan@kansai.jp Fax: 06-6368-1457


 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
 関西大学国際文化財・文化研究センター
 Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture, Kansai University

中期エジプト語 フォローアップ講座



2018年2月1日(木)、2日(金) 13:00~18:00
関西大学梅田キャンパス Kandai Me Rise

講師 サラーハ・エル・ホーリ

 カイロ大学考古学専攻教授
 エジプト語(セエログリフ・ヒエログリフ)を専門とし、現在はカイロ大学とモコンヘン大学の共同発掘隊長としてツタ・エル・ガハラの発掘を主導している。

対象 : 「中期エジプト語講座(初級または中級)」を受講された方
 ・エジプト語の学習経験のある方

受講無料 (申込方法)

 参加費を徴せられる交付書状を「中期エジプト語フォローアップ講座」とし、「匿名」漢字・カタカナ・ラテン文字(敬称なし)で、電話・FAX・Eメール・アドレス(宛先は、郵送先もしくは学校名)を明記の上、EメールもしくはFAXにて下記の申込先までご連絡ください。

申込先 : 関西大学国際文化財・文化研究センター Email: cic_japan@kansai.jp Fax: 06-6368-1457

関西大学国際文化財・文化研究センター紀要

『The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture』第1号



264 ページ

2014年3月24日発行

臨遺跡集落モデルとしての奈良県明日香村の遺跡と集落の暮らし
—サッカラ村の今後を考えるための方向性の提示—

徳勢貴彦・岡絵理子

Life in Archaeological Sites and Settlements in Asuka Village as a Model Case
for Managing Settlements Adjacent to Archaeological Sites:

A Proposal for the Future of Saqqara

Takahiko TOKUSE, Eriko OKA

1-12ページ

This study reviews the history of and people's attitudes to the archaeological sites and settlements in Asuka village, Nara prefecture. Because of its structural similarities, Asuka village offers useful insights for the future of Saqqara, a settlement adjacent to an archaeological site, regarding the appropriate management of the archaeological site and the settlement in relation to each other. In Asuka Village, where archaeological sites and the landscape of settlements have been viewed integrally, creative heritage management and utilization have been promoted by means of urban planning methods through the preservation of archaeological sites and the creation of a landscape that fits as the sites' background. Moreover, the Program for the Development of the Living Environment and Industrial Infrastructure in Asuka Village was formulated, which has led to the administration of projects aimed at stabilizing residents' lifestyles and the establishment of the Asuka Village Development Fund. The local government, residents, scholars, and people knowledgeable in culture and the arts have been involved in the preservation process in various ways. Those in charge of the future of Saqqara should learn from Asuka by viewing the settlement and the archaeological site as one integrated landscape and by developing the living environment and the infrastructure of the settlement while preserving the archaeological site.

臨遺跡集落・サッカラ村の生活と空間構造(その4)

—「古い村」(カルヤ型集落)としてのサッカラ村の現状— [英語版]

岡絵理子

Life and Spatial Structure in Saqqara Village, a Settlement Adjacent to
an Archaeological Site (Vol. 4): The Existing State of Saqqara as an "Old Village"
(Karya -Type Village) [English version]

Eriko OKA

13-21 ページ

This paper examines the role of Saqqara village as a settlement in Egypt, based on previous studies on the Egyptian settlement, the findings from our studies over a three-year period, and a supplemental survey that we

conducted this year. Although located in the vicinity of the large city of Cairo, Saqqara has characteristics of a typical old village, or a *karya*-type village. Its local community and culture as well as its old buildings and living space make Saqqara a potential tourist site that can offer visitors insights into old Egypt.

ゼロ繋辞文における一致関係—標準アラビア語の[Ø NP₁ + NP₂] 構文の場合—
スライマーン・アラールディーン

Agreement in Zero Copula Construction: The Case of [Ø NP₁ + NP₂] Construction
in Modern Standard Arabic

Alaaeldin SOLIMAN

23-31ページ

This paper deals with agreement in the [Ø NP₁ + NP₂] construction, one type of the zero copula constructions in Modern Standard Arabic. The zero copula construction in this paper refers to a construction in which the relation between a subject and a nominal predicate is not marked by overt copula or verb.

There is a general consensus in the traditional Arabic grammatical theory and modern linguistic theory that in the [Ø NP₁ + NP₂] construction, when the predicate is a noun, or adjective, the predicate agrees with the subject. This paper has two objectives. The first one is to illustrate that agreement in the [Ø NP₁ + NP₂] construction is limited to a specific category of multifunctional descriptive nouns, and not all predicate nouns nor adjectives agree with the subject in the [Ø NP₁ + NP₂] construction as described in the literature. The second objective is to determine the group of derivatives which some of it agrees with the subject in the [Ø NP₁ + NP₂] construction, and functions as the nucleus of adjectives in Arabic.

ペンメルウ (*Pn-mrw*) の遺書に見る女性の位置づけ—葬祭神官の職をめぐる—

吹田真里子

The Position of Women in the Will of Penmeru (*Pn-mrw*) Concerning the Office of
Funerary Priest

Mariko SUITA

33-39ページ

This paper discusses the position of women in the will of Penmeru (*Pn-mrw*), which concerns the office of the funerary priest. Penmeru was the overseer of funerary priests and director of the kitchen in the Fifth Dynasty. His mastaba is located in the Western Cemetery at Giza. Inscriptions about the will are engraved on the wall of the open chapel in the mastaba.

The position of women who are written in wills were considered in my previous papers. Women could make a will the same as men, and in that regard, women held the same legal capacity as men. However, even though women held such a possibility, the property inheritance of women was mentioned in the wills of men in practice.

A funerary priest or priestess was one of the notable point that women could be involved in property inheritance. The funerary priest or priestess meant a person who served offerings to the dead, and there were women who went to this position. This paper examined, how women were treated in the succession of property of Penmeru, comparing with the wills in my previous research.

As a result, even women could engage in the office of funerary priest, as is clear from the will of Pepi and Buwt, but in their cases, they are daughter of the deceased. Even though Penmeru had a son and daughter, he did not transfer the office of funerary priest to them. Furthermore, the wife of Penmeru was alive when the first part of the will was made, but the office were not transferred to her, but to non-relatives. Therefore, it is considered that women could make a will the same as men, and in that point, women also retained the legal capacity as men, but that wives of the deceased could not be involved in the office of funerary priest.

陛下の第一の大將軍パディアセトについて—石棺Berlin29 の碑文からみた前4世紀のエジプト—

藤井信之

Some Remarks on the “First Great General of His Majesty” Padiesis and
the Political Structure of the 30th Dynasty

Nobuyuki FUJII

41-54ページ

The purpose of this study is to examine the political structure of Egypt in the 4th century B.C.E. by analyzing the titles of Padiesis (*PA-di-Ast*), which were inscribed on his sarcophagus registered as Berlin 29.

On the basis of the typology of the sarcophagus, the date that Padiesis had held the offices is estimated to be the 30th Dynasty, but it may be possible that Padiesis was alive until the Macedonian Period. He bore fifteen titles including priestly, military and administrative titles (see Table 1). The most important title among these fifteen titles was as a “General (*imy-r mSa*),” which he inherited from his father. From this we may assume that he belonged to a military family. General Padiesis also bore some priestly titles of temples in the Western Delta, such as Sais and Buto. In addition, he bore the title “*wr aA*,” which means, local monarch. That military personnel concurrently served as priests occurred less in the Saite Period, but more frequently in the Libyan Period. It was also often in the Libyan Period that a General with a priestly title was a local monarch. The Libyan Period was the Era of Decentralization. Under the Libyan Dynasty, the king was only *primus inter pares* among Libyan chiefs ruling the local regions. It seems reasonable to suppose that if Padiesis was a local monarch, the political structure of the 30th Dynasty was also decentralized.

It is worthy of note that Padiesis bore the title, “Controller of Upper and Lower Egypt (*xrp Smaw tA mHw*).” This title suggests that he had controlled Egypt temporarily on behalf of a king. In this paper, therefore, I examine whether it is possible to identify Padiesis of Berlin 29 with Padiesis on the Demotic Ostrakon which Smith (1988) published, or Petisis (Greek form for Egyptian *PA-di-Ast*) that Arrian (III, 5) referred to. Given that Padiesis of Berlin 29 was alive until the Macedonian Period, it may be possible that both Padiesis were actually the same person.

Removal of the White Marine Deposits Disfiguring the Granitic Monumental Objects of Alexandria Lighthouse, Alexandria, Egypt

Adel M. Akarish, Ahmed S. A. Shoeib, A. Nageh

55-65ページ

At the end of the last century, many of the monumental objects of Alexandria Lighthouse were lifted out from underwater and stored or exhibited at different places in Alexandria City. Although these objects had been desalinated and cleaned after being lifted from underwater, they still suffering from the presence of a large amount of white marine encrustations and concretions deposited on their surfaces. The main aim of the present work is to define and introduce an appropriate cleaning method to remove these deposits that are still disfiguring the surface of most (if not all) of these objects. Visual examinations, polarizing microscope and XRD methods are used to define the nature and the composition of these insoluble deposits. These deposits range from white to yellowish white in color, are relatively hard (about 3-4 by the Mohs scale) and their thicknesses range from millimeters to about 1 centimeter. Microscopic examination shows the impregnation of these deposits inside the exfoliation of the stone minerals (biotite) of the granitoids monumental objects. The XRD analysis indicated that the main components of these incrustations are the calcium carbonate minerals; mainly aragonite with calcite, in addition to quartz. The Physical-chemical method of cleaning processes has been applied in our work. For the present cleaning processes, poultices formed of EDTA +CMC alone or with other mixtures were tested for removing the considered insoluble deposits. Using EDTA 20% in the form of a poultice with the help of brushes and/or fiberglass is a safe and successful method to remove the insoluble white marine deposits disfiguring the granitic monumental objects.

Conservation of the Machu-Picchu Archaeological Site: Investigation and Experimental Restoration Works of the “Temple of the Sun”

Tadateru NISHIURA, Yasuyoshi OKADA, Hideaki SHIBATA, Isamu ONO, Masaaki SAWADA, Atsushi ITO, Tatsuaki NISHIGATA, Haruhiro FUJITA, Masayuki MORII, Fernando ASTETE, Champi MONTERROSO, Carlos CANO

67-79ページ

The Machu-Picchu archaeological site, which is called the “ancient capital in the sky,” is one of the most important and famous world-heritage sites. It was the special place of the Inca Empire in the Sixteenth Century, and is located on a high ridge in Peru. There are about 200 remaining structures built of stones (granite) in the 13,000 km² site. Systematic conservation measures for the structures have not been conducted, except emergency measures by the regional office. Thus, the authors have started a project for the conservation of the remaining structure, especially for the preservation and restoration of the “Temple of the Sun,” which is one of the most important structures in the site, in cooperation with the Ministry of Culture of Peru. There are three emergency problems at the Temple of the Sun. One problem is that the stones of the structure have cracks

probably caused by a lightning bolt. Another problem is that the structure has become instable because some of the joint parts in the stones have been opened. The other problem is the color change of the stones because of the growing lichen population on their surface.

ナポレオンの地中海域遠征と「アンピール様式」—パリにおける古代エジプト・ローマ文明— 浜本隆志

Napoleon's Expedition to the Mediterranean and the "Empire Style": The Ancient Egyptian and Roman Civilizations in Paris

Takashi HAMAMOTO

81-112ページ

Napoleon Bonaparte (1769–1821) emerged as a young officer in the midst of the chaotic and turbulent period of the French Revolution, served as Consul, the head of the Consulate, and finally became the Emperor in 1804. Napoleon is generally known as a hero because of his important military and political contributions in early 19th-century European history. He did indeed play a leading role in ending the French Revolution; the real Napoleon, however, was a belligerent, ambitious hegemonist.

Napoleon's talents as a commander became evident in the campaign in Northern Italy, when he was the commander-in-chief of the Italian expeditionary force (1796–1797). Recognized for his military competence, Napoleon decided to arrange a subsequent expedition to Egypt and Syria (1798–1802). Although these troop deployments to the Mediterranean were meant to keep the coalitions against France and British colonialism in check, they also ended up bringing the regional cultures and arts to France, giving rise to the French fascination with ancient Egyptian and Roman civilizations. This art trend is called, the "Empire Style," which is also known as Neoclassical style. It is found in paintings, architecture, interior decoration, furniture, pottery, personal ornaments, and many other art forms.

The "Empire" in the English name "Empire Style" means "emperor" in French (*empereur*), and since this style originated in France, it is usually pronounced with the French pronunciation in Japan. In a narrow sense, the French "empire" is understood as the period of Napoleon's reign as Emperor from 1804 to 1815, but in this paper, it also refers to the period between 1800 and 1820, including the Directory Era and Napoleon's confinement at St. Helena.

This paper reviews Napoleon's expeditions to Italy, Egypt, and Syria and how the Empire Style was established, and examines how the Empire Style has been embodied in paintings, architecture, monuments, symbols, furniture, and everyday commodities. Napoleon exploited the Empire Style to win the hearts and minds of the French people and succeeded in his ambition to dominate Europe, as a result of which, historical legacies of the ancient Egyptian and Roman Civilizations were left behind in Paris. This paper reveals that the Empire Style not only enjoyed a great deal of popularity in the history of French art and architecture, but also fostered nationalism and colonialism, and is closely tied to today's tourism in France.

革命期の文化イデオロギー—ベルナルディーノ・ドロヴェッティと文化遺産(1)—

柏木治

Cultural Ideology in the Age of the French Revolution: Bernardino Drovetti and Cultural Heritage (1)

Osamu KASHIWAGI

113-124ページ

The concept of cultural property was formed in Europe between the end of the eighteenth century and the beginning of the nineteenth century. However, many cultural properties of Egypt currently housed in major museums in Europe were "looted" from Egypt and brought to Europe during this period.

This paper reviews how the concept of cultural property emerged through the act of vandalism during the French Revolution. It also examines the circumstances which led to concurrent looting in Egypt by its neighboring countries, focusing on the relation between the European view of cultural property and the birth of the idea of the modern state. Nineteenth century Europe saw the growing trend of protecting the historical property of one's own country as national property as well as the tendency to view the property of "outsiders" as the target of looting. Our ultimate goal is to investigate these trends through the examination of Bernardino Drovetti, a French ambassador to Egypt for almost half a century. This paper provides a preliminary discussion to the investigation of these trends.

エジプト・ギリシア・近代ヨーロッパ『黒いアテナ』論争のこれから—

中澤務

Egypt, Greece and Modern Europe: New Possibilities of the Black Athena Debate

Tsutomu NAKAZAWA

125-133ページ

In this essay I further discuss the 'Black Athena Debate' which has been carried on since the publication of Martin Bernal's first volume of *Black Athena* (1987). This debate is mainly concerned with problems of image formation in 19th century Europe regarding ancient Greek civilization and the influence of Egypt and the Near East. To investigate new possibilities in this debate, I discuss a new study, the *African Athena: New Agendas* (2011), and examine new points of view developed in this book that show how history has been revised to ignore African (and Semitic) contributions to Greek culture.

気相系シャーレおよび彩色石片上での *n*-アルカノールの抗カビ活性

廣池晋治、坂元仁、アフメド・シュエイブ、吹田真里子、吹田浩、高鳥浩介、土戸哲明

Antifungal Activity of *n*-Alkanols in Vapor Phase on Petri Dishes and Painted Stone Chips

Shinji HIROIKE, Jin SAKAMOTO, Ahmed S. Shoeib, Mariko SUITA, Hiroshi SUITA, Kosuke TAKATORI, Tetsuaki TSUCHIDO

135-145ページ

The inhibitory activity of gaseous *n*-alkanols on fungal growth was investigated using a petri dish and a painted stone chip. The fungi used in this study were xerophilic *Aspergillus restrictus* and *Eurotium amstelodami*, xerotolerant *Aspergillus niger* and *Penicillium funiculosum* and, as *n*-alkanols, ethanol (EtOH), *n*-propanol (*n*-PrOH), *n*-butanol (*n*-BuOH) and *n*-pentanol (*n*-PeOH) were used. Fungal spores were inoculated with a small amount of liquid broth onto paper disks and then the disks were placed on the surface of the petri dishes and of the painted stones in a plastic container sealed with plastic tape. On both the petri dish and the painted stone chip, longer carbon-chain alkanol demonstrated stronger inhibitory activity on fungal growth. On the petri dish, although a longer-chain *n*-PeOH demonstrated a different inhibitory activity on the strain to strain used, shorter-chain *n*-alkanols were more effective on xerotolerant fungi than xerophilic fungi. On the painted stone chip for which only *n*-PeOH and *A. restrictus* were used, black carbon and brownish ferric oxide used as pigments supported fungal growth but blue and green pigments containing copper compounds showed an inhibitory activity, indicating some differences in the effect of pigment colors on the fungal growth.

GC-MS 及び ATR-IR 分析によるミイラの布の有機付着物分析

五百崎太輔、山下和子、アフメド・シュエイブ、アーデル・アカリシュ、川崎英也、吹田浩、荒川隆一

Chemical Analysis of Organic Fouling of Mummy Clothes by GC-MS and ATR-IR

Taisuke IHOZAKI, Kazuko YAMASHITA, Ahmed S. A. SHOEIB, Adel I. M. AKARISH,

Hideya KAWASAKI, Hiroshi SUITA, Ryuichi ARAKAWA

147-152ページ

We carried out GC-MS analysis in a purpose to find the organic compositions included in linen fragments of ancient mummy, which belongs to Idout, 2360 B.C., in Saqqara, Egypt. The investigateds fragments were collected from the linen debris found on the floor of the burial chamber. It was supposed that the organic materials of glues or resins might be used to fix the linen cloth of the mummy.

IR spectrum suggests a fatty series or aromatic compounds in a peak derived from CH₂ near 2800-3000 cm⁻¹. Wide and gentle absorption of a hydroxyl group derived supposedly from the cloth was detected in the range of 3600-3000cm⁻¹. In the range of 1200-1000cm⁻¹, we detected some peaks (1023 cm⁻¹, 1103 cm⁻¹, 1157 cm⁻¹) in the thin fragment, whereas no peak in the thick one. When the thick fragment was peeled off, ATR-IR detected components exposed on its surface. As for the adhesives of the surface, they might be phosphorus compounds derived from animal in peaks of PO. We could not lead to identification in the range of 1200-1000cm⁻¹ because of many peaks of organic compounds.

イドウトのmastaba調査プロジェクトにおけるアーカイブシステムの提案

安室喜弘・松下亮介・西形達明・吹田浩

New Digital Archiving System for Mastaba Idout Project

Yoshihiro YASUMURO, Ryosuke MATSUSHITA, Tatsuaki NISHIGATA, Hiroshi

SUITA

153-165ページ

Egyptology involves variety kinds of technical fields as well as archaeological specialty areas. Especially for maintenance and restoration of the historical ruins and cultural heritages like wall reliefs and paintings, ICP (Institute for Conservation and Restoration of Cultural Properties) and successive group of CHC (The Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture) in Kansai University organize the research members from fields of civil, architectural, chemical, material engineering, informatics and computer science. This research proposes a new type of digital archive system to achieve the transversal studies in such organization for sharing the live and accumulated information. The system provides a realistic virtual space on web-browsers that allows sharing the on-site information rooted from the environments of the field and discussing over the common target in a cross-sectional manner via the internet. This paper describes the detailed technical implementation scheme of the proposed system framework and also shows the possibility of spontaneously arising bridges between different specialized areas and their works.

シリカ、アルミナ、炭酸カルシウムへのシランカップリング剤の反応性

中村吉伸・山崎諒太・下嶋康平・藤井秀司

Reactivity of Silane Coupling Agent on Various Inorganic Surface

Yoshinobu NAKAMURA, Ryota YAMAZAKI, Kohei SHITAJIMA, Syuji FUJII

167-176ページ

Reactivity of a silane coupling agent with various inorganic particles was investigated. For this purpose, surface treatment of silica, alumina and calcium carbonate particles with a silane coupling agent having glycidoxy and amino groups was carried out by a wet-treatment method using 2-propanol as solvent. Physically adsorbed molecules were removed by alcohol washing, and the adsorption percent was measured by thermogravimetric analysis (TGA). In the case of glycidoxy functional silane, the adsorption was about 35% for silica, and about 5% for alumina and calcium carbonate each. In the case of amino functional silane, the adsorption was about 60% for silica, about 35% for alumina, and about 40% for calcium carbonate. Judging from the electronegativity (as originally proposed by Linus Pauling), silica tends to form a covalent bond with the silanol group of silane, which is why the adsorption of silica is highest. The amino group of silane adsorbs to the hydroxy group on an inorganic particle surface by ionic interaction. An ionic interaction occurs easily in the order of calcium carbonate > alumina > silica. For this reason, the adsorption increased for amino functional silane, and was more remarkable for calcium carbonate and alumina.

文化財施設環境中の空中浮遊微粒子と浮遊カビの相関性

高鳥浩介・村松芳多子・太田利子・久米田裕子・高橋淳子・土戸哲明

Correlation between Air Particle Substance and Air-borne Fungi in Cultural Asset

Environment

Kosuke TAKATORI, Kanako MURAMATSU, Toshiko OTA, Yuko KUMEDA, Atsuko

TAKAHASHI, Tetsuaki TSUCHIDO

177-184ページ

Recent engineering technology on measuring skill remarkably progresses. The technique is applied among several fields such as air particle measurement and real time floating microbe counter. In case of these technological application to progress in environmental research, it is important to use available and optimal instruments. In this study, we carry out the correlation between air particle substance and air borne fungi. Because of measurement for rapid and accurate technological inspection by using modern instruments, it also required the accurate measurement.

As the microbial measuring method of air particle in in-door environment, there are mainly 2 types; microbial falling measurement method and air sampler measuring method. These measuring methods owe to the microbiological analysis. However, it needs to have a long time to judge the microbiological results in

environments. Therefore, we investigate to develop the rapid measuring method by using particle counter (PC). PC is originally to estimate the air particle substances by each particle size with microbes together.

The ranges of particle size to measure are among 0.5 to 10.0 micron meter. We especially focus the particle size 3 to 5 micron meter because of distributing in air borne fungi which cause the damage to cultural asset and influence to the human health hazard. In this paper, we investigate the correlation between air particle substance and air borne fungi in cultural asset environments.

Crisis of Egyptian Monuments and the Future

Mohamed Ibrahim

187-198ページ

The Reality and Challenges of Preserving Egyptian Antiquities in Light of Changes that Occurred in Egypt after the Revolution of January 2011

Hani Ahmed

201-214ページ

Present Situation and Problems for the Protection of Culultural Heritage in Saqqara

Sabry Farag

215-222ページ

Saqqara Administration for the Conservation and Restoration of Antiquities over 70 Years

Mostafa Abdel-Fatah

223-232ページ

The Current Condition of the Saqqara Monuments

Nasser Fergany

233-249ページ

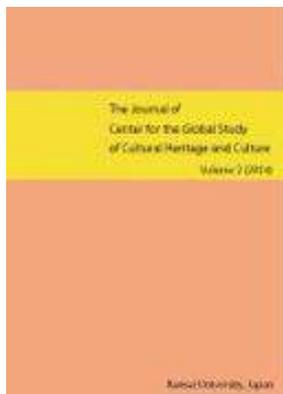
Examples of Conservation and Restoration Work in Saqqara

Ashraf Youssef

251-264ページ

関西大学国際文化財・文化研究センター紀要

『The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture』第2号



228 ページ

2015年3月19日発行

An Ancient Egyptian Piece of Weight in the Cairo Museum

Salah el-Kholy

1-4 ページ

The present article deals with an ancient Egyptian piece of weight, which had been chosen once for the last one hundred year anniversary of the Cairo Museum and was exhibited during that occasion. This weight of grey basalt deserves a special interest since it was inscribed in hieroglyphic signs on its front side with the standard to which it belonged, and the number of units which it contained. Such a characteristic was not current in all weights. Most of the weights have no inscription.

One should guess its standard just only by depending on its actual weight. It weighs 1,275.9 grs. Therefore, it gives 14.17 grs for a unit as it was inscribed with 90 units. In the following study, this weight is reconsidered to define thoroughly the main standard to which it belongs, i.e. the exact weight of its unit, and lastly to define its date.

臨遺跡集落モデルとしての奈良県明日香村の遺跡と集落の暮らし

—サッカラ村の今後を考えるための方向性の提示—[英語版]

徳勢貴彦・岡絵理子

Life in Archaeological Sites and Settlements in Asuka Village as a Model Case for Managing Settlements Adjacent to Archaeological Sites:

A Proposal for the Future of Saqqara [English version]

Takahiko TOKUSE, Eriko OKA

5-20 ページ

This study reviews the history of and people's attitudes to the archaeological sites and settlements in Asuka Village, Nara Prefecture. Because of its structural similarities, Asuka Village offers useful insights for the future of Saqqara, a settlement adjacent to an archaeological site, regarding the appropriate management of the archaeological site and the settlement in relation to each other. In Asuka Village, where archaeological sites and the landscape of settlements have been viewed integrally, creative heritage management and utilization have been promoted by means of urban planning methods through the conservation of archaeological sites and the creation of a landscape that fits as the sites' background. Moreover, the Program for the Development of the Living Environment and Industrial Infrastructure in Asuka Village was formulated, which has led to the administration of projects aimed at stabilizing residents' lifestyles and the establishment of the Asuka Village Development Fund. The local government, residents, scholars, and people knowledgeable in culture and the arts have been involved in the conservation process in various ways. Those in charge of the

future of Saqqara should learn from Asuka by viewing the settlement and the archaeological site as an integrated landscape and by developing the living environment and the infrastructure of the settlement while conserving the archaeological site.

臨遺跡集落モデルとしての奈良県明日香村の遺跡と集落の暮らし
—サッカラ村の今後を考えるための方向性の提示—[アラビア語版]
徳勢貴彦・岡絵理子
21-37 ページ

臨遺跡集落・サッカラ村の生活と空間構造(その4)
—「古い村」(カルヤ型集落)としてのサッカラ村の現状—[アラビア語版]
岡絵理子
39-48 ページ

A Prosopographical Study of the Inscription on the Sarcophagus of Pediese (Berlin 29):
An Aspect of the Political Structure of Egypt in the Fourth Century B.C.E.
Nobuyuki FUJII
49-65 ページ

This paper presents all the titles Pediese bore on the basis of the inscription on Berlin 29 and examines Pediese himself as well as the political structure of Egypt in the fourth century B.C.E.

The prosopographical data of this Pediese in previous studies were incomplete. Pediese's prosopography in this study reveals the following. Pediese of Berlin 29 came from a military family and took over the position of "General" from his father. His religious titles and his mother's title indicate that Pediese was based in the central part of the western Nile Delta including Sais and Buto. He was also a provincial ruler as *wr aA* "Great Prince." Moreover, in his career, he temporarily governed Egypt as *xrp Smaw tA mHw* "Controller of Upper and Lower Egypt." Whether this happened during a king's expedition in the Thirtieth Dynasty, in the Second Persian Period (the Thirty-first Dynasty) or under the reign of Alexander (the Great) remains unknown. The author also examines whether it is possible to identify Pediese of Berlin 29 with Pediese on the Demotic Ostrakon which Smith (1988) published, or Petisis (Greek form for Egyptian *PA.di.Ast*) that Arrian (*Anabasis*, III, 5) referred to.

Pediese of Berlin 29 was a "General" from a military family and was a priest at prestigious temples in the western Nile Delta including Sais and Buto, and also was a provincial ruler. Individuals who concurrently held these titles were frequent in the Libyan Dynasty but were less in the Saite Dynasty. Pediese's prosopography examined in this paper shows that Egypt in the fourth century B.C.E. after gaining independence from Persian Empire was decentralized like the Libyan Dynasty rather than the centralized Saite Dynasty. In Egypt, especially in Lower Egypt, provincial military forces that were prominent in the Libyan Dynasty re-emerged and served as provincial rulers in the fourth century B.C.E.

Once recognizing the significance of the military forces, the background of Ptolemy's restoration of the land of Buto temple, an event described on the Satrap Stela, becomes clearer. Ptolemy's intention of restoration the land was to win over the support of influential military forces such as the family of Pediese's. While Ptolemy attached importance to Egyptian priests, it was the Egyptian military forces that he attached special importance to. Ptolemy was in the Wars of the Diadochi and needed the cooperation of Egyptian military forces in order to secure stability in Egypt.

標準アラビア語における基本構文の分類—動詞を含む文と無動詞文の違いについて—
スライマーン・アラールディーン
The Classification of Sentence Types in Modern Standard Arabic: On the Differences
between Verbless and Verb-containing Clauses
Alaaeldin SOLIMAN
67-79 ページ

Arabic grammatical theory divides clauses into two types depending on the nature of the initial word in the clause. This initial word criterion may be inspired by the nature of the verb-containing clauses in Arabic where all the heads precede their dependents, or by the dominant Government Theory in the traditional Arabic

grammatical theory and modern linguistic theory. In this paper I addressed some problems in the classification of clause types in Modern Standard Arabic, and observed major differences between verbless clauses and verb-containing clauses. While we can find concord and agreement between all verbal predicates and their subjects in verb-containing clauses, on the contrary verbless clauses such as [PP + NP], and [NP + PP] constructions do not have any agreement. Agreement in the [\emptyset NP₁ + NP₂] construction, one of the verbless constructions in Arabic, is limited to a specific category of multifunctional descriptive group of derivatives, and not all predicate nouns nor adjectives agree with the subject in the [\emptyset NP₁ + NP₂] construction.

Verbless clauses is different from verb-containing clauses in its syntactical and informational structure, and it is not appropriate to be analyzed by criteria that depend on Agreement or the concept of head-dependent.

Conservation of Ayutthaya Historical Site as a Result of Major Floods

Tadateru NISHIURA

81-87 ページ

The author carried out the investigation on the conservation of Ayutthaya historical site as a result of major floods at the site with staffs of Fine Arts Department of Thailand in April, 2015. Some remarks and recommendations for the conservation of this historical city are reported.

Characterization of Old Mortars from Historic Buildings in Muharraq, Bahrain

Ahmed Shoeib, Salman Almahari

89-96 ページ

Muharraq Old City is one of the most emblematic areas of Bahrain and is classified by UNESCO as a World Heritage site (Pearling, Testimony of an island economy).

The city is rich with historic buildings which are in bad condition and need conservation interventions. Many monuments have suffered several conservation interventions in the last 30 years especially by using Portland cement, without, however, any type of previous knowledge about the type of mortars and materials used. This work was carried out to identify the mortar's composition in different buildings and to try to find the appropriate conservation mortars. XRD and petrography studies were carried out to find the results in addition to the physical and mechanical characterization. The results showed that the main composition of the bedding mortar and plasters are Gypsum.

Treatment and Conservation of the Statue of Nefer from the Czech Mission Excavations in Abusir Area

Ashraf Youssef Ewais

97-107 ページ

The Czech mission in Abusir had a successful archaeological season in 2012. They discovered a tomb of Nefer, where they found more than ten limestone statues of Nefer. Nefer was a great official in the time of the king Neferirkare of the fifth dynasty.

One of the statues had a broken head. The Saqqara Administration for the conservation and Restoration Antiquities used one material for treatment and conservation of the unique statue. This material is Paraloid B72, which is usually used as a consolidant and is a reversible material used for different purposes.

Ptahshepses Mural Painting and its Characterization at Gesr El-Mudir in Saqqara, Egypt

Mustafa Ahmed Abdelfatah, Muhamed Kamal, Shabban Mahmud

109-126 ページ

The main aim of this paper is to identify the painting materials used in decorating the burial chamber of Ptahshepses. In particular, this study characterizes the ancient Egyptian mural paintings and plaster discovered at Gesr El-Mudir in Saqqara area. In this area, a number of tombs dating back to the 5th dynasty were discovered. One of such tombs is the Ptahshepses tomb, which has a unique decorative burial chamber. The chamber walls were cased with limestone, carved with bass and raised reliefs, and covered with plaster layers painted with different colors. The characterization of the mural painting was done by using an Optical Microscope (OM), Scanning Electron Microscopy equipped with an energy disperse X-ray detector (EDX), and X-ray diffraction analysis (XRD). Analysis of the examined samples indicates that the plaster layer is composed

mainly of gypsum (CaSO₄·2H₂O), quartz and calcium carbonate; the red pigment is red ochre; the yellow pigment is goethite; the orange pigment is a blend of red pigment and yellow pigment, and the blue pigment is Egyptian Blue (*Cuprorivaite*). The colors and the plaster compositions help to provide an idea of some of the painting materials used during the Old Kingdom in the decorative burial chambers in Saqqara between the time of Unis (the last king of the Fifth Dynasty) and the time of Teti (the first king of the Sixth Dynasty).

古代ギリシアにおける異文化理解の諸相(1)—ノモスとピュシス—

中澤務

Aspects of Cross-cultural Understanding in Ancient Greek 1: Nomos and Physis

Tsutomu NAKAZAWA

127-139 ページ

The notions of “nomos” and “physis” played an important role in the cross-cultural understanding of the ancient Greeks. As to the origin and historical role played by these notions, F. Heinemann’s view is still influential. His view is as follows: (1) The origin of these notions stems from ethnological studies of the various cultures of the time. (2) However, the antithetical way of thought of philosophers at that time (e.g. ‘name vs reality’ or ‘seeming vs being’) changed the notions of “nomos” and “physis” into sharp antithetical notions. (3) The Sophists used these notions to oppose ‘law and convention’ (nomos) to ‘human nature’ (physis) and accepted the latter and rejected the former.

In this paper, I reexamine his view and propose a new interpretation. The outline of my interpretation is as follows: (1) The origin of these notions was not only derived from the ethnological studies, but also from the thoughts of Protagoras, the Sophist. (2) Protagoras presupposed close interrelations between “nomos” and “physis.” (3) This presupposition was shared by many Sophists of the day including Antiphon (whom Heinemann regarded the champion of anti-nomos thought).

In my view, ancient Greeks had consistently used these twin notions as effective tools for cultural understanding.

古代エジプトにおける「シンデレラ物語」の世界伝播(1)—ヨーロッパ伝播を中心に—

浜本隆志

Global Dissemination of *Cinderella* from Ancient Egypt 1: Mainly in Europe

Takashi HAMAMOTO

141-161 ページ

Cinderella, one of the most popular fairy tales, has been the favorite of many people including children. Although most people in recent years first heard the story of *Cinderella* in the animated film produced by Walt Disney (1901-1966), the film is based on *Cendrillon, or The Little Glass Slipper* (referred to as “*Cendrillon*” below), by the French fairy tale writer Charles Perrault (1628-1703). The name “*Cinderella*” stems from cinder (French *cendre* and German *Asche*), provoking an image of a girl covered in ashes, doing drudgery in the kitchen.

Perrault apparently based *Cendrillon* on *La Gatta Cenerentola (The Cat Cinderella)*, composed by an Italian writer Giambattista Basile (1575-1632). Both Perrault and Basile’s fairy tales had significant influence on the Brothers Grimm (elder brother Jacob, 1785-1863; younger brother Wilhelm, 1786-1859) in their writing of *Aschenputtel (Cinderella)*. Thus in the West, the fairy tale was handed down from Basile to Perrault to the Brothers Grimm to Disney.

That being said, a historical examination of *Cinderella* shows that the fairy tale also existed in other parts of the world, including ancient Egypt, Southwest Asia (Turkey, Arabia, and India), East Asia (Tibet, Java, China, Korea, and Japan), and North America (e.g. among Native Americans). Then how many *Cinderella* stories are there in the world?

In the late-nineteenth-century Britain, Marian Roalfe Cox (1860-1916) published a collection of as many as three hundred forty-five versions of *Cinderella*, attesting to the story’s wide dispersion. Further studies have been done on the subject since then. In the Aarne (1867-1925) - Thompson (1885-1976) classification system, over seven hundred variants are listed. According to Anna Birgitta Rooth (1919-2000), this spread of the fairy tale across the world is called the *Cinderella cycle*. In Japan, Shizuka Yamamuro published *Cinderella Stories in the World* and demonstrated its worldwide dissemination with examples.

As previous research suggests, the variants of the *Cinderella* story did not naturally occur in different

regions with no historical ties to each other; instead, the original tales were disseminated while being heavily influenced by each other. These different versions generally share the basic plot structure in which a heroine suffering from some kind of hardship receives help from a supernatural character and marries a rich man.

Previous research has established that *Yeh-Shen*, the Chinese version of *Cinderella*, was written in the ninth century, and some scholars believe it is the original *Cinderella*, linking the Chinese tradition of foot-binding to *Cinderella's* slipper. This theory, however, is not so likely because older variants of the story have been found in further studies on the variants of *Cinderella* in recent years. Although specifying the original dates of fairy tales and folktales is difficult, a certain degree of estimation is possible based on indirect sources.

For example, there are much older versions of *Cinderella* than the ninth-century *Yeh-Shen*. The author explores the ancient Egyptian version of *Cinderella*, *Rhodopis*, as the most prominent of these cases. The story of *Rhodopis* was introduced by a Greek historian Herodotus (around 485 - 420 B.C.E.), which indicates that the tale dates back to the sixth to fifth century B.C.E.

In this bulletin, the author examines what caused the global dissemination of *Rhodopis* from ancient Egypt by paying close attention to the motif and features of the *Cinderella* story that are found in *Rhodopis* and analyzing the tale's structure. To narrow the broad scope of the subject, which is "global dissemination" of the story, this paper focuses on the dissemination in Europe as the first part of the discussion.

近代エジプト学の成立と所蔵品の帰趨—ベルリン・エジプト博物館をめぐる—

森貴史

Establishment of Modern Egyptology and Acquisition of Collections:

Neues Museum in Berlin

Takashi MORI

163-177 ページ

The Neues Museum on Berlin's Museum Island, a UNESCO World Heritage site, reopened in September 2009 after being closed for seventy years. The centerpiece of the museum's collection is the bust of Queen Nefertiti of the Egyptian Museum, which is a controversial piece with the Egyptian government repeatedly demanding its return since the early twentieth century. The discovery of the Rosetta Stone during Napoleon Bonaparte's Egyptian campaign and Jean-Francois Champollion's success in deciphering the hieroglyphics ushered in the rise of modern Egyptology in Europe. Germany has played a leading role in the establishment of Egyptology. German Egyptology was founded by Karl Richard Lepsius, and the Egyptian Museum of Berlin significantly contributed to the promotion of Egyptology. The museum still houses the Troy collection donated by Heinrich Schliemann, but most of the collection was seized by the former Soviet Union during World War II. The bust of Nefertiti was excavated in Tell el-Amarna in December 1912 thanks to a benefactor James Simon and an Egyptologist Ludwig Borchardt, and it was obtained by Germany under the partage system. Egypt deems the procedures of partage themselves invalid, and thus has requested the repatriation of the bust. Ownership of ancient artwork is still a subject of dispute not only at the Egyptian Museum of Berlin but also between prominent museums in Europe and the countries where the artworks were unearthed. Of the antiquities the Egyptian Museum of Berlin acquired in the eighteenth and nineteenth centuries, many were obtained via ways that the museum officials would rather not reveal. Returning artifacts to their countries of origin, however, does not offer an instant solution to the problem in terms of preservation and exhibition. More time and further discussion will be needed.

ミイラの布に含まれる有機低分子化合物の熱分解 GC-MS 分析

五百崎太輔、山下和子、アフメド・シュエイブ、川崎英也、吹田浩、荒川隆一

Py-GC-MS Analysis of Low-molecular Organic Compounds Included in Mummy Clothes

Taisuke IHOZAKI, Kazuko YAMASHITA, Ahmed Sayed SHOEIB, Hideya KAWASAKI,

Hiroshi SUITA, Ryuichi ARAKAWA

179-184 ページ

Pyrolytic (Py) GC-MS analysis was carried out to examine low-molecular organic compounds in linen fragments of an ancient mummy from the Mastaba Idout, 2360 B.C., in Saqqara, Egypt. The investigated fragments were collected from linen debris found on the floor of a burial chamber. The organic materials in the

linen debris such as glues and resins are assumed to have been used to fix the linen cloth of the mummy. Py-GC-MS for the untreated linen debris was performed with 590°C pyrolysis.

The results showed that the pyrolyzed products of the organic compounds in the linen cloth were classified as histidine, furan, benzene, steroid, alkane, alkene, and their analogs. However, at this stage, it is difficult to estimate the type of initial organic material from the analysis of these pyrolyzed products.

シラン化合物の混合方法が複合系の特性におよぼす影響

中村吉伸・下嶋康平・嘉流望・福田知由・藤井秀司

Influence of Addition Method of Silane Compound on Composite Properties

Yoshinobu NAKAMURA, Kohei SHITAJIMA, Nozomi KARYU, Tomoyoshi FUKUDA,

Syuji FUJII

185-192 ページ

The influence of loading method of silane coupling agent on the mechanical properties of a styrene-butadiene rubber/silica composite were investigated using mercapto-functional silane with dialkoxy and trialkoxy types. The pretreatment method and the integral blend method were compared. The 200% modulus was higher in the pre-treatment than in the integral blend for dialkoxy type. However, it was higher in the integral blend than in the pre-treatment for trialkoxy type. The binding of rubber molecular chains by the silane chains on the silica surface was higher in the pre-treatment for dialkoxy type, whereas it was higher in the integral blend for trialkoxy type. In the pre-treatment for dialkoxy type, a linear silane chain formed in the case of multi-layer coverage. The silane chain entangled with the rubber chain and improved the reinforcement effect. In the integral blend for trialkoxy type, the formation of the silane network and the entanglement progressed simultaneously during the preparation process. A well entangled interfacial region was formed. The ¹H pulse nuclear magnetic resonance spectroscopy was measured for the unvulcanized rubber/silica mixture. The measured relaxation time was found to be in good correlation with the 200% modulus.

文化財環境真菌細胞のタンパク質含量

村松芳多子・太田利子・高橋淳子・久米田裕子・土戸哲明・高鳥浩介

Protein Contents of Fungal Cells Isolated from Cultural Properties

Kanako MURAMATSU, Toshiko OTA, Atsuko TAKAHASHI, Yuko KUMEDA, Tetsuaki

TSUCHIDO, Kosuke TAKATORI

193-199 ページ

We measured the amount of protein in indigenous fungi such as *Aspergillus*, *Penicillium*, *Cladosporium*, and yeasts, which exist normally in the air where cultural properties are housed. The amount of protein in the spores of these fungi was uneven and in the range of 9.9-68 µg/10⁶ spores, showing that the maximal amount of protein in the fungal spores was approximately 7-fold in some fungal groups such as *Penicillium*, *Aspergillus*, and *Eurotium*. Likewise, we also analyzed the fungal mycelium of the same fungal group as described above, and found that the amount of protein in the fungal mycelium varied in the range of 289-7,334 µg/g mycelium. From these results, a large and widespread variation in the amount of protein was noted in the fungal mycelia rather than in the fungal spores.

寒天ゲル相系でのアルカノール異性体の抗カビ活性とその阻害作用における疎水性相互作用の役割

廣池晋治、原田真美、坂元仁、古田雅一、高鳥浩介、土戸哲明

Antifungal Activity of Alkanol Isomers of in Agar Gel Phase and the Role of

Hydrophobic Interaction for Their Inhibitory Action

Shinji HIROIKE, Mami HARADA, Jin SAKAMOTO, Masakazu FURUTA, Kosuke

TAKATORI, Tetsuaki TSUCHIDO

201-214 ページ

We have investigated the possibility of application of alkanols in order to protect ancient wall paintings from fungal contamination. In this study, the antifungal activities of isomers of alkanols in agar gel phase were examined and compared those with the activities of *n*-alkanols. The objective fungi used were xerotolerant *Aspergillus niger* and *Penicillium funiculosum* and xerophilic *Aspergillus restrictus* and *Eurotium amstelodami* and, as alkanols, ethanol (EtOH), *n*-propanol (*n*-PrOH), *n*-butanol (*n*-BuOH), *n*-pentanol (*n*-PeOH), 2-propanol

(2-PrOH), 2-butanol (2-BuOH), *t*-butanol (*t*-BuOH), 2-pentanol (2-PeOH), 3-pentanol (3-PeOH) and *t*-amyl alcohol (*t*-AmOH) were employed in this study. The kinetics of fungal growth were analyzed by using two empirical equations, one of which expresses the relationship between the colony area and the treatment time and the other of which does that between the inhibition percentage of fungal growth and the alkanol concentration. From the former relationship, the growth rate α was calculated and, the second parameter β indicating the dependency of the percentage of growth inhibition, which was obtained from α value, upon the alkanol concentration was calculated using the latter relationship. Further, from the latter relationship, the inhibitory concentration indices, IC₀, IC₅₀ and IC₁₀₀, were obtained and used to compare the antifungal activity among different alkanol isomers. We concluded by evaluating these parameters and indices that *n*-pentanol was the most effective among tested alkanols and secondary and tertiary alkanols were not as much powerful as primary alkanols. We also suggested that the hydrophobicity of alkanol molecule is the key factor for the growth inhibitory ability of alkanol, although we could not determine whether the surface hydrophobicity of fungal colony mat or spore had some substantial effect on the antifungal activity of alkanols. Based upon the results obtained in this study, we propose the potential use of *n*-pentanol possibly as a vapor for the protection of mural paintings from fungal contamination.

古代エジプト古王国時代のマアトの一側面—ピラミッド・テキスト第 260 番から
肥後時尚

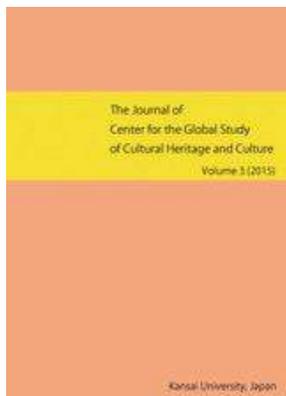
An Aspect of Maat, Egyptian Concept, in Old Kingdom: Utterance 260 of Pyramid Texts
Tokihisa HIGO
215-228 ページ

I outlined the research history of Maat and, as a case study, I treated the Utterance 260 of the Pyramid Texts. Researchers, who follow Frankfort and Wilson, focus on some limited aspects of Maat. I translated and commented the Utterance 260, as the word of Maat appears the most frequently in the Texts and Maat seems to act in its context in the Utterance.

In the Utterance, Maat corresponds to an attribute of kingship as often mentioned. In addition, another aspect, which personifies it as goddesses “dual Maat,” has a unique trait; the goddesses have actions: “hear” and “command.” This personified Maat is characterized in comparison with abstract Maat (justice etc.) or the personification as offering to Amon-Re in the New Kingdom. In the aspect of “dual Maat,” I drew notice to its unique personification for future research.

関西大学国際文化財・文化研究センター紀要

『The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture』第3号



287 ページ

2016年3月7日発行

イドウトのマスタバ調査プロジェクトにおけるモバイルAR システムの提案

安室喜弘・松下亮介・肥後時尚・吹田浩

On-site Augmented Reality System for the Mastaba Idout Project

Yoshihiro YASUMURO, Ryosuke MATSUSHITA, Tokihisa HIGO, Hiroshi SUITA

1-8ページ

This study proposes a graphical user interface for mobile devices to access the database at the site of an archeological project. We have already developed a web-based 3D archiving system to support the archeological project and personnel, which consists of professionals in diverse specialties and of many nationalities, who are conducting the surveys and restoration work. Our 3D archiving system is designed to spontaneously update, accumulate, and share information on findings to better enable frequent discussions via a 3D virtual copy of the field site. This system lets users visit, explore, and embed information in the virtual site over the Internet. Here, we present an AR-based, human interface to enhance access from mobile devices at the actual site to engage the archiving system. Using SFM (structure from motion) and solving the PnP (Perspective-n-Point) problem, a photo taken at the site can be stably matched to the pre-registered photo collection in the archiving system. When someone accesses the archiving system it smoothly associates the 3D coordinates between the system and the actual user viewpoint. Our implementation has worked effectively on an on-going project developed at Mastaba Idout in Saqqara, Egypt.

イドウトのマスタバ「第3室西壁」における3次元計測データを用いた復元と再解釈

肥後時尚・青木彩香・松下亮介・安室喜弘・吹田浩

Utilization of 3D Scanning Data for Restoration and Reinterpretation:

An Ancient Egyptian Relief on the West Wall of Room III in the Mastaba of Idout

Tokihisa HIGO, Ayaka AOKI, Ryosuke MATSUSHITA, Yoshihiro YASUMURO,

Hiroshi SUITA

9-22ページ

As part of the conservation and restoration work of the Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture (CHC), this study explores the reconstruction and explanation of a relief on the west wall of Room III in the Mastaba of Idout.

This Mastaba (tomb), was originally prepared for Ihy, an Unis' vizier. It is located in Saqqara and belongs to the earliest Sixth Dynasty (ca. 2360 BC). It has vivid reliefs of the Old Kingdom; however, they are deteriorating with time. After Macramallah (1935) published the first report for her Mastaba, Kanawati (2003) published his latest report on the subject. However, despite their studies, there is still room to study the inscriptions and what is described in the reliefs. By using 3D data, this study intends to not only create a more

detailed reconstruction of the relief but also interpret the images that ancient Egyptians perceived in the marshland.

In this relief, there are some characteristic expressions; a relationship between a hippopotamus giving birth and a crocodile that is about to prey on a baby hippopotamus and a scene of a genet that has caught a fledgling. These descriptions imply that ancient Egyptians thought about the creation of new life and its relationship to death in the flourishing of nature.

臨遺跡集落・サッカラ村の生活と空間構造(その5)

—サッカラ村居住者の遺跡や村への認識の実態—

岡絵理子

Life and Spatial Structure in Saqqara Village,
a Settlement Adjacent to an Archeological Site (Vol. 5):

How the Residents of Saqqara Perceive Ruins and their Village

Eriko OKA

23-30ページ

The agricultural village of Saqqara is located not far from the ancient burial ground of Saqqara, 17 km southward of the Egyptian capital Cairo. In the recent years, the wealth of Saqqara has increased since villagers have been hired to achieve tasks such as cleaning of sightseeing facilities, or burial ground excavation manual works. In spite of the village proximity to the burial ground of Saqqara which is a world-class tourism resource, the desertification of these old urban areas is going on due to the lack of basic urban infrastructures, e.g. road; and water/sewage system. A series of studies hitherto conducted by us have clarified the spatial and landscape structure of the hamlet in order to explore the future tourism potential of the Saqqara village. In this study, we have carried out a questionnaire survey with Saqqara village residents and asked them about their thinking in regard to the future tourism development of the Saqqara village. Our findings have revealed that while a majority of surveyed people are in favor of the village's development as a Cairo commuting suburb, they were very few who positively assessed the beauty of the agricultural scenery surrounding the village and the Saqqara landscape. Villagers considered not only ruins in Saqqara but those in Egypt as sightseeing spots that foreign tourists visit. Hence, those sites are perceived as workplaces but not as anything that villagers actively get involved in. It is necessary to make the villagers realize the attractiveness of the Saqqara village the same way as the foreigners or people outside the village do. We believe that this is what will create job opportunities and help the village to develop.

Effect of Clay Minerals on Mural Paintings of Ptahshepses Burial Chamber at Gisir El-Mudir, Saqqara

Mostafa Ahmed ABDELFAH, Mohamed Kamal KHALLAF

31-44ページ

This study aimed to identify the clay minerals present in the bedrock of the Ptahshepses burial chamber and their effect on the mural paintings. The minerals were identified by powder X-ray diffraction (XRD), chemical analysis, and optical microscopy. The analyses showed that the main components of the bedrock of the Ptahshepses burial chamber are calcite, quartz, and clay minerals (montmorillonite, kaolinite, and illite). The clay minerals caused partial or complete separation of the mural painting layers that were directly applied on the bedrock or casing layer. The mural painting layers had fallen due to the cyclical shrinkage and swelling of the bedrock. Clay minerals swell and shrink on the basis of water content. Presumably, the clay minerals in the bedrock of the Ptahshepses burial chamber facilitated the buckling of the casing blocks and their fall.

Conservation and Restoration of an Offering Table from the Excavation of the French Archaeological Mission in Saqqara (Autumn 2014)

Ashraf Youssef EWAIS, Rémi LEGROS

45-54ページ

Saqqara is one of the most important heritage sites in Egypt and the world. Many foreign missions have been operating there for a long time. The French mission is one of the oldest missions working in Saqqara. In 2014, under the supervision of Prof. Philippe Collombert, the mission pursued the excavation of the Shawaf site, which is to the north and east of Queen Behenu's pyramid. At the entrance of the complex, they found some

stone blocks and several offering tables. One of the offering tables may possibly be dated back to the Herakleopolitan Period. It was very fragile and needed to be cleaned. For security reasons, the offering table was transported to the storeroom, where conservation and restoration works were completed.

A Review of the Seismicity and Impact of Earthquakes on Life in Egypt

Hesham MOHAMED

55-72ページ

This review assesses seismicity in Egypt and the risks posed by earthquakes to the economy and to human life. Historical seismicity and tectonic data enable assessment of earthquake recurrence and severity. Hazard assessment of this sort is very important for Egypt due to the great expansion in construction and particularly the rapid increase of illegal construction, following the political unrest of 2011. Unregulated construction poses a great threat to citizens. In Egypt, even moderate earthquakes can cause economic disaster and serious loss of life, as in 1992. Egypt has a recorded earthquake history dating back to 2200 B.C. Seismic events have been documented near Alexandria in 1870 and 1955, near Fayum in 1303 and 1847, and in the Nile Valley and near Cairo in 2200 B.C. and 1111. The seismotectonic setting of Egypt suggests relatively high activity along the Gulf of Aqaba-Dead Sea transform, the Northern Red Sea and Gulf of Suez, Dahshour, near heavily populated Cairo, and in Aswan. Based on data from the National Research Institute of Astronomy and Geophysics (NRIAG), the International Seismological Centre Bulletin, published papers, and catalogs, I have constructed a list of historical and recent earthquakes in Egypt.

文化財汚染にみられる好乾性および耐乾性カビ胞子に対する ガンマ線照射の発育抑制効果の解析

原田真美・坂元仁・古田雅一・高鳥浩介・土戸哲明

Analysis of the Suppressive Effects of γ -Ray Irradiation on the Growth of Xerophilic and Xerotolerant Fungal Spores Contaminating Cultural Properties

Mami HARADA, Jin SAKAMOTO,

Masakazu FURUTA, Kosuke TAKATORI, Tetsuaki TSUCHIDO

73-82ページ

Cultural properties including mural paintings, ancient papers and documents, and historical stones are often contaminated with various fungi. To protect such valuable properties from fungal growth, we investigated the effects of gamma ray irradiation on the spores of *Aspergillus restrictus* as a xerophilic fungus and *Aspergillus brasiliensis* as axerotolerant fungus. Paper disks containing approximately 100 fungal spores were irradiated with gamma ray at doses between 0.2 and 2.5 kGy and then placed on agar plates. During the cultivation of those plates at 25°C for seven days, the diameters of the colonies on each paper disk were measured to calculate colony areas as the parameter A (mm²). The increase in A was apparently proportional to the cultivation day after an apparent lag period. Notably, the antifungal effect of gamma irradiation did not represent the delay of the initiation of growth, but the suppression of the growth rate after growth initiation. By comparing the rates of increase of the colony areas for unirradiated and irradiated spore samples, the percentage of growth inhibition was estimated to compare the radiation sensitivity of the two fungi. Consequently, *A. restrictus* was found to be more sensitive to gamma irradiation than *A. brasiliensis*. On the basis of these results, the growth kinetics of radiation-injured fungal spores as a fundamental aspect and the possibility of utilization of irradiation for the decontamination of cultural properties as an application aspect were discussed.

器物におけるカビの発育に関する研究

高橋淳子・村松芳多子・太田利子・土戸哲明・高鳥浩介

The Effects of Relative Humidity on the Fungal Growth in Three Types of Materials

Atsuko TAKAHASHI, Kanako MURAMATSU,

Toshiko OTA, Tetsuaki TSUCHIDO, Kosuke TAKATORI

83-98ページ

This study aims to reveal fungal growth patterns in three materials under various relative humidity (RH) conditions. The materials are cardboard, plasterboard and lumber. Fungal growth was observed continuously for two months. Fungal growth was generally restricted on all three materials when the RH was

less than 80%, and very little fungi grew exceptionally when the RH was under 73%. However, spore production was observed without *Fusarium* sp. on all materials. When the spore amounts were compared, there were significant amounts of *Cladosporium* sp., *Penicillium* sp., *Aspergillus versicolor*, and *Chaetomium* sp.

The fungal growth activity was reduced when the RH was less than 90% and restricted completely when it was less than 80%. Therefore, it is beneficial to maintain RH in indoor environments at less than 80% to control the development of fungi in these materials. Particular attention should be paid to *Cladosporium* sp. and *Aspergillus* sp., which are very prolific at spore production.

Study of Cellulosic Fiber Degradation by Four Common Fungi:

Chromatic Alterations and SEM Examination

Maisa M. MANSOUR, Mohamed Z. M. SALEM, Ahmed S. A. SHOEIB

99-110ページ

In the present study, papers manufactured from cotton cellulose were used. White paper (without inks), paper with cinnabar ink (red ink and HgS), and paper with iron gall ink (black) were used to facilitate colonization by *Trichoderma viride*, *Penicillium roqueforti*, *Eurotium chevalieri*, and *Aspergillus flavus*. The identification of cellulose, and the inks used and binder material (Arabic gum) was achieved using FTIR spectra. Degradation of cellulosic fiber was performed by measuring the hyphal growth of the studied fungi using an environmental scanning electron microscope (ESEM). Color changes in the inoculated papers with each of the four fungi tested was determined by assessing the surface of the studied cellulosic fibers treated with tea tree oil (0.25%) and thyme oil (0.5%). The color change values (ΔE) refer to fungal growth. The least fungal growth (*A. flavus*) was found on the white and red papers treated with tea tree oil, with a ΔE value of 1.95, whereas the highest fungal growth (ΔE 39.17) was exhibited by *T. viride* on red paper treated with thyme oil. The greater value of ΔE between the control and inoculated samples of the same species in the same type of paper presented the highest fungal growth on the paper. From both the ESEM examination and the chromatic alteration of the inoculated papers with four fungi, *T. viride* was observed to be the most destructive fungus for the tested papers, whereas *A. flavus* was the least destructive.

Utilization of TiO₂ Nanoparticles to Protect Limestone Artifacts against Microorganisms Attack

Maisa M. MANSOUR, Adel I. M. AKARISH, Hiroshi SUITA, Ahmed S. A. SHOEIB

111-122ページ

Limestone artifacts are susceptible to attack by bacteria and fungi. This study aims to explore the utilization of titanium dioxide (TiO₂) nanoparticles for protecting limestone artifacts against fungal attack. Isolate microorganisms, primarily fungi, were identified by scanning electron microscope (SEM) and light microscope (LM). Six different fungal species were detected, *Fusarium solani*, *Stemphylium* sp., *Aspergillus niger*, *A. flavus*, *A. versicolor* and *Curvularia geniculata* along with *Actinomyces* spp. All of these microorganisms caused deterioration of the elemental contents of the used stone. Both *Actinomyces* spp. and the fungi were able to consume calcium carbonate as a carbon source, reducing the content of all the detected elements, including (e.g. silica, alumina and magnesia etc.) compared to the control sample. Coating of the surface of limestone slabs with a consolidated mixture formed of 2% TiO₂ nanoparticles dissolved in B-72 at a concentration of 5% and its effects on *A. niger* colonization were assessed. Coating of the slab surfaces with TiO₂ nanoparticles resulted in good consolidation, with these nanoparticles displaying excellent antifungal activity; suggesting that coating of limestone artifacts with TiO₂ nanoparticles can protect them against fungal activity.

タッピング型走査プローブエレクトロスプレーイオン化法による

高分子フィルム中の添加物の質量分析イメージング

嶋津亮・川崎英也・荒川隆一

Mass Spectrometry Imaging of Additives on Polymer Surfaces

Using Tapping-Mode Scanning Probe Electrospray Ionization

Ryo SHIMAZU, Hideya KAWASAKI, Ryuichi ARAKAWA

123-128ページ

We report the application of tapping-mode scanning probe electrospray ionization (t-SPESI) to mass spectrometry imaging of industrial materials. The t-SPESI parameters were optimized using a quadrupole mass spectrometer to improve mass spectrometry (MS) imaging of thin-layer chromatography (TLC) and additives in polymer films. This enabled us to obtain discriminable MS imaging profiles of three dyes separated by TLC and the additive stripe pattern of a PMMA model film depleted by UV irradiation.

高分子／無機ハイブリッド接着剤による遺跡の脆弱な壁の補強の検討

中村吉伸・嘉流望・野田昌代・豊川翔・藤井秀司

Reinforcement of a Brittle Wall of Remains Using Polymer/Inorganic Hybrid Adhesives

Yoshinobu NAKAMURA, Nozomi KARYU,

Masayo NODA, Syo TOYOKAWA, Syuji FUJII

129-136ページ

The polymer/inorganic hybrid adhesive was explored as a means to reinforce the brittle base rock layer at the back of the mural paintings of the Idout Tomb in Saqqara, Egypt. The adhesive consists of a mixture of one liquid-type, room temperature, and humidity curable epoxy resin (ketimine hardener) and OH100 (tetra ethyl silicate). The content of the OH100 is in the range of 70-80 wt%. Both good permeability and solidification were obtained for the test using Toyoura standard sand. The ¹H pulse nuclear magnetic resonance analysis showed that phase separation occurs in the cured adhesive. From the scanning electron microscopic (SEM) observation for the ethanol added adhesive, the porous structure was observed. The SEM observation for the solidified Toyoura standard sand solidified when the ethanol was added and the adhesive showed spot bonding of the sand particles. These results indicate a possibility that gas permeability is attainable. This adhesive was actually tested on the wall of the Idout Tomb in August 2015. Good permeability and solidification were confirmed.

ハギア・ソフィア大聖堂のペンデンティブに残るモザイクおよび壁画に関する調査

佐々木淑美・小椋大輔・安福勝・水谷悦子・石崎武志

Research on Mosaic and Wall Paintings

on Pendentives in Hagia Sophia, Istanbul, Turkey

Juni SASAKI, Daisuke OGURA, Masaru ABUKU,

Etsuko MIZUTANI, Takeshi ISHIZAKI

137-148ページ

Hagia Sophia is one of the world's most famous cultural heritage sites because of its unique structural system, where there is evidence of coexisting of religions and various mosaics that were executed from the sixth to the fourteenth centuries. This historical building has many conservation problems, especially in the western part of the building. The inner wall is suffering from salt flaking of mortar and crystallization, and the outer wall has been weakened. In this study, we consider the deterioration of the wall painting at the Northwest pendentive and the date of mosaics at the Northeast pendentive.

First, the types of crystallized salts at the Northwest pendentive were identified as sodium nitrate, sodium sulfate, and gypsum. At the bottom of the pendentive, the major type of salt is sodium sulfate. Salt crystallization and flaking are in progress. The crack behind the pendentive construction is thought to be the cause of deterioration in the wall painting.

Moreover, we have tried to identify correlations of materials and dates of the mosaics in the Northeast pendentive. Differences among the production materials and techniques in the pendentive can be determined by visual observation and measurement of tesserae color. The pendentive mosaics may have been executed in different periods, as the western part was executed in a period earlier than the fourteenth century when the eastern section of the dome collapsed. The eastern section was executed in the fourteenth century as part of the dome and pendentive reconstruction.

古代エジプトにおける「シンデレラ物語」の世界伝播(2)—アジア伝播を中心に—

浜本隆志

Global Dissemination of Cinderella from Ancient Egypt 2: Mainly in Asia

Takashi HAMAMOTO

149-188ページ

In the previous article, “Global Dissemination of Cinderella from Ancient Egypt 2,” I compared common motifs and plots in the Egyptian tale of “Rhodopis” and the European story of “Cinderella,” as told by Basile, Perrault and Grimm. As a result, I believe I was largely able to demonstrate that the European route of the “Cinderella” story started from roots in Egypt, passed through ancient Greece, Italy and France, and then spread to Germany.

Extending upon that discussion, in this essay I will reveal the route taken by the “Cinderella” story through Asia. Specifically, I will pursue the “Cinderella” story through the Middle East, Tibet, China, Myanmar, the Korean peninsula and Japan. Here we shall see that, in these countries too, the “Cinderella” stories reveal a surprising degree of similarity to one another. Indeed, far removed from Egypt, in both Europe and Asia, we observe a common plot development whereby adverse circumstances are escaped through marriage and a happy ending ultimately ensues.

This being the case, we must solve the mystery of how these similar versions of the “Cinderella” story spread over the wide area of Europe and Asia. As a premise, I think it is likely that the “Cinderella” story was not born independently in each of these countries and regions, but that there was an “original story” common to all of them. We may infer that many different versions of the “Cinderella” story were generated from this original story.

I will address this problem in the latter half of this paper. There, it will be necessary to trace the migration of Homo sapiens from the prehistoric period through the ancient period. In short, today it is commonly accepted that Homo sapiens, from whom today’s human race takes its roots, emerged from Africa over 200,000 years ago and migrated from there throughout the world, thus leading us to the hypothesis that these Homo sapiens brought the “original story” of “Cinderella” with them out of Africa and spread it throughout the world.

We may infer analogically that this process created the many different versions of the “Cinderella” story that exist throughout the world. What, however, is the connection between the migrations and motivations of Homo sapiens and the “Cinderella” story? There are, of course, various reasons for their migration, but in this article I will consider this question from the point of view of the “Cinderella” story’s narrative structure.

I will therefore examine here the different versions of the “Cinderella” story we find along its Asian route, and analyze their common motif of overcoming adversity to attain marriage. From there I shall deduce an “original story” to the “Cinderella” story and infer that the motive for migration was an exogamous marriage system in which incest is shunned. I will demonstrate below that this was an important factor in the spread of the “Cinderella” story throughout the world.

エジプト古代遺産収集と文明史的 위치づけ
—ベルナルディーノ・ドロヴェッティと文化遺産(2)—
柏木治

Collecting Ancient Egyptian Heritage and the History of Civilizations:
Bernardino Drovetti and Cultural Heritage (2)
Osamu KASHIWAGI
189-202ページ

In my previous paper, I focused on how the concept of cultural heritage took root during the revolutionary period, discussing how the revolution’s ideology gave birth to discourses on the topic. In this paper, I will consider the background to the removal of ancient Egyptian cultural heritage from the country, which became pronounced at the beginning of the nineteenth century.

Consul General Bernardino Drovetti acted as a French representative in Egypt and had absolute authority regarding the collection of ancient artifacts. First, I will review the actual circumstances that led him to become involved in such activities. Then, I will provide an overview of the cultural background that led France and other European powers to begin collecting Egyptian antiques, focusing on the change in Egypt’s position in European civilizational theory as well as the Egyptomania that overflowed from the revolutionary period to the Napoleonic era.

州立エジプト美術博物館(ミュンヘン)のリニューアル
—ヴィッテルスバッハ家のエジプトコレクション—
森貴史

The Renovation of the State Museum of Egyptian Art in Munich:
The Egypt Collection of the House of Wittelsbach
Takashi MORI
203-222ページ

The State Museum of Egyptian Art (Staatliches Museum Ägyptischer Kunst) in Munich, which reopened in June 2013 after undergoing renovation, does not have its own building; it is built underground of the University of Television and Film Munich (Hochschule für Fernsehen und Film München).

The history of the museum and the origins of its collection items can be traced back to the Kunstkammer of Duke Albert V of Bavaria (Herzog Albrecht V. von Bayern). Later, through the collections of Charles Theodore, Elector of Bavaria and Palatinate (Kurfürst Karl Theodor) during the latter half of eighteenth century and Ludwig I of Bavaria (Ludwig I., König von Bayern), the Munich collection of ancient Egyptian art rapidly increased. In addition, the museum received donations by individual supporters such as Baron Friedrich Wilhelm von Bissing (Freiherr Friedrich Wilhelm von Bissing), and today operates through subsidies from the Friends of the Egyptian Collection in Munich (Freundkreis der Ägyptischen Sammlung München e.V.).

Duke Maximilian Joseph of Bavaria (Herzog Maximilian Joseph in Bayern) is one of the members of the House of Wittelsbach who contributed to the growth of Munich's Orient Collection. He was called Duke Max (Herzog Max) and is the father of Empress Elisabeth of Austria (known by the affectionate nickname of Sissi), upon whom the heroine of a historical musical would later be based. With only a few attendants, Duke Max made a trip to the Orient in 1838 during which he visited Alexandria, Cairo and Jerusalem, made the acquaintance of Muhammad Ali, and collected many Egyptian excavated artifacts. Today, over half of this collection is kept and publically displayed at the Banz Abbey (Kloster Banz).

Among the characteristics of the Munich Egyptian museum are its hands-on exhibits emphasizing experience. For example, this exhibition approach makes a distinct contrast with that of the Neues Museum in Berlin, a fixture of urban tourism where tourists flock and draw long lines in front of the admissions ticket counter, whose Egyptian Museum boasts exhibits that display a large number of collection items in enormous exhibit spaces.

古代ギリシアにおける異文化理解の諸相(2)—ヘロドトスとスキュティア—
中澤務

Aspects of Cross-cultural Understanding in Ancient Greek 2: Herodotus and Scythia
Tsutomu NAKAZAWA
223-236ページ

In this paper, I investigated the characteristics of cross-cultural knowledge of ancient Greeks, who understood non-Greek cultures through the concept of “otherness.” Herodotus was a thinker who represented other cultures to Greek audiences through many techniques dubbed “the rhetoric of otherness.” The most typical and important example is his description of the Scythians. For this study, the following five typical topics concerning Scythia, which were presented by Herodotus in the fourth book of his Histories, were analyzed with regard to his rhetorical techniques for representing the otherness of non-Greek cultures. (1) Descriptions of the king of the Scythians as the center of nomads. (2) The otherness of Scythian religion. (3) Explanations by Greeks concerning Salmoxis (the god of Getae). (4) Stories of Scythian intellectuals who crossed the border between Greece and other countries. (5) Descriptions of the Scythian expedition by King Darius.

2015 東アジア文化遺産保存国際シンポジウム in 奈良
西浦忠輝

2015 International Symposium on Conservation of East Asian Cultural Heritage
in Nara
Takashi HAMAMOTO
237-277ページ

“2015 International Symposium on Conservation of East Asian Cultural Heritage in Nara” was held on 26 to 29 August, 2015 very successfully. 289 specialist (145 from Japan, 69 from China, 73 from Korea, one from Mongolia and one from USA) were participated in the Scientific Meeting, and 311 audiences were attended to the Open Lecture.

The Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture (CHC) is one of the cosponsors of the symposium. Fifteen members of CHC contributed to the scientific meeting and the open lecture. Next symposium will be held in Shanghai, China in 2017, and most probably in Japan in 2021 after the one in Korea in 2019.

臨遺跡集落・サッカラ村の生活と空間構造（その5）
—サッカラ村居住者の遺跡や村への認識の実態—[アラビア語版]
岡絵理子

Life and Spatial Structure in Saqqara Village, a Settlement Adjacent to an
Archeological Site (Vol. 5):

How the Residents of Saqqara Perceive Ruins and their Village [Arabic version]

Eriko OKA

1-10ページ(278-287ページ)

関西大学国際文化財・文化研究センター紀要

『The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture』第4号



302 ページ

2017年3月1日発行

バーレーン王国、バルバル神殿における文化財保全の研究プロジェクト

吹田 浩

Research Project on Preservation of Cultural Heritage in Barbar Temple, Kingdom of Bahrain

Hiroshi SUITA

1-12ページ

The Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture, Kansai University, Japan, started the research for the preservation of Barbar Temple, Kingdom of Bahrain in 2015. The Barbar Temple is supposed to date back to about 2,100 BC. The site was found by P. V. Glob in 1954 and excavated by Danish mission between 1954 and 1961. The temple revealed three phases during the excavation.

In 1983, the Bahrain Directorate Archaeology and Heritage re-excavated the Barbar Temple for tourism. The present situation shall be documented first and the deteriorated places shall be identified by the Kansai University Mission, which consists of Japanese, Egyptian and Polish specialists and also of specialist of conservation science, geo-science, microbiology, architectural engineering, construction material science, computer science, polymer chemistry, town planning, and Egyptology.

The Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture, Kansai University is financially supported by Kansai University and Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology of the Japanese Government from 2013 until March of 2018 (fiscal year 2017) as “Strategic Project to Support the Formation for Research Bases at Private Universities.”

臨遺跡集落・サッカラ村の生活と空間構造（その6）—1932年地図との比較による村の変容—

岡 絵理子・中村 穂希・村上 真央

Life and Spatial Structure in Saqqara Village, a Settlement Adjacent to an Archeological Site (Vol. 6): The Transformation of the Village by Comparison with the Map of 1932

Eriko OKA, Hoki NAKAMURA, Mao MURAKAMI

13-28ページ

In this study, we investigated the map of Saqqara village, published in 1932 (and revised in 1966), in comparison with the current situation. We particularly focused on the saints' mausoleums (=Maqam, which is the place of residents' religious life and also social interaction).

According to the map in 1932, we confirmed that a landlord possessed almost all the land of the village. Public roads, graveyards, and fields of date, which did not belong to the landlord, were clearly indicated in the map. The current location of public roads was consistent with the map of 1932. Graveyards are located at the

same spot but have expanded in their area. The well or the drink fountains and saints' mausoleums were described in the map. Among the 13 mausoleums found in the map of 1932, we confirmed that 11 are present in various conditions. Two of them were currently used during festivals, one was found destroyed, three were used as stores and warehouses, and the rest of the mausoleums were abandoned.

Saints' mausoleums in a public square, which have been a symbol of the local traditional activities such as festival, and a part of typical landscape of the community, are now disappearing.

エジプト国イドウト及びバーレーン国バルバル神殿における岩盤等の補強対策と品質評価
鶴田 浩章・中村 吉伸・伊藤 淳志・肥後 時尚・吹田 浩

The Strengthening Counter-measure and Quality Estimation of Rock and Stone Work Block in Idout, Egypt and in Barbar Temple, Bahrain

Hiroaki TSURUTA, Yoshinobu NAKAMURA, Atsushi ITO, Tokihisa HIGO, Hiroshi SUITA

29-38ページ

As part of the conservation and restoration work of the Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture (CHC), this study explores the quality estimation of rock and stonework block at Idout in Saqqara and at Barbar Temple in Bahrain.

The Mastaba Idout was built in around B.C. 2360 at Saqqara in Egypt. The underground burial chamber of Mastaba Idout has weak bedrock, authors are researching the condition and quality of bedrock and considering about strengthen method of bedrock there. The Barbar Temple was built in around B.C. 2000 at Barbar village in Bahrain. That has many stonework blocks, authors are researching the condition and quality of stonework block there. This paper reports the results of quality test and repair for bedrock in Egypt and the results of quality test for stonework blocks in Bahrain. The quality test is measuring frequency of accelerating wave generated by hitting the rock surface with impact hammer. The repair methods are strengthening by coating strengthen agent for soil and stone and injecting non-shrink cement slurry to the crack.

It was found out from these researches that the weak bedrock had very low quality, the strengthen methods were effective for bedrock in Egypt and the quality of stonework blocks at the Barbar Temple in Bahrain was not bad.

写真測量にもとづく文化財の経時的変化の可視化手法—Barbar Temple における変容検証への試み—

安室 喜弘・頼光 拓真・藤里 和樹・肥後 時尚・吹田 浩

Photometric-based Recording of Temporal Changes in Cultural Heritage Conditions: Initial Trial at the Barbar Temples Ruins

Yoshihiro YASUMURO, Takuma YORIMITSU, Kazuki FUJISATO, Tokihisa HIGO, Hiroshi SUITA

39-48ページ

As part of the conservation and restoration work undertaken by the Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture (CHC), the authors have developed systematic solutions to introduce information and communications technology (ICT) for on-site work. This paper explores a technique for visualizing the changes over time of the cultural heritages. In many cases, modern survey records conducted by different teams in different ages have a history at the same cultural heritage site. These survey and/or conservation records are published to be shared in public; however, it is not easy to compare the recorded information and the current conditions. In the same manner, the number of transitions in the history of survey results cannot be precisely united and compared to manage the cultural property over the generations. Survey drawings are typical quantitative data, whereas qualitative information relies on hand-written line drawings and photos obtained from numerous studies conducted on cultural property and archeological surveys. Even though 3-dimensional surveys for recording the details of the shapes of the sites and relics by photometric surveys and/or laser-scanning techniques have become available recently, decades-old past records of monochrome photos are hardly utilized for quantitative or qualitative examination of identical historical objects. This paper addresses the abovementioned problem by proposing a method to utilize a photometric technique to integrate newly taken current photos and the old photos from past surveys in identical 3-dimensional space. We demonstrate photo-realistic computer graphics (CG) rendering of the current situation overlaid onto old photos that were

taken 60 years ago from the actual archeological site of the Barbar temple in Bahrain.

石材強化用アルコキシシランの構造分析

中村 吉伸・鶴田 浩章・堤 亮太・瀧田 健太・高倉 和希・野田 昌代・藤井 秀司

Structural Analysis of Alkoxysilanes for Consolidation of Stone

Yoshinobu NAKAMURA, Hiroaki TSURUTA, Ryota TSUTSUMI, Kenta TAKITA,

Kazuki TAKAKURA, Masayo NODA, Syuji FUJII

49-60ページ

Thermogravimetric (TG) analysis of some alkoxysilanes for consolidation of stone (OH100, OM25, OM50, and TOT) was performed. The result was a mixture of polycondensed and monomer-like silane molecules. It seemed that the amount of polycondensed silane was the largest for OM50 followed by that for OM25 and was the lowest for OH100 and TOT. The undecomposed residue at 600 °C for all solidified alkoxysilanes was more than 80 wt%. They exhibited superior heat resistance. For establishing the reactivity of alkoxysilanes and the wall of remain, the reactivity of the silane coupling agent, containing a methacryloxy group, onto the silica particle surface was investigated via TG analysis. The thermal decomposition temperatures of the monomer-like, polycondensed silane molecules physisorbed on the surface differed from those of the molecules chemisorbed on the surface. Consequently, a quantitative analysis was found to be possible. Moreover, the observations revealed that the reactivity of silane was higher for methoxy groups than for ethoxy groups and for two alkoxy groups in the silane molecule than for three alkoxy groups.

真菌とバイオフィルム –文化財器物のバイオフィルム–

高橋 淳子・太田 利子・久米田 裕子・高鳥 美奈子・土戸 哲明・高鳥 浩介

Fungi and Biofilm: Cultural Properties of Fungal Biomatrix

Atsuko TAKAHASHI, Toshiko OTA, Yuko KUMEDA, Minako TAKATORI, Tetsuaki TSUCHIDO, Kosuke TAKATORI

61-74ページ

The study of biofilms and biomatrices has mainly focused on bacteria. However, fungi, including molds, are very different from bacteria with respect to growth pattern, morphology, physical structure, and biological characteristics. Therefore, fungal biofilm and biomatrix have never been included in biomatrix studies.

In this study, the biological problems of fungal biodeterioration and biodegradation based on the cultural properties were investigated. From fungal damage of cultural materials, macro- and micro-findings were investigated, observed, and evaluated regarding the fungal biofilm formation. The roles of growth phenomena and environmental factors on biofilm formation in fungi were examined. Based on these results, fungal biofilm and biomatrix were observed to be dependent on hydrophilic and hyphal fungi.

文化財試料の表面化学分析に向けた表面増強ラマン分光と質量分析との連携分析

栗田 匡拓・川崎 英也・荒川 隆一

Combination of Surface-Enhanced Raman Scattering Spectroscopy (SERS) / Surface-Assisted Laser Desorption/Ionization (SALDI) Mass Spectrometry toward Surface Chemical Analysis of Cultural Heritage

Masahiro KURITA, Hideya KAWASAKI, Ryuichi ARAKAWA

75-84ページ

We presented a fabrication of silver nanoparticle (Ag NP) functionalized glass fibers (Ag-GFs) substrate combined surface-enhanced Raman scattering spectroscopy (SERS)/surface-assisted laser desorption/ionization (SALDI) mass spectrometry. Ag NPs were immobilized onto the surface of glass fibers (GFs) through a simple sputter deposition process. The SERS and SALDI activities strongly depended on the nanostructures of deposited Ag NPs on the GFs. The closely packed Ag NPs with a size of 20–50 nm each and the inter-particle nanoscale gap of less than 10 nm were effective for simultaneously enhanced SERS/SALDI substrate via the

plasmonic /thermal “hot spots,” while the interconnected continuous Ag film reduced both SERS/SALDI activity. SERS enhanced factor (EFSERS) and SALDI enhanced factor (EFSALDI) were newly proposed. Finally, the concentration-dependent signal intensities of SERS and SALDI-MS of sulfur compounds using identical Ag NP-GF substrate was examined, and the linear dependence relationship in the log-log plot was demonstrated for the combined quantitative SERS/SALDI-MS analysis.

液体培地と固体培地表面におけるカビ胞子の発育に対する電離放射線の抑制効果の評価

原田 真美・坂元 仁・古田 雅一・高鳥 浩介・土戸 哲明

Evaluation of the Suppressive Effects of Ionizing Irradiation on the Fungal Growth from Spores in Liquid and on Solid Agar Media

Mami HARADA, Jin SAKAMOTO, Masakazu FURUTA, Kosuke TAKATORI, Tetsuaki TSUCHIDO

85-100ページ

As model systems for the protection of cultural properties from fungal contamination, the suppressive effects of gamma-ray irradiation at low doses on the viability of and the development from *Aspergillus niger* conidiospores were investigated using liquid and solid agar media. In the liquid system, after irradiation at relatively low doses (0.2 kGy and 0.4 kGy) and the subsequent cultivation at 25°C in potato dextrose broth (PDB), the rate of development of *A. niger* from spores, as measured by the increase in optical density at 600 nm (OD600) of the culture, decreased in a dose dependent manner, but the initiation of active growth was not delayed. Irradiation at relatively high doses (above 0.6 kGy and 0.8 kGy) not only suppressed the growth rate but also substantially delayed the start of active growth. In the solid system, spores developed and formed a colony around a paper disk placed on a plate of potato dextrose agar (PDA). In this analysis, the area rather than the radius of the colony correlated with the cultivation time. Based on this finding, the suppressive effect of irradiation on growth was evaluated. The viability measured using the colony-count method on PDA was clearly lower than the integrated viability measured using the growth delay analysis method in PDB. Microscopic observation demonstrated that irradiated spores were unable to form a colony and swelled at a lower rate than that of unirradiated spores. These results suggest the possible beneficial use of ionizing irradiation for the protection of cultural properties from fungal contamination and deterioration.

Wall Paintings in Poland and Their Conservation Problems

ラファオ・クーン

Rafał R. KUHN

101-106ページ

Most wall paintings in Poland are located in churches and monasteries. They were created as architectural decorations, friezes, and - to a greater extent - as religious scenes, cycles of paintings, and altars. These categories apply to churches built of either brick or wood, dating from the Middle Ages to the nineteenth century. The remaining group of murals is located in palaces, private houses, and public buildings. The main reason for the devastation of these mural paintings in Poland, apart from damages caused by human activity, is the high level of dampness, which is a result of specific conditions of the Polish climate. This review summarizes the sources of dampness in buildings that has the destructive effects of salt and explains an action mechanism of the most efficient methods that can be used to drain historical buildings.

エジプト神話と史実における近親相姦の問題(1)－神話編－

浜本 隆志

The Issue of Incest in Egyptian Myth and Historical Fact (1) :Mythology

Takashi HAMAMOTO

107-120ページ

It is common for the process of earth's creation to be described as heaven and earth separating out of a disordered state of chaos, not only in Egyptian myth, but also in the Book of Genesis, Indo-European origin myths, and even Japanese myths. In Egyptian myth, it is at that point that the god Atum appears, who himself gives birth to various gods. In mythology, when a god is considered to have both the masculine principle and female principle together, then although there is one body, it means that they possess both sexes, male and female.

At first, it seems like a strangely peculiar idea that out of chaos came forth gods possessing both sexes, and that these differentiated into female gods and male. But one can think of it as a condensed version of the endless evolutionary process of living things, where out of self-pollination in plants to self-fertilization in animals, the sexes are differentiated into male and female. In other words, the original form possessed both sexes and that differentiated as male and female. As a result, whether the anthropoid ape, ancient humans, or homosapiens, the male and female sexes were established in their position in human history.

However, another strange phenomenon in many myths is incestual marriage. Consanguineous marriages between the gods are spoken of repeatedly in mythology. For example, in Egyptian myth, the famous Isis and Osiris are married as brother and sister, and in Greek myth, there is the mother and child marriage of Uranus the sky god and Mother Earth Gaia and the sibling marriage of Cronus and Rhea. There are also the sibling marriages of Freyr and Freya of Norse mythology, and Izanagi and Izanami of Japanese mythology. In ancient Japan there was the practice of calling one's wife "little sister", which can be said to be a vestige of sibling marriage.

It is not only consanguineous marriages. In the Old Testament, in order to have children, Lot's two unmarried daughters made their father drink wine and had sex with him, each later giving birth to a child. Even though this kind of incest was, typically, considered taboo in everyday society, it is repeatedly played out in myth. And while consanguineous marriage and incest are similar concepts, strictly speaking the former means marriage that is part of a social system, while the latter is not marriage, but rather indicates the formation of a sexual relationship between close relatives whether by consent or by compulsion.

For earlier research on this issue there is Mr. Atsuhiko Yoshida's "Myth and Incest". In it, Yoshida widely references consanguineous marriage and incest as related to the gods, but in particular he offers up a famous consanguineous marriage in Greek mythology as an example, namely, King Oedipus and his mother Jocasta who marry unaware of their mutual blood. But when the truth becomes known, the mother commits suicide and Oedipus pokes out his own eyes and becomes blind. Yoshida proposes that incest is inevitable behavior in the process that produces the destabilized state of chaos which disrupts order, whether at the origins and whether or not it's taboo. And after a new order is established, it is depicted as something condemned, even in myth.

To reiterate, these kinds of sibling marriages, marriages between mother and child and father and child, are played out in many mythologies almost universally, starting with the genealogy of the Greek gods and the Old Testament. Certainly, in the field of cultural anthropology, it is believed that the incest taboo widely, empirically existed from the prehistoric age. Moreover, because the taboo against incest exists even in the world of anthropoid apes and animals, we think that likely in homosapiens too, in many cases, this has been strictly kept as an unwritten rule since ancient times. Even so, for some reason, whether in myth or in historical fact, the occurrence of incest was limited to the gods and specific tribes called the nobility.

Even with the establishment of a new order, there is a close relationship specifically to paternal or patriarchal rule and the issue of divine succession. And together, consanguineous marriage and incest must be closely connected to monogamous and polygamous systems of marriage and to gender issues. In this paper, I would like to dig in and investigate these issues a little deeper using ancient Egypt as a case study. What I will deal with specifically is how consanguineous marriage is put forward within Egyptian myth, and the question of how that influenced the succession of divine progeny. Only I will also look at Greek myth as a case study and try comparing the two mythologies.

Moreover, we know that consanguineous marriages were common in dynasties just like we see in the history of ancient Egypt. For example, the great pharaoh Ramses II (reigned 1304-1237 BC) married three of his daughters. How these kinds of historical facts and the world of myth are related is a subject that should be given focus. In this paper (1), I will mainly discuss as a case study consanguineous marriages in Egyptian myth, and I will leave historical realities as the subject of the next paper.

ヒルデスハイムのレーマー・ペリツェウス博物館—ふたりの市民が創設した博物館—

森 貴史

Roemer- und Pelizaeus-Museum Hildesheim: A Museum Founded by Two Citizens

Takashi MORI

121-142 ページ

Roemer- und Pelizaeus-Museum Hildesheim is located in the southern part of Lower Saxony, a place made famous by the legend of a beautiful rose tree from the Middle Ages. It houses a prominent selection of ancient

Egyptian and South American (Chavín etc.) art, as well as a Chinese porcelain collection. What sets this museum apart from others is the fact that it was first established under the initiative of two Hildesheim residents, Hermann Roemer (1816-1894) and Wilhelm Pelizaeus (1851-1930). It was the tireless effort of Roemer, a local dignitary, and Pelizaeus, an entrepreneur who built his fortune in Alexandria, Egypt, that pathed the foundation from which the museum continued to flourish for decades to come. In 2016, it held a particularly meaningful special exhibition called Mumien der Welt ("Mummies of the World") which raised new issues for comparative cultural history in folkloristics and anthropology in terms of the exploration of life and death perspectives of different ethnic groups through a display of mummies from around the world. As Roemer and Pelizaeus are both now presumed to be members of the so-called "Bildungsbürgertum" ("cultured citizen") during the Wilhelm period, the motivation behind creating this museum can be seen as the "Bildung" ("nurturing") of citizens.

古代ギリシアにおける異文化理解の諸相(3)ーヘロドトスとエジプトー
中澤 務

Aspects of Cross-cultural Understanding in Ancient Greek 3: Herodotus and Egypt
Tsutomu NAKAZAWA
143-158ページ

This study investigates the characteristics of the descriptions of Egypt by the ancient Greek historian, Herodotus, in Book 2 of his History. Ancient Greeks understood non-Greek cultures through the concept of "otherness." Herodotus also characterized other cultures to his readers through many techniques dubbed "the rhetoric of otherness." The most typical and important examples are his descriptions of the Scythians in Book 4 and Egyptians in Book 2. In Book 2, Herodotus describes the geography of Egypt, the habits of the Egyptians, and the history of the Egyptian dynasty. I point out two typical characteristics of his descriptions of Egypt in comparison with those of Scythia. First, his investigation of Egypt is motivated by his geographical interest that he inherited from the intellectual tradition of Ionic culture. Second, the reason behind his investigation of Egyptian culture is to understand the identity of Greek culture.

タイ国・世界遺産アユタヤ遺跡の保存と活用ー国際シンポジウム報告ー
西浦 忠輝

Conservation of Ayutthaya Historical Site, Thailand: Report on the International
Symposium
Tadateru NISHIURA
159-176ページ

The International Symposium on "The Conservation of Brick Monuments at World Heritage Sites" was held in Ayutthaya, Thailand, organized by UNESCO and the Government of Thailand in collaboration with the International Council of Monuments and Sites (ICOMOS), the International Centre for the Study of the Preservation and Restoration of Cultural Property (ICCROM) etc., from October 19, 2016 to October 21, 2016. The planning of this symposium was triggered by the substantial damage to the Ayutthaya Historical Site by the huge floods in 2011. Therefore, the main theme of the symposium was the conservation of Ayutthaya Historical Site.

In 2014, the author carried out an investigation on the surroundings of this site after the floods in 2011, as a specialist of ICOMOS. He recommended the organizing of an international symposium in the report⁴ submitted to UNESCO. Hence, he participated in the symposium as an invited lecturer and a panelist in the panel discussion.

The main subjects of the symposium are discussed here.

日本国内のエジプト・コレクション
藤井 信之

The Egyptian Collections in Japan
Nobuyuki FUJII
177-188ページ

In this paper, I will report primarily on the following two points regarding the Egyptian collections in Japan. First, I will introduce several museums that possess the Egyptian collection and a part of their collections, and

then I would like to talk about issues going forward for the utilization of the Egyptian collections in Japan.

1. The Egyptian Collections in Japan

The Egyptian collections in Japan have been built through two methods. One is by donations from overseas research institutions, and the other is through items accumulated by Japanese collectors.

The most organized collection from overseas donations is the collection consisting of about 1500 items held at the Kyoto University Museum. It was donated through the Egypt Exploration Fund (currently the Egypt Exploration Society) and the British School of Archaeology in Egypt in the early 20th century, by Flinders Petrie of University College London. The first archaeology course in our country was established at Kyoto Imperial University (now Kyoto University) in 1916, and the professor who taught that course was Kosaku Hamada, a student of Petrie. Hamada went to study in London from 1913, and studied under Petrie. Petrie presented part of his own collection of excavated items to Kyoto Imperial University as teaching materials for that archaeology course. Compared with the portion of the Egyptian collections in Japan that is mostly comprised of items gathered by antiquities collectors, the fact that most of the items at the Kyoto University Museum are excavated artifacts with clear archaeological contexts is a big distinction, and therefore this collection is especially important among the Egyptian collections in our country. The archaeological sites they represent extend from Daphne and Naucratis in the Nile Delta area, to Thebes and Gebelein in the south. An overview of this collection can be seen in *Catalogue of the Egyptian Collection in the Kyoto University Museum, The Kyoto University Museum 2016* (in Japanese).

The Tokyo National Museum houses the cartonnage coffin and mummy of Pasherientah dated to the 22nd dynasty, donated in 1904 by Director of the Antiquities Service of Egypt, Gaston Maspero (Suzuki, M. "The Pasherientah Mummy and Its Cartonnage Case in the Tokyo National Museum", *Journal of the Archaeological Society of Nippon*, 83 (4), 1998, pp. 1-19 (in Japanese)). This museum is also in possession of statues and shabtis, including the Sekhmet statue under the reign of Amenhotep III. The University Museum, The University of Tokyo houses a triple-nested coffin and mummy dated to the first half of the first millennium BCE, which were donated by the French consulate in Japan in 1888 (Suzuki, M. "The Wooden Coffin of Penhenudjeuu", *Studies in Palaeology: Presented to Prof. Dr. Bun-ei Tsunoda on the Occasion of His Seventieth Birthday, Professor Bun-ei Tsunoda 70th Birthday Commemorative Meeting*, 1983, p. 655-667 (in Japanese)).

Thus, there are gifts from research institutions and other places, but most of the Egyptian collections in Japan is based on items accumulated by Japanese collectors. I will introduce some of these collections.

What first bears mentioning is the Egyptian collection held in the Ohara Museum of Art located in Kurashiki, Okayama Prefecture, and in the Nariwa Museum. This collection was gathered by Western-style painter Torajiro Kojima in the early 20th century, mainly in Paris. A variety of Egyptian antiquities can be seen in both museums, including statues, stelae, reliefs, shabtis, faience pottery, and wooden coffin fragments. Overviews of this collection can be seen in the catalogues published by each museum: *Ohara Museum of Art: IV Ancient Egyptian & Near Eastern Art*, Ohara Museum of Art 1979 (in Japanese), and *Nariwa no oriento, ejipto hen* [Oriental Collection of Nariwa: Egypt], Nariwa Museum 1994 (in Japanese). In addition, this collection was studied by Madoka Suzuki (Suzuki, M., "Les antiquités égyptiennes dans la collection Ôhara", *Orient* 16, 1980, 111-132).

The collection of one of Japan's early Egyptologists and professor at Tokai University, late Hachishi Suzuki, is held at Tokai University. One can see a summary of this collection in the catalogue of the exhibition held in 2015, *Eternal Nile: Pharaohs and People of Ancient Egypt*, Tokai University Collection (Kyoko Yamahana, (ed.), Tokai University Publishing, 2015 (in Japanese)), as well as in the online catalogue (<http://aenet.pr.tokai.ac.jp/index.php>). Furthermore, a book was published in 2016 showing the results of a joint study with foreign Egyptologists about papyri stored at the university (Jasnow, R., Manning, J., Yamahana, K., Krutzsch, M. *The Demotic and Hieratic Papyri in the Suzuki Collection of Tokai University, Japan*, Atlanta 2016).

Regarding other places with Egyptian collection, the following museums can be mentioned.

In the Chugoku region, aside from the previously mentioned Ohara Museum of Art and Nariwa Museum, there are some artifacts collected in the Shimonoseki City Art Museum and the Okayama Orient Museum. The Shimonoseki City Art Museum holds Egyptian antiquities collected in London by Kinpei Takeuchi in the late

Meiji period. The collection contains some 85 items. The Okayama Orient Museum collection is based on antiquities from the ancient Orient, donated by Shinjiro Yasuhara of the Okayama Gakuen Education Foundation. After this donation, the museum made efforts to enhance its materials.

In the Kansai region, in addition to the Kyoto University Museum, there are collections at the MIHO MUSEUM and at the Tenri University Sankokan Museum. At the MIHO MUSEUM one can see precious artifacts such as a silver statue of Falcon God and a statue of a Ptolemaic queen. At the Tenri University Sankokan Museum, one can see a wooden anthropoid coffin from the Ptolemaic period. One can also see part of the collection of this museum in the recently published book (Tenri University Sankokan Museum (ed.) *Girishia koukogaku no chichi Shuriiman: Tirinsu iseki genga no zenbou* [Schliemann, Father of Greek Archaeology: The Full Original Pictures of Tiryns], Yamakawa Publishing, 2015, pp. 101-108 (in Japanese)).

In the Kanto region, there are collections at the following museums aside from Tokai University, the Tokyo National Museum, and the University Museum, The University of Tokyo.

The Ancient Orient Museum, Tokyo, as the name suggests, is a museum that specializes in and possesses antiquities from all around the ancient Orient, including a funerary stela for Padikhonsu from the Ptolemaic period and other Egyptian antiquities. The Ancient Egyptian Museum Shibuya Tokyo is an art museum that specializes in Egypt and displays the collection of Tadashi Kikugawa. This collection can be seen in *The Gateway to Ancient Egypt through the Kikugawa Egyptian Collection in Japan* (Kondo, J. (ed.), Bungeisya Publishing, 2004). At the Waseda University Aizu Museum, there is the stone blocks known as talatat from Amarna period and other items. The collection of Seijiro Matsuoka is held at Matsuoka Museum of Art, and the permanent exhibit includes items such as a wooden anthropoid coffin of a priest of Min in Akhmim from about 4th-century BCE and a statue of Sekhmet from the reign of Amenhotep III. The Middle Eastern Culture Center in Japan was established as an institution for studying the history and culture of the Middle East. One can see a relief of Thutmose III, a wooden model of ship and other artifacts. The Toyama Memorial Museum contains the collection of Genichi Toyama, and possesses a statue of a king from the Old Kingdom and a funerary stela from the New Kingdom. Fujisawa city, Kanagawa Prefecture, is in possession of the Takahashi collection. One can learn about the Egyptian portions of that collection in *Takahashi korekushon soumokuoku: 2. Ejiputo*, [Takahashi collection: Egypt] (the Fujisawa City Board of Education (ed.), the Fujisawa City Board of Education 1989 (in Japanese)). Egyptian antiquities are also held at the Hirayama Ikuo Silk Road Museum, the Sawada Masahiro Memorial Art Museum, and Keio University.

2. Issues Going Forward

I cannot deny that the Egyptian collections in Japan is lacking in both quality and quantity when compared to those of the overseas institutions, but as I presented earlier, there are valuable collections held at a number of galleries and museums. The problem is that expert research on these collections is falling behind. To be sure, valuable research has been conducted and published by Madoka Suzuki and others, yet nevertheless, only a small fraction of the Egyptian collections in Japan has been published in academic journals. There have been several exhibitions in Japan that compile these collections and show them to the public, but the fact remains that it is difficult for people in Japan who are interested in Egypt to learn about the details of the Egyptian collections in Japan.

The ICOM (International Council of Museums) General Conference will be held in Kyoto in 2019, and the general conference for CIPEG (the International Committee for Egyptology), a branch of ICOM, will also be held at that time. Surely the Egyptologists who will come to Japan in 2019 will turn their attention to the Egyptian collections in Japan. As such, we will certainly be expected to send out accurate information about the Egyptian collections in Japan to the rest of the world. It would seem that in order to meet these expectations, academic research on the Egyptian collections in Japan will become an urgent matter.

Furthermore, the Egyptian collections in Japan contains valuable Egyptian cultural property. The public display of these items can offer a valuable opportunity to deepen Japanese citizens' understanding of Egyptian civilization. For that reason, it would seem that sharing highly accurate information about these collections would contribute to furthering Japanese citizens' appreciation of Egypt. From such circumstances, in accordance with the holding of the 2019 CIPEG General Conference, I think that we must plan for the coordination of Japanese Egyptologists, and promote academic research on the Egyptian collections in Japan with the understanding and cooperation of the galleries and museums in possession of these collections.

ハギア・ソフィア大聖堂北ティンパヌム壁の修復史

佐々木 淑美

The History of Repairs on the North Tympanum of Hagia Sophia, Istanbul, Turkey

Juni SASAKI

189-198ページ

The Hagia Sophia has seen rapid deterioration in recent years and restoration work on the inner walls has been planned and implemented since 2014. As the first phase, work has started on the western half of the north tympanum, and removal of the surface layer of the wall was completed in June of 2015. This wall has not been studied sufficiently, and reconstruction and restoration of the mural on this wall have not been clarified.

The author has conducted an onsite survey from May to June 2015. Based on the composition and distribution of the mural materials and wall materials, it has been clarified that there is a concentration of lead pigment near the windows and the northwest pendentive. In light of radiocarbon dating results using carbon isotopes, one can speculate that the upper windows were made smaller as part of the restoration work done by Mimar Sinan in 1573 and after the lower windows were made smaller at a later date, restoration work must have been carried out on a wide area of the tympanum that used lead pigments. It is highly likely that these restoration works carried out between 1573 and 1930.

After the restoration work, the next task is to monitor the wall surface after it has been covered with new mortar and formulate measures to prevent deterioration.

A Close Look at the Step Pyramid Restoration Project

アシュラフ・エワイス、モスタファ・アフメド、ミシェル・ファリード

Ashraf Youssef EWAIS, Mostafa Ahmed AHMED, Michel FARIED

199-220ページ

Saqqara is one of the most famous heritage sites and the Step Pyramid, the symbol of Saqqara, is the oldest stone building all over the world. It was built to be a tomb, where the first king from the third dynasty-Zoser-could be buried, by the famous ancient Egyptian architect Imhotep. The height of the Step Pyramid is about 60 m and it has six steps. No enormous restoration or conservation work was performed on those steps until the year 2006 when a large conservation and restoration project was started by an Egyptian company. The pyramid's stability was threatened as it collapsed in some parts, especially the first step in the north façade and burial shaft. A scientific study was performed to investigate the deterioration factors that affected the pyramid, and make a plan of conservation and restoration. There are some deterioration forms that are obvious on the outside of the Step Pyramid. The environmental sand which the wind carried caused a great load on the edges, and this affected the pyramid's stability. Losing the mortar caused many stones to fall or move from their original places with large gaps, especially at the first step in the south and north façade. The four corners of the pyramids are not in a strong position of stability: the deterioration on the surface of many stones caused the surface to turn into fine chaps. The pyramid's inside has many problems, especially the ceiling of the burial shaft and underground galleries which are carved in clay layers and filled with debris. Conservation and restoration work in the pyramid has been subjected to international standards of restoration and conservation. These papers deal with the outer conservation and restoration work

Treatment of Findings from the Site of the New Kingdom (the South of Saqqara)

Leiden and Turin Excavation (Spring 2015)

ハサン・アブダッラー・ハサン、バスマ・ザガロール、アシュラフ・エワイス

Hassan Abdallah HASSAN, Basma ZAGHLOL, Ashraf Youssef EWAIS

221-230ページ

The necropolis of Memphis, Saqqara, is a famous ancient Egyptian Heritage site that was a religious capital throughout ancient Egyptian history and has monuments dating from the First and Second Dynasties to the Coptic era. It is located to the southwest of Cairo, the current capital of Egypt, and to the south of the Giza area famous for the sphinx and great pyramids from the Fourth Dynasty. Many foreign missions have been working in Saqqara for a long time as there are many places that have tombs from the New Kingdom. The site to the south of the Unas pyramid has been excavated by an English mission and more recently by a Dutch mission. In the spring of 2015, the Leiden and Turin Excavation mission started and has discovered the remains of

anonymous tombs, some limestone blocks, and a limestone statue of Horus the falcon, all of which need to be conserved. Urgent conservation work was done at the excavation site to support the flaking layers, after which the statue and limestone blocks were taken to a conservation lab where mechanical and chemical cleaning were conducted. The XRD analyses showed that the main components of the limestone statue and the limestone blocks was calcite (CaCO_3) and the red pigment was Hematite (Fe_2O_3). Injections with treated lime were used to fix and support the separated layers from the statue of Horus; however, as the surface of the statue was fragile, it was consolidated using a 1-1 mixture of Nano lime and ethyl silicate. The limestone block fragments were glued together using steel bars and Epoxy 1306.

Multispectral Imaging and Analytical Study of a Painted Wooden Coffin from the Late Period Stored at the Saqqara Museum

ラガブ・サマラ、イブラヒム・エルリファーイ、ナグラ・マフムード、ラギア・モハセニ、ファティ・サーレ
Ragab SALAMA, Ibrahim EL-RIFAI, Naglaa MAHMOUD, Rajia MOHSENE, Fathi SALEH

231-246ページ

A unique painted wooden coffin belonging to "IRT_IR.W" that dates back to the Late Period was excavated during the survey of the Unas pyramid road in 1965. Since then, the coffin has been stored at the Saqqara museum. The wooden coffin is composed of two pieces, a lower part (base) to lay down the mummy and an upper part (lid). Both parts are well-decorated and colored. In this study, we characterize the materials used and the construction method of the coffin. Multispectral imaging in the visible, near-infrared, and near-ultraviolet regions was conducted for mapping and for the preliminary identification the pigments on the coffin's surface in addition to the previous restoration attempts. Moreover, the results of the multispectral images acted as a guide to other analytical techniques. X-ray diffraction, X-ray fluorescence, and Fourier-transform infrared spectroscopy (FTIR) were applied on the location of the different pigments, and the results from all techniques were compared to each other. The wood of the coffin comes from the Ficus sycomorus tree and is covered with a ground preparation layer that is identified as calcite mixed with animal glue. Beeswax is also identified through FTIR in samples from the different pigments, suggesting its use as a previous restoration material. The decorations on the coffin's surface were painted using six pigments: calcite (white), carbon (black), hematite (red), Malachite (green), Egyptian blue, and Orpiment (yellow).

Role of Sculpture Techniques in Completion and Restoration of Missing Parts: the Stone Statue of Impy

モハメド・アブデルサッタール、シェハタ・アフマド、ガマル・アフマド、ハレッド・マハムード
Mohamed ABDELSATTAR, Shehata AHMED, Gamal AHMED, Khaled MAHMOUD

247-254ページ

Saqqara is one of the most important heritage sites in Egypt. It was the necropolis of Memphis, the ancient capital of Egypt. Throughout the period representing the Old Kingdom, there were many monuments in Saqqara such as tombs, pyramids, and temples where several statues were found. The statues in Saqqara were found in different sizes and were composed of a variety of materials. The stone statues were the most common in Saqqara as stone is the most resistant material in the context of weathering and other deterioration factors. Many stone statues discovered at the sites of excavations in Saqqara have been found to be broken as a result of deterioration factors such as weathering, unstable burial environment, and lack of archeological awareness during excavations. Consequently, it is necessary to restore and conserve those statues and sometimes to complete the missing parts to revive the aspects concerned with that civilization and reveal the reason for which they were created. It is decided that the missing fragments of the statues will be completed using different materials such as limestone and lime-based mortar.

Comparison between Nanolime and Plexisol P550 as Two Consolidants for the Preservation of Humidity Saturated Monumental Limestone

アフメド・シュエイブ、アムカール・シャカール、アブデル・ラティフ

Ahmed SHOEIB, A. A. SHAKAL, M. L. Abd EL-LATIF

255-268ページ

The tomb of “Senusret-Ankh” in Lisht, which is considered to be one of the tombs that was built from limestone, was found next to the pyramid of the Senusret I in 1933. The limestone of the tomb is exposed to humidity that may reach 90% in some cases, leading to its damage and degradation. Two consolidants, nanolime and Plexisol P550, were carefully chosen to reinforce the humidity saturated limestone of the tomb. Three standard limestone samples coded A1, B1, and C1 were collected to investigate their mineralogical composition, textural, physical, and also mechanical properties. The samples were subject to three time intervals of humidity acceleration, ranging from one month to three months. The physical and mechanical properties were also measured after three months of humidity acceleration and after consolidation of the samples using nanolime and Plexisol P550. The obtained results are more promising for nanolime than for Plexisol P550 when both are applied to humidity saturated limestone such as that of the “Senusret-Ankh” tomb.

サッカラ、ウニスの共同墓地における私人墓調査の現状—ケヌウのマスタバ墓を事例に—
肥後 時尚

Current Situation of the Private Tombs at the Unis Cemetery in Saqqara: A Study
through the Case of the Mastaba of Khenu

Tokihisa HIGO

269-282ページ

The Saqqara archaeological area is a principal necropolis that holds considerable remains dating back from the First Dynasty of Egypt through the Byzantine Era. In the 20th century, archaeologists found a large number of private tombs at the Unis Cemetery in Saqqara. However, although archaeological surveys have been conducted in the area, the archaeological reports for the excavated tombs have not been fully published. Hence, despite the discovery of valuable evidence, research on the tombs has been insufficient. This paper considers the necessity of accurately documenting the remains that were fragmentarily reported through a study of the current situation at the tomb of Khenu, which is a Mastaba tomb located in the Unis Cemetery. It still bears elaborate inscriptions and characteristic reliefs that comprise both sunk and raised reliefs in good condition; nevertheless, previous research has scarcely addressed this tomb and has provided resources on only a part of the reliefs. Moreover, the dating of the tomb is uncertain because of the lack of published studies and the characteristic style seen on the relief that dates back from the end of the Old Kingdom to the Middle Kingdom. To verify the dating, it is necessary to examine all inscriptions, reliefs, and architectural elements. This paper provides a brief introduction and translation of the unpublished materials, particularly concerning the false door of Khenu placed at the west wall in the chapel of the tomb. Further research and excavations should be conducted to release the details of the scarcely known remains, such as the tomb of Khenu.

ラピスラズリとガラス—古代メソポタミア・エジプトにおける認識をめぐって—
渡邊 みゆ

Lapis Lazuli and Glass: Concerning the Recognition of the Materials in Ancient
Mesopotamia and Egypt

Miyu WATANABE

283-302ページ

関西大学国際文化財・文化研究センター紀要

『The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture』第5号



2018年3月発行

エジプト・サッカラ遺跡、メルルカの埋葬室壁画の技術的特徴
アフメド・シュエイブ、アブド・エル・ザヘル、アフメド・マンシー

Technical Characterization of the Mural Paintings in the Burial Chamber of Mereruka Tomb, Saqqara, Egypt

Ahamed S. A. Shoeib , Abd El zaher A . Aboelala, Ahmed I. Mansy

The present study aims to characterize the mural paintings in the hewn-rock burial chamber of Mereruka Tomb, which lies at the eastern division of Saqqara plateau, about 20 meters northwest the pyramid of the king Titi. This tomb was discovered by De Morgan in 1893 and dated back to the sixth dynasty in the old kingdom. In this burial chamber, the Egyptian artist used a unique technique for preparation and decoration of the mural paintings. This unique technique was taken into consideration in this research. The characterization of the mural paintings in the studied burial chamber was carried out using different techniques; visual examinations, optical microscopy; scanning electron microscopy (SEM) equipped with energy dispersive x-ray analysis system (SEM-EDS); and x-ray powder diffraction (XRD). The study indicated that the paintings were carried out through the preliminary drawing on limestone support, while the painting on a thin layer of the light pink gypsum wash, was decorated using different pigments; Egyptian blue (blue color), hematite (red color), Goethite (yellow color), gypsum (white color) and carbon (for black color). The obtained results will help in providing an image concerning the painting materials, which were used during the old kingdom in ancient Egypt as well as establishing a conservation plan of this mural paintings.

Keywords: Wall paintings; Saqqara; Mereruka; burial chamber;

サッカラのミイラ埋葬室から見つかった古代エジプトの劣化染織品の分析
マイサ・マンズール、アーデル・アカリシュ、ルシュディヤ・ハッサン、アフメド・シュエイブ

Analytical study of deteriorated Pharaonic textile from mummified burials – Saqqara
Maisa M.A. Mansour¹, Adel I.M. Akarish², Rushdya R. A.Hassan¹, Ahmed S. A. Shoeib

The present study aims to characterize the mural paintings in the hewn-rock burial chamber of Mereruka Tomb, which lies at the eastern division of Saqqara plateau, about 20 meters northwest the pyramid of the king Titi. This tomb was discovered by De Morgan in 1893 and dated back to the sixth dynasty in the old kingdom. In this burial chamber, the Egyptian artist used a unique technique for preparation and decoration of the mural paintings. This unique technique was taken into consideration in this research. The characterization of the mural paintings in the studied burial

chamber was carried out using different techniques; visual examinations, optical microscopy; scanning electron microscopy (SEM) equipped with energy dispersive x-ray analysis system (SEM-EDS); and x-ray powder diffraction (XRD). The study indicated that the paintings were carried out through the preliminary drawing on limestone support, while the painting on a thin layer of the light pink gypsum wash, was decorated using different pigments; Egyptian blue (blue color), hematite (red color), Goethite (yellow color), gypsum (white color) and carbon (for black color). The obtained results will help in providing an image concerning the painting materials, which were used during the old kingdom in ancient Egypt as well as establishing a conservation plan of this mural paintings.

エジプト・サッカラ遺跡、ラーシェプセスの埋葬室壁画に描かれた野生動物の美術研究
アシュラフ・エワイス、モハメド・カマル、ガマルマフグーブ、アーデル・アカリシュ
Artistic Study of the wildlife scene at the burial chamber of Rashepses in Saqqara,
Egypt
Ashraf Youssef Ewais, Mohamed Kamal, Gamal Mahgoub, Adel Akarish

Saqqara is the main necropolis of Memphis which was the capital of ancient Egypt during the old kingdom. The ancient Egyptians tried to keep their place in the beyond life so they tried to hide their grave away from robbers, in the old kingdom, especially from the time of the fourth dynasty, they buried their bodies in deep shafts and kept them in stone sarcophaguses, however. From the middle of the fifth dynasty, they began to make big burial chambers, deep underground, reached by vertical shafts or sloping corridors, they also began to decorate the burial chambers. the burial chamber of Ra-shepses is considered the most ancient decorated burial chamber that has been discovered till now. Ra-shepses was one of the most important people in the time of the fifth dynasty, he was the first one to have the title of (the responsible for the south), he was a vizier at the time of King Jedkara, the pigments in the burial chamber of Rashepses are unique, the ancient artist used shadows for the first time although it is the most ancient decorated burial chamber. There are more than ten different colors were used in the wildlife scene, that shows how the artist used his skills to create new colors weren't used before, optical digital microscope is used to study those pigments and try to identify the technique was used to create that terrific scene in the burial chamber.

エジプト・サッカラ台地の埋葬地か構造の脆弱性を誘引する岩盤の地質工学的特性
ムスタファ・アブデルファッターハ、モハメド・カラフ、ハッサン・ファフシー・イマーム、シャバーン・
アブデラル
The role of Geotechnical properties of rocks in failure of stability of the funeral
subsurface structure in Saqqara plateau, Egypt. Part1.
Mostafa Ahmed ABDEL FATAH, Mohamed Kamal KALLAAF, Hassan Fahmy IMMAM,
Shaaban ABDELAAL

This paper aims to interpret the instability of the subsurface structures which were hewn in Saqqara member through focusing mainly on the study of mineralogy and engineering properties of the three main units of Saqqara member. The representative samples were collected from different locations and depths, Ras-elgesr hill, Bobasteion hill, lower part of step pyramid. Samples were scanned by light microscope, analyzed using XRD, AIR, and TDS in addition to identifying the physical and mechanical properties. XRD showed that all the samples contain clay minerals the most were in the greenish grey samples while the least in white grayish samples. AIR, TDS and engineering properties of the three main units of Saqqara member showed that the white grayish layer has the highest density and compressive strength while they recorded the lowest value for porosity, water content, water absorption, AIR and TDS. The soft layer (marl and shale) has the lowest density, compressive strength while recording the highest value for porosity, water content, absorption, AIR and TDS. The results showed why the ancient Egyptian chose the white or yellowish layers to be the roof while the grayish and greenish grey or white marl (soft layers) to be the space of funeral subsurface structure of Saqqara member. The grayish, greenish grey layers and white marl have poor bearing capacities as a result of their mineralogical composition, physical and mechanical properties so they are unsuitable for most engineering construction and they are the main cause of failure in stability of most of the

funeral subsurface structures in Saqqara.

臨遺跡集落・サッカラ村の生活と空間構造(その7)
—ファイナー概念による公共空間の私的利用について—
岡絵里子、中村穂希

Mineralogical and Petrographic Characteristic of the Building Material Used in Barbar Temples, Bahrain Preliminary investigation
Adel I. M. AKARISH, Ahmed S. SHOEIB, Hiroshi SUTA

This work introduces detailed mineralogical and petrographic investigations for the building materials used for the construction of Barbar Temples. Barbar Temple was discovered in 1954 and considered to be part of the Dilmun culture and dated back to 3000 BC. It formed of three Phases (I, II and III) built of limestone blocks. The investigated building materials (Stone and Mortar) were characterized using optical microscope and X-ray diffraction (XRD) The results indicated both the external wall of phase II and Phase III were built from the same stone, sandy limestone (ooid grainstone or oosparite), the internal wall of phase II formed of dolostone (dolomicrite), Phase I is formed of pure limestone as a weak in comparison to the other phases. The mortar used in phase II was formed mainly of Gypsum together with sand and lime, as such to those formed the used plaster. the used mortar in phase III was formed mainly only of Gypsum and little sand. Both the mortar and the plaster used in phase I consists maily of lime beside little proportion of gypsum and sand.

写真測量とレーザスキャナを用いた文化財の過去と現状の変容の可視化
森直紀, 廣瀬 詢, 藤里 和樹, 高橋 里緒, 肥後 時尚, 末森 薫, 吹田 浩, 安室 喜弘
Visualization of the Temporal Changing in a Documented Cultural Heritage
based on Photogrammetry and Laser Scanning

Naoki MORI¹, Makoto HIROSE², Kazuki FUJISATO², Rio TAKAHASHI¹, Tokihisa HIGO^{3,5}, Kaoru SUGIMORI⁵, Hiroshi SUTA^{4,5} and Yoshihiro YASUMURO^{1,5}
In recent years, Structure from Motion (SfM) becomes a popular method for recording of cultural heritages by reconstructing the three-dimensional (3D) shapes of the target objects; ruins, structures, and relics, from a collection of photographs. Although we can record the present situation of the cultural heritages in detail, it is important to examine the temporal changes of the information in comparison with the older investigation records of the same site. In this study, the authors propose a systematic method to collate the as-is situation in the present and the past documented photographs and visualize the temporal differences between them. The proposed method estimates the position and the orientation of the camera used to take photographed in the past, by associating the three-dimensional coordinates of the points in the present data obtained with SFM and the pixel positions of the photo taken in the past. Adjusting the viewpoint for rendering the 3D computer graphics(CG) of present data to the estimated viewpoint of the past photograph, precise superimposing present figure onto the past scenery is available. This report shows the implementation of the proposed method using the actual inspection example at Barbar Temple site in Bahrain.

Impregnation treatment with hydrophobic silane to an important stone building suffering from freezing damage in cold and heavy snowfall district
Tadateru NISHIURA, Yasumichi MURAKAMI and Masami FUKUDA

An important historic stone building (1906) in a cold and heavy snowfall district, Otaru, Hokkaido, Japan, had been suffering from freezing damage because of frequent freeze-thaw cycles in early spring. In order to revive the cohesion of the damaged stones (porous tuff) and protect them from water penetration, impregnation treatment with hydrophobic silicone resin (a solution of the oligomer of methyl triethoxy silane in organic solvent) was executed. Several years later, a serious trouble occurred. The layers of some stones, into which the resin had penetrated, had become detached. Detailed investigation revealed that the cause and the mechanism of this trouble is as follows:

Because the waterproofing of the roof was insufficient, snow water penetrated into the stones from the untreated side and the water froze to make ice crystals in the interface between resin-treated layer and untreated layer; the growth of the ice crystals led to the breaking of the stones. Thus, covering the roof with copper sheets was carried out. Now, more than 30 years after the conservation work, the condition of the building is good

リビア系諸王朝と諸王をめぐる問題について

藤井 信之

This paper aims to clarify unanswered questions regarding the Libyan dynasties and kings. Simultaneously, after examination of these questions, it aims to suggest hypotheses for their resolution. As for the Kings belonging to the 22nd Dynasty, there are still questions surrounding all three Sheshonq II's. While it is possible that Maakheperre Sheshonq (IIc) did not actually exist, Heqakheperre Sheshonq (IIa) and Twtkheperre Sheshonq (IIb) existed, but the exact periods of their reigns are still unknown. There are several questions still waiting to be solved regarding the group of kings who reigned Upper Egypt after the mid-Libyan Period. First, there is no consensus on whether Iuput I was the successor to Takeloth II or the founder of a new dynasty. Second, there is no consensus on whether Hedjkheperre Sheshonq, referred to in Karnak Nile-level text No. 3, was Sheshonq I or a new king, Sheshonq VII, which we did not have knowledge about. Finally, it also remains unsolved whether Usermaatre Padubastet-sieset and Usermaatre Padubastet-sibastet is the same person. We still do not know the location of the kings' capital in Upper Egypt. Thebes, Heracleopolis, and Hermopolis have been thought of as the most likely candidates. During the Libyan Period, Generals, who also served as High Priests, were responsible for local governance in Upper Egypt. The historical data has confirmed the existence of such Generals in Thebes and Heracleopolis, but not in Hermopolis. Hermopolis can, therefore, be considered to be a strong candidate for the capital and the center for the Kings in Upper Egypt. Post the mid-Libyan Period, support for different kings shifted frequently in the main cities such as Thebes, Heracleopolis, Memphis, and Buto. This shows that the ruling system in this period was like the lines connecting the dots, i.e. the cities or local regions. It is, therefore, plausible that some regions were not ruled by the same king, depending on local support. It may have been impossible to show the sphere of influence and power for each king on a two-dimensional map. It is certain that the group of the kings starting with Sheshonq I correspond to the Manethonic Twenty-Second Dynasty, but opinions differ on whether the Manethonic Twenty-Third Dynasty should be part of the group of kings in Upper Egypt or the group of the kinglets in Tanis. Also, the existence of the kings who do not belong to any dynasties classified by Manetho has made it increasingly difficult to describe the history of the Libyan Period using Manetho's periodization of the dynasties.

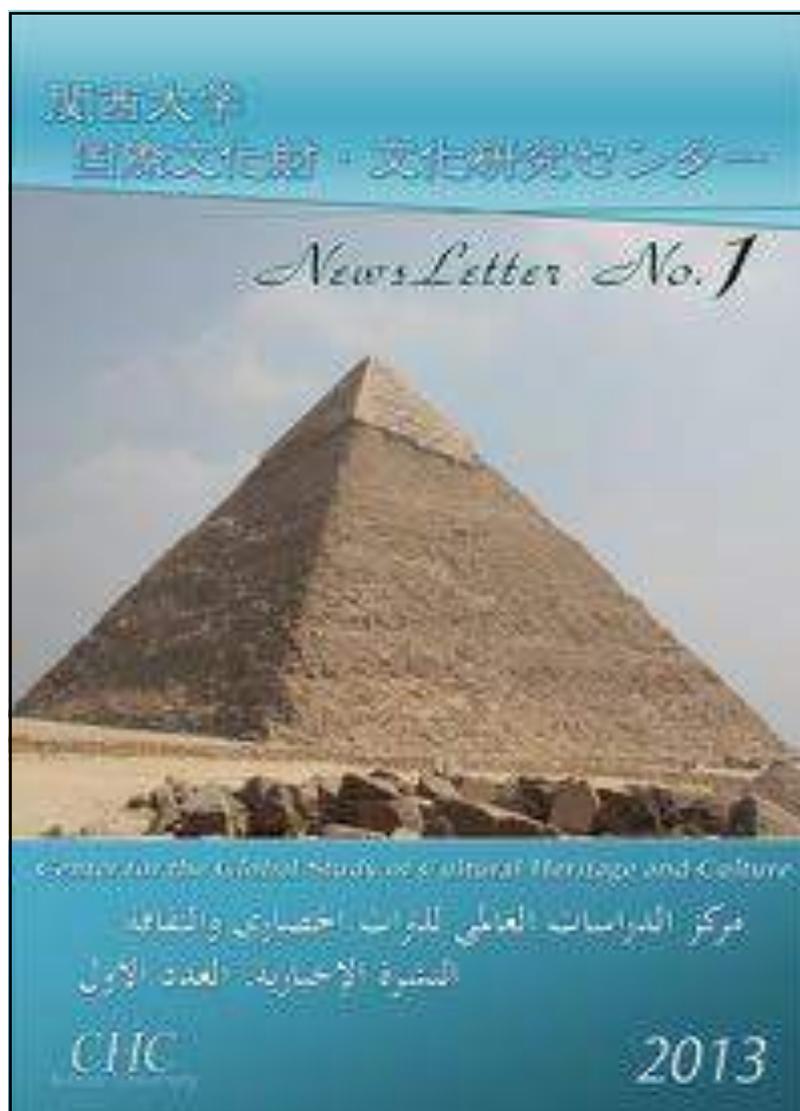
関西大学国際文化財・文化研究センター ニュースレター

NewsLetter No.1

2014年3月6日発行

20 ページ

▶目次
センター長ご挨拶
プロジェクトの経緯
研究活動
研究者紹介
キャンパスマップ



関西大学国際文化財・文化研究センター ニュースレター

NewsLetter No.2

2015年3月19日発行

20 ページ

▶目次

エヴァ・ロズネルスカ先生 追悼

セミナー

エジプト調査 2014年度

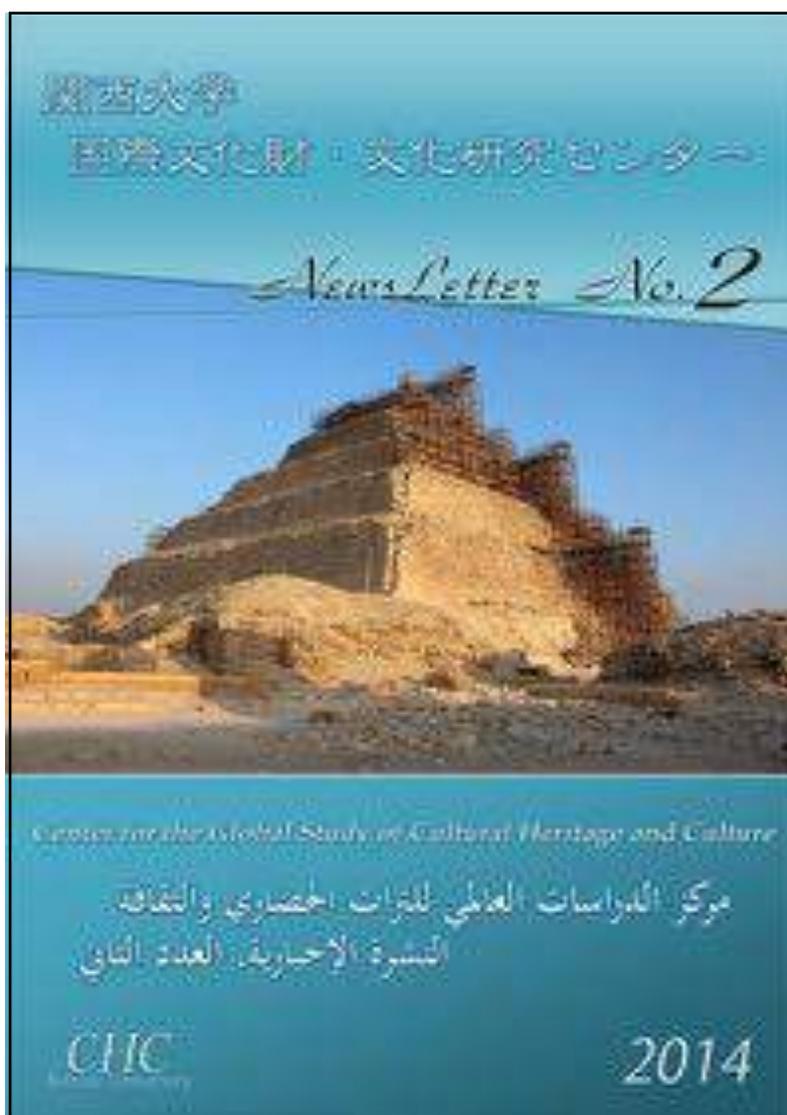
国際シンポジウムの開催

研究活動

その他の活動

「エジプト学・文化財研究セミナー」講義録 目次

キャンパスマップ



関西大学国際文化財・文化研究センター ニュースレター

NewsLetter No.3

2016年3月7日発行

20 ページ

▶目次

エジプト調査 2015年度

バハレーン調査

セミナー

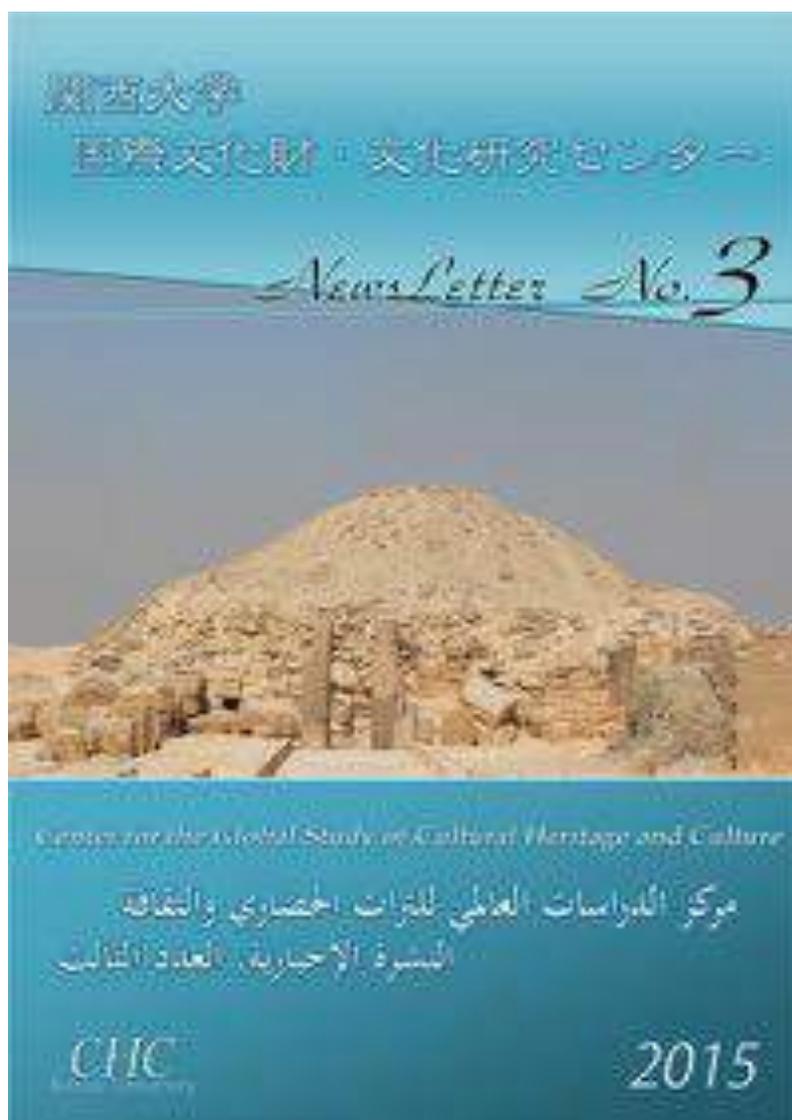
国際シンポジウムの開催

研究活動

その他の活動

研究者紹介

キャンパスマップ



関西大学国際文化財・文化研究センター ニュースレター

NewsLetter No.4

2017年3月1日発行

14 ページ

▶目次

エジプト調査 2016年度

バーレーン調査 2016年度

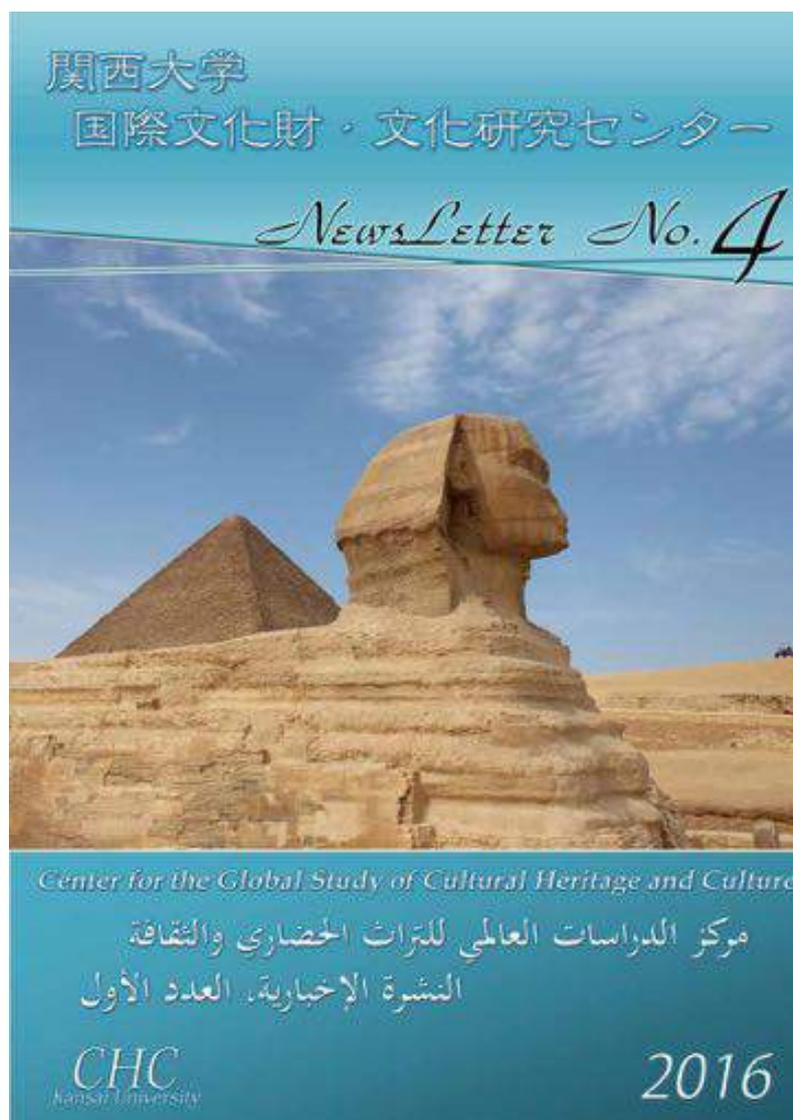
セミナー

公開シンポジウムの開催

研究活動

カイロ大学

研究者紹介



関西大学国際文化財・文化研究センター ニュースレター

NewsLetter No.5

2018年1月1日発行

14 ページ

▶目次

国際専門家会議

最終成果報告会

セミナー

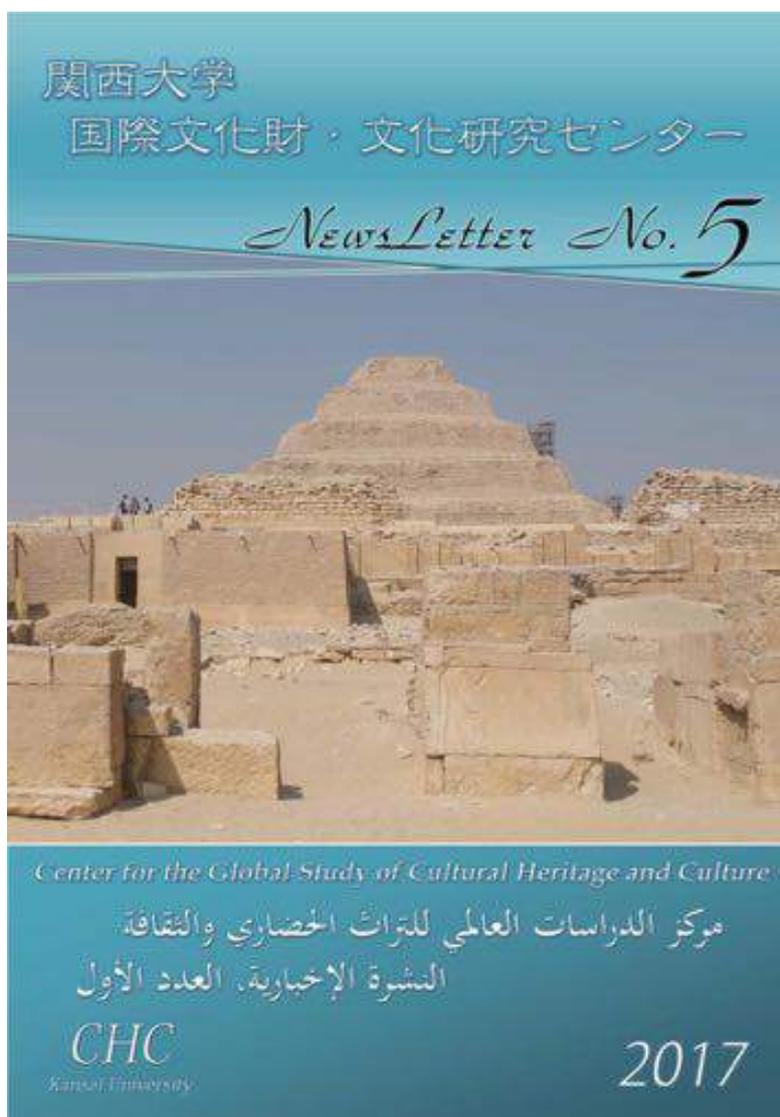
エジプト調査 2017年度

バーレーン調査 2017年度

2018年の催事

刊行物

謝辞



関西大学国際文化財・文化研究センター
『エジプト学・文化財研究セミナー』



281 ページ

2015 年 2 月 12 日発行

Language and Education in Ancient Egypt
Said Gaber Gohary
1-6 ページ

古代エジプトにおける言語と教育
サイド・ガービル・ゴハリー
7-12 ページ

Diplomacy between Egypt and the Ancient Near East through the Amarna Letters
Nasser Mekawy
13-21 ページ

アマルナ文書から見るエジプトと古代近東地域の外交関係
ナーセル・メッカーウィ
23-31 ページ

Horus “*Hry wAD.f*” as a Protector God
Salwa Kamel
33-41 ページ

守護神としてのホルス、「ヘリ・ウアジ・エフ」(*Hry wAD.f*)
サルワ・カーメル
43-51 ページ

The Semantic Relations between the Hieroglyphic Signs and the Meaning of Words
in Ancient Egyptian Language: Determinatives and Phonetic Signs
Heba Moustafa Nouh
53-66 ページ

古代エジプト語における象形文字と語彙の意味関係—決定詞、表音文字を中心に
ヘバ・ムスタファ・ヌーハ
67-80 ページ

Methodology of Studying Ancient History Applied to Ancient Egyptian History

Zakia Zaki Gamel Eldeen
81-91 ページ

古代エジプト史研究の方法論
ザケーア・ザキ・ガマルツディーン
93-103 ページ

Study on the Deterioration Aspect of Mural Painting in Egyptian Oasis
New Trend in the Analysis and Conservation of Ancient Egyptian Mural Painting
Mona Ali
105 ページ

エジプト、オアシス地域における壁画の劣化状況に関する研究
古代エジプト壁画の修復と分析における新しい動向
モナ・アリ
106 ページ

Conservation Strategy for Monumental Limestone in Egypt
Mohamed Abd el-Hady
107-126 ページ

エジプトにおける石灰岩製文化財の修復戦略
ムハンマド・アブデル・ハーディ
127-145 ページ

Theories of Papyrus Manufacture and the Conservation Treatment of Papyrus
Wafika Noshy Wahba
147-171 ページ

パピルス紙の製造に関する諸説とパピルス紙の保存処置
ワフィーカ・ノスヒー・ワフバ
173-196 ページ

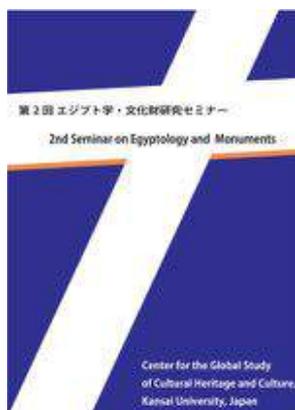
Technology of Glass Making Processes in Ancient Egypt during Pharaonic Era,
Roman Period, and Islamic Period
Salwa Gad el-Karim
197-218 ページ

ファラオ時代、ローマ時代、イスラム時代の古代エジプトにおけるガラス製造工程についての技術
サルワ・ガード・エル・カリーム
219-240 ページ

Detecting the Forgery of an Oil Painting by Ivan Aivazovsky
Moustafa Attia
241-257 ページ

アイヴァゾフスキーの油絵贋作の発見
ムスタファ・アティア
259-273 ページ

関西大学国際文化財・文化研究センター
『第2回エジプト学・文化財研究セミナー』



369 ページ

2017年3月1日発行

A Study of Deterioration and Conservation of Archaeological Glass
Salwa Gad el Karim
1-34 ページ

考古資料としてのガラスの劣化と保存に関する一研究
サルワ・ガード・エル・カリーム
35-66 ページ

Additional Information on Papyrus Manufacturing and Conservation
Wafika Noshy Wahba
67-102 ページ

パピルスの製作と保存に関する追加情報
ワフィーカ・ノスヒー・ワフバ
103-136 ページ

Conservation of Historic Areas in the International Charters and Conferences
Elsayed Mahmoud Elbanna
137-162 ページ

国際会議と憲章における歴史地区の保存管理
エルサイド・マフムード・エルバンナ
163-184 ページ

Experimental and Applied Studies for the Conservation Treatment of Archaeological Mummies
Goma Abdel-Maksoud
185-218 ページ

考古資料としてのミイラにおける保存処置を目的とした実験と応用研究
ゴマー・アブデルマクスード
219-252 ページ

Hunting Scenes in Prehistoric and Archaic Egypt

Mostafa Khalifa
253-254 ページ

先史及びエジプト初期王朝時代の狩猟場面
ムスタファ・カリーファ
255-256 ページ

Historical Background to Royal Threats in Ancient Egypt
Zakia Zaki Gameledeen
257-268 ページ

古代エジプトにおける王家の威迫行為の歴史的背景
ザケーア・ザキ・ガマルツディーン
269-282 ページ

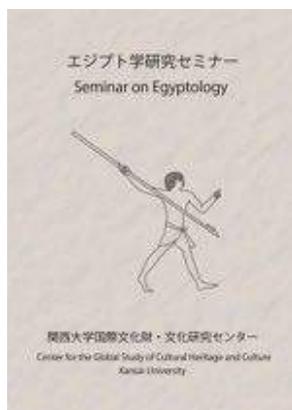
The Intercession Scenes in ancient Mesopotamian Cylinder Seals till the End of the Old
Babylonian Period
Soliman Elhewaily
283-306 ページ

バビロン第一王朝末までにおける古代メソポタミアの円筒印章に見るとりなしの場面
スライマーン・エルヘワリー
307-330 ページ

Councils of War—From the 2nd Intermediate Period till the End of Thutmose III Reign
—
Mohsen Negmeldin
331-348 ページ

古代エジプトの軍事会議—第 2 中間期からトトメス 3 世の治世末期まで—
モハセン・ネグメルディーン
349-364 ページ

関西大学国際文化財・文化研究センター
『エジプト学研究セミナー』



87 ページ

2017年3月13日発行

王墓にみるエジプト初期国家の王権

中野 智章

1-22 ページ

古王国第5王朝最後の王、ウニスの時代

吹田 浩

23-40 ページ

トウトアンクアメン(ツタンカーメン)王時代のエジプト

河合 望

41-62 ページ

リビア王朝の分権的支配と婚姻政策

藤井 信之

63-87 ページ

関西大学国際文化財・文化研究センター
『エジプト学研究セミナー』



2018年3月発行

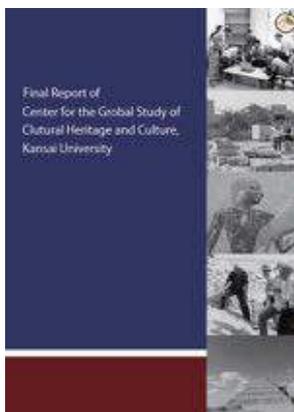
古代エジプトにおける神・人・神話
田澤 恵子

ピラミッド・テキストの研究
吹田 浩

新王国時代のメンフィスとその墓地について
河合 望

サイス王朝(第26王朝)時代のエジプト
藤井 信之

関西大学国際文化財・文化研究センター
『最終成果報告書』



2018年3月発行

関西大学国際文化財・文化研究センターの活動

吹田 浩、末森 薫

Activities of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture, Kansai University

Hiroshi SUITA, Kaoru SUEMORI

文化遺産における国際協カプロジェクト

西浦 忠輝、沢田 正昭

International Cooperation Projects on Cultural Heritage

Tadateru NISHIURA, Masaaki SAWADA

サッカラ遺跡とイドウトのmastaba墓

サラハ・エル・ホーリ

Saqqara Archaeological Site and Mastaba Idout: Historical and Archaeological Background of Saqqara

サッカラ地区の地質学的特徴

アーデル・アカリシュ

Geological Settings of Saqqara Area

Adel AKARISH

サッカラ地区の環境と遺跡の保存

西浦 忠輝

Climate of Saqqara Area and Conservation of Ruins

Tadateru NISHIURA

イドウトのmastaba墓地下埋葬室の壁画—技法・材料および保存修復—

アーデル・アカリシュ、アフメド・シュエイブ

Mural Paintings in Mastaba Idout

Adel AKARISH, Ahmed SHOEIB

イドウト地下埋葬室母岩の劣化調査および補強対策

伊藤 淳志、西形 達明

Stability Investigation and Reinforcement of Mother Rock in Burial Chamber of Idout

Atsushi ITO, Tatsuki NISHIGATA

イドウトのmastaba墓における岩盤等の補強対策と品質評価
鶴田 浩章、中村 吉伸、伊藤 淳志、肥後 時尚、吹田 浩
Strengthening Counter-measure and Quality Estimation of Rock and Stone Work Block
in Mastaba Idout
Hiroaki TSURUTA, Yoshinobu NAKAMURA, Atsushi ITO, Tokihisa HIGO,
Hiroshi SUITA

イドウトのmastabaにおける修復・保全のための3次元計測に基づいた情報共有
安室 喜弘、吹田 浩
Digital Documentation/Visualization in Mastaba Idout
Yoshihiro YASUMURO, Hiroshi SUITA

イドウトのmastaba墓における壁画の復元
吹田 浩、肥後 時尚
Reconstruction of Paintings in Mastaba Idout
Yoshihiro YASUMURO, Hiroshi SUITA

イドウト・mastaba墓プロジェクトの評価
吹田浩、アーデル・アカリシュ、アフメド・シュエイブ
Evaluation of Mastaba Idout Project
Hiroshi SUITA, Adel AKARISH, Ahmed SHOEIB

バーレーン王国における文化遺産保護プロジェクト
吹田 浩、肥後 時尚、末森 薫、サルマン・アルマハーリ
Research Project on Preservation of Cultural Heritage in Kingdom of Bahrain
Hiroshi SUITA, Tokihisa HIGO, Kaoru SUEMORI, Salman Almahari

バルバル神殿に使用された石材の鉱物学・岩石学的特徴
アーデル・アカリシュ、アフメド・シュエイブ、吹田 浩
Mineralogical and Petrographic Characteristic of the Building Material Used in Barbar
Temples, Bahrain Preliminary Investigation
Adel AKARISH, Ahmed S. SHOEIB, Hiroshi SUITA

バーレーン王国・バルバル神殿における生物劣化とその対策の提案
マイサ・マンズール
Suggested Plan for Biological Deterioration and Protect on Barbar Temple Kingdom
Bahrain
Maisa MANSOUR

写真測量とレーザスキャナにもとづいた文化財の過去と現在の視覚的照合
ーバルバル神殿を事例としてー
安室 喜弘、森 直紀、廣瀬 詢、藤里 和樹、高橋 里緒、肥後 時尚、末森 薫、吹田 浩
Visualization of the Temporal Changes in a Documented Cultural Heritage
based on Photogrammetry and Laser Scanning: Case Study of Barbar Temple
Yoshihiro YASUMURO Naoki MORI, Makoto HIROSE, Kazuki FUJISATO,
Rio TAKAHASHI, Tokihisa HIGO, Kaoru SUEMORI, Hiroshi SUITA

エジプト、バーレーンの文化遺産の保存に用いる接着剤の凝固強度
中村 吉伸、鶴田 浩章、伊藤 淳志、吹田 浩、堤 亮太、岡田 駿、中村 充、藤井 秀司
Coagulation Strength of Some Adhesives for Conservation of Cultural Heritage in Egypt
and Bahrayn
Yoshinobu NAKAMURA, Hiroaki TSURUTA, Atsushi ITO, Hiroshi SUITA,
Ryota TSUTUMI, Shun OKADA, Takashi NAKAMURA, Syuji FUJII

エジプト壁画中に含まれる有機化合物の質量分析
川崎 英也、河原 一樹、中沢 隆、アフメド・シュエイブ、アーデル・アカリシュ、吹田 浩、荒川 隆一

Characterization of Organic Binding Media Used in Egyptian Painting Layers by Mass Spectrometry

Hideya KAWASAKI, Kazuki KAWAHARA, Takashi NAKAZAWA, Ahmed SHOEIB, Adel AKARISH, Hiroshi SUITA, Ryuichi ARAKAWA

文化財環境および器物にかかわるカビの様相

高鳥 浩介、高橋 淳子、高鳥 美奈子、久米田 裕子、土戸 哲明

Fungal Aspects Related with Utensils and Environments in Cultural Properties

Kosuke TAKATORI, Atsuko TAKAHASHI, Minako TAKATORI, Yuko KUMEDA, Tetsuaki TSUCHIDO

文化財のカビ汚染防止策としてのアルコールと放射線利用のためのモデル実験研究

土戸哲明、坂元仁、古田雅一、高鳥浩介

Experimental Studies in Model Systems for the Protection of Cultural Properties from Mold Contamination by Uses of Alkanols and Irradiation

Tetsuaki TSUCHIDO, Jin SAKAMOTO/Masakazu FURUTA/Kosuke TAKATORI

臨遺跡集落・サッカラ村の空間構造と暮らし

岡 絵理子

Life and Spatial Structure in Saqqara Village

Eriko OKA

タイ国、世界遺産「古都アユタヤ」の総合的保存活用施策

西浦 忠輝

Comprehensive Policy for the Conservation and Utilization of a World Heritage Site, Historic City of Ayutthaya, Thailand

Tadateru NISHIURA

ペルー共和国・マチュピチュ遺跡の石造遺構の保存に関する調査研究

—「太陽の神殿」の劣化と保存修復に関する調査と現地実験—

西浦 忠輝、伊藤 淳志、西形 達明、藤田 晴啓、小野 勇、森井 順之、沢田 正昭、

フェルナンド・アステテ、ピエダット・チャンピ

Study on Conservation of Remaining Structure in Machu Picchu Site, Peru —

Investigation and Experimental Study for the Conservation of the “Temple of the Sun”

Tadateru NISHIURA, Atsushi ITO, Tatsuaki NISHIGATA, Haruhiro FUJITA,

Isamu ONO, Masayuki MORII, Masaaki SAWADA, Fernando ASTETE, Piedat CHAMPI

ドイツでエジプト古美術品を展示する—ベルリン、ミュンヘン、ヒルデスハイムのエジプト博物館—

森 貴史

The Egyptian Museums in Germany

Takashi MORI

エジプト文明の源流とユーラシア—研究の総括—

浜本 隆志

The Issues of Incest in Egyptian Myth

Takashi HAMAMOTO

フランス 19 世紀初期における「文明観」とエジプト

柏木 治

"Description de l'Egypte" and French Cultural Policy in the 19th Century

Osamu KASHIWAGI

古代ギリシアにおける異文化理解の諸相

中澤 務

Aspects of Cross-cultural Understanding in Ancient Greek

Tsutomu NAKAZAWA

掲載紙名・媒体	年月日	タイトル	掲載者
日刊工業新聞 東京本社	2013年6月12日	排水機能の鉄筋補強 城郭石垣を延命	西形達明(CHC研究員)
朝日新聞 朝刊	2013年8月21日	太陽の神殿修復へ着々 世界遺産マチュピチュ	西浦忠輝(CHC学外研究員)
日本経済新聞 夕刊	2013年8月30日	関西大学から世界へ エジプト文化財修復への取り組み	国際文化財・文化研究センター
関西大学オープンキャンパス	2014年6月	関西大学の研究力	国際文化財・文化研究センター
独立行政法人 国際協力機構 HP	2013年9月10日	第2回大エジプト博物館保存修復センターシンポジウム 博物館における保存修復:現在と未来	アーデル・アカリシュ((CHC海外研究員)
テレビ朝日 「奇跡の地球物語～近未来創造サイエンス」	2013年10月6日	天空の城 竹田城 時空を越えた建築技術	西浦忠輝(CHC学外研究員)
朝日新聞 朝刊	2013年11月15日	特別講演「エジプト文化財の危機と今後」	国際文化財・文化研究センター (エジプト考古大臣)
日本経済新聞 夕刊	2013年11月30日	エジプトの文化財をどう守る	国際文化財・文化研究センター (エジプト考古大臣)
アル・アハラム経済紙 エジプト	2013年12月1日	考古大臣の日本訪問 メディアの関心を集めエジプトの現状を明らかに	国際文化財・文化研究センター
朝日新聞 夕刊	2013年12月10日	イブラヒム・エジプト考古相 関西大で講演 文化財保護には観光収入が必要	国際文化財・文化研究センター (エジプト考古大臣)
毎日新聞 夕刊	2013年12月12日	混乱のエジプト 苦難の文化財保護	国際文化財・文化研究センター (エジプト考古大臣)
関西大学ニューズレター Reed	2014年2月28日	文部科学省ミュージアム「情報ひろば」で、企画展示を開催	国際文化財・文化研究センター
朝日新聞 朝刊	2014年3月1日	マチュピチュ遺跡 保存修復活動語る	西浦忠輝(CHC学外研究員)
読売新聞 朝刊	2014年8月23日	研究活動を通じて社会貢献を実感	国際文化財・文化研究センター
読売新聞 朝刊	2014年9月14日	エジプト講演会 エジプト紙「アル・アハラム」元編集長カマル・ガバル氏	国際文化財・文化研究センター
アル・アハラム経済紙 エジプト	2014年11月30日	ハラール食品を輸出するチャンス	国際文化財・文化研究センター
朝日新聞 夕刊	2015年4月2日	観光と保存 両立さぐる	国際文化財・文化研究センター
TBS 世界ふしぎ発見! 放送	2015年4月18日	『開拓の灯をともし マチュピチュを創った日本人』	西浦忠輝(CHC学外研究員)
関西大学ニューズレター Reed	2015年6月4日	街をつくる住まいの調査研究 大阪の市街地改造と集合住宅	岡絵理子(CHC研究員)
文部科学省 科学技術白書 平成27年版	2015年6月1日	世界遺産の保存・修復への貢献	西浦忠輝(CHC学外研究員)
関西大学ニューズレター Reed	2015年11月25日	国際シンポジウム「イスラムと国際社会」	吹田浩(CHCセンター長)
NHKニュース 大阪放送	2016年2月27日	遺跡・文化財修復 国際シンポジウム	国際文化財・文化研究センター
アル・アクバル新聞	2016年3月16日	学問を求めよ! エジプトに赴くことになっても	吹田浩(CHCセンター長)
NHK クローズアップ現代	2016年9月13日	名城はなぜ崩れたのか 謎のメカニズムに迫る	西形達明(CHC研究員)
朝日新聞 朝刊	2016年12月11日	よみがえれ熊本城 石垣 美観と耐震両立探る	西形達明(CHC研究員)
日本テレビ 所さんの目がテン!	2017年3月26日	彦根城の科学	西形達明(CHC研究員)

掲載紙名・媒体	年月日	タイトル	掲載者
NHKスペシャル	2017年4月16日	熊本城 再建 “サムライの英知”を未来へ	西形達明(CHC研究員)
朝日新聞 朝刊	2018年1月7日	たんぱく質で考古学	吹田浩(CHCセンター長)

文化財・文化研究センター - Windows Internet Explorer

www.kansai-u.ac.jp/chc/

HOME | 関西大学国際文化財・文化研究センター



HOME | 関西大学 | 国際文化財・文化研究センター

Home | Greeting | Project Members | Research Activities | Publication | Access | Link

関西大学 国際文化財・文化研究センター

関西大学 国際文化財・文化研究センター
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目9番25号 総合研究棟2階
Tel: 06-6399-1456
Fax: 06-6399-1457
E-mail: chc-j@eng.kansai-u.jp
Twitter: @CHC_KU

facebook



CHC KUからのツイート

平成29年度(2019年度)に関西大学において「国際文化財・文化研究センター」(Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture, CHC)が設立されました。このプロジェクトは、文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業で「国際的な文化財活用方法の社会的研究」が採択されたことを機に、平成29年度(2017年度)までの5年間の計画で研究を進めています。

関西大学では、すでに2008年度から2012年度まで文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業から助成を受けて「文化財の保存修復、技術開発と活用に関する研究-エジプトを中心として」というプロジェクトが文化財保存修復研究拠点(JOFC)にて行われ、成果を挙げました。今回のプロジェクトは、その成果を受けて、新たなプロジェクトとして始まったものです。

この新たなプロジェクトでは、①エジプト学・エジプト社会グループ、②文化財修復グループ、③国際文化グループ、④科学技術グループの4つのグループで、文化財の保存と活用のために文理融合型で国際的研究を進めます。4つのグループの研究者は、エジプト学者や現代エジプト社会の研究者、文化財修復の研究者、異文化の研究を行う人文系研究者、建築・建築工学、分析化学、微生物学、高分子化学、マルチメディア工学などの理工系研究者が日本、エジプト、ポーランドから加わり、共同して、国際的な文化財の保存と活用センターの形成を目指しています。

「国際文化財・文化研究センター」は、文化財の研究を推進することに加え、両国研究者の育成や社会教育活動も大きな目的としており、文化財が創薬技術やエジプト学の専門知識を学ぶ機会も実現します。また、文化財の保存と活用のための文理融合型の総合的なアプローチの確立を目指し、各種のシンポジウムやワークショップを開催する予定です。

for the Global Study of Cultural Heritage and Culture - Windows Internet Explorer

www.kansai-u.ac.jp/chc/en_index.html

HOME | CHC - Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture



HOME | CHC - Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture

Home | Greeting | Project Members | Research Activities | Publication | Access | Link

Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture

Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture, Kansai University
3-3-35, Yanaike-cho, Suita-shi, Osaka 564-8680, Japan
Researchers' Office Second Floor
Tel: +81-6-6399-1456
Fax: +81-6-6399-1457
E-mail: chc-j@eng.kansai-u.jp
Twitter: @CHC_KU

facebook



CHC KUからのツイート

The Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture (CHC) was established at Kansai University in 2013 as a result of Kansai University's obtaining approval for the project, "Comprehensive Global Studies for Utilizing Cultural Heritage" as part of the Strategic Project to Support the Formation of Research Bases at Private Universities under the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT). The project is planned for five years through 2017.

The launch of the CHC is due to the large success in the prior project, entitled "Research on Technological Development and Application for the Conservation and Restoration of Cultural Properties: Focusing on Egypt," which was implemented by the Institute for Conservation and Restoration of Cultural Properties (ICP) at Kansai University and sponsored by MEXT's Strategic Project to Support the Formation of Research Bases at Private Universities from 2008 to 2012.

In order to preserve and put cultural heritage to practical use, the CHC will promote research activities that transcend the boundaries of nations and academic disciplines—humanities or science, under the following four research groups: ① the Egyptology and Egyptian Society Group, ② the Cultural Heritage Restoration Group, ③ the International Culture Group, and ④ the Science and Technology Group. Working in these groups are experts in the fields of humanities such as Egyptology, modern Egyptian society, restoration of cultural heritage, and cross-cultural studies, or in science and engineering fields, including protechnical and structural engineering, analytical chemistry, microbiology, high polymer chemistry, and multimedia engineering. These researchers, from Japan, Egypt, and Poland, will work jointly to achieve the center's mission to preserve and utilize cultural heritage worldwide.

